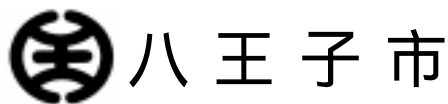


市政世論調査報告書

(第44回・平成24年)

調査項目

定 住 意 向
生 活 環 境
市 政 へ の 要 望
災 害 対 策 に つ い て
「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の
目 標 値 に 対 す る 達 成 度



はじめに

市政世論調査は、市民の皆様の生活環境への意識、市の施策に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、本市のまちづくりに有効に活用するために毎年実施しています。

この冊子は、平成24年5月に実施した「市政世論調査」の結果をとりまとめたもので、本年は、調査項目として「定住意向」「生活環境」「市政への要望」「八王子ゆめおりプランの施策指標の目標値に対する達成度」の継続的項目に加え、「災害対策について」を設定しました。

この調査結果を有効に活用し、施策の決定、実行、改善に努めてまいる所存です。

さらに、市政世論調査を始めとして、さまざまな手段により、市民の皆様の御意見をお聴きし、皆様と協働して「活力ある魅力あふれるまち」づくりを推進してまいります。

最後になりましたが、この調査に御協力いただいた市民の皆様に心から御礼申し上げます。

平成24年10月

八王子市長 石森 孝志

目 次

調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査項目	3
4. 回収結果	4
5. 報告書の見方	4
6. 回答者の属性	5
調査結果の分析	11
1. 定住意向	13
1 - 1 定住意向	13
1 - 2 住み続けたい理由	16
1 - 3 市外へ移りたい理由	19
2. 生活環境	22
2 - 1 生活環境の評価	22
3. 市政への要望	28
3 - 1 重点施策要望	28
4. 災害対策について	32
4 - 1 家庭や近所で災害の危険性があるもの	32
4 - 2 食糧・飲料水の備蓄の有無	35
4 - 3 食糧・飲料水の備蓄量	39
4 - 4 食糧・飲料水を備蓄していない理由	43
4 - 5 食糧・飲料水以外に備蓄しているもの	49
4 - 6 家具類や冷蔵庫などの転倒防止策	51
4 - 7 転倒防止策を行っていない理由	54
4 - 8 災害に備えた話し合い	57
4 - 9 災害時の連絡手段	60
4 - 10 町会・自治会の加入状況	62
4 - 11 町会・自治会に加入していない理由	64
4 - 12 防災訓練への参加状況	67

4 - 13	防災訓練に参加したことがない理由	70
4 - 14	防災訓練への参加率を上げるための方法	73
4 - 15	災害時要援護者への手助け	76
4 - 16	災害時要援護者への支援を行うために必要なこと	78
4 - 17	防災行政無線による放送が聞こえているか	80
4 - 18	防災情報メールの認知度	82
4 - 19	災害時に知りたい情報	85
4 - 20	八王子消防団の認知度	88
4 - 21	消防団のことや活動で知っていること	91
4 - 22	消防団に望む活動	97
5	「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度	100
5 - 1	現在の生きがい	100
5 - 2	この1年間に取り組んだ生涯学習活動	102
5 - 3	この1年間の芸術・文化活動の頻度	105
5 - 4	この1年間に行ったスポーツの頻度	107
5 - 5	健康のために心がけていること	111
5 - 6	かかりつけの医療機関の有無	113
5 - 7	この1年間の地域行事への参加	115
5 - 8	市民協働の推進状況	118
5 - 9	日常生活環境の治安	120
5 - 10	市の窓口の利用の有無	122
5 - 11	市の窓口サービスの満足度	124
5 - 12	市の相談窓口の充実度	126
5 - 13	市の相談窓口の利用の有無	128
5 - 14	相談窓口の満足度	130
5 - 15	市政情報の入手しやすさ	132
5 - 16	市の子育て支援施策の満足度	134
5 - 17	市のにぎわいと活力の有無	137
5 - 18	市は景観に配慮されたまちであるか	139
5 - 19	環境問題への関心度	141
5 - 20	市の現在の環境	143
5 - 21	都市の美観が損なわれる原因	145
5 - 22	市は美観が保持されたまちだと思うか	148
5 - 23	省エネ・省資源を実行しているか	150
	調査票	153

調査の概要

1 . 調査の目的

この調査は、市民の生活環境への意識、市の施策に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、本市の市政運営の資料として活用することを目的とする。

2 . 調査設計

- (1) 調査地域：八王子市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の満20歳以上の男女個人
- (3) 対象者数：3,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法
 - ・層 化...「八王子ゆめおりプラン」で示された6地域に区分する。(下の地域区分図参照)
 - ・地点抽出...各地域の調査対象人口(満20歳以上の男女)に応じて調査対象を配分する。調査対象に基づいて合計100地点となるように各地区の地点数を決定、地点を抽出する。
 - ・対象者抽出...抽出された各地点において対象者数が30人となるように無作為系統抽出を行う。

【本調査における地域区分】

- 中央地域：本庁管内
- 西部地域：元八王子・恩方・川口
- 西南部地域：浅川・横山・館
- 北部地域：加住・石川
- 東南部地域：由井・北野
- 東部地域：由木・由木東・南大沢



- (5) 調査方法：郵送配布・郵送回収
- (6) 調査期間：平成24年5月16日～5月30日
- (7) 調査機関：株式会社 エスピー研

3 . 調査項目

- (1) 定住意向
- (2) 生活環境
- (3) 市政への要望
- (4) 災害対策について
- (5) 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度

4 . 回収結果

対象者数 : 3,000人

有効回収数 : 1,652票 (有効回収率55.1%)

5 . 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、n(件数)として表示した。その比率は、n(件数)を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 分析の軸(=表側)として回答者の属性や設問は、「無回答」を除いているため、各回答者の属性と基数の合計が全体と一致しない場合がある。
- (6) 割合の表現については、各値が、「0.0%」の場合は「割」、「0.1~0.9%」の場合は「ほぼ割」、「1.0~3.9%」の場合は「割強」、「4.0~5.9%」は「割台半ば」、「6.0~8.9%」の場合は「割弱」、「9.0~9.9%」の場合は「ほぼ割」との表記を基本とする。
- (7) 標本誤差

標本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数(n)、および回答比率(P)によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
N = 母集団数
n = 比率算出の基数(サンプル数)
P = 回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,652	± 2.09	± 2.78	± 3.19	± 3.41	± 3.48
1,500	± 2.19	± 2.92	± 3.35	± 3.58	± 3.65
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
500	± 3.79	± 5.06	± 5.80	± 6.20	± 6.32
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

上表は $\frac{N-n}{N-1}$ 1として算出している。この表の計算式の信頼度は95%である。

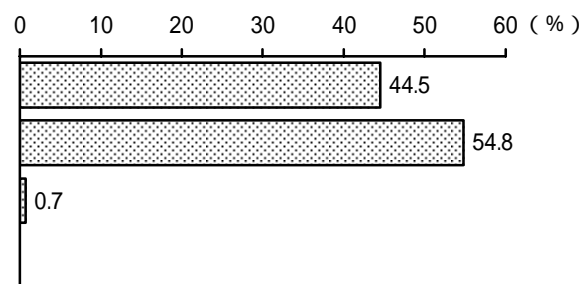
注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,652で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.41%以内(56.6%~63.4%)である」と見ることができる。

6 . 回答者の属性

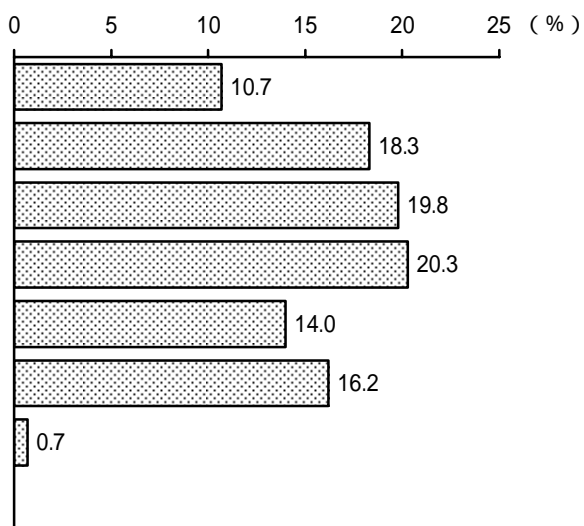
(1) 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	735	44.5
2 女性	905	54.8
無 回 答	12	0.7
合 計	1,652	100.0



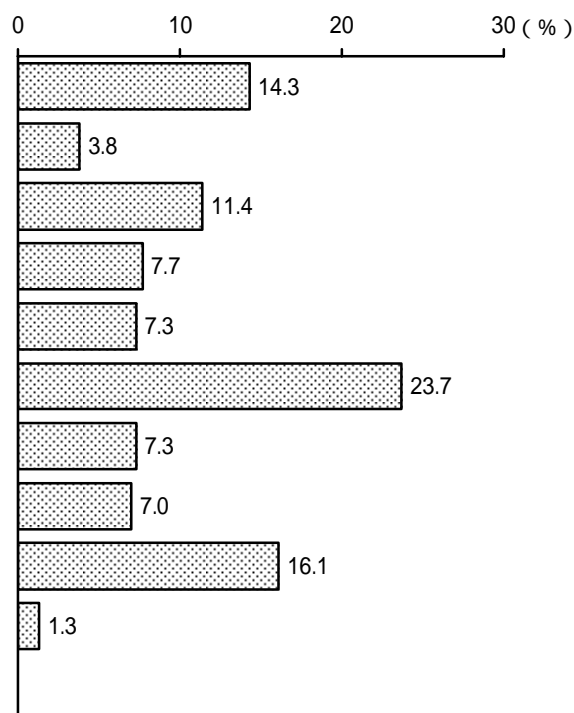
(2) 年齢

	基数(人)	構成比(%)
1 20歳代	177	10.7
2 30歳代	302	18.3
3 40歳代	327	19.8
4 50歳代	336	20.3
5 60～64歳	231	14.0
6 65歳以上	267	16.2
無 回 答	12	0.7
合 計	1,652	100.0



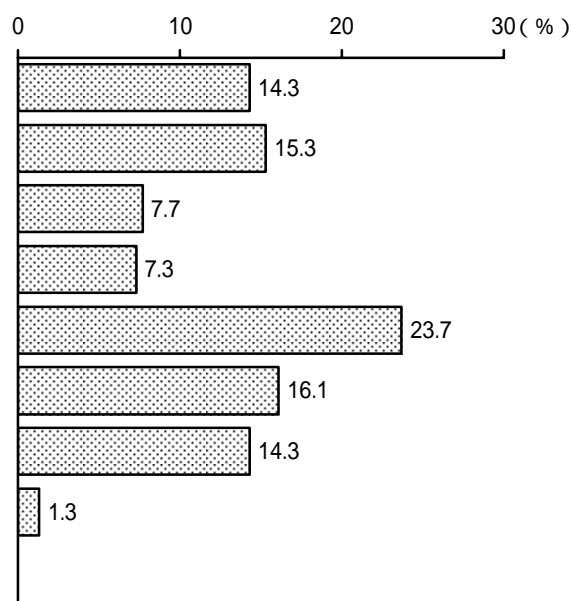
(3) ライフステージ

	基数(人)	構成比(%)
1 20～39歳で単身者	236	14.3
2 20～39歳で配偶者がいて子どもがいない	63	3.8
3 20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前	189	11.4
4 20～64歳で一番下の子どもが小学生	128	7.7
5 20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生	120	7.3
6 20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している	391	23.7
7 40～64歳で単身者	121	7.3
8 40～64歳で配偶者がいて子どもがいない	116	7.0
9 65歳以上	266	16.1
無回答	22	1.3
合計	1,652	100.0



ライフステージ(集約型)

	基数(人)	構成比(%)
1 独身期	236	14.3
2 家族形成期	252	15.3
3 家族成長前期	128	7.7
4 家族成長後期	120	7.3
5 家族成熟期	391	23.7
6 老齢期	266	16.1
7 その他	237	14.3
無回答	22	1.3
合計	1,652	100.0

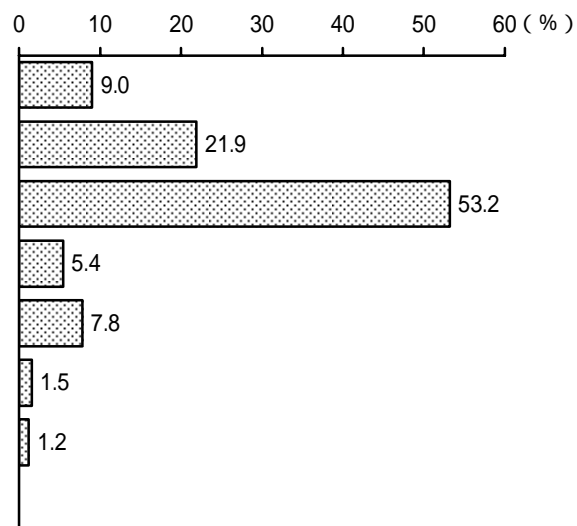


ライフステージ区分

独身期	20～39歳で単身者
家族形成期	20～39歳で配偶者がいて子どもがいない または、20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	20～64歳で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生
家族成熟期	20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している
老齢期	65歳以上
その他	40～64歳で単身者 または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない

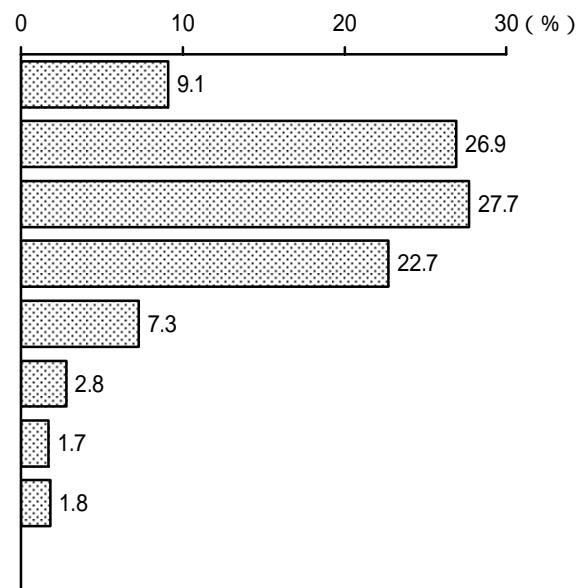
(4) 世帯構成

	基数(人)	構成比(%)
1 ひとり暮らし(単身世帯)	149	9.0
2 夫婦のみ(一世代世帯)	362	21.9
3 親と未婚の子ども (二世代会世帯)	879	53.2
4 親と子ども夫婦 (二世代会世帯)	89	5.4
5 親と子どもと孫(三世代会世帯)	129	7.8
6 その他	24	1.5
無回答	20	1.2
合計	1,652	100.0



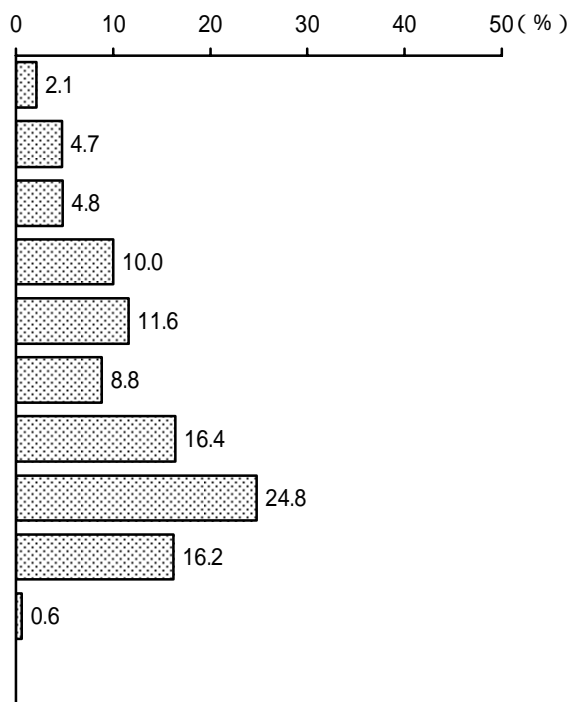
(5) 同居家族人数

	基数(人)	構成比(%)
1 1人	151	9.1
2 2人	445	26.9
3 3人	457	27.7
4 4人	375	22.7
5 5人	120	7.3
6 6人	47	2.8
7 7人以上	28	1.7
無回答	29	1.8
合計	1,652	100.0



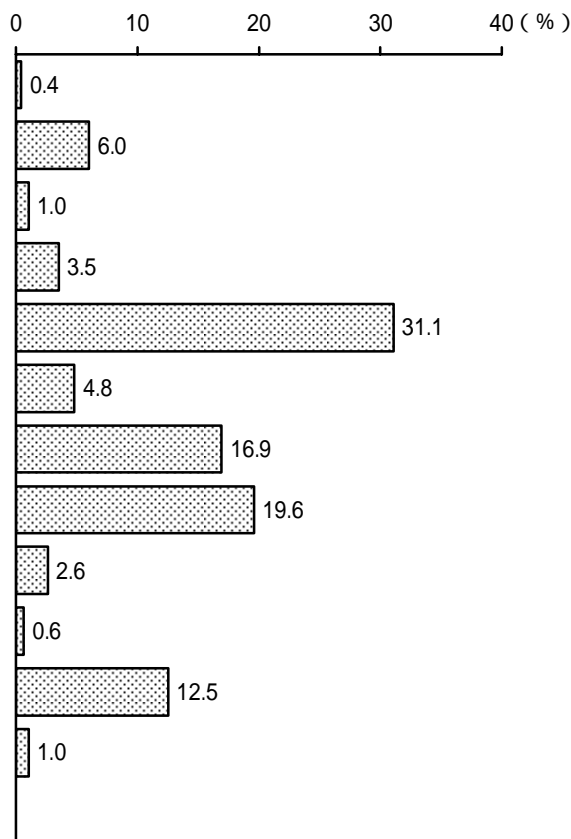
(6) 居住年数

	基数(人)	構成比(%)
1 1年未満	34	2.1
2 1～3年未満	78	4.7
3 3～5年未満	79	4.8
4 5～10年未満	166	10.0
5 10～15年未満	191	11.6
3 15～20年未満	146	8.8
4 20～30年未満	271	16.4
5 30年以上	409	24.8
6 生まれてからずっと	268	16.2
無回答	10	0.6
合計	1,652	100.0



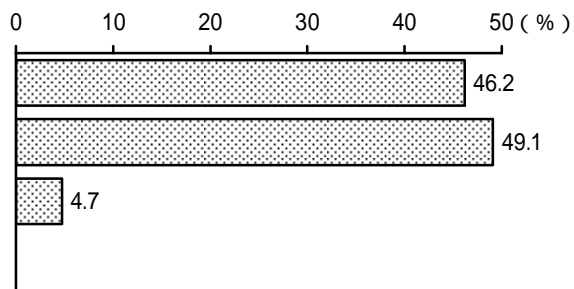
(7) 職業

	基数(人)	構成比(%)
1 農・林・漁業	7	0.4
2 自営業	99	6.0
3 自由業(開業医、弁護士、司法書士など)	17	1.0
4 会社や団体の役員	57	3.5
5 会社・商店・サービス業などの勤め人	514	31.1
6 教員・公務員	79	4.8
7 アルバイト・パート	280	16.9
8 (専業)主婦・主夫	324	19.6
9 学生	43	2.6
10 その他	10	0.6
11 無職	206	12.5
無回答	16	1.0
合計	1,652	100.0



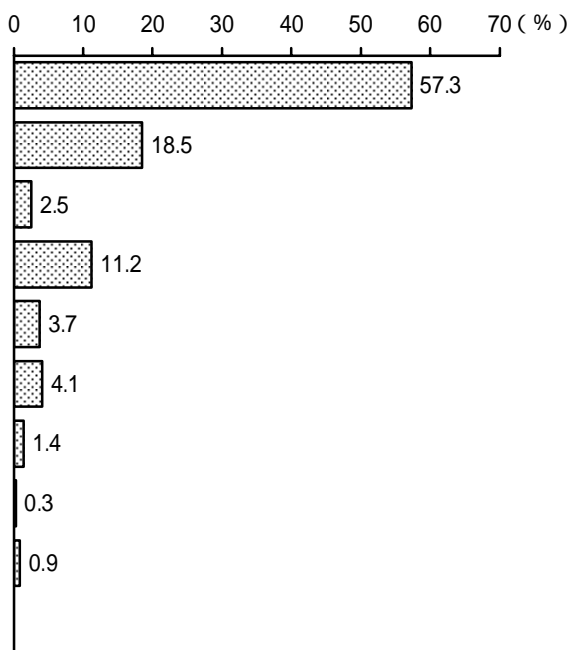
(7) - 1 仕事場

	基数(人)	構成比(%)
1 八王子市内	487	46.2
2 八王子市外	517	49.1
無回答	49	4.7
合計	1,053	100.0



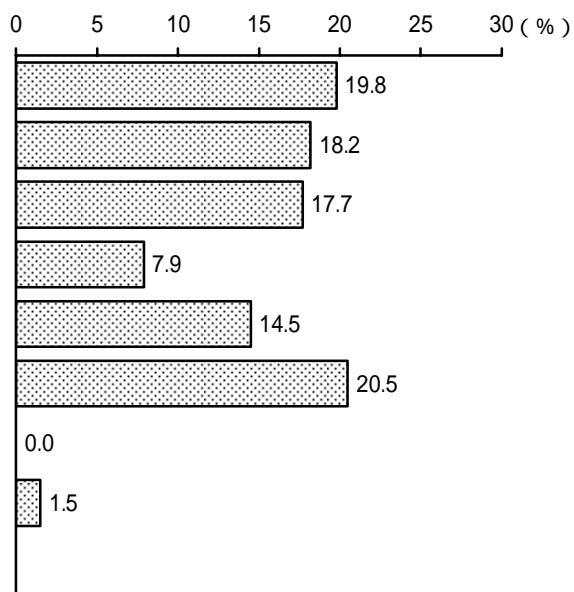
(8) 居住形態

	基数(人)	構成比(%)
1 一戸建て(持ち家)	947	57.3
2 分譲マンション	306	18.5
3 一戸建て(借家)	42	2.5
4 民間の賃貸アパート・マンション	185	11.2
5 都市再生機構(旧公団)・公社の賃貸住宅	61	3.7
6 都営・市営住宅	68	4.1
7 社宅・官舎・寮	23	1.4
8 その他	5	0.3
無回答	15	0.9
合計	1,652	100.0



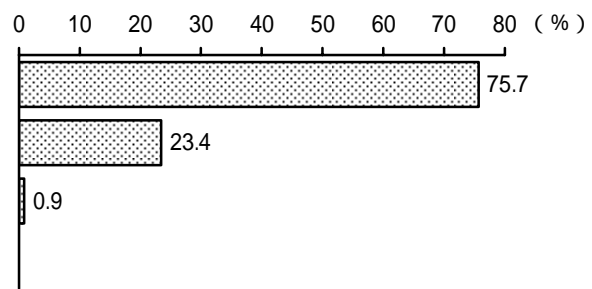
(9) 居住地域

	基数(人)	構成比(%)
1 本庁管内(中央地域)	327	19.8
2 元八王子・恩方・川口(西部地域)	301	18.2
3 浅川・横山・館(西南部地域)	292	17.7
4 加住・石川(北部地域)	130	7.9
5 由井・北野(東南部地域)	239	14.5
6 由木・由木東・南大沢(東部地域)	338	20.5
7 不明	0	0.0
無回答	25	1.5
合計	1,652	100.0



(10) 町会・自治会の加入状況

	基数(人)	構成比(%)
1 入っている	1,250	75.7
2 入っていない	387	23.4
無 回 答	15	0.9
合 計	1,652	100.0



調査結果の分析

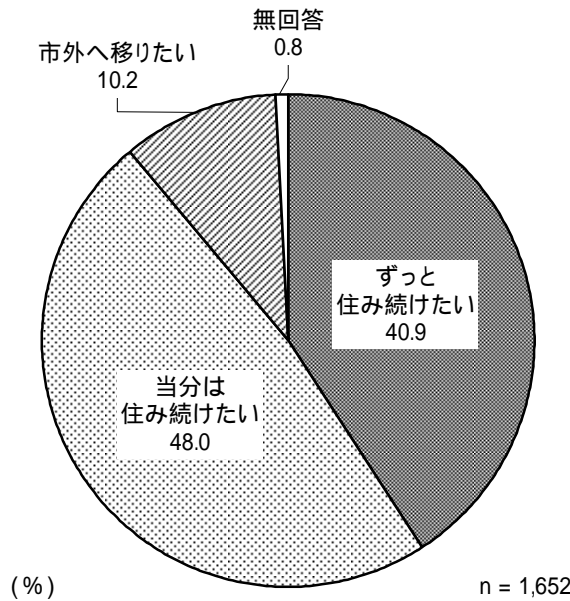
1 . 定住意向

1 - 1 定住意向

『住み続けたい』が9割弱を占め、「市外へ移りたい」がほぼ1割

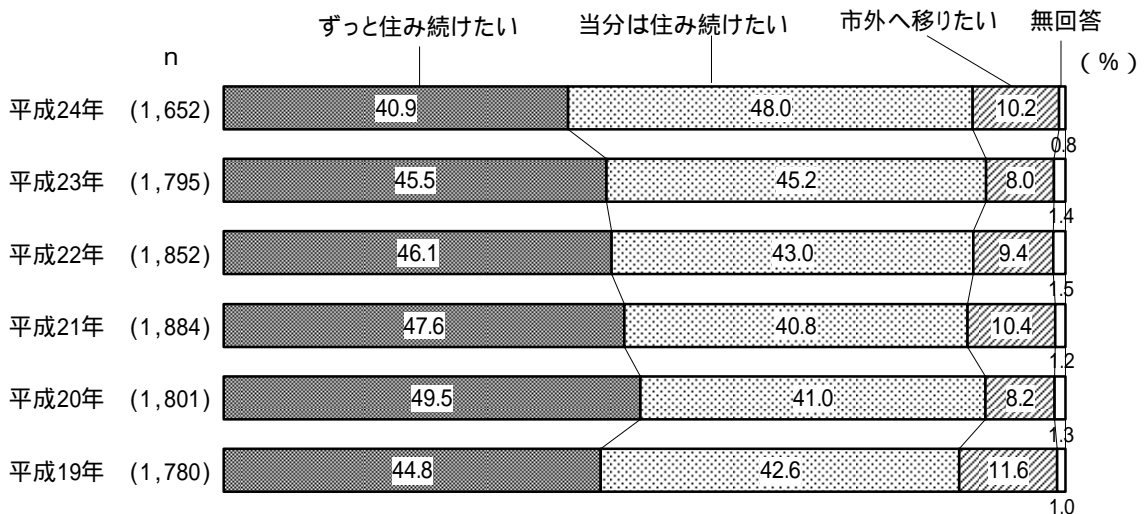
問1 あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。(は1つだけ)

図1 - 1 - 1



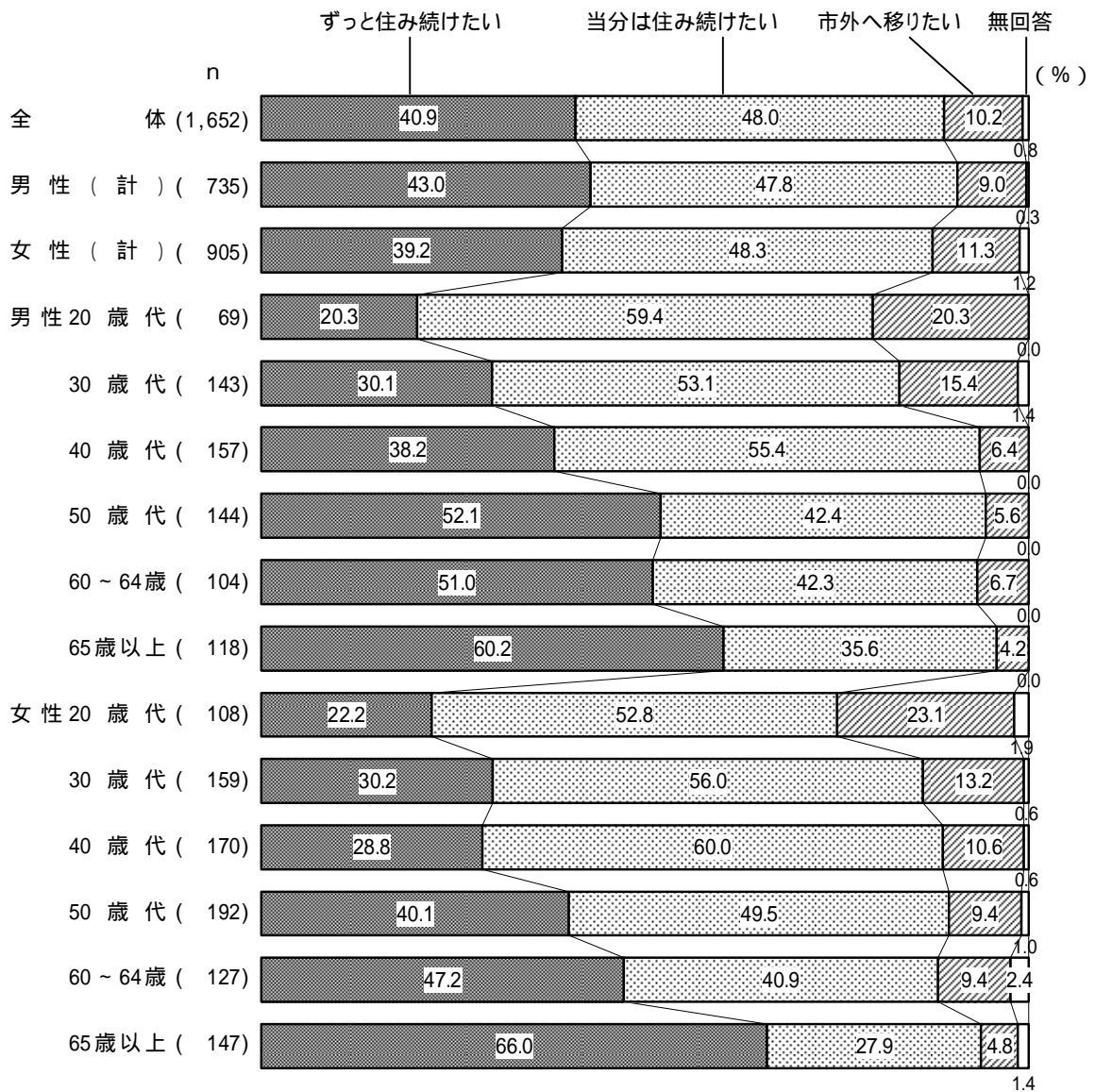
市への定住意向をみると、「当分は住み続けたい」が5割弱（48.0%）と最も高く、「ずっと住み続けたい」（40.9%）と合わせた『住み続けたい』は9割弱（88.9%）を占める。また、「市外へ移りたい」はほぼ1割（10.2%）にとどまっている。（図1 - 1 - 1）

図1 - 1 - 2 定住意向 - 経年比較



過去の調査と比較すると、「ずっと住み続けたい」は平成20年以降減少傾向にあり、昨年と比べて4.6ポイント減少しているが、「当分は住み続けたい」と合わせた『住み続けたい』は引き続き9割前後の割合を占めている。（図1 - 1 - 2）

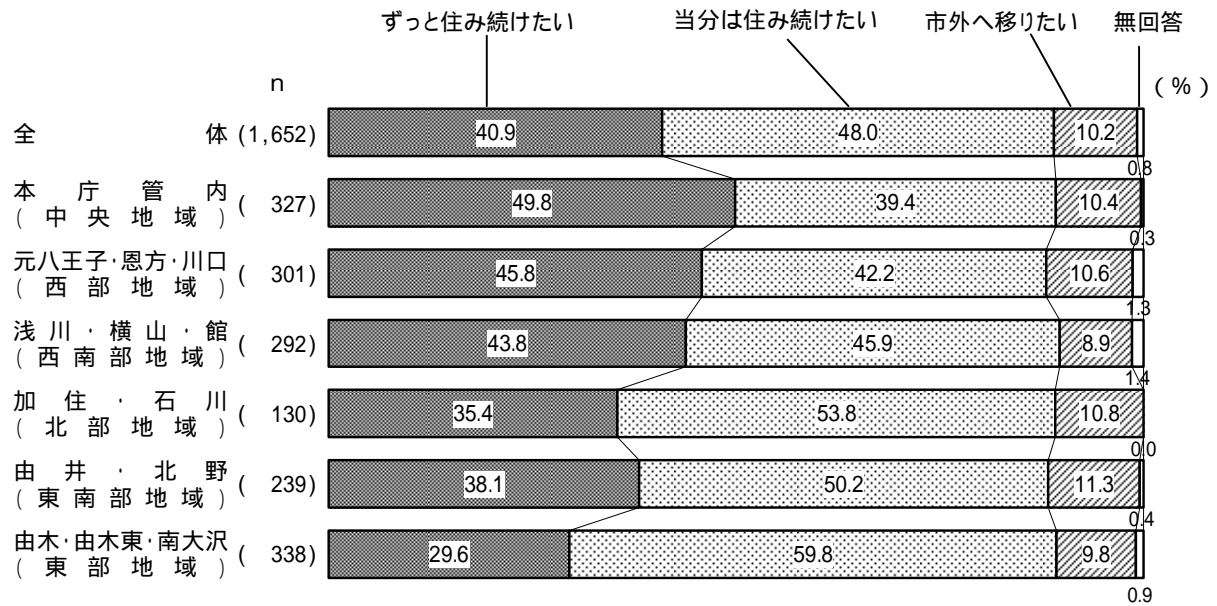
図 1 - 1 - 3 定住意向 - 性・年齢別



性別にみると、「ずっと住みたい」は男性のほうが3.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ずっと住みたい」は男女ともにおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に女性65歳以上は7割弱(66.0%)、男性65歳以上でほぼ6割(60.2%)と高くなっている。また、「市外へ移りたい」は女性20歳代で2割強(23.1%)、男性20歳代でほぼ2割(20.3%)と他の年代に比べて高くなっている。(図1-1-3)

図 1 - 1 - 4 定住意向 - 居住地域別



居住地域別にみると、『住みたい』はすべての地域で8割以上と高くなっている。また、「ずっと住みたい」は本庁管内(中央地域)でほぼ5割(49.8%)と高くなっているが、由木・由木東・南大沢(東部地域)ではほぼ3割(29.6%)と他の地域と比べて低くなっている。

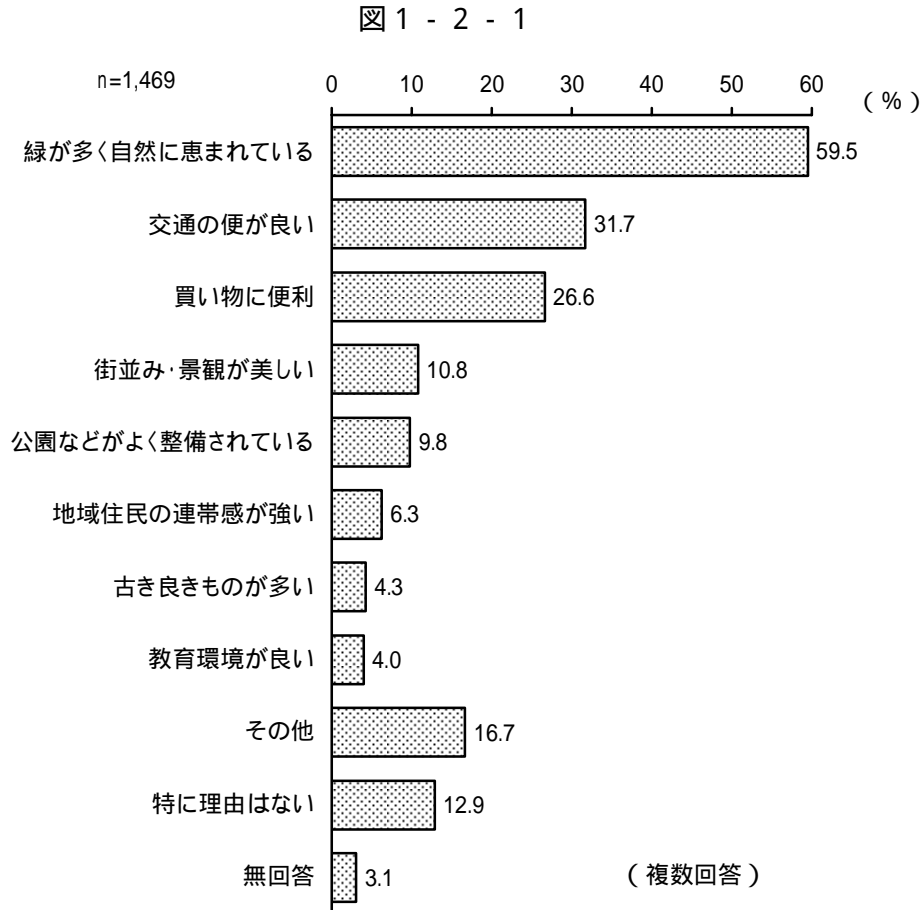
(図 1 - 1 - 4)

1 - 2 住み続けたい理由

「緑が多く自然に恵まれている」がほぼ6割

(問1で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」とお答えの方に)

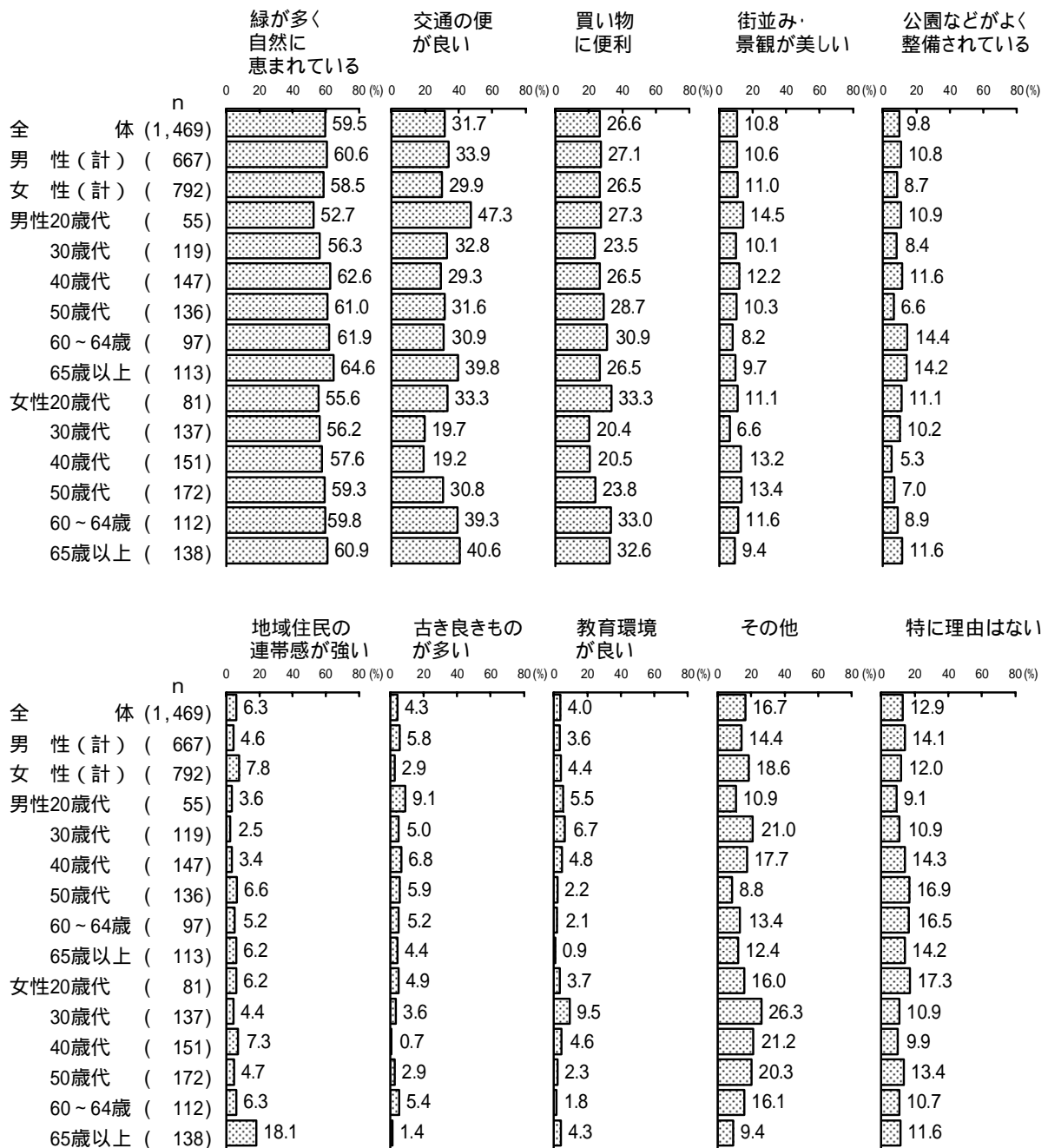
問1 - 1 住み続けたい主な理由は何ですか。(は3つまで)



八王子市への定住意向で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と答えた人(1,469人)に、住み続けたい理由について聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」がほぼ6割(59.5%)と最も高く、ついで「交通の便が良い」(31.7%)、「買い物に便利」(26.6%)、「街並み・景観が美しい」(10.8%)、「公園などがよく整備されている」(9.8%)と続いている。

(図1 - 2 - 1)

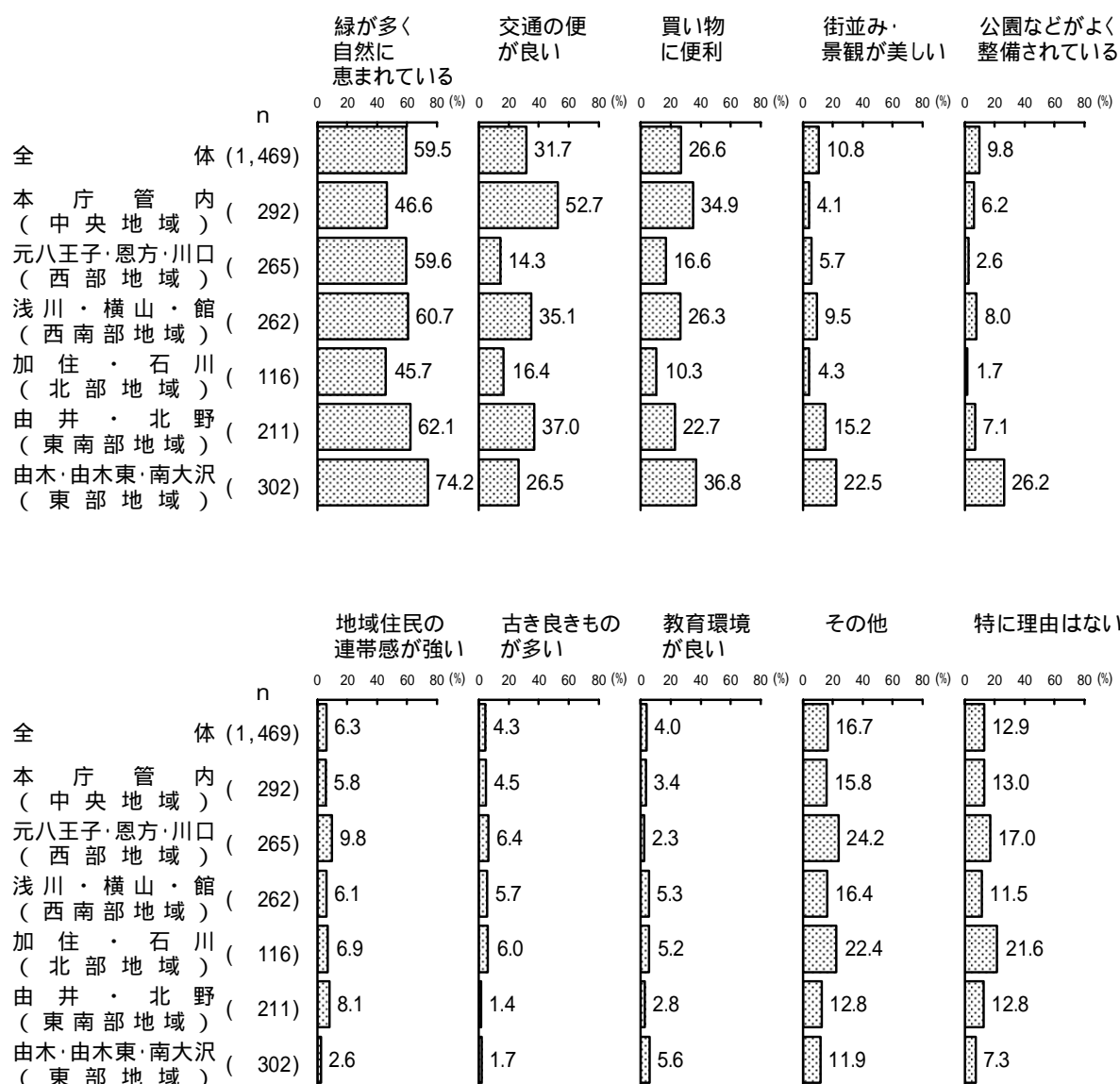
図1 - 2 - 2 住みたい理由 - 性・年齢別



性別にみると、「交通の便が良い」は男性のほうが4.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は男女ともに全ての年代で5割を超えており、特に男性65歳以上は6割台半ば(64.6%)と高くなっている。(図1 - 2 - 2)

図1 - 2 - 3 住み続けたい理由 - 居住地域別



居住地域別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で7割台半ば（74.2%）と高くなっている。「交通の便が良い」は本庁管内（中央地域）で5割強（52.7%）と高くなっている。「買い物に便利」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割弱（36.8%）、本庁管内（中央地域）で3割台半ば（34.9%）と高くなっている。（図1 - 2 - 3）

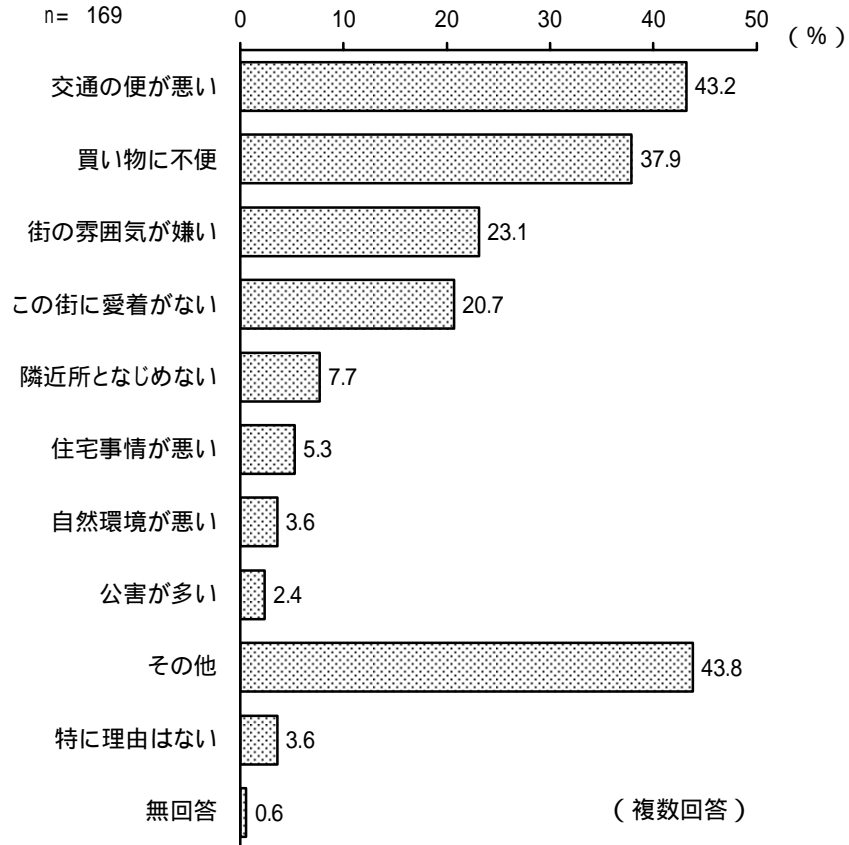
1 - 3 市外へ移りたい理由

「交通の便が悪い」が4割強、「買い物に不便」が4割弱

(問1で「市外へ移りたい」とお答えの方に)

問1 - 2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(は3つまで)

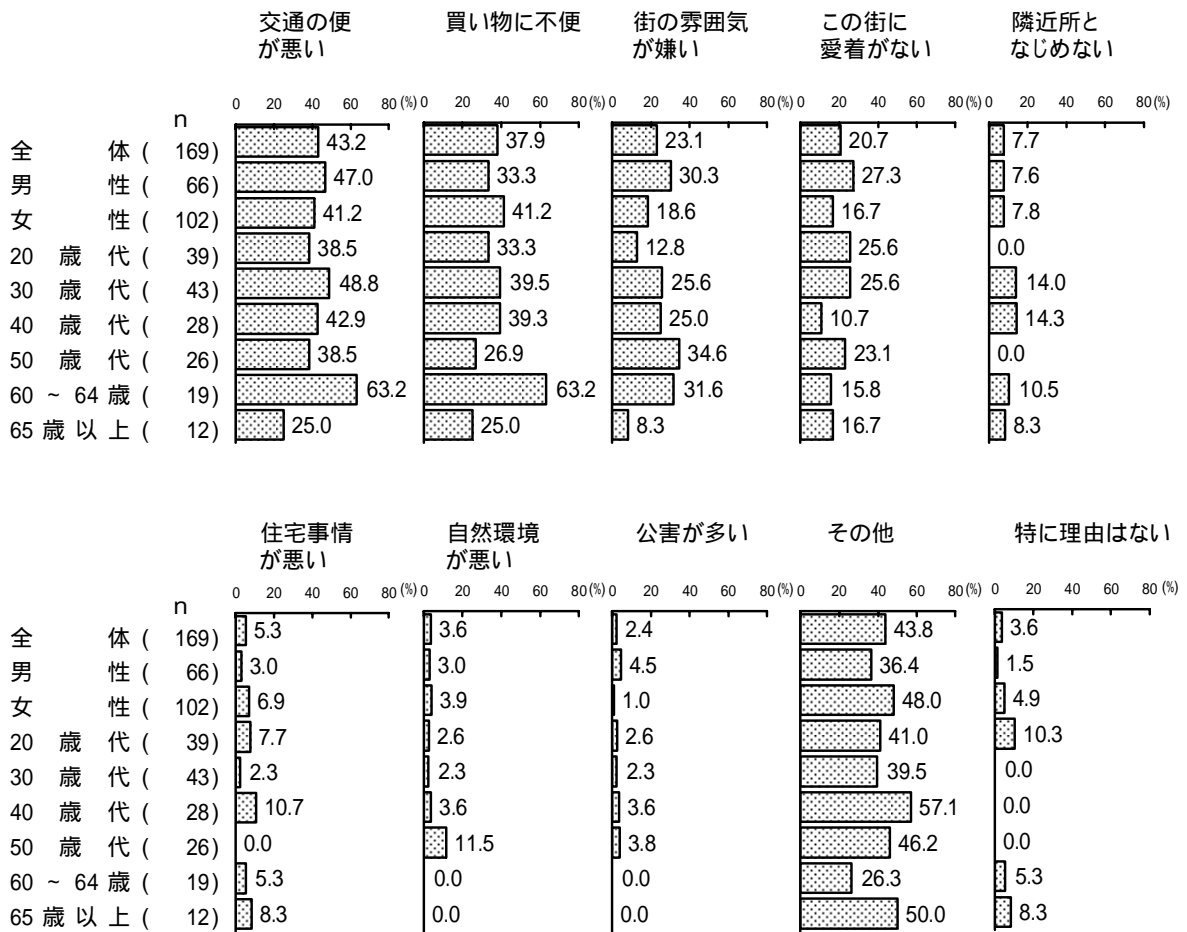
図1 - 3 - 1



八王子市への定住意向で「市外へ移りたい」と答えた人(169人)に、市外へ移りたい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」が4割強(43.2%)と最も高く、ついで「買い物に不便」(37.9%)、「街の雰囲気が嫌い」(23.1%)、「この街に愛着がない」(20.7%)と続いている。

(図1 - 3 - 1)

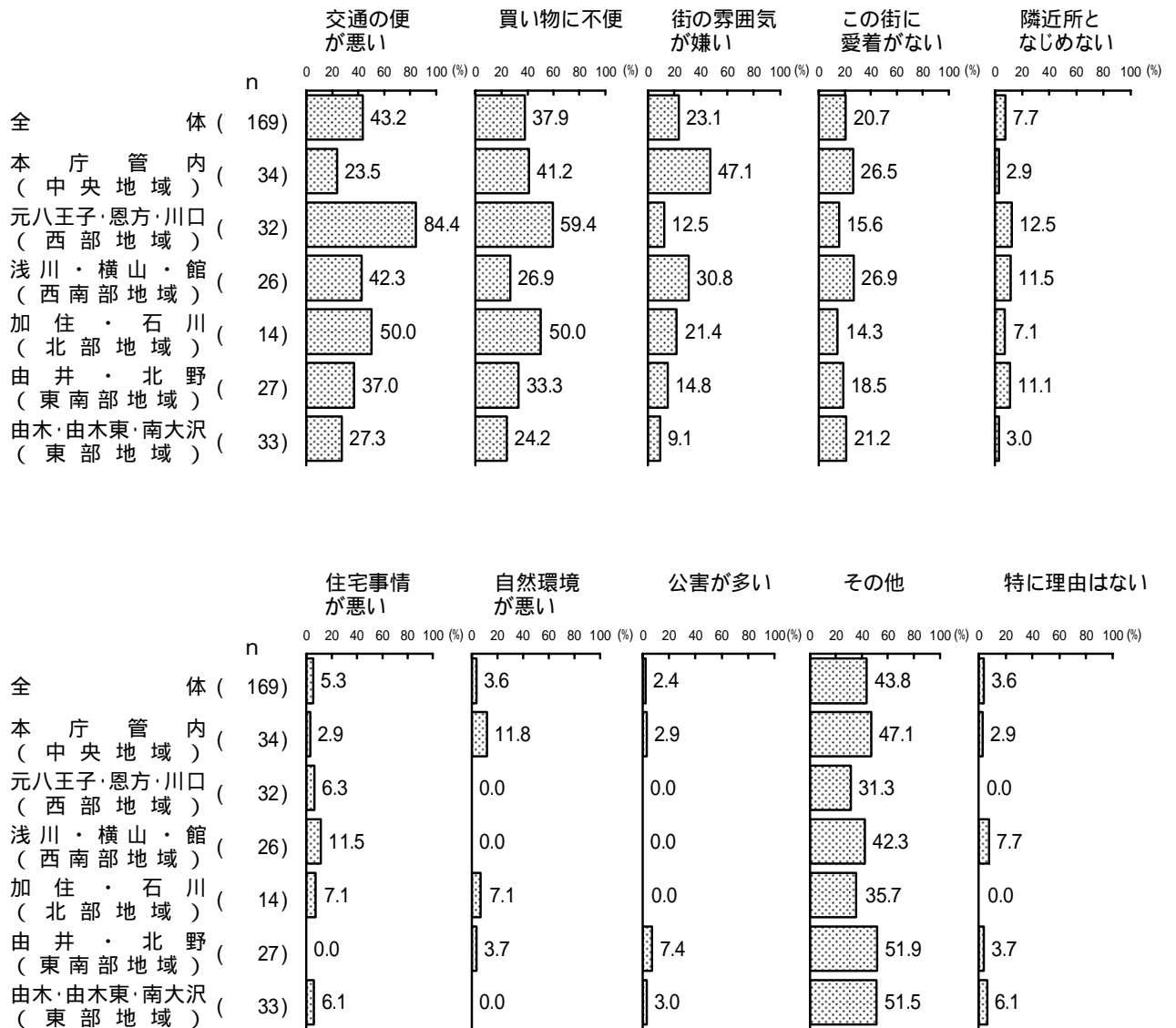
図1 - 3 - 2 市外へ移りたい理由 - 性別・年齢別



性別にみると、「街の雰囲気が嫌い」は11.7ポイント、「この街に愛着がない」は10.6ポイント、「交通の便が悪い」は5.8ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。逆に「買い物に不便」は7.9ポイント、「住宅事情が悪い」は3.9ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「交通の便が悪い」・「買物に不便」は60～64歳で6割強（いずれも同率の63.2%）と高くなっている。（図1 - 3 - 2）

図1 - 3 - 3 市外へ移りたい理由 - 居住地域別



居住地域別にみると、「交通の便が悪い」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で8割台半ば（84.4%）と突出して高くなっている。「買い物に不便」は元八王子・恩方・川口（西部地域）でほぼ6割（59.4%）、加住・石川（北部地域）で5割（50.0%）と高くなっている。「街の雰囲気が嫌い」は本庁管内（中央地域）で5割弱（47.1%）と高くなっている。（図1 - 3 - 3）

2 . 生活環境

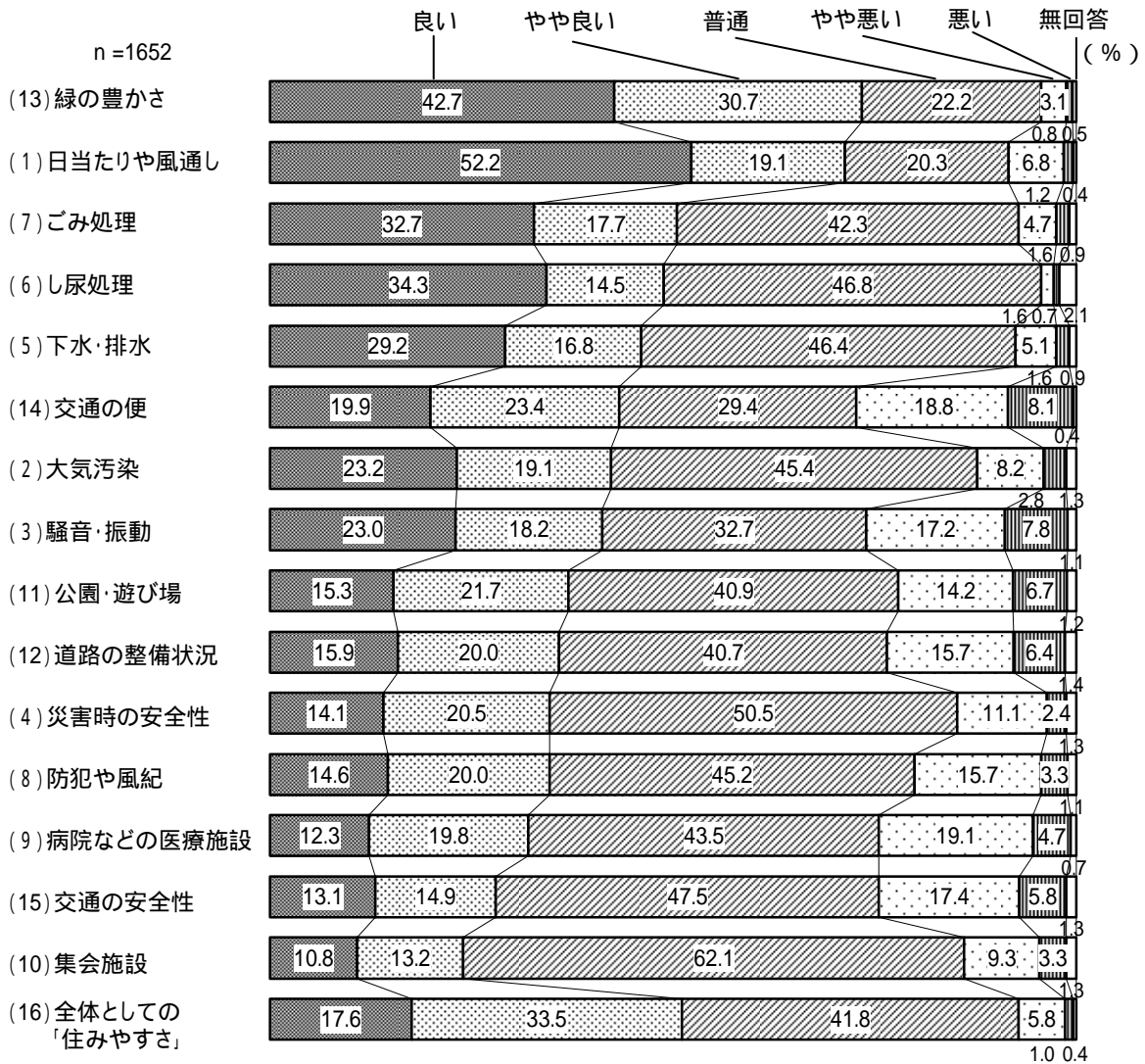
2 - 1 生活環境の評価

「緑の豊かさ」と「日当たりや風通し」の2項目の評価が高い

問2 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1) ~ (16) の各項目それぞれについてお答えください。(はそれぞれ1つ)

図2 - 1 - 1



【(16) 全体としての「住みやすさ」】を除き、「良い」と「やや良い」の合算で比率の高い順に並べた

周囲の生活環境について聞いたところ、「(13) 緑の豊かさ」では、「良い」(42.7%)と「やや良い」(30.7%)を合わせた『良い』が7割強(73.4%)と高くなっている。「(1) 日当たりや風通し」では、「良い」が5割強(52.2%)と最も高く、「やや良い」(19.1%)と合わせた『良い』は7割強(71.3%)となっている。一方、「(14) 交通の便」では、「やや悪い」(18.8%)と「悪い」(8.1%)を合わせた『悪い』が3割弱(26.9%)、「(3) 騒音・振動」は『悪い』が2割台半ば(25.0%)と、他の項目に比べて高くなっている。(図2 - 1 - 1)

評価順位

生活環境を15の項目に分け、それぞれの評価を聞いた。

「良い」と「やや良い」の合計を【良い】とし、「やや悪い」と「悪い」の合計を【悪い】とみなした場合の、それぞれ上位5項目をあげると次のようになっている。(図2-1-1)

【良 い】		【悪 い】	
緑の豊かさ	(73.4%)	交通の便	(26.9%)
日当たりや風通し	(71.3%)	騒音・振動	(25.0%)
全体としての「住みやすさ」	(51.1%)	病院などの医療施設	(23.8%)
ごみ処理	(50.4%)	交通の安全性	(23.2%)
し尿処理	(48.8%)	道路の整備状況	(22.1%)

なお、【(16)全体としての「住みやすさ」】は、【良い】が5割強(51.1%)、【悪い】が1割弱(6.8%)となり、【良い】が【悪い】よりも44.3ポイント高くなっている。

加重平均値(満足度)

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = (\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} + \text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点}) \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は5.00点~1.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に1.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

満足度順位

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの上位5項目は次のようになっている。

(図2-1-2)

【上 位】		【下 位】	
日当たりや風通し	(4.15点)	交通の安全性	(3.12点)
緑の豊かさ	(4.12点)	病院などの医療施設	(3.16点)
し尿処理	(3.82点)	集会施設	(3.19点)
ごみ処理	(3.76点)	道路の整備状況	(3.24点)
下水・排水	(3.68点)	公園・遊び場	(3.25点)

図 2 - 1 - 2 生活環境の評価点

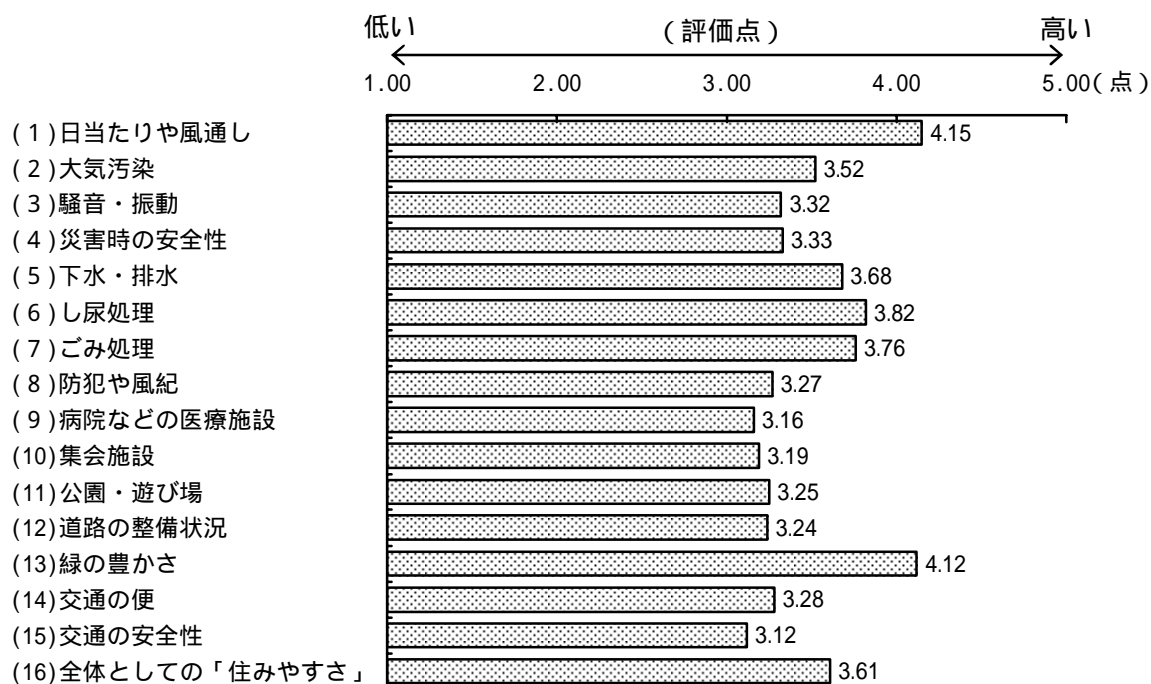


表 2 - 1 - 1 生活環境の評価点（加重平均） - 居住地域別

	全 体	居住地域					
		本 庁 中 央 地 域	恩 元 八 方 西 部 地 域	浅 川 西 南 部 山 地 域	加 住 北 部 地 域	由 井 東 南 部 地 域	南 由 大 木 東 部 地 域
(1) 日当たりや風通し	4.15	3.98	4.14	4.15	4.12	4.15	4.34
(2) 大気汚染	3.52	3.28	3.67	3.60	3.10	3.53	3.74
(3) 騒音・振動	3.32	3.02	3.54	3.48	2.74	3.42	3.42
(4) 災害時の安全性	3.33	3.19	3.42	3.30	3.13	3.32	3.51
(5) 下水・排水	3.68	3.64	3.64	3.65	3.47	3.82	3.78
(6) し尿処理	3.82	3.79	3.85	3.79	3.65	3.92	3.89
(7) ごみ処理	3.76	3.70	3.83	3.73	3.70	3.82	3.81
(8) 防犯や風紀	3.27	3.19	3.29	3.35	3.05	3.35	3.32
(9) 病院などの医療施設	3.16	3.33	2.88	3.38	3.02	3.15	3.13
(10) 集会施設	3.19	3.18	3.12	3.32	3.11	3.17	3.21
(11) 公園・遊び場	3.25	3.13	2.98	3.32	2.90	3.23	3.72
(12) 道路の整備状況	3.24	3.16	2.71	3.26	3.06	3.36	3.77
(13) 緑の豊かさ	4.12	3.72	4.10	4.24	3.85	4.20	4.50
(14) 交通の便	3.28	3.77	2.58	3.46	2.71	3.39	3.43
(15) 交通の安全性	3.12	3.10	2.70	3.25	2.78	3.20	3.51
(16) 全体としての「住みやすさ」	3.61	3.61	3.32	3.71	3.31	3.64	3.89

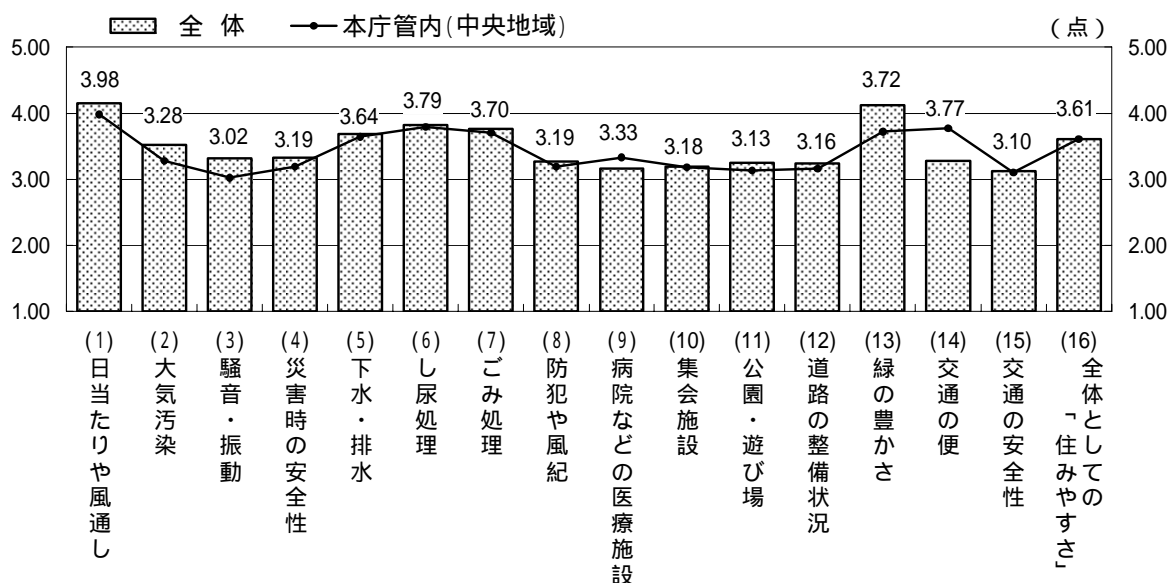
(注1) は項目内での最高値 は項目内での最低値

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中2項目で、最も差が大きいのは、「交通の便」(+0.49ポイント)となっている。下回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは、「緑の豊かさ」(-0.40ポイント)で、他に差が大きいのは、「騒音・振動」(-0.30ポイント)、「大気汚染」(-0.24ポイント)となっている。(図2-1-3)

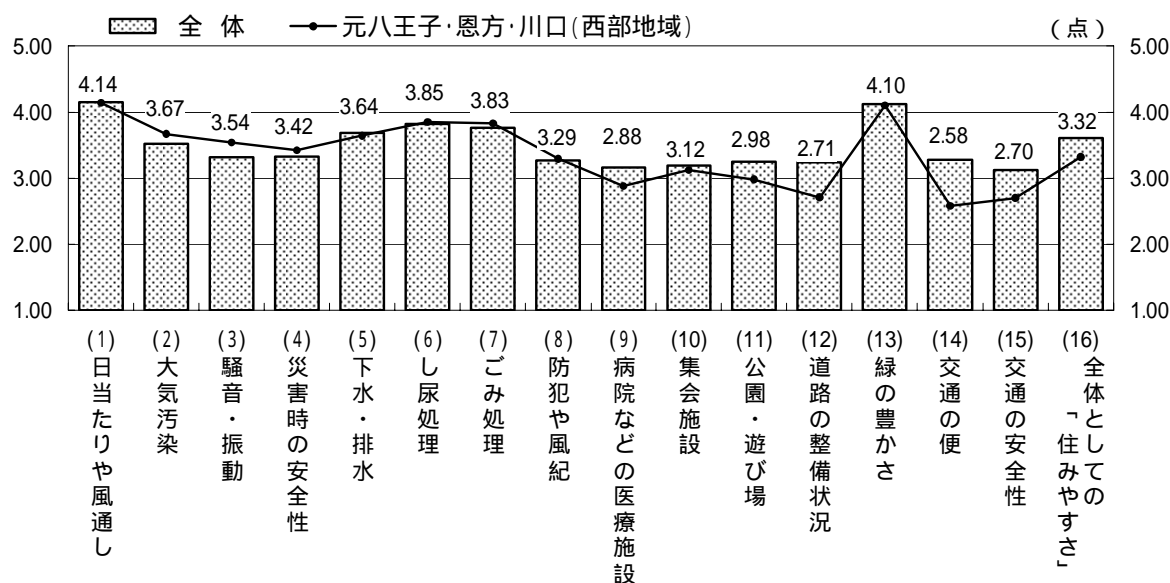
図2-1-3 生活環境の評価（加重平均）- 居住地域別「本庁管内（中央地域）」



【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中6項目で、最も差が大きいのは、「騒音・振動」(+0.22ポイント)となっている。下回っているのは16項目中10項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(-0.70ポイント)で、他に差が大きいのは、「道路の整備状況」(-0.53ポイント)、「交通の安全性」(-0.42ポイント)となっている。(図2-1-4)

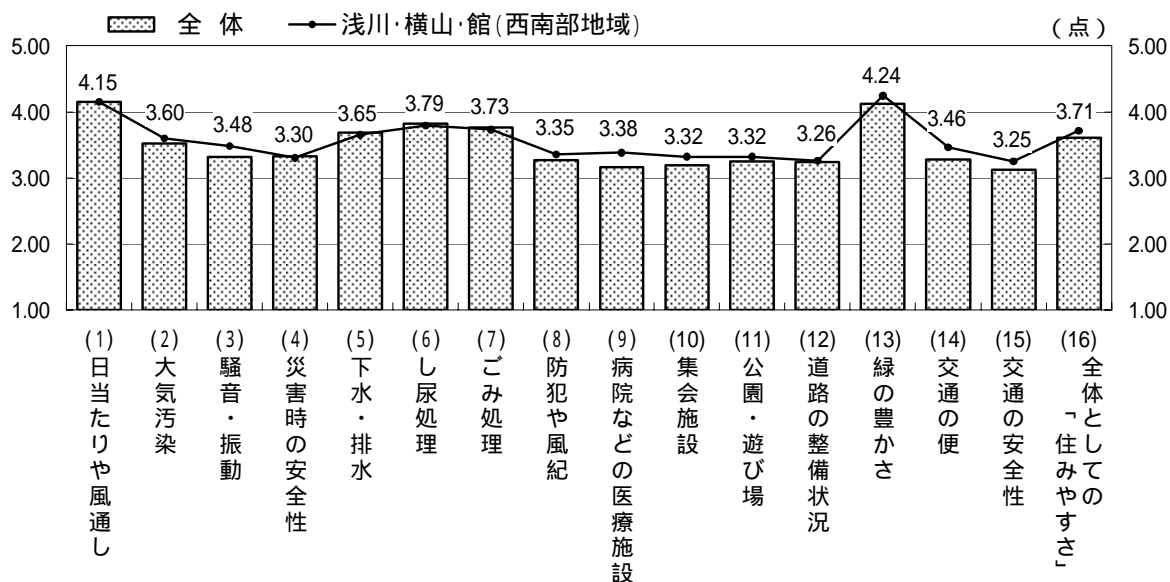
図2-1-4 生活環境の評価（加重平均）- 居住地域別「元八王子・恩方・川口(西部地域)」



【浅川・横山・館（西南部地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中11項目で、最も差が大きいのは、「病院などの医療施設」(+0.22ポイント)で、他に差が大きいのは、「交通の便」(+0.18ポイント)、「騒音・振動」(+0.16ポイント)となっている。下回っているのは16項目中4項目であるが、いずれの項目も-0.03ポイントの差となっている。(図2-1-5)

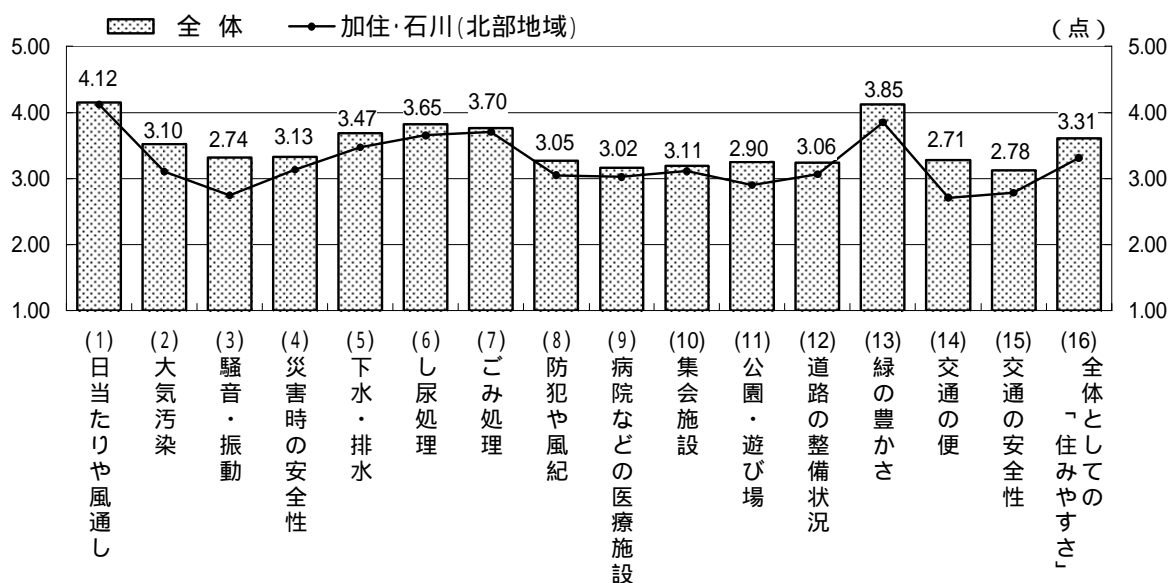
図2-1-5 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「浅川・横山・館(西南部地域)」



【加住・石川（北部地域）】

全ての項目において市全体より下回っており、最も差が大きいのは「騒音・振動」(-0.58ポイント)で、他に差が大きいのは、「交通の便」(-0.57ポイント)、「大気汚染」(-0.42ポイント)となっている。(図2-1-6)

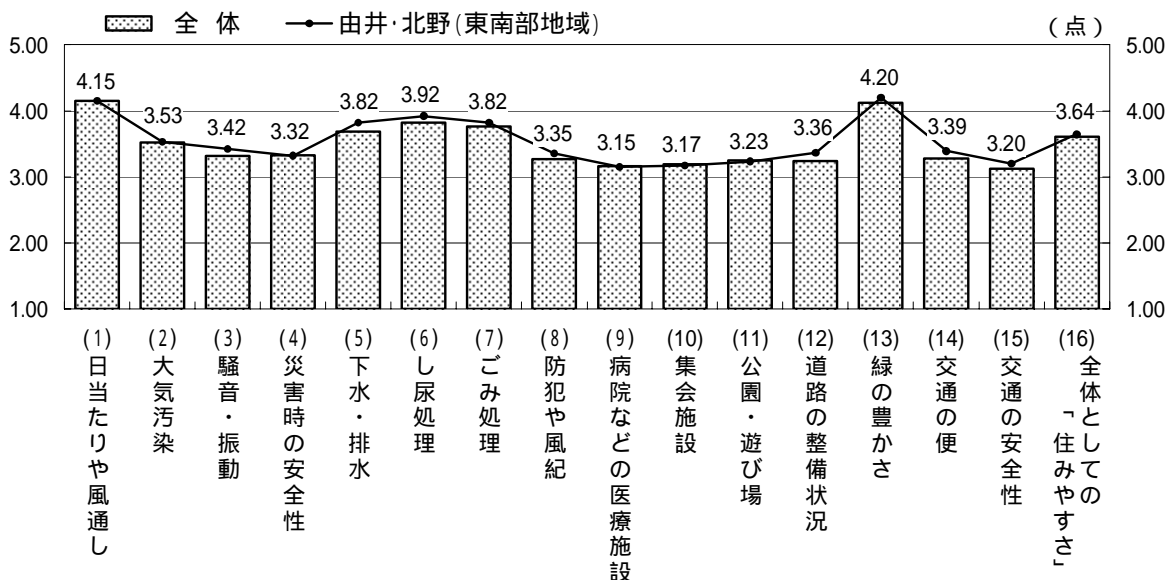
図2-1-6 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「加住・石川(北部地域)」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中11項目で、最も差が大きいのは「下水・排水」(+0.14ポイント)となっている。下回っているのは16項目中4項目であるが、いずれの項目も-0.02ポイント以下の差となっている。(図2-1-7)

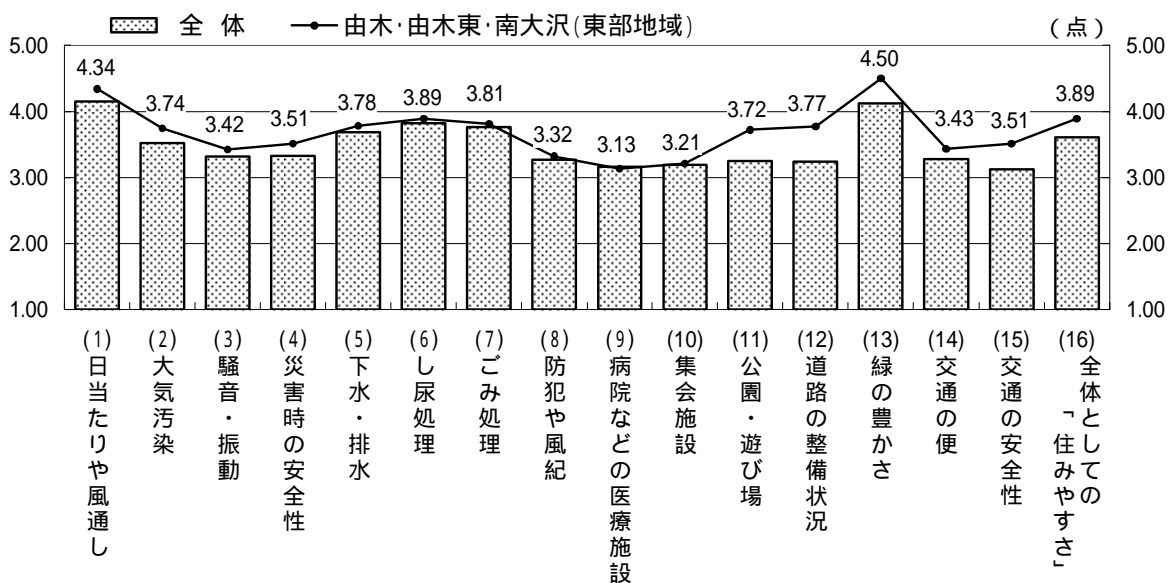
図2-1-7 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「由井・北野(東南部地域)」



【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

「病院などの医療施設」以外のすべての項目において市全体より上回っており、最も差が大きいのは、「道路の整備状況」(+0.53ポイント)で、他に差が大きいのは、「公園・遊び場」(+0.47ポイント)、「交通の安全性」(+0.39ポイント)となっている。(図2-1-8)

図2-1-8 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「由木・由木東・南大沢(東部地域)」



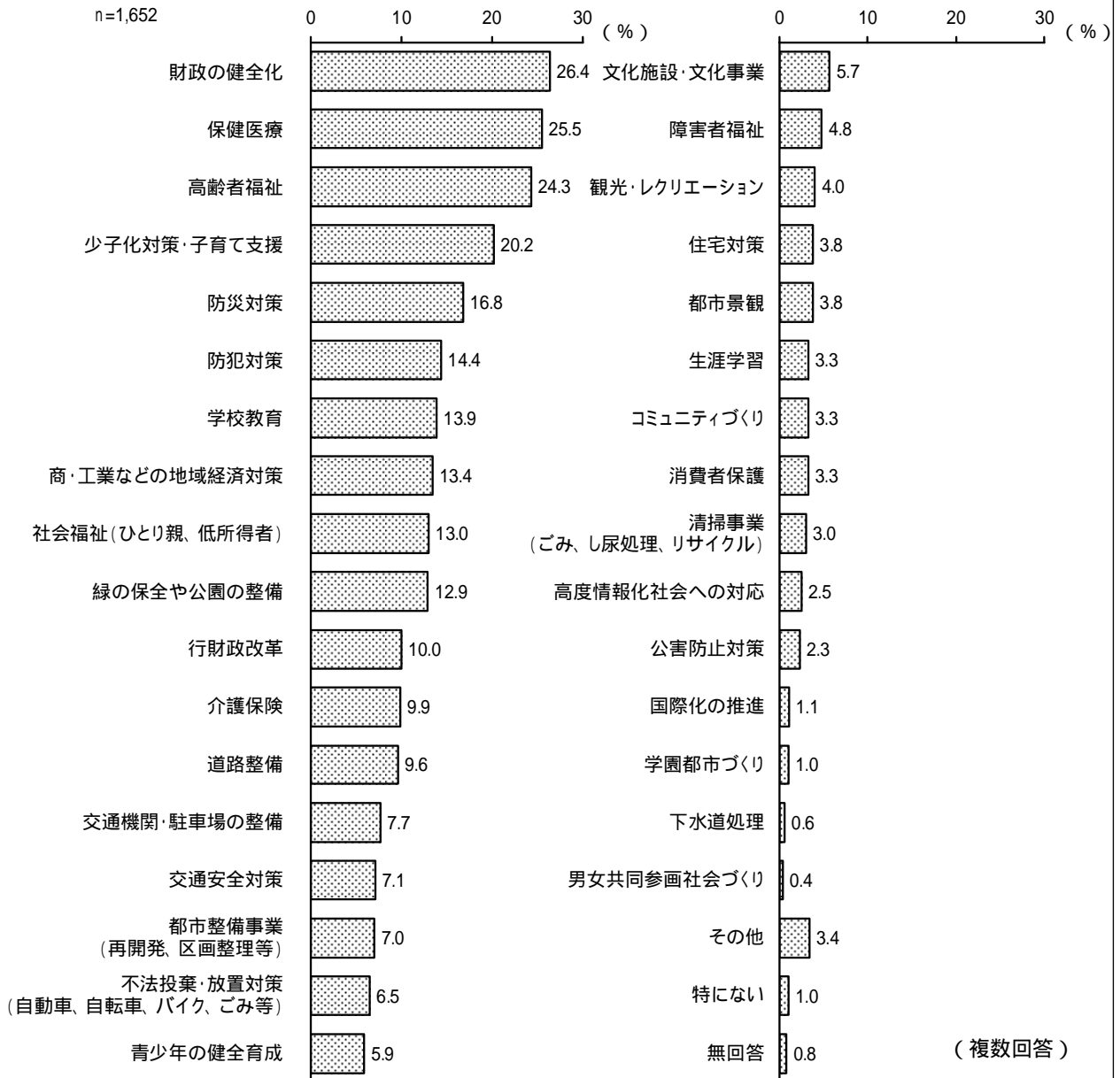
3 . 市政への要望

3 - 1 重点施策要望

「財政の健全化」が3割弱、「保健医療」「高齢者福祉」の2項目が2割台半ば

問3 市政全般において、あなたが特に力を入れてほしいと思う施策は何ですか。次の1～35の中から3つ選び、下の回答欄内に番号をご記入ください

図3 - 1 - 1



市政全般において特に力を入れてほしいと思う施策について聞いたところ、「財政の健全化」が3割弱(26.4%)と最も高く、ついで「保健医療」(25.5%)、「高齢者福祉」(24.3%)、「少子化対策・子育て支援」(20.2%)、「防災対策」(16.8%)と続いている。(図3 - 1 - 1)

経年での変化を見ると、前々回、前回で第2位であった「財政の健全化」が前回より1.8ポイント下がったものの第1位になっている。「保健医療」は前回より1.4ポイント下がったものの第2位となり、「高齢者福祉」は前回より9.2ポイント下がり、第1位から第3位となっている。

(表3-1-1)

表3-1-1 重点施策要望 - 経年比較

年		(%)		
順位	平成22年	平成23年	平成24年	
第1位	高齢者福祉 (30.8)	高齢者福祉 (33.5)	財政の健全化 (26.4)	
第2位	保健医療(29.6) 財政の健全化(29.6)	財政の健全化 (28.2)	保健医療 (25.5)	
第3位	-	保健医療 (26.9)	高齢者福祉 (24.3)	
第4位	防犯対策 (19.5)	少子化対策・子育て支援 (15.7)	少子化対策・子育て支援 (20.2)	
第5位	少子化対策・子育て支援 (15.6)	防犯対策 (15.2)	防災対策 (16.8)	
第6位	介護保険 (14.4)	商・工業などの 地域経済対策 (13.3)	防犯対策 (14.4)	
第7位	学校教育 (13.0)	防災対策 (12.9)	学校教育 (13.9)	
第8位	社会福祉 (ひとり親、低所得者) (12.4)	介護保険 (12.8)	商・工業などの 地域経済対策 (13.4)	
第9位	行財政改革 (11.2)	社会福祉 (ひとり親、低所得者) (12.5)	社会福祉 (ひとり親、低所得者) (13.0)	
第10位	緑の保全や公園の整備 (10.5)	緑の保全や公園の整備 (12.0) 学校教育(12.0)	緑の保全や公園の整備 (12.9)	

性別にみると、男女ともに第5位までの項目は変わらないが、男性の第1位は「財政の健全化」、第2位は「保健医療」で、女性の第1位は「保健医療」、第2位は「財政の健全化」となっている。

性・年齢別に第1位をみると、男女ともに60歳以上の年代で「高齢者福祉」が第1位となっている。男性の30歳代と40歳代、女性の20歳代と30歳代で「少子化対策・子育て支援」が第1位となっている。また、男性の20歳代と50歳代、女性の40歳代と50歳代で「財政の健全化」が第1位となっており、男女ともにすべての年代で第5位までに入っている。(表3-1-2)

表3-1-2 重点施策要望 - 性・年齢別

属性		順位	(%)				
		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全	体	1,652	財政の健全化 (26.4)	保健医療 (25.5)	高齢者福祉 (24.3)	少子化対策・ 子育て支援 (20.2)	防災対策 (16.8)
男	性	735	財政の健全化 (25.4)	保健医療 (22.3)	高齢者福祉 (21.4)	少子化対策・ 子育て支援 (17.8)	防災対策 (15.4)
女	性	905	保健医療 (28.1)	財政の健全化 (27.0)	高齢者福祉 (26.6)	少子化対策・ 子育て支援 (22.1)	防災対策 (18.0)
男性20歳代		69	財政の健全化 (20.3)	交通機関・駐 車場の整備 (18.8)	商・工業などの地域経済対策/ 緑の保全や公園の整備 (17.4)		防犯対策 (15.9)
30歳代		143	少子化対策・ 子育て支援 (32.9)	防犯対策 (21.7)	財政の健全化 (19.6)	保健医療/学校教育 (17.5)	
40歳代		157	少子化対策・ 子育て支援 (24.8)	財政の健全化 (23.6)	保健医療/学校教育 (22.3)		防犯対策 (18.5)
50歳代		144	財政の健全化 (28.5)	高齢者福祉 (28.5)	保健医療 (26.4)	防災対策 (22.9)	商・工業などの 地域経済対策 (16.7)
60~64歳		104	高齢者福祉 (33.7)	財政の健全化 (31.7)	保健医療 (27.9)	行財政改革 (22.1)	商・工業などの 地域経済対策 (19.2)
65歳以上		118	高齢者福祉 (41.5)	財政の健全化 (28.8)	保健医療 (28.0)	介護保険 (17.8)	行財政改革 (14.4)
女性20歳代		108	少子化対策・ 子育て支援 (26.9)	財政の健全化 (21.3)	防災対策/防犯対策 (20.4)		保健医療 (19.4)
30歳代		159	少子化対策・ 子育て支援 (48.4)	学校教育 (31.4)	保健医療 (28.9)	財政の健全化 (20.8)	防犯対策 (17.0)
40歳代		170	財政の健全化 (27.6)	学校教育 (27.1)	少子化対策・ 子育て支援 (26.5)	保健医療 (25.9)	防災対策 (25.3)
50歳代		192	財政の健全化 (37.5)	高齢者福祉 (32.3)	保健医療 (29.7)	防災対策 (20.3)	社会福祉(ひとり 親、低所得者) (16.1)
60~64歳		127	高齢者福祉 (38.6)	保健医療 (32.3)	財政の健全化 (28.3)	介護保険 (15.7)	社会福祉(ひとり 親、低所得者) (14.2)
65歳以上		147	高齢者福祉 (43.5)	保健医療 (29.9)	財政の健全化 (22.4)	介護保険 (20.4)	社会福祉(ひとり 親、低所得者) (18.4)

居住地域別で第1位をみると、本庁管内（中央地域）、浅川・横山・館（西南部地域）、由井・北野（東南部地域）、由木・由木東・南大沢（東部地域）では「財政の健全化」、元八王子・恩方・川口（西部地域）では「保健医療」、加住・石川（北部地域）では「高齢者福祉」となっている。「財政の健全化」と「保健医療」の2項目は、順位は異なるものの、すべての地域で3位以内にあげられている。（表3 - 1 - 3）

表3 - 1 - 3 重点施策要望 - 居住地域別

属性		順位	（％）				
		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体		1,652	財政の健全化 (26.4)	保健医療 (25.5)	高齢者福祉 (24.3)	少子化対策・子育て支援 (20.2)	防災対策 (16.8)
本 庁 管 内 (中 央 地 域)		327	財政の健全化 (26.3)	保健医療 (25.7)	高齢者福祉 (24.2)	商・工業などの地域経済対策 (19.0)	少子化対策・子育て支援 (18.7)
元 八 王 子 ・ 恩 方 ・ 川 口 (西 部 地 域)		301	保健医療 (27.2)	財政の健全化 (25.6)	高齢者福祉 (22.3)	道路整備 (20.9)	少子化対策・子育て支援 (20.3)
浅 川 ・ 横 山 ・ 館 (西 南 部 地 域)		292	財政の健全化 (26.7)	高齢者福祉 (25.0)	保健医療 (24.0)	少子化対策・子育て支援 (19.5)	学校教育 (16.8)
加 住 ・ 石 川 (北 部 地 域)		130	高齢者福祉 (28.5)	保健医療 (23.1)	財政の健全化 (20.8)	少子化対策・子育て支援 / 防災対策 (20.0)	
由 井 ・ 北 野 (東 南 部 地 域)		239	財政の健全化 (29.3)	保健医療 (25.9)	少子化対策・子育て支援 (23.4)	防災対策 (23.0)	高齢者福祉 (20.1)
由 木 ・ 由 木 東 ・ 南 大 沢 (東 部 地 域)		338	財政の健全化 (27.2)	高齢者福祉 (26.9)	保健医療 (26.0)	防災対策 (21.6)	少子化対策・子育て支援 (19.8)

4 . 災害対策について

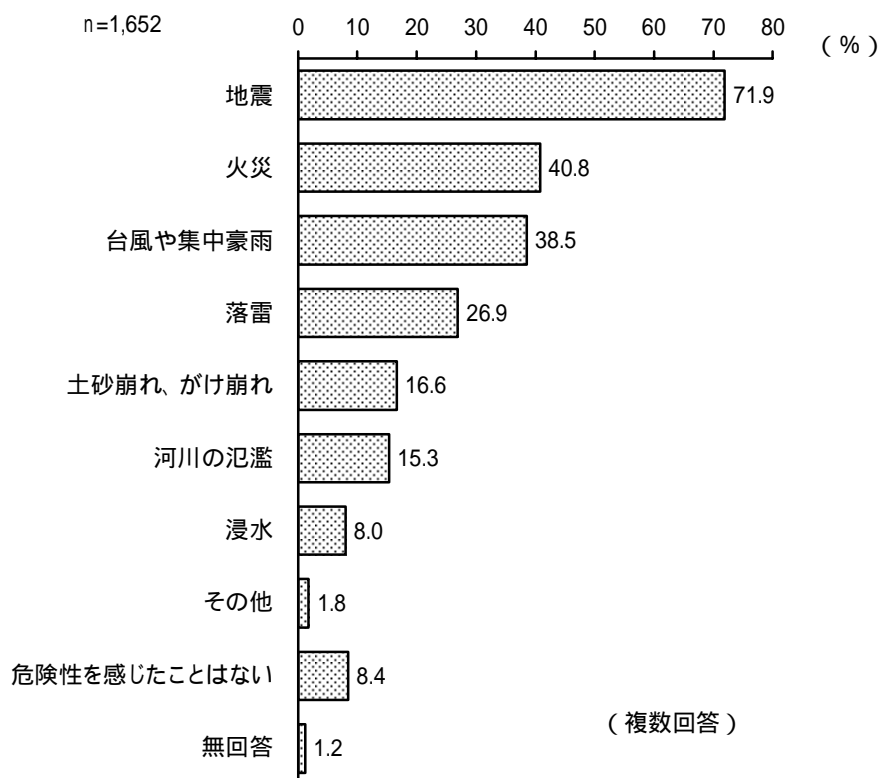
4 - 1 家庭や近所で災害の危険性があるもの

「地震」が7割強

問4 あなたのご家庭やご近所では、どのような災害の危険性があると感じていますか。

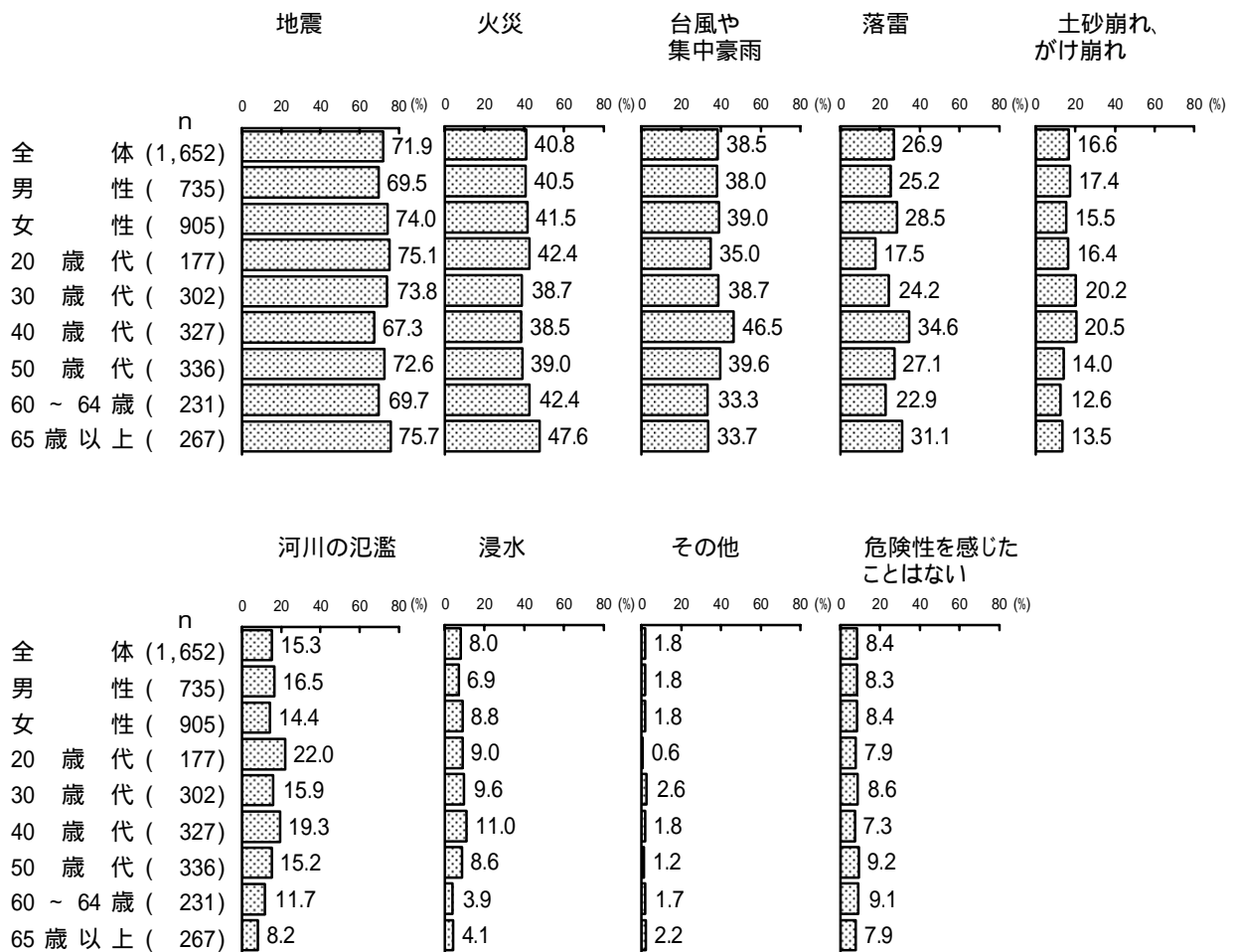
(はいくつでも)

図4 - 1 - 1



家庭や近所でどのような災害の危険性があると感じているか聞いたところ、「地震」が7割強(71.9%)と最も高く、ついで「火災」(40.8%)、「台風や集中豪雨」(38.5%)、「落雷」(26.9%)と続いている。(図4 - 1 - 1)

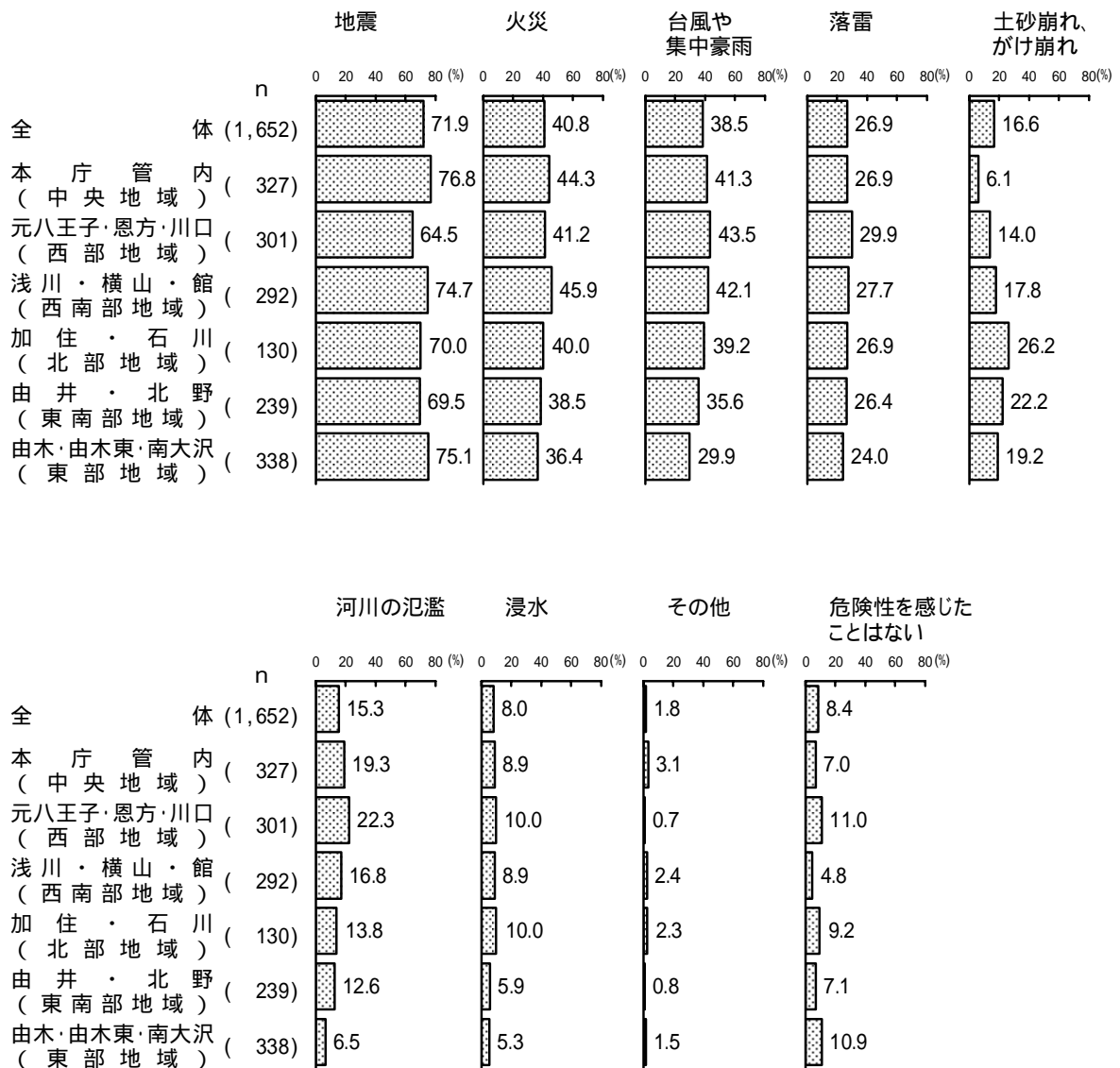
図4 - 1 - 2 家庭や近所で災害の危険性があるもの - 性別・年齢別



性別にみると、「地震」は4.5ポイント、「落雷」は3.3ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「地震」はすべての年代で7割前後と高く、特に20歳代（75.1%）と65歳以上（75.7%）で7割台半ばとなっている。また、「火災」は65歳以上（47.6%）、「台風や集中豪雨」は40歳代（46.5%）と、それぞれ5割弱と高くなっている。（図4 - 1 - 2）

図4 - 1 - 3 家庭や近所で災害の危険性があるもの - 居住地域別



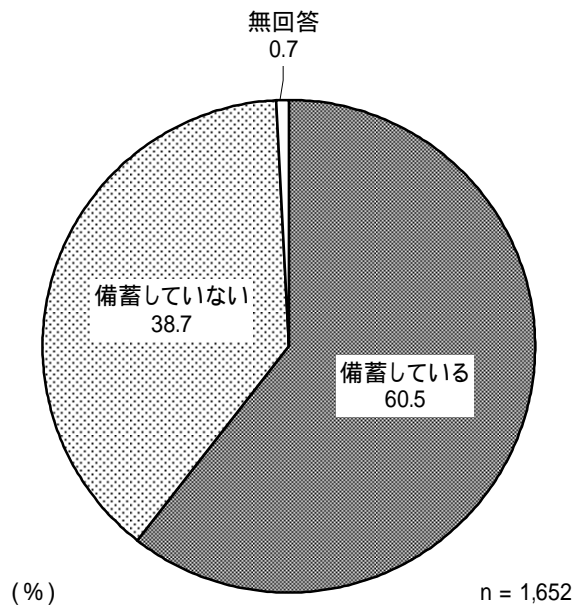
居住地域別にみると、「地震」はすべての地域で7割前後と高く、特に本庁管内（中央地域）は8割弱（76.8%）となっている。また、「土砂崩れ、がけ崩れ」は加住・石川（北部地域）で3割弱（26.2%）と、他の地域と比べて高くなっている。（図4 - 1 - 3）

4 - 2 食糧・飲料水の備蓄の有無

【食糧】「備蓄している」がほぼ6割、「備蓄していない」が4割弱

問5 あなたのご家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食糧、飲料水を備蓄していますか。(は1つだけ)

図4 - 2 - 1 【食糧】

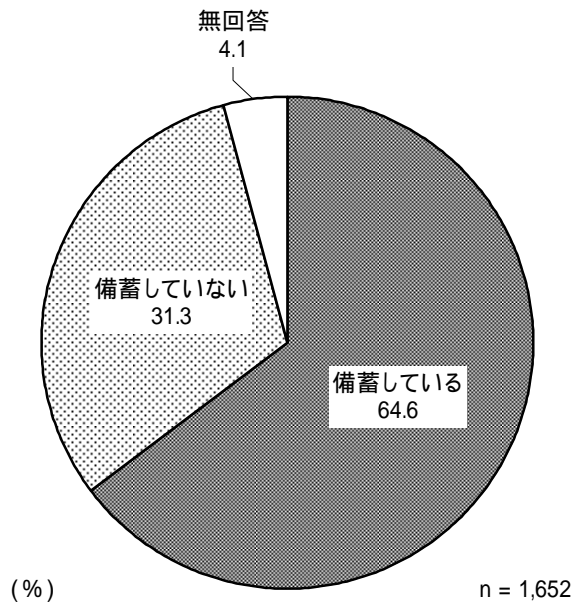


食糧を備蓄しているかを聞いたところ、「備蓄している」がほぼ6割(60.5%)、「備蓄していない」は4割弱(38.7%)となっている。(図4 - 2 - 1)

【飲料水】「備蓄している」が6割台半ば、「備蓄していない」が3割強

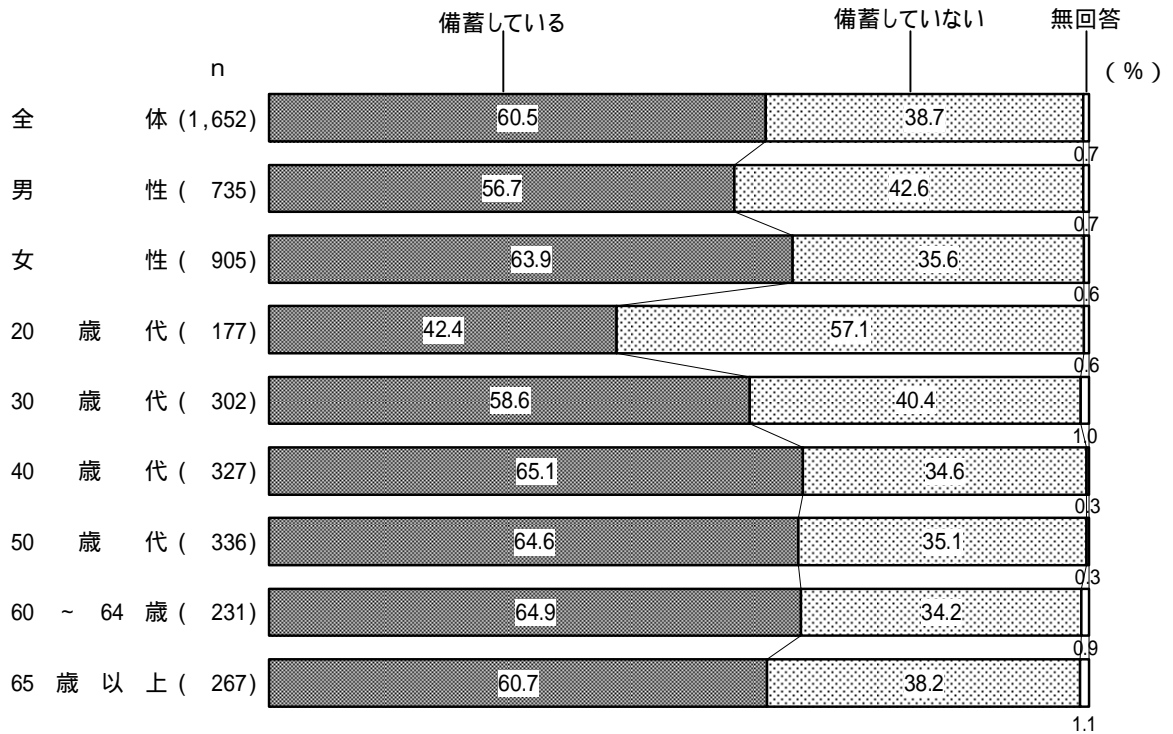
問5 あなたのご家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食糧、飲料水を備蓄していますか。(は1つだけ)

図4 - 2 - 2 【飲料水】



飲料水を備蓄しているかを聞いたところ、「備蓄している」が6割台半ば(64.6%)、「備蓄していない」は3割強(31.3%)となっている。(図4 - 2 - 2)

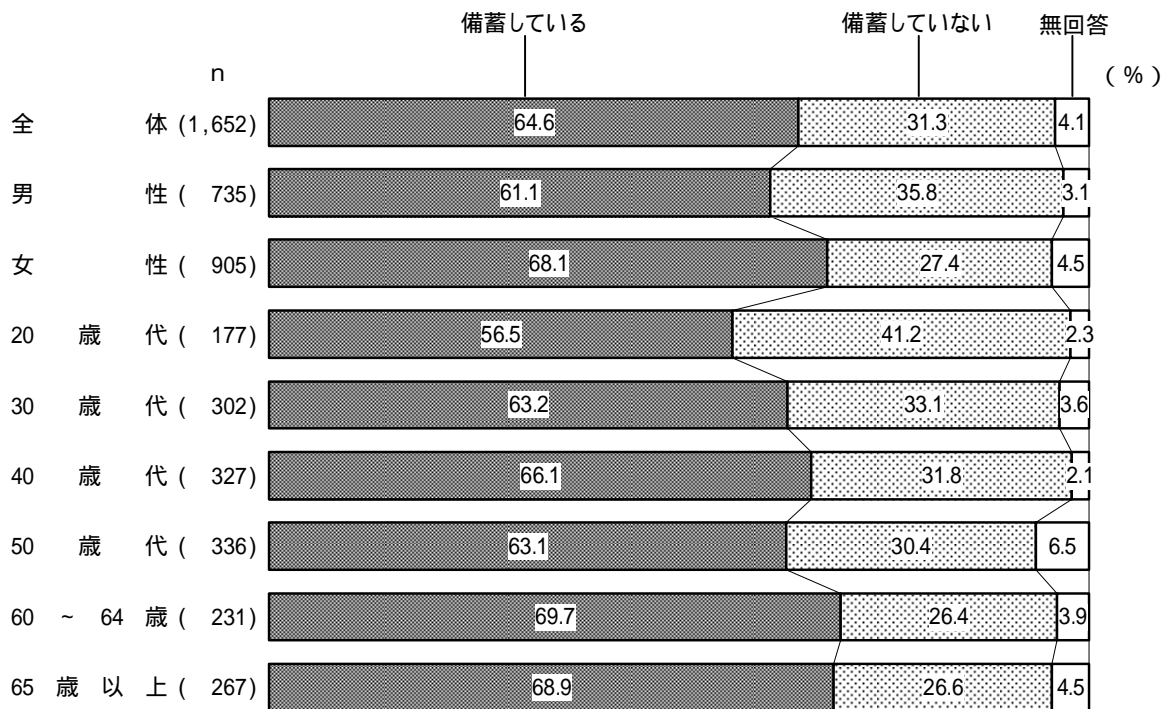
図4 - 2 - 3 食糧・飲料水の備蓄の有無 - 性別・年齢別【食糧】



性別にみると、「備蓄している」は女性のほうが7.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は40歳代以上の年代で6割を超え高くなっている。一方、「備蓄していない」は20歳代で6割弱（57.1%）と高くなっている。（図4 - 2 - 3）

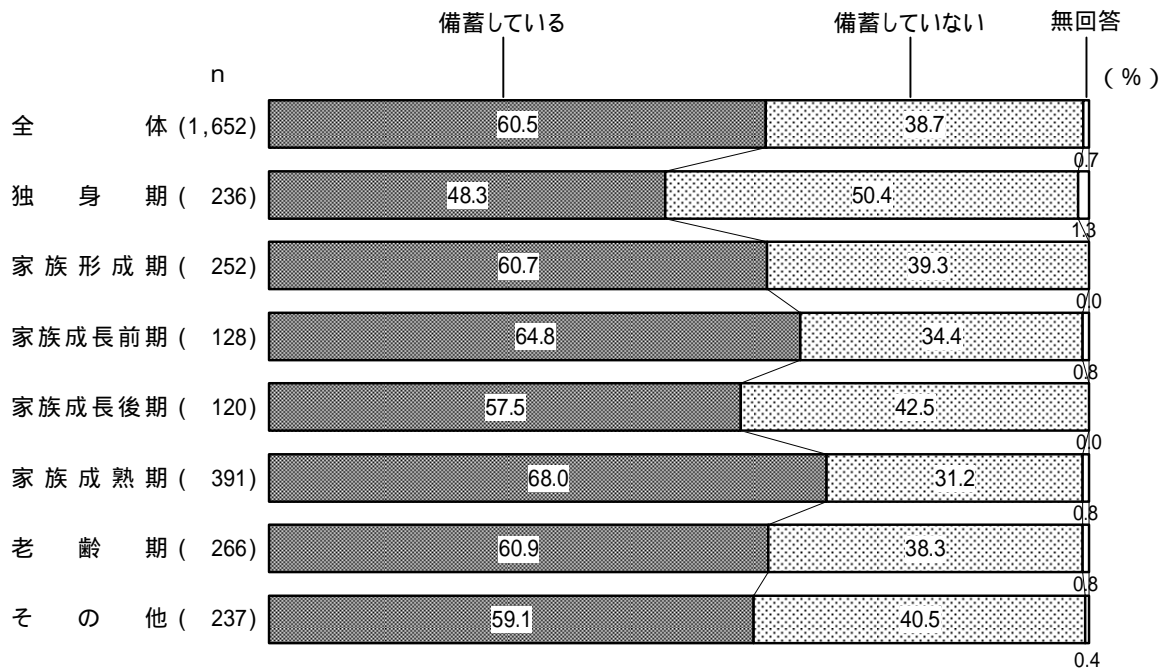
図4 - 2 - 4 食糧・飲料水の備蓄の有無 - 性別・年齢別【飲料水】



性別にみると、「備蓄している」は女性のほうが7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は30歳代以上の年代で6割を超え高くなっている。一方、「備蓄していない」は20歳代で4割強（41.2%）と高くなっている。（図4 - 2 - 4）

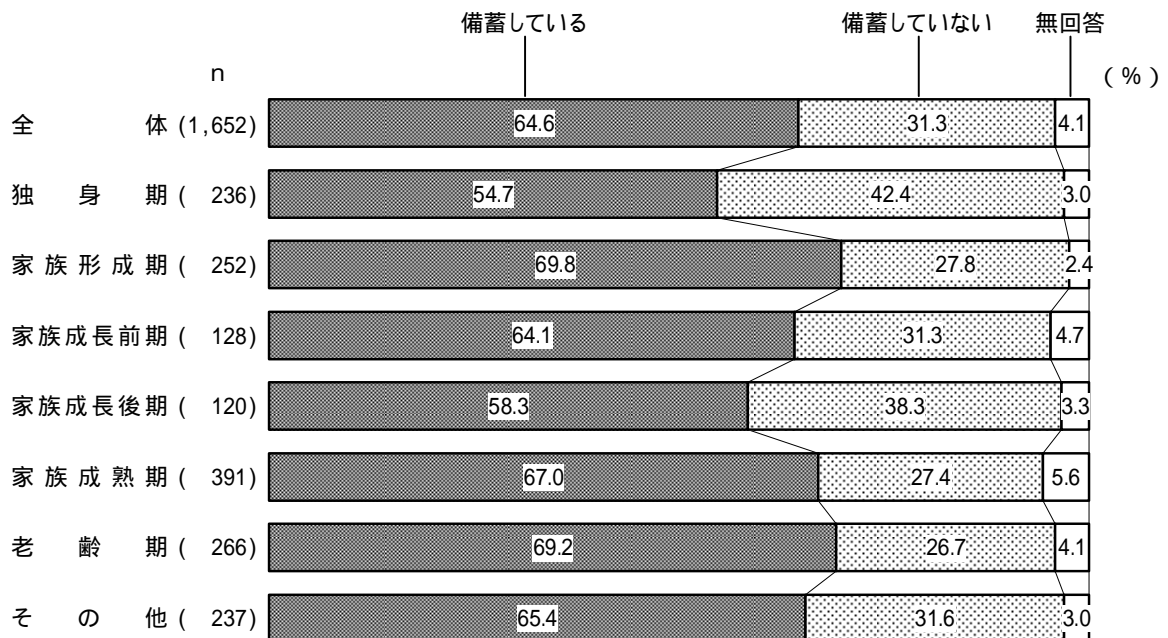
図 4 - 2 - 5 食糧・飲料水の備蓄の有無 - ライフステージ別【食糧】



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成熟期が7割弱（68.0%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期でほぼ5割（50.4%）と高くなっている。

(図 4 - 2 - 5)

図 4 - 2 - 6 食糧・飲料水の備蓄の有無 - ライフステージ別【飲料水】



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族形成期（69.8%）老齢期（69.2%）がそれぞれほぼ7割と高くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期で4割強（42.4%）と高くなっている。(図 4 - 2 - 6)

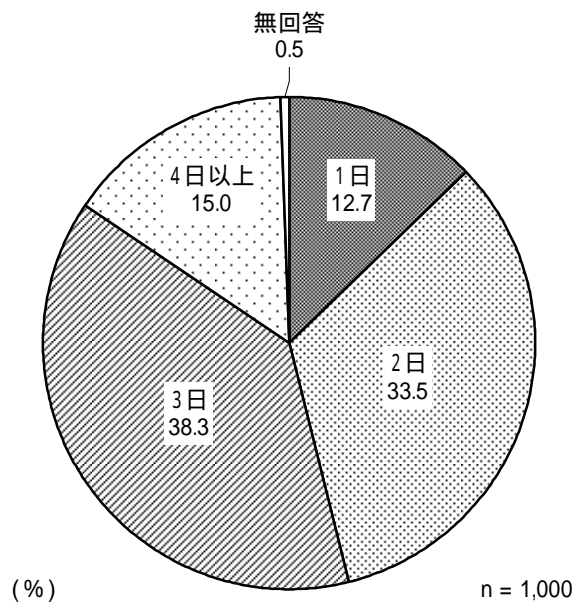
4 - 3 食糧・飲料水の備蓄量

【食糧】「3日」が4割弱

(問5で食糧を「備蓄している」とお答えの方に)

問5 - 1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(は1つだけ)

図4 - 3 - 1 【食糧】



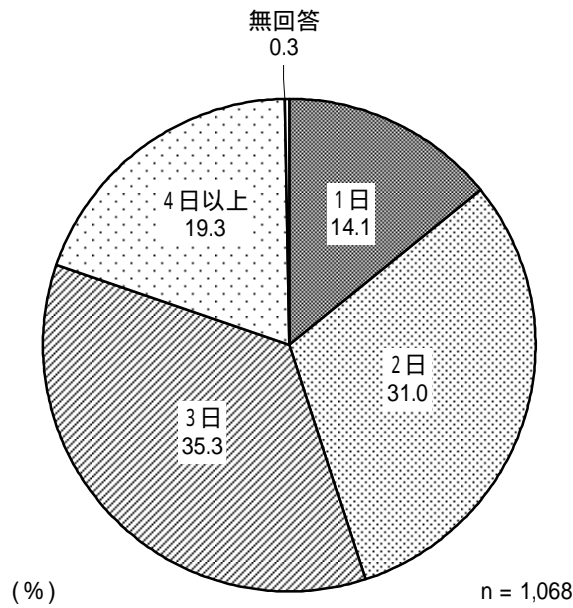
食糧の備蓄の有無で、「備蓄している」と答えた人(1,000人)に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日」が4割弱(38.3%)と最も高く、ついで「2日」(33.5%)、「4日以上」(15.0%)、「1日」(12.7%)となっている。(図4 - 3 - 1)

【飲料水】「3日」が3割台半ば

(問5で飲料水を「備蓄している」とお答えの方に)

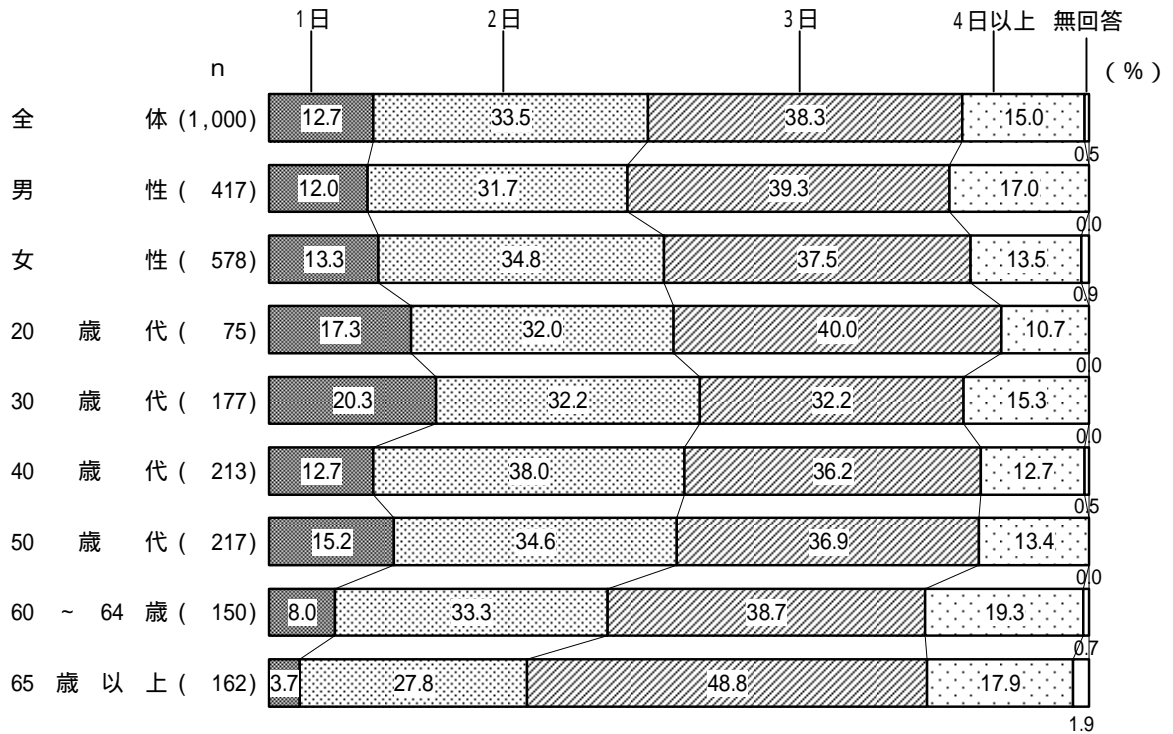
問5 - 3 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(は1つだけ)

図4 - 3 - 2 【飲料水】



飲料水の備蓄の有無で、「備蓄している」と答えた人(1,068人)に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日」が3割台半ば(35.3%)と最も高く、ついで「2日」(31.0%)、「4日以上」(19.3%)、「1日」(14.1%)となっている。(図4 - 3 - 2)

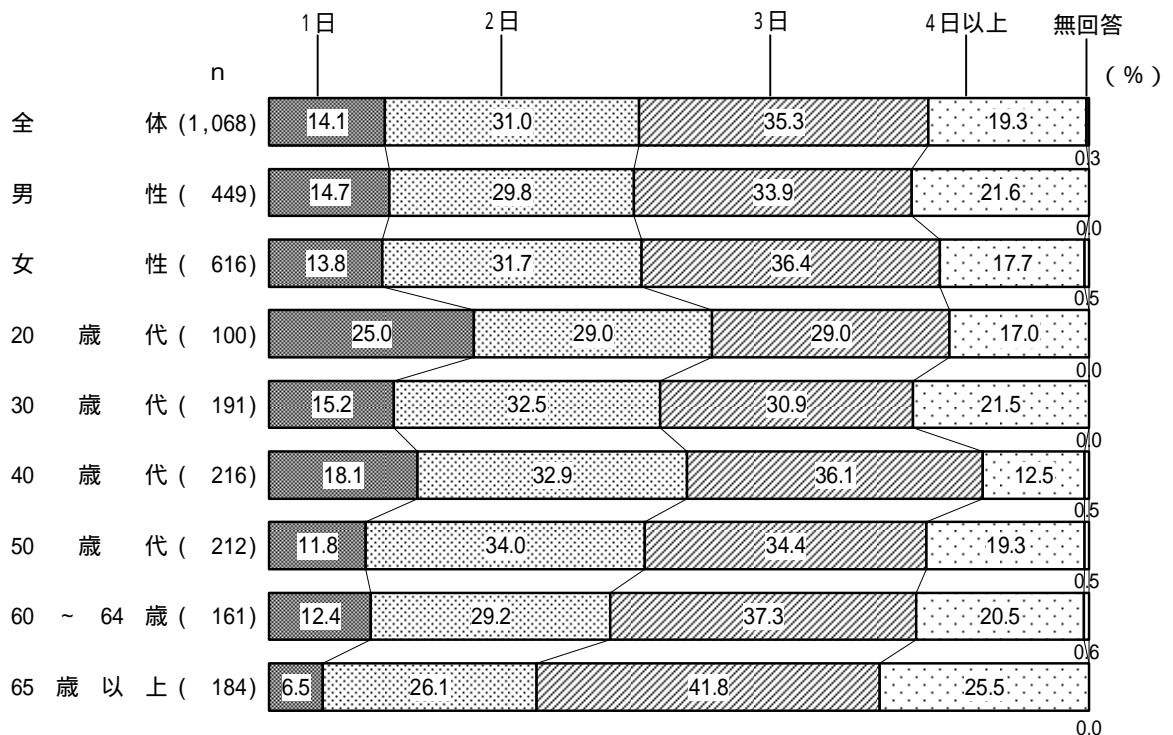
図4 - 3 - 3 食糧・飲料水の備蓄量 - 性別・年齢別【食糧】



食糧を性別にみると、「4日以上」は男性のほうが3.5ポイント高くなっている。

食糧を年齢別にみると、「3日」は65歳以上が5割弱（48.8%）、「1日」は30歳代でほぼ2割（20.3%）と、それぞれ高くなっている。（図4 - 3 - 3）

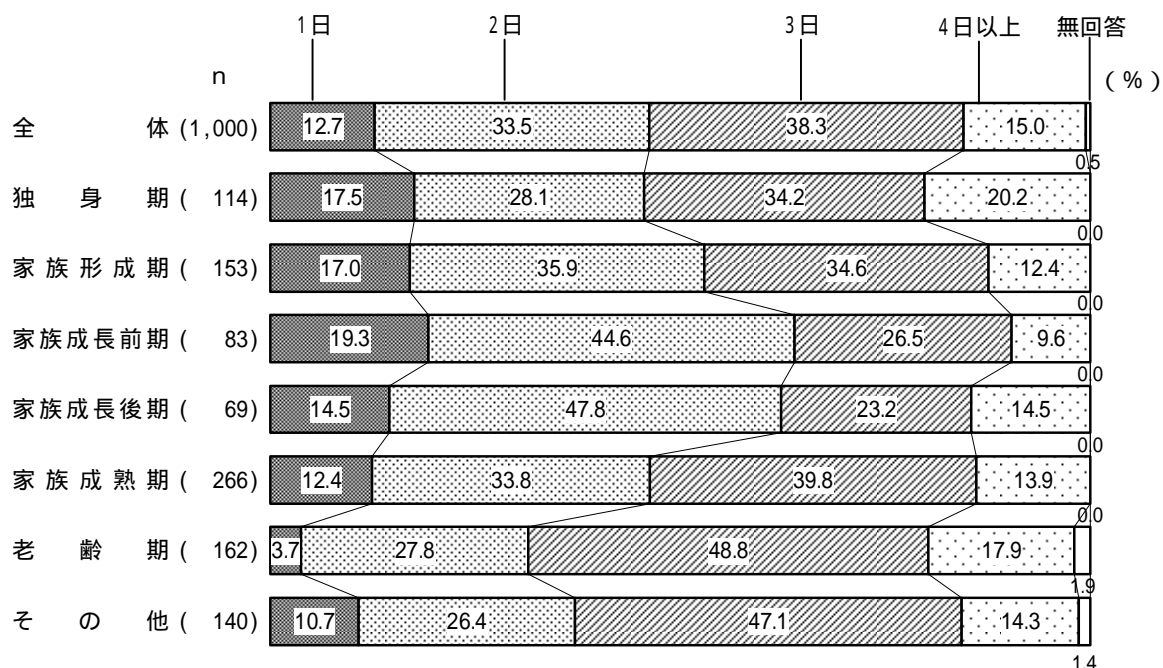
図4 - 3 - 4 食糧・飲料水の備蓄量 - 性別・年齢別【飲料水】



飲料水を性別にみると、「4日以上」は男性のほうが3.9ポイント高くなっている。

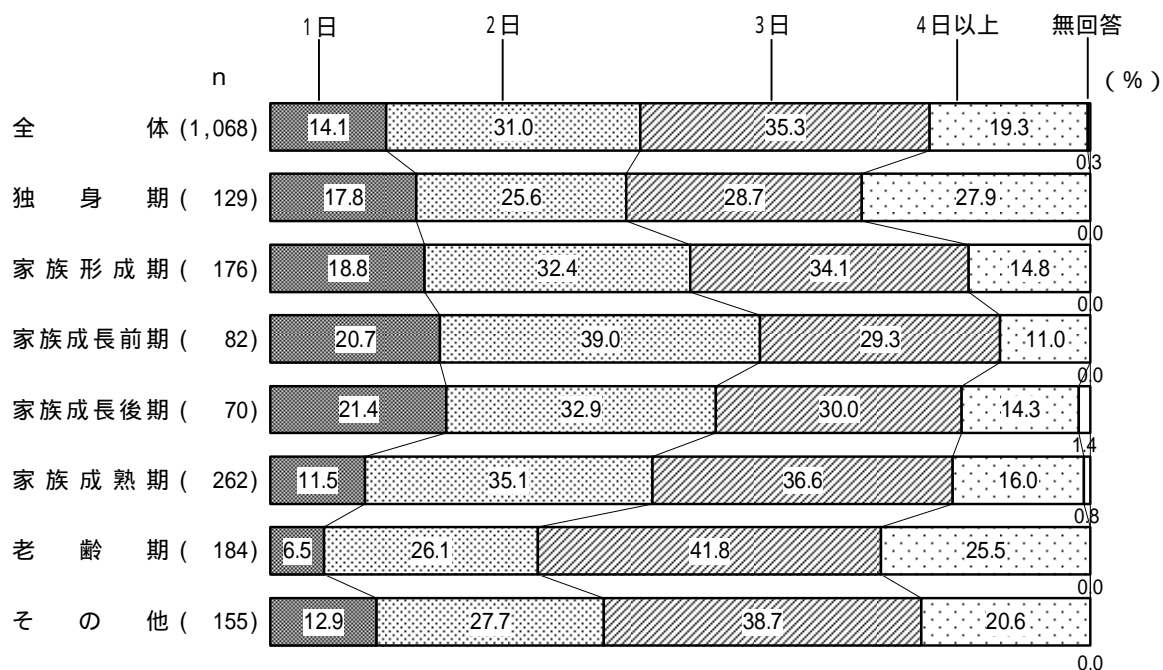
飲料水を年齢別にみると、65歳以上で「3日」は4割強（41.8%）、「4日以上」は2割台半ば（25.5%）と、他の年代に比べて高くなっている。（図4 - 3 - 4）

図4-3-5 食糧・飲料水の備蓄量 - ライフステージ別【食糧】



食糧をライフステージ別にみると、「3日」は老齢期が5割弱（48.8%）、「2日」は家族成長後期で5割弱（47.8%）と、それぞれ高くなっている。（図4-3-5）

図4-3-6 食糧・飲料水の備蓄量 - ライフステージ別【飲料水】



飲料水をライフステージ別にみると、「3日」は老齢期が4割強（41.8%）、「2日」は家族成長前期でほぼ4割（39.0%）と、それぞれ高くなっている。（図4-3-6）

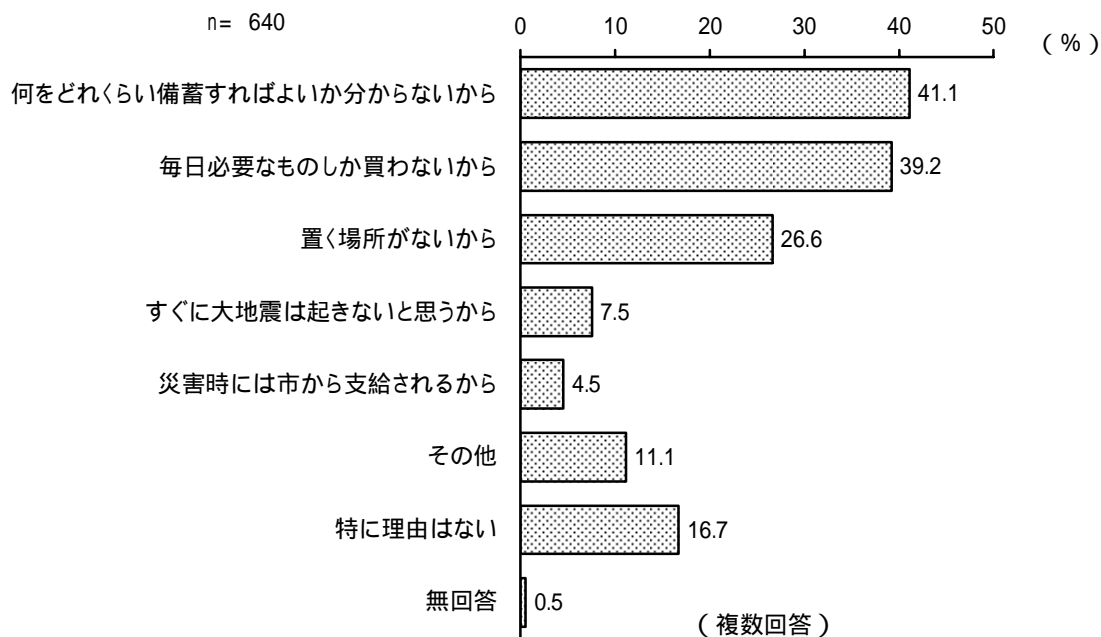
4 - 4 食糧・飲料水を備蓄していない理由

【食糧】「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」が4割強

(問5で食糧を「備蓄していない」とお答えの方に)

問5 - 2 備蓄していない理由は何ですか。(はいいくつでも)

図4 - 4 - 1 【食糧】



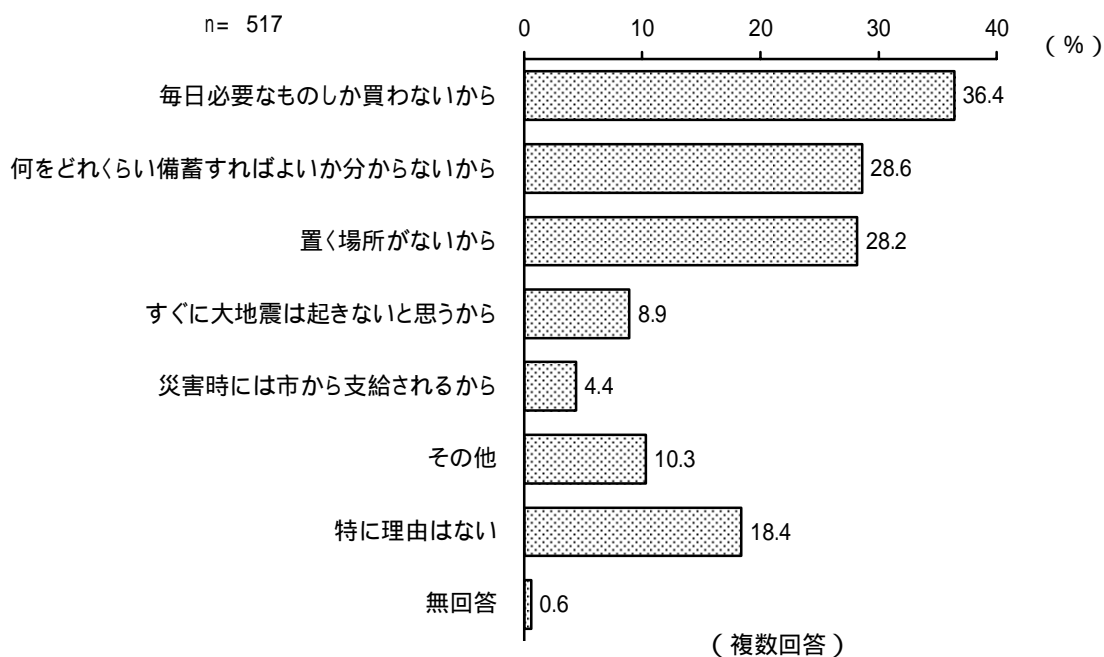
食糧の備蓄の有無で、「備蓄していない」と答えた人(640人)に、備蓄していない理由を聞いたところ、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」が4割強(41.1%)と最も高く、ついで「毎日必要なものしか買わないから」(39.2%)、「置く場所がないから」(26.6%)、「すぐに大地震は起きないと思うから」(7.5%)と続いている。(図4 - 4 - 1)

【飲料水】「毎日必要なものしか買わないから」が4割弱

(問5で飲料水を「備蓄していない」とお答えの方に)

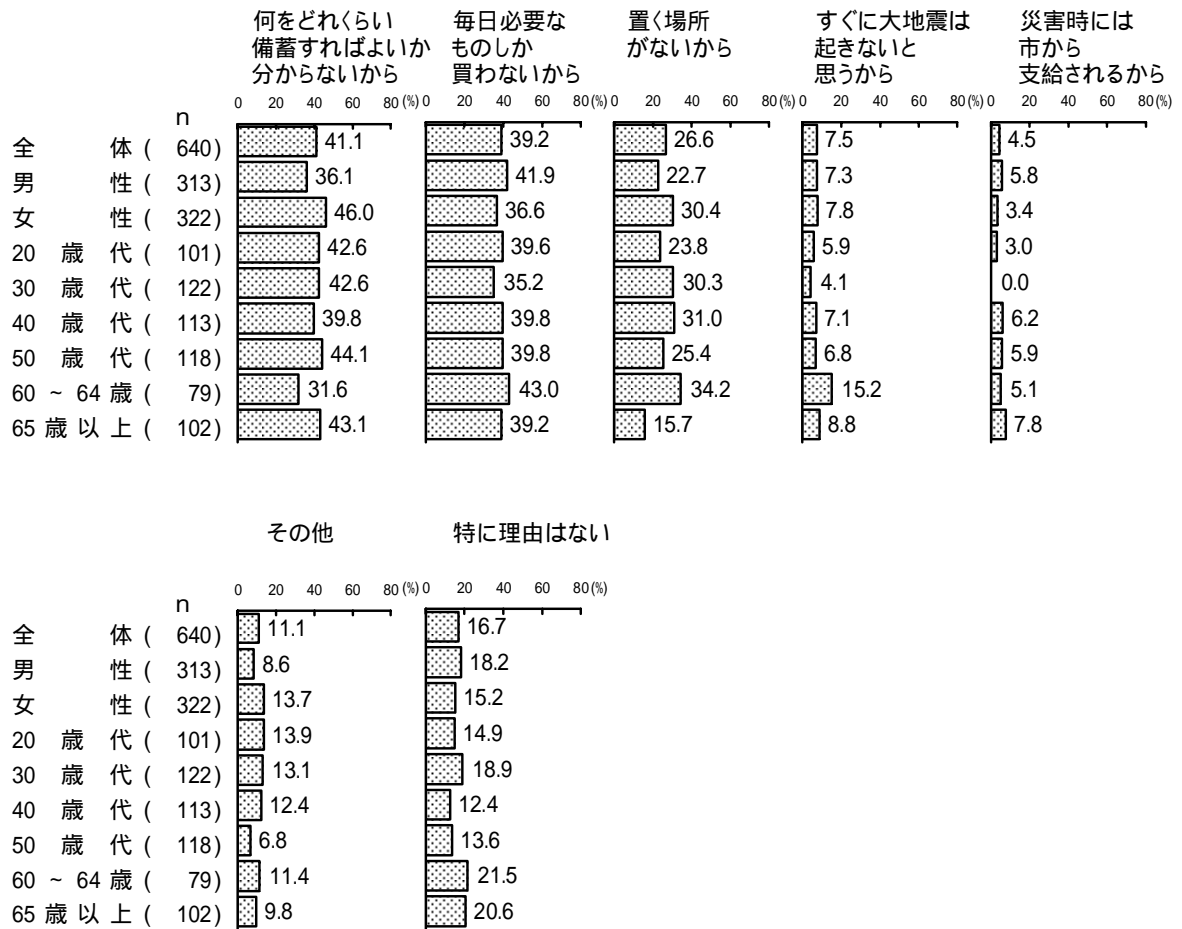
問5 - 4 備蓄していない理由は何ですか。(はいいくつでも)

図4 - 4 - 2 【飲料水】



飲料水の備蓄の有無で、「備蓄していない」と答えた人(517人)に、備蓄していない理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」が4割弱(36.4%)と最も高く、ついで「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」(28.6%)、「置く場所がないから」(28.2%)、「すぐに大地震は起きないと思うから」(8.9%)と続いている。(図4 - 4 - 2)

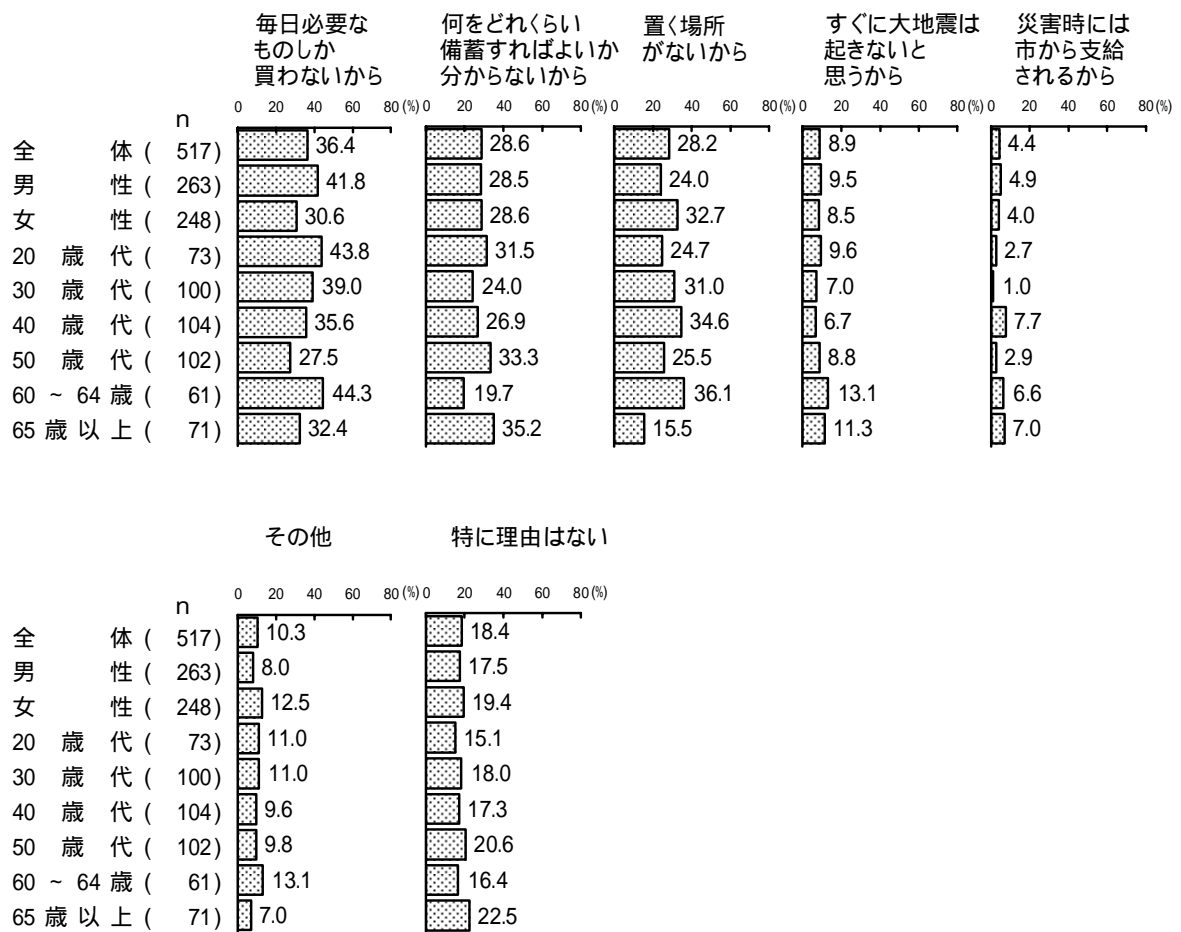
図4 - 4 - 3 食糧・飲料水を備蓄していない理由 - 性別・年齢別【食糧】



食糧を性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は9.9ポイント、「置く場所がないから」は7.7ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「毎日必要なものしか買わないから」は5.3ポイント男性のほうが高くなっている。

食糧を年齢別にみると、60～64歳を除く全ての年代で「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」が4割前後と高くなっている。また、60～64歳では「毎日必要なものしか買わないから」は4割強（43.0%）、「置く場所がないから」は3割台半ば（34.2%）と、他の年代に比べて高くなっている。（図4 - 4 - 3）

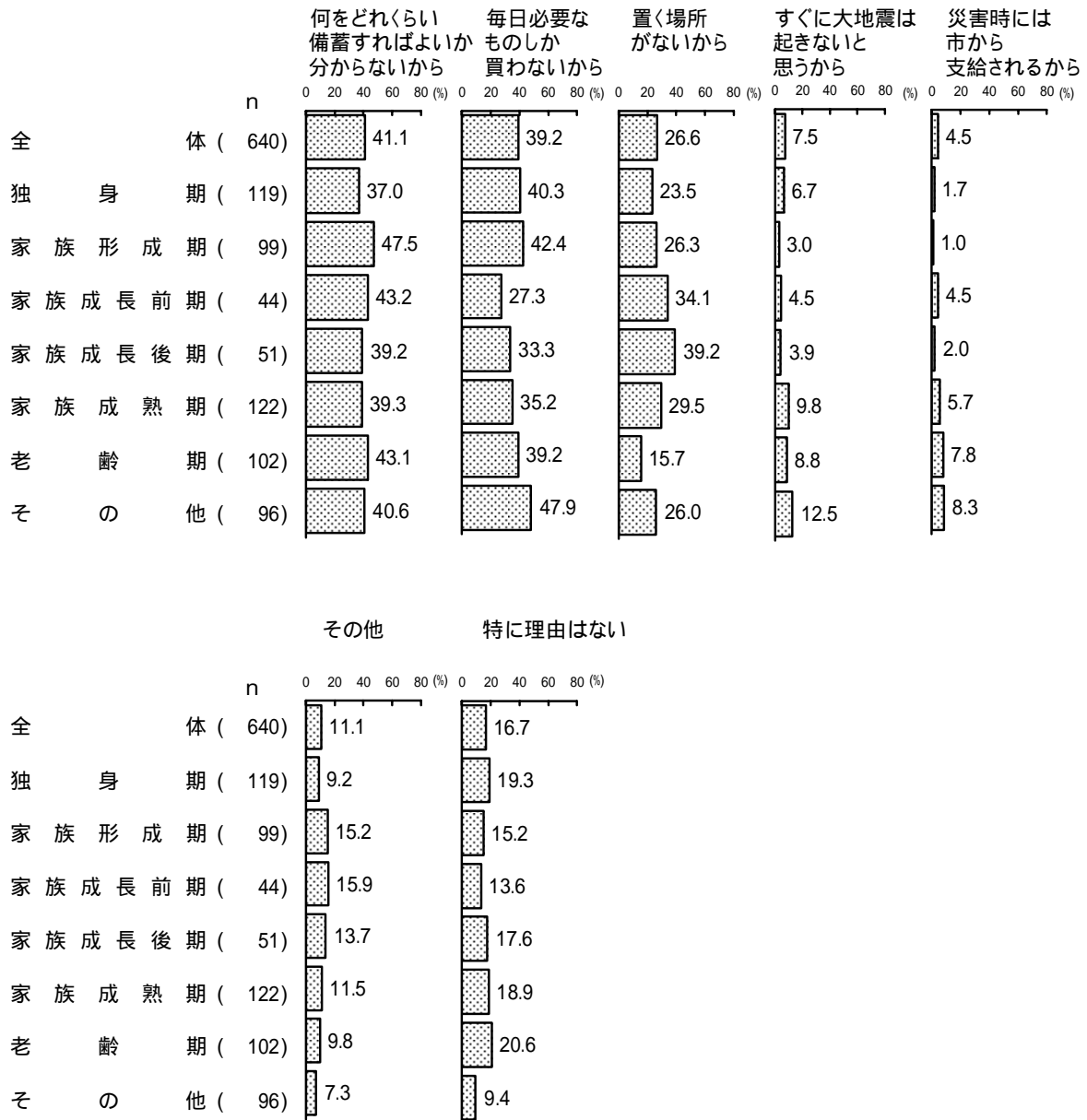
図4 - 4 - 4 食糧・飲料水を備蓄していない理由 - 性別・年齢別【飲料水】



飲料水を性別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は男性のほうが11.2ポイント高くなっている。逆に「置く場所がないから」は女性のほうが8.7ポイント高くなっている。

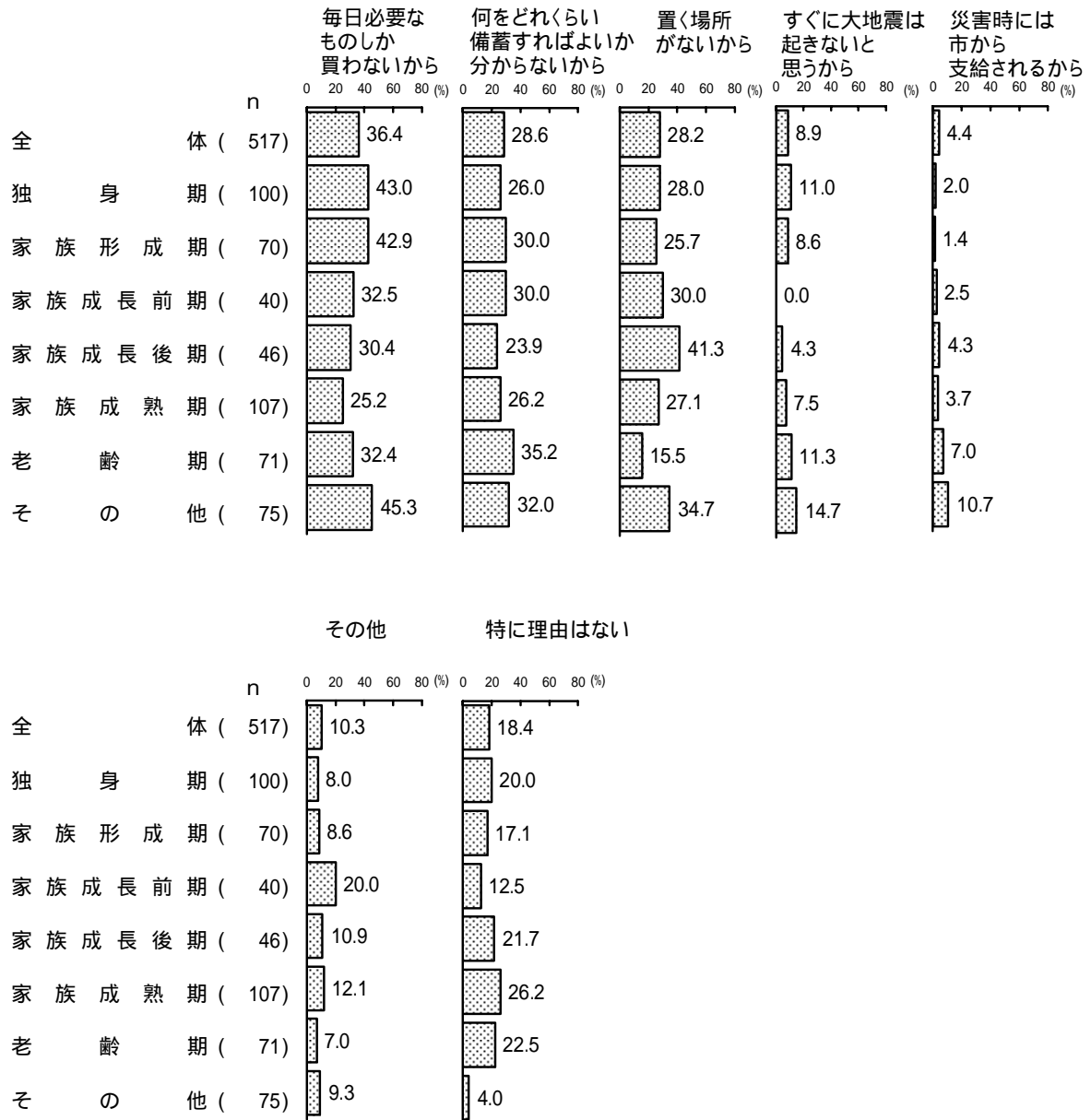
飲料水を年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は60～64歳が4割台半ば（44.3%）、20歳代が4割強（43.8%）となっている。また、「置く場所がないから」は60～64歳で4割弱（36.1%）、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は65歳以上で3割台半ば（35.2%）と、それぞれ高くなっている。（図4 - 4 - 4）

図4 - 4 - 5 食糧・飲料水を備蓄していない理由 - ライフステージ別【食糧】



食糧をライフステージ別にみると、家族形成期で「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は5割弱（47.5%）、「毎日必要なものしか買わないから」は4割強（42.4%）と、それぞれ高くなっている。また、「置く場所がないから」は家族成長後期でほぼ4割（39.2%）と高くなっている。（図4 - 4 - 5）

図4 - 4 - 6 食糧・飲料水を備蓄していない理由 - ライフステージ別【飲料水】



飲料水をライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は独身期（43.0%）、家族形成期（42.9%）でいずれも4割強と高くなっている。また、「置く場所がないから」は家族成長後期で4割強（41.3%）、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は老齢期で3割台半ば（35.2%）と、それぞれ高くなっている。（図4 - 4 - 6）

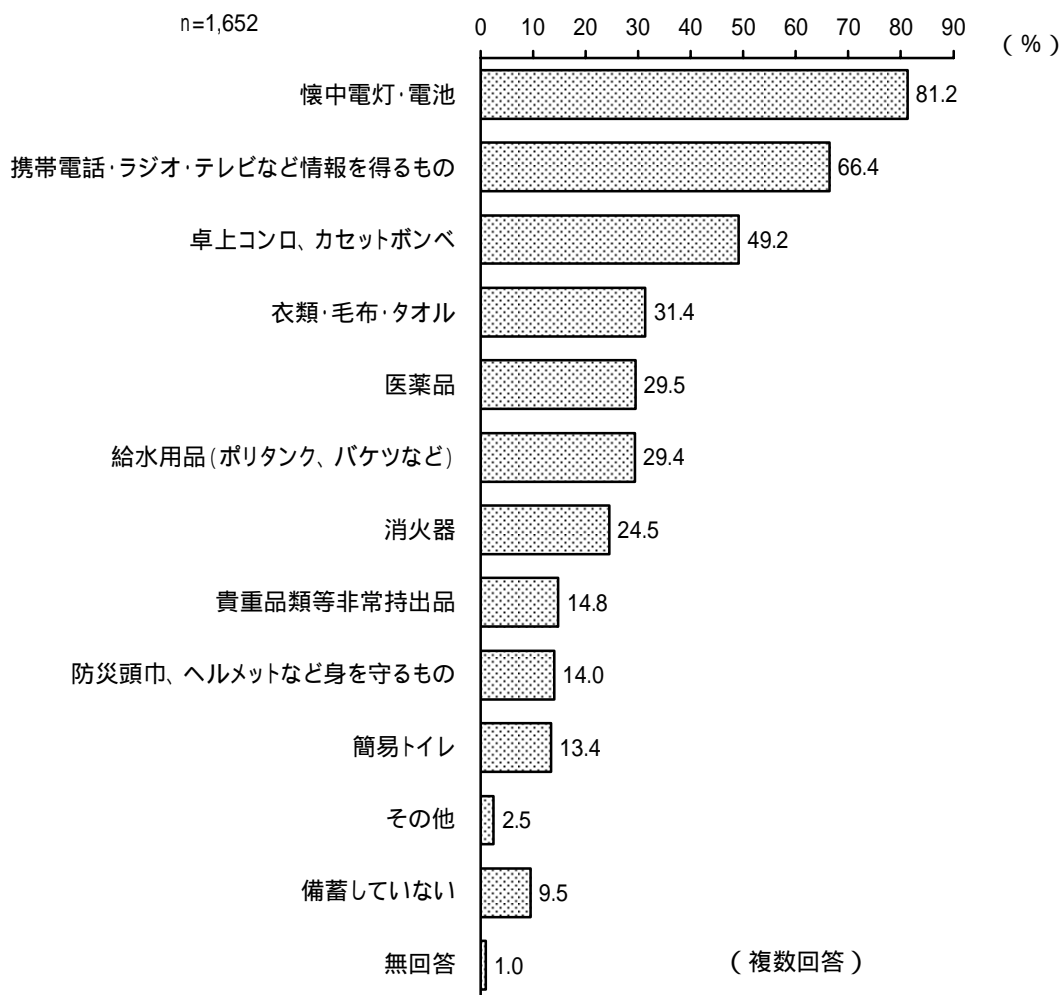
4 - 5 食糧・飲料水以外に備蓄しているもの

「懐中電灯・電池」が8割強

問6 あなたのご家庭では、食糧・飲料水以外に何か備蓄しているものはありますか。

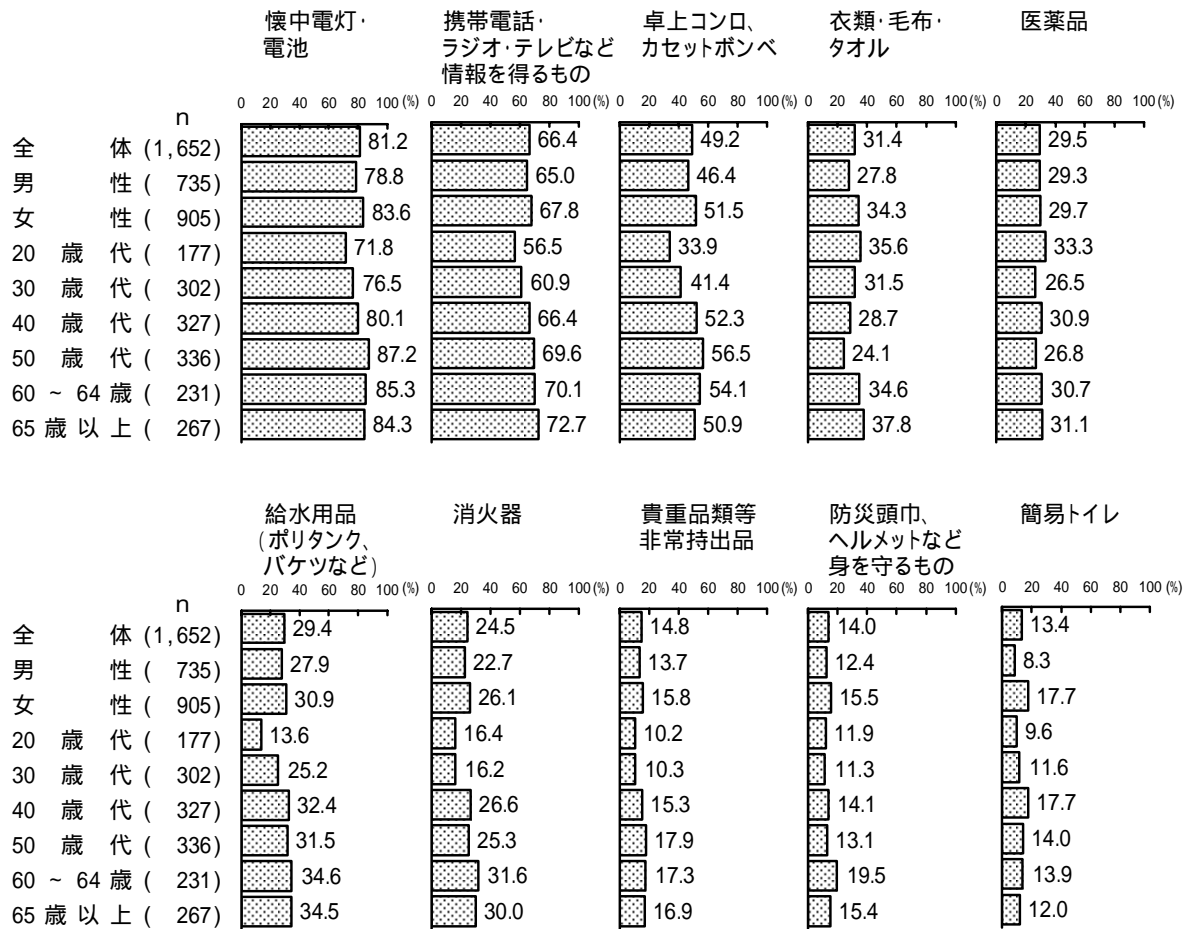
(はいいくつでも)

図4 - 5 - 1



家庭で食糧・飲料水以外に何か備蓄しているものはあるかを聞いたところ、「懐中電灯・電池」が8割強(81.2%)と最も高く、ついで「携帯電話・ラジオ・テレビなど情報を得るもの」(66.4%)、「卓上コンロ・カセットボンベ」(49.2%)、「衣類・毛布・タオル」(31.4%)、「医薬品」(29.5%)と続いている。(図4 - 5 - 1)

図4 - 5 - 2 食糧・飲料水以外に備蓄しているもの - 性別・年齢別（1～10位）



性別にみると、すべての項目で女性のほうが高く、「簡易トイレ」は9.4ポイント、「卓上コンロ・カセットボンベ」は5.1ポイント、「懐中電灯・電池」は4.8ポイント、それぞれ高くなっている。

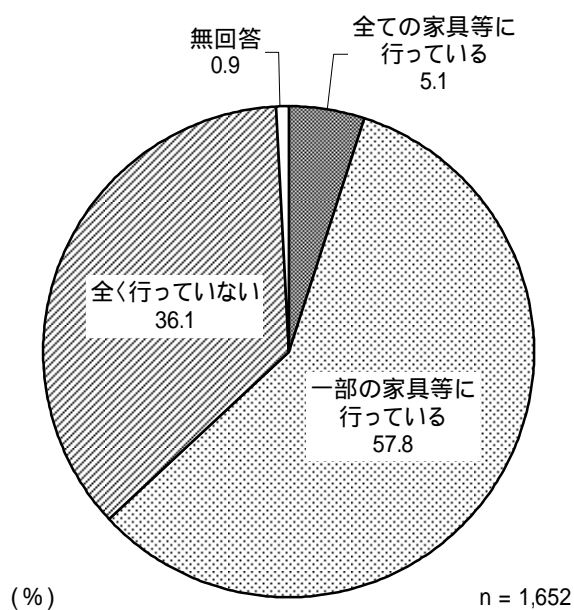
年齢別にみると、「懐中電灯・電池」は40歳代以上の年代で8割を超えている。また、「携帯電話・ラジオ・テレビなど情報を得るもの」は年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上では7割強（72.7%）となっている。（図4 - 5 - 2）

4 - 6 家具類や冷蔵庫などの転倒防止策

『行っている』が6割強

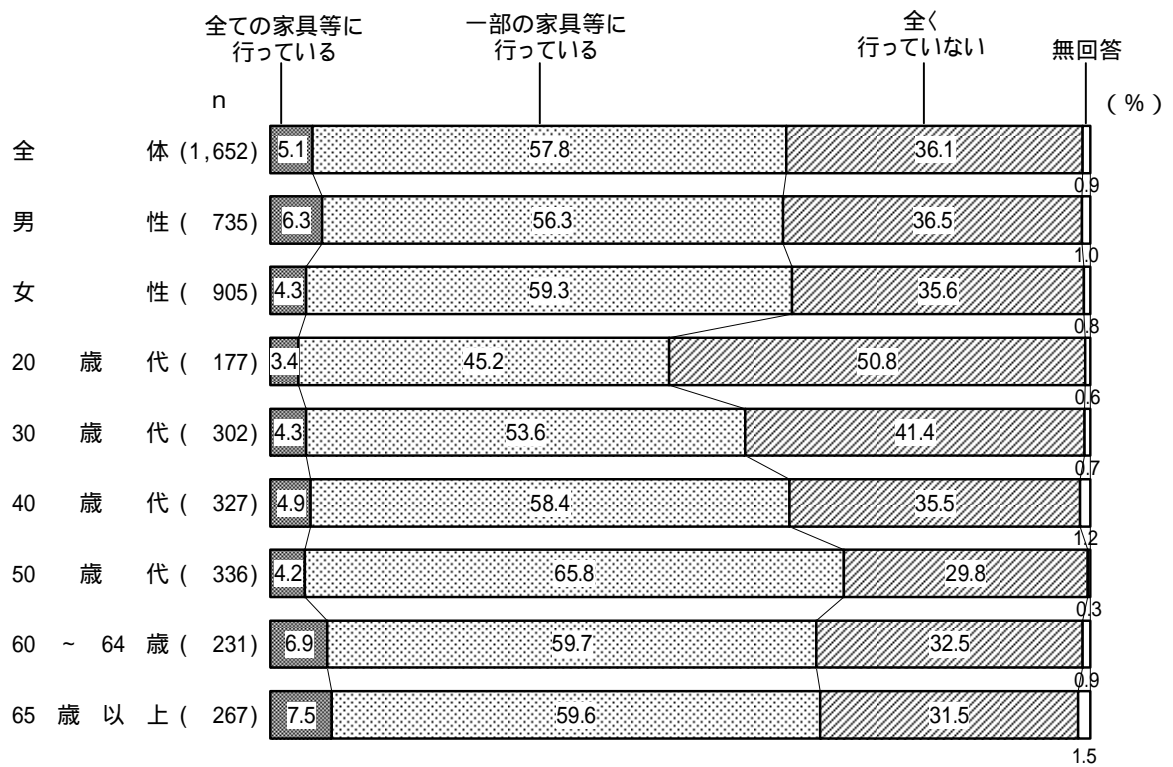
問7 あなたのご自宅では地震に備えて、家具類や冷蔵庫などの転倒防止策を行っていますか。
(は1つだけ)

図4 - 6 - 1



家具類や冷蔵庫などの転倒防止策を行っているかを聞いたところ、「一部の家具等に行っている」が6割弱（57.8%）と最も高く、「全ての家具等に行っている」（5.1%）と合わせた『行っている』は6割強（62.9%）となっている。一方、「全く行っていない」は4割弱（36.1%）となっている。（図4 - 6 - 1）

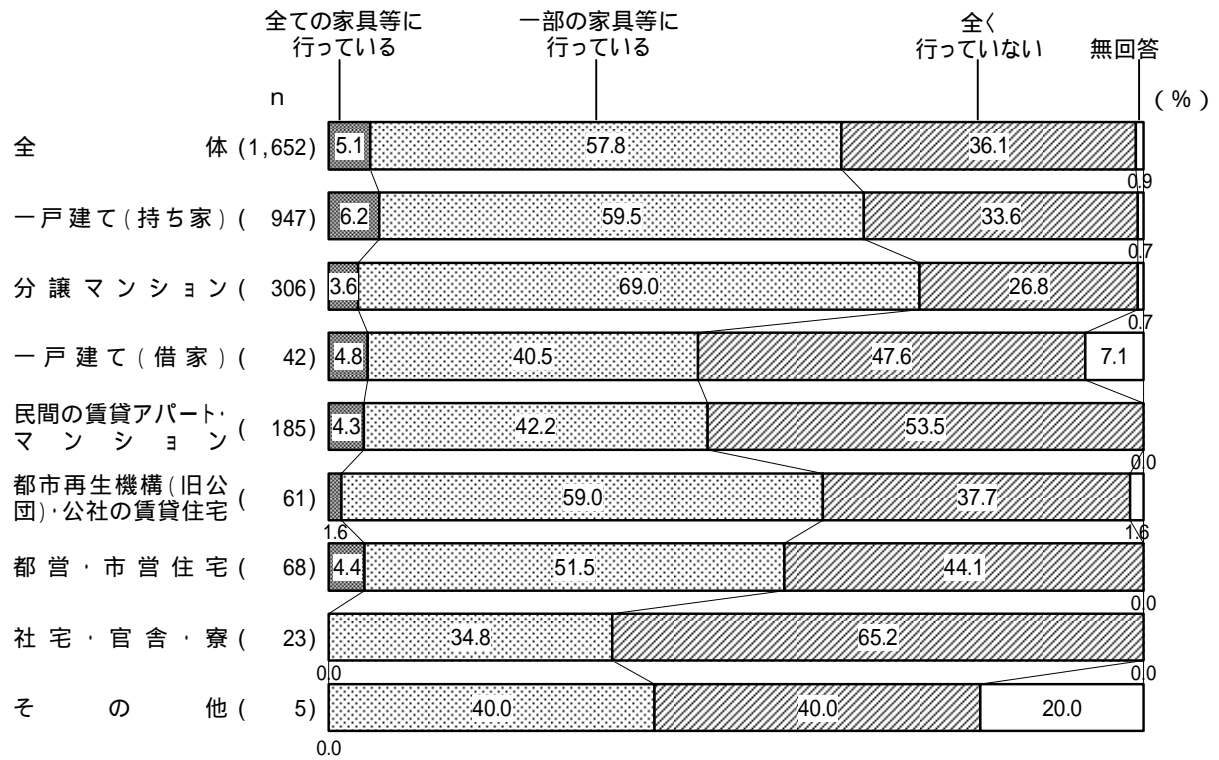
図4 - 6 - 2 家具類や冷蔵庫などの転倒防止策 - 性別・年齢別



性別にみると、『行っている』は1.0ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『行っている』は50歳代で7割（70.0%）と高くなっている。一方、「全く行っていない」は20歳代でほぼ5割（50.8%）と高くなっている。（図4 - 6 - 2）

図4 - 6 - 3 家具類や冷蔵庫などの転倒防止策 - 居住形態別



居住形態別にみると、『行っている』は分譲マンションで7割強(72.6%)と高くなっている。一方、「全く行っていない」は社宅・官舎・寮で6割台半ば(65.2%)となっている。

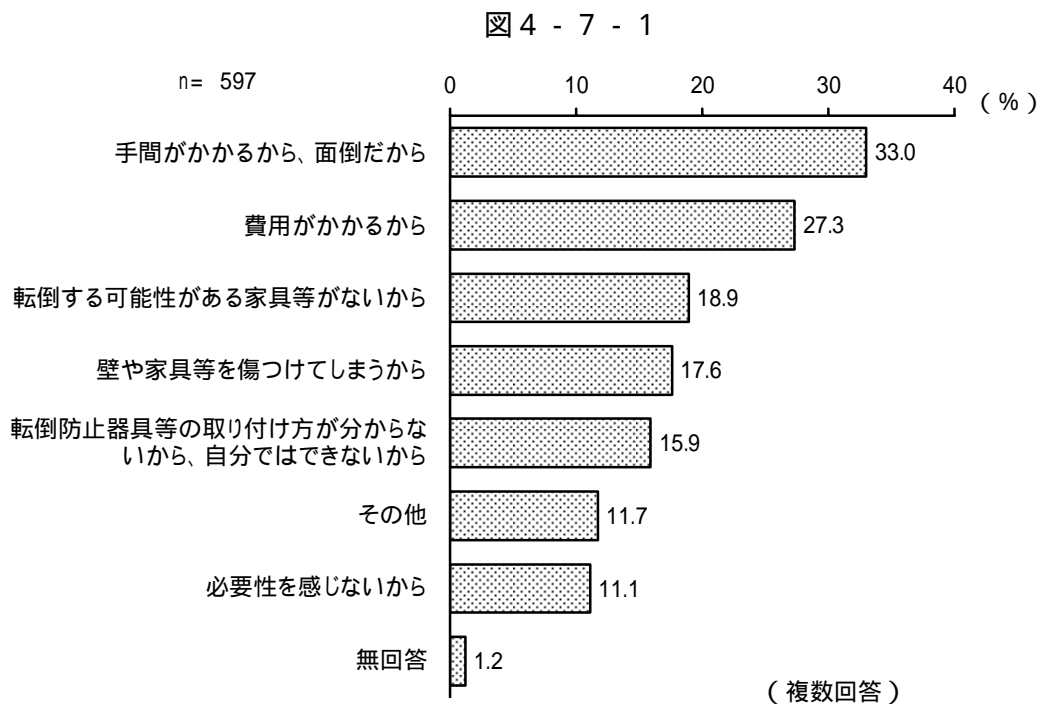
(図4 - 6 - 3)

4 - 7 転倒防止策を行っていない理由

「手間がかかるから、面倒だから」が3割強

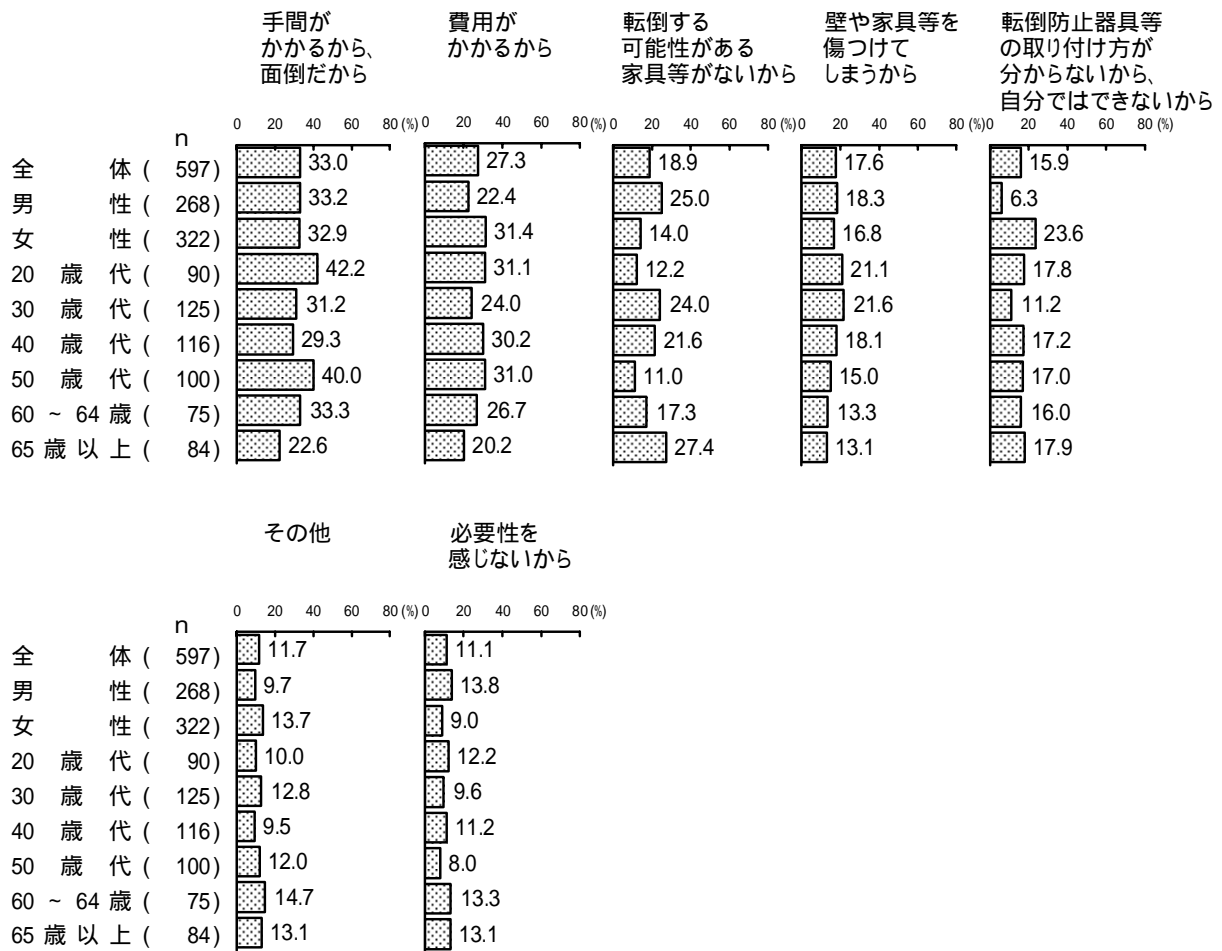
(問7で「全く行っていない」とお答えの方に)

問7 - 1 転倒防止策を行っていない理由を選んでください。(はいいくつでも)



家具類や冷蔵庫などの転倒防止策で、「全く行っていない」と答えた人(597人)に、転倒防止策を行っていない理由を聞いたところ、「手間がかかるから、面倒だから」が3割強(33.0%)と最も高く、ついで「費用がかかるから」(27.3%)、「転倒する可能性がある家具等がないから」(18.9%)、「壁や家具等を傷つけてしまうから」(17.6%)と続いている。(図4 - 7 - 1)

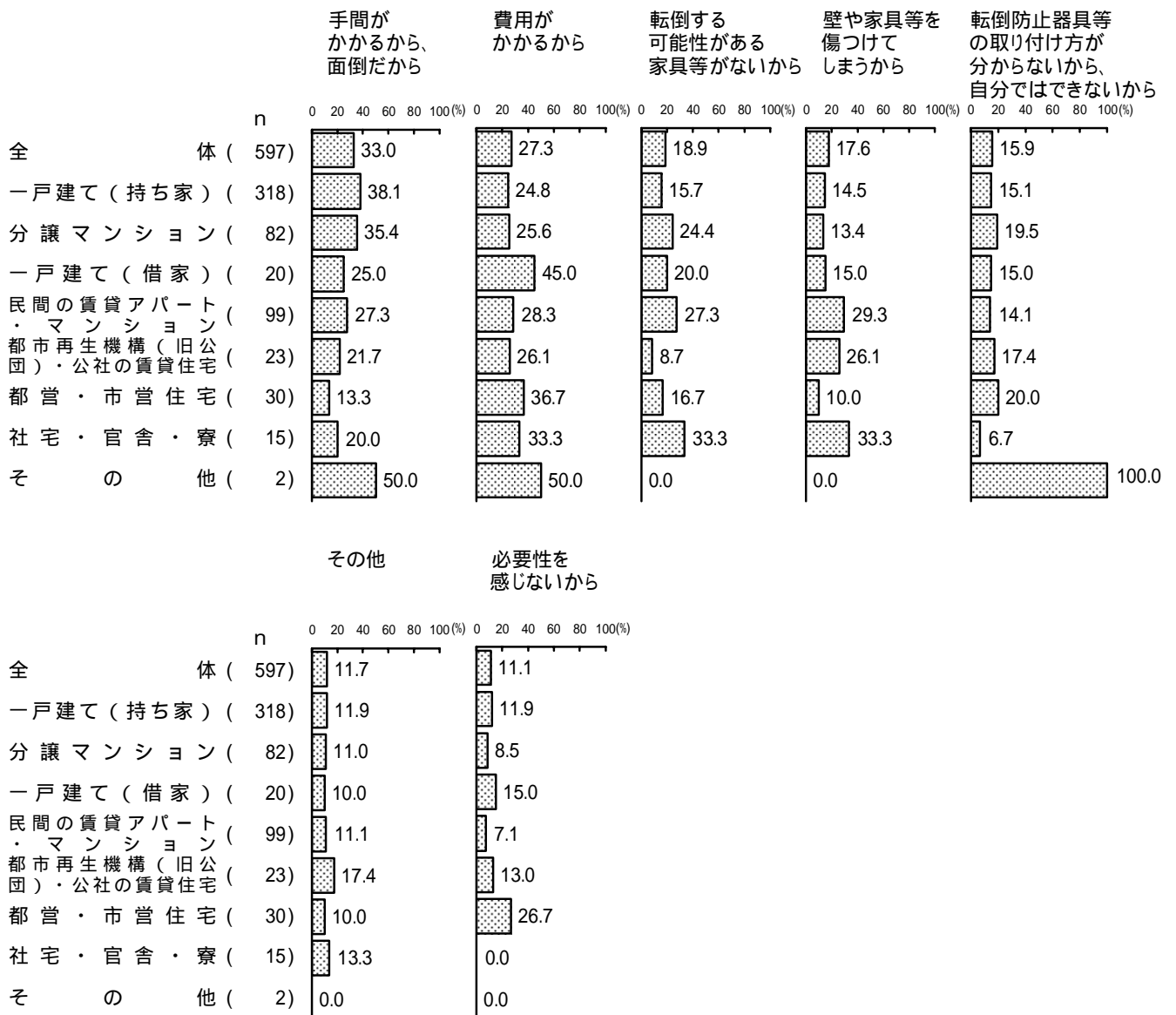
図4 - 7 - 2 転倒防止策を行っていない理由 - 性別・年齢別



性別にみると、「転倒防止器具等の取り付け方が分からないから、自分ではできないから」は17.3ポイント、「費用がかかるから」は9.0ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「転倒する可能性がある家具等がないから」は男性のほうが11.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「手間がかかるから、面倒だから」は20歳代（42.2%）、50歳代（40.0%）で4割を超え高く、「費用がかかるから」は20歳代（31.1%）、40歳代（30.2%）、50歳代（31.0%）で3割台と高くなっている。（図4 - 7 - 2）

図4-7-3 転倒防止策を行っていない理由 - 居住形態別



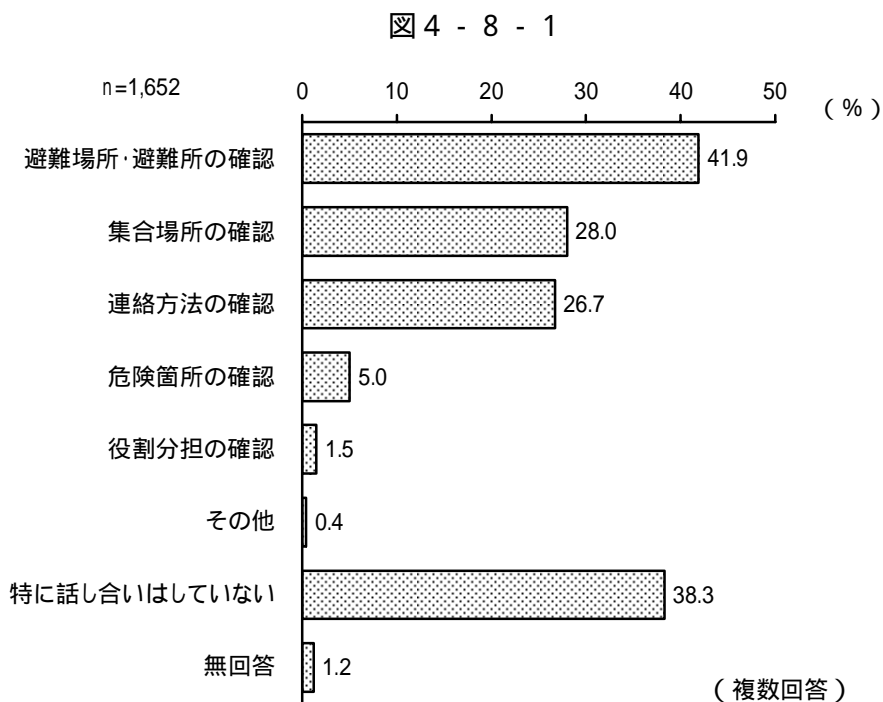
居住形態別にみると、「手間がかかるから、面倒だから」は一戸建て（持ち家）で4割弱（38.1%）、「費用がかかるから」は一戸建て（借家）で4割台半ば（45.0%）と、それぞれ高くなっている。また、「壁や家具等を傷つけてしまうから」は社宅・官舎・寮で3割強（33.3%）、民間の賃貸アパート・マンションでほぼ3割（29.3%）と、それぞれ高くなっている。

（図4-7-3）

4 - 8 災害に備えた話し合い

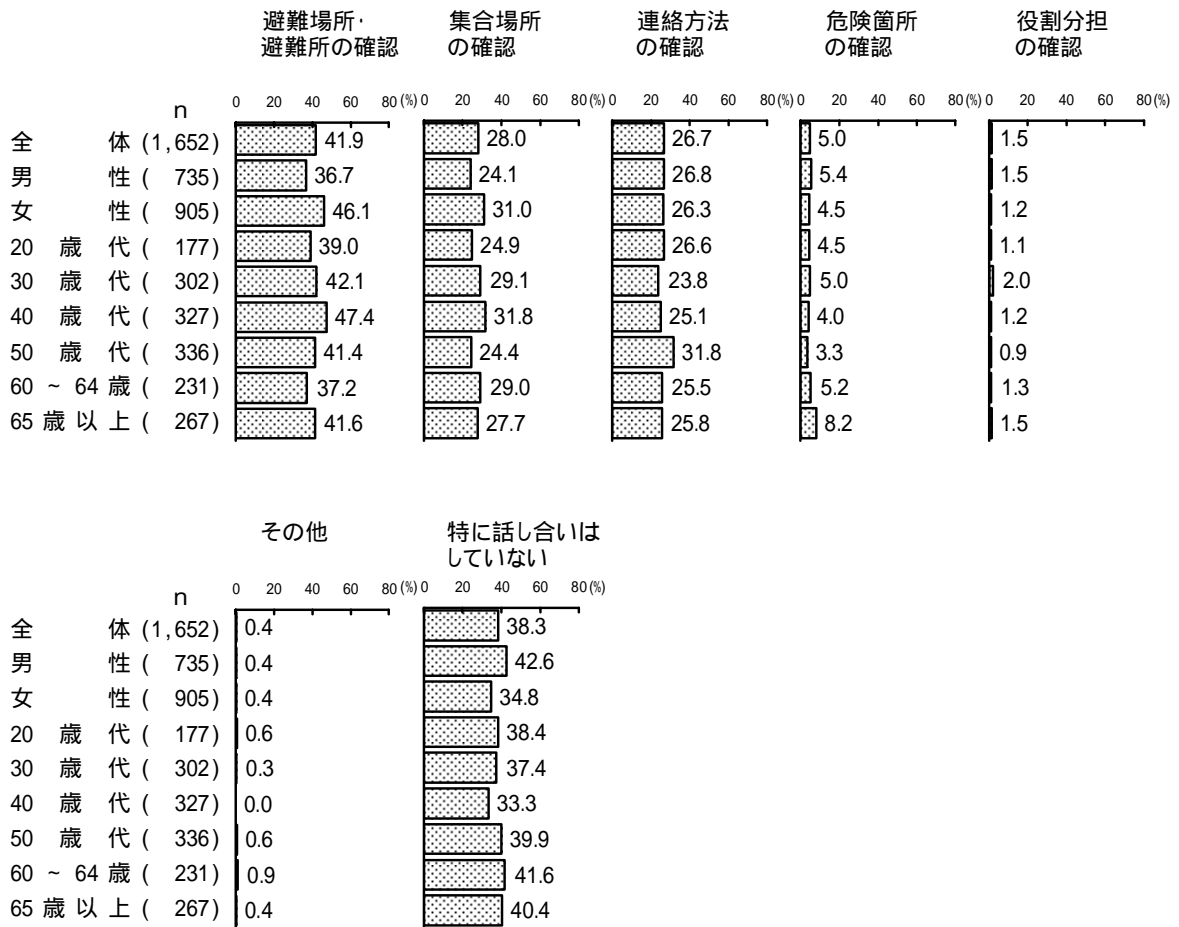
「避難場所・避難所の確認」が4割強

問8 あなたは、災害に備えて家族や親せき、知人とどんな話し合いをしていますか(したことがありますか)。(はいいくつでも)



災害に備えて家族や親せき、知人とどんな話し合いをしているか(したことがあるか)を聞いたところ、「避難場所・避難所の確認」が4割強(41.9%)、ついで「集合場所の確認」(28.0%)、「連絡方法の確認」(26.7%)と続いている。一方、「特に話し合いはしていない」は4割弱(38.3%)となっている。(図4 - 8 - 1)

図4-8-2 災害に備えた話し合い - 性別・年齢別

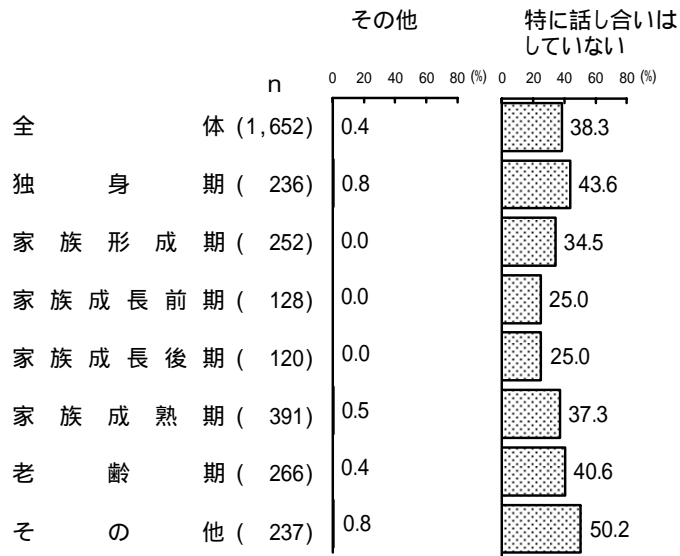
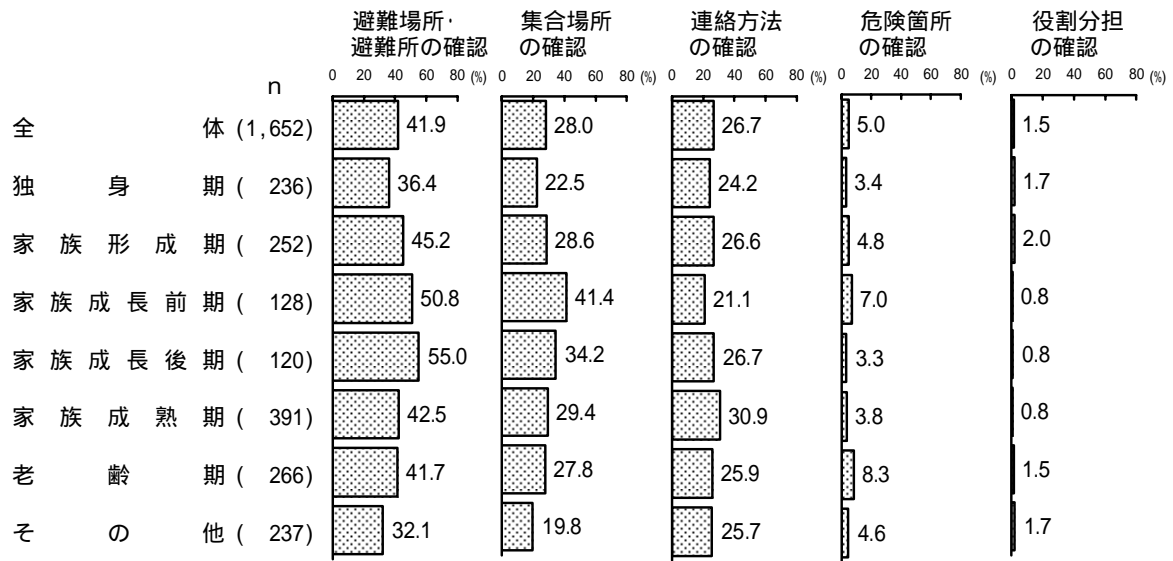


性別にみると、「避難場所・避難所の確認」が9.4ポイント、「集合場所の確認」は6.9ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「特に話し合いはしていない」は7.8ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「避難場所・避難所の確認」は40歳代で5割弱（47.4%）、「集合場所の確認」でも40歳代が3割強（31.8%）と、それぞれ高くなっている。また、「連絡方法の確認」では50歳代が3割強（31.8%）と高くなっている。一方、「特に話し合いはしていない」は60~64歳で4割強（41.6%）50歳代（39.9%）65歳以上（40.4%）でほぼ4割と高くなっている。

（図4-8-2）

図4 - 8 - 3 災害に備えた話し合い - ライフステージ別



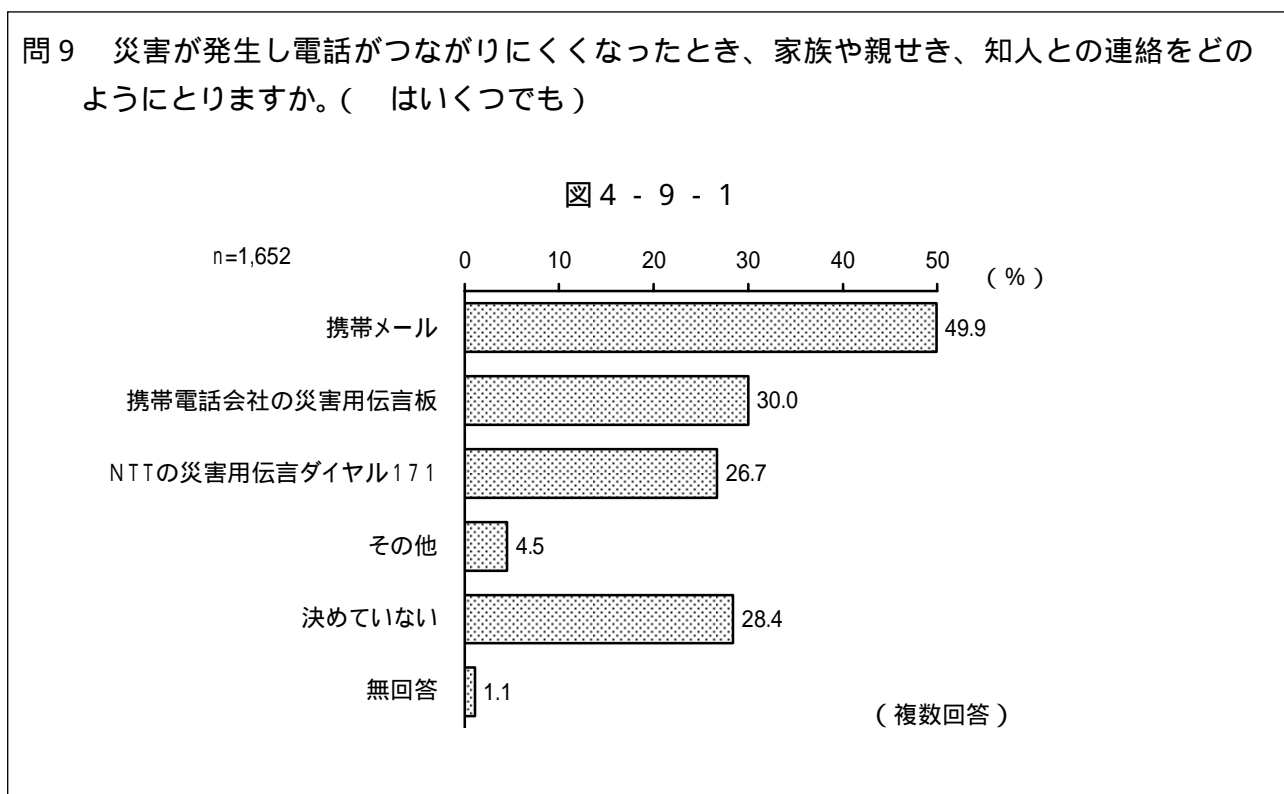
ライフステージ別にみると、「避難場所・避難所の確認」は家族成長後期で5割台半ば(55.0%)、「集合場所の確認」は家族成長前期で4割強(41.4%)と、それぞれ高くなっている。

(図4 - 8 - 3)

4 - 9 災害時の連絡手段

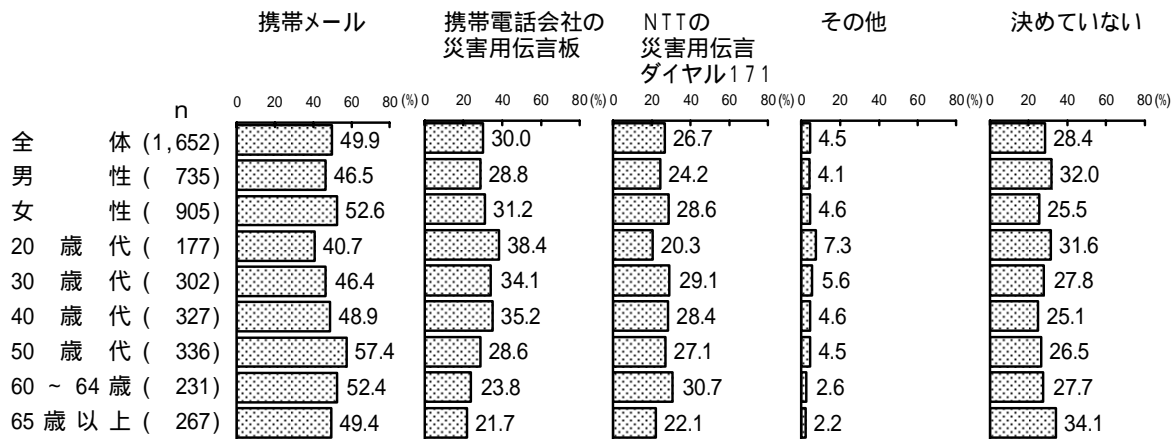
「携帯メール」がほぼ5割

問9 災害が発生し電話がつながりにくくなったとき、家族や親せき、知人との連絡をどのようにとりますか。(はいくつでも)



災害が発生し電話がつながりにくくなったとき、家族や親せき、知人との連絡をどのようにとるかを聞いたところ、「携帯メール」がほぼ5割(49.9%)と最も高く、ついで「携帯電話会社の災害用伝言板」(30.0%)、「NTTの災害用伝言ダイヤル171」(26.7%)となっている。一方、「決めていない」は3割弱(28.4%)となっている。(図4 - 9 - 1)

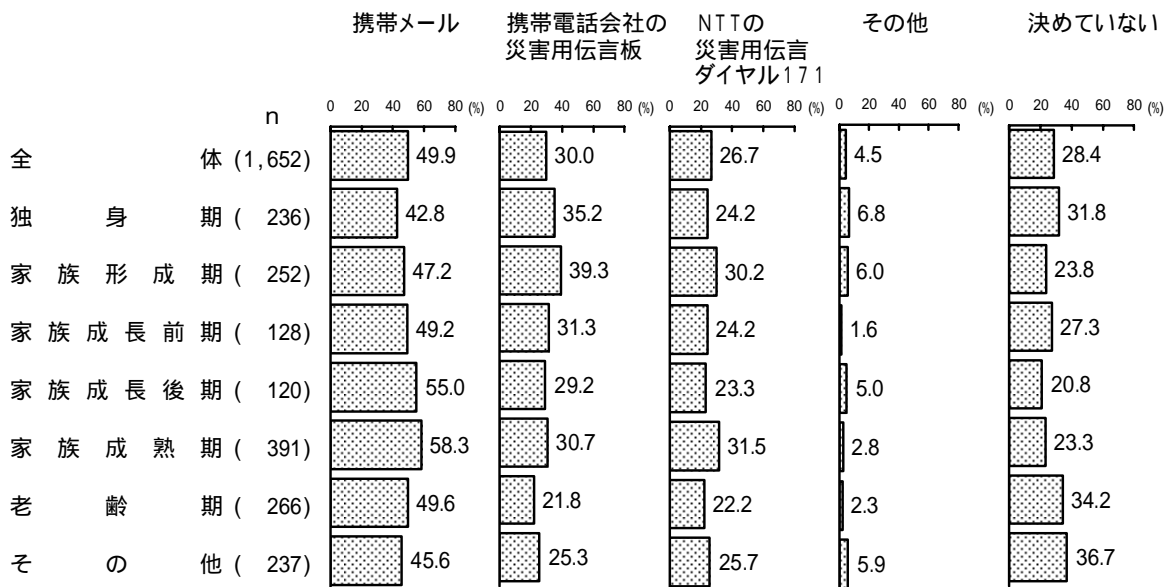
図4 - 9 - 2 災害時の連絡手段 - 性別・年齢別



性別にみると、「携帯メール」は6.1ポイント、「NTTの災害用伝言ダイヤル171」は4.4ポイント女性のほうが高くなっている。一方、「決めていない」は6.5ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「携帯メール」は50歳代で6割弱（57.4%）、「携帯電話会社の災害用伝言板」は20歳代で4割弱（38.4%）と、それぞれ高くなっている。一方、「決めていない」は65歳以上で3割台半ば（34.1%）と高くなっている。（図4 - 9 - 2）

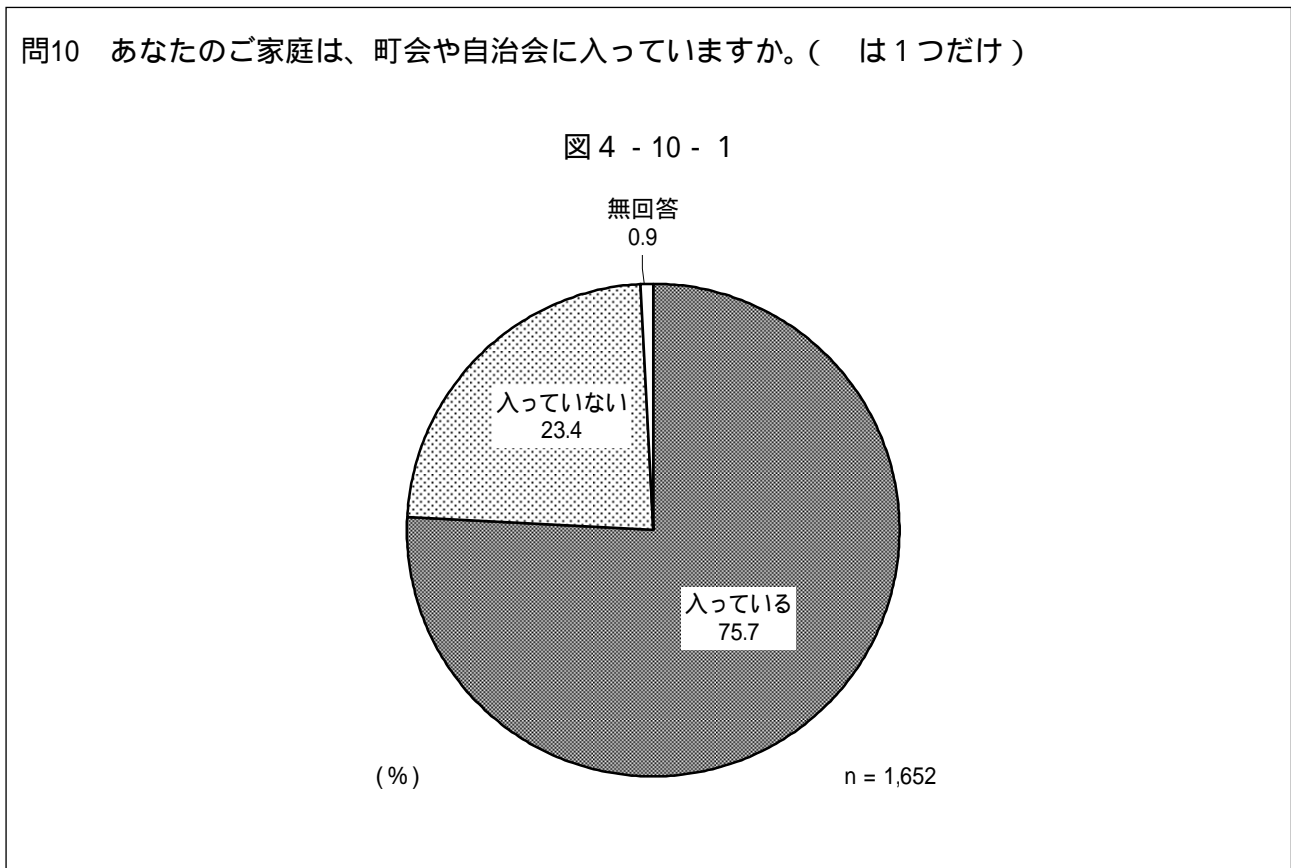
図4 - 9 - 3 災害時の連絡手段 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「携帯メール」は家族成熟期で6割弱（58.3%）、「携帯電話会社の災害用伝言板」は家族形成期でほぼ4割（39.3%）と、それぞれ高くなっている。一方、「決めていない」は老齢期で3割台半ば（34.2%）と高くなっている。（図4 - 9 - 3）

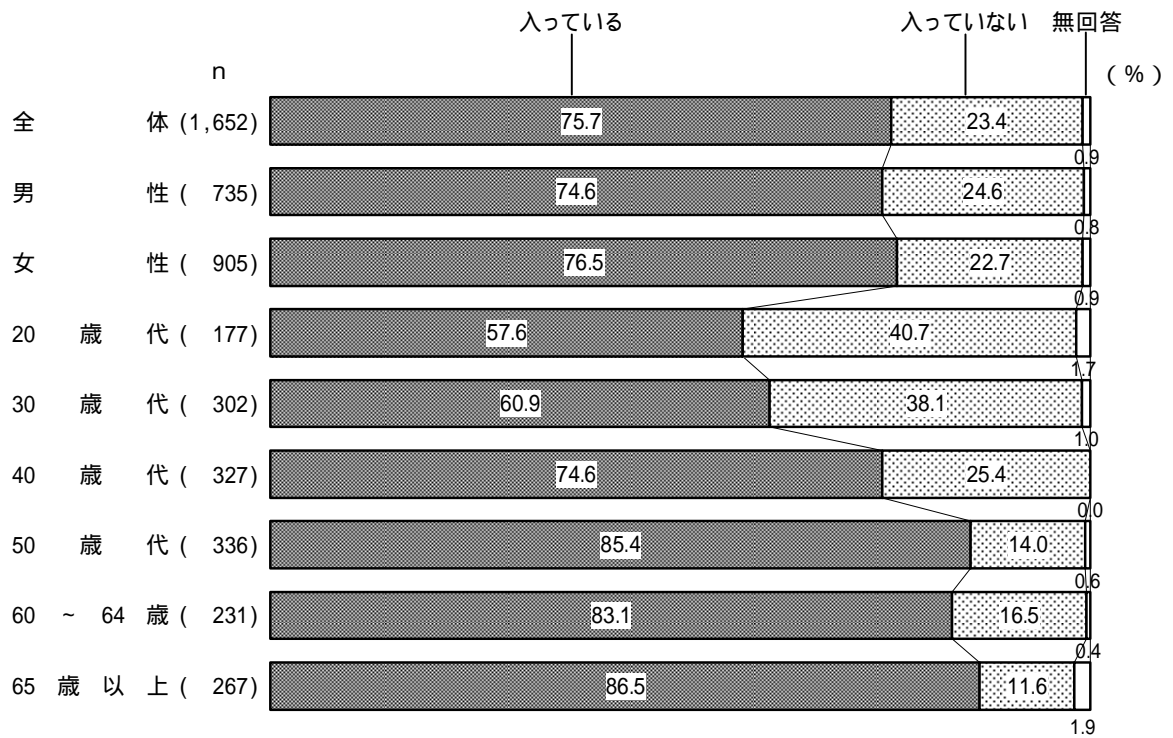
4 - 10 町会・自治会の加入状況

「入っている」が7割台半ば



町会や自治会に入っているかを聞いたところ、「入っている」が7割台半ば(75.7%)、「入っていない」は2割強(23.4%)となっている。(図4 - 10 - 1)

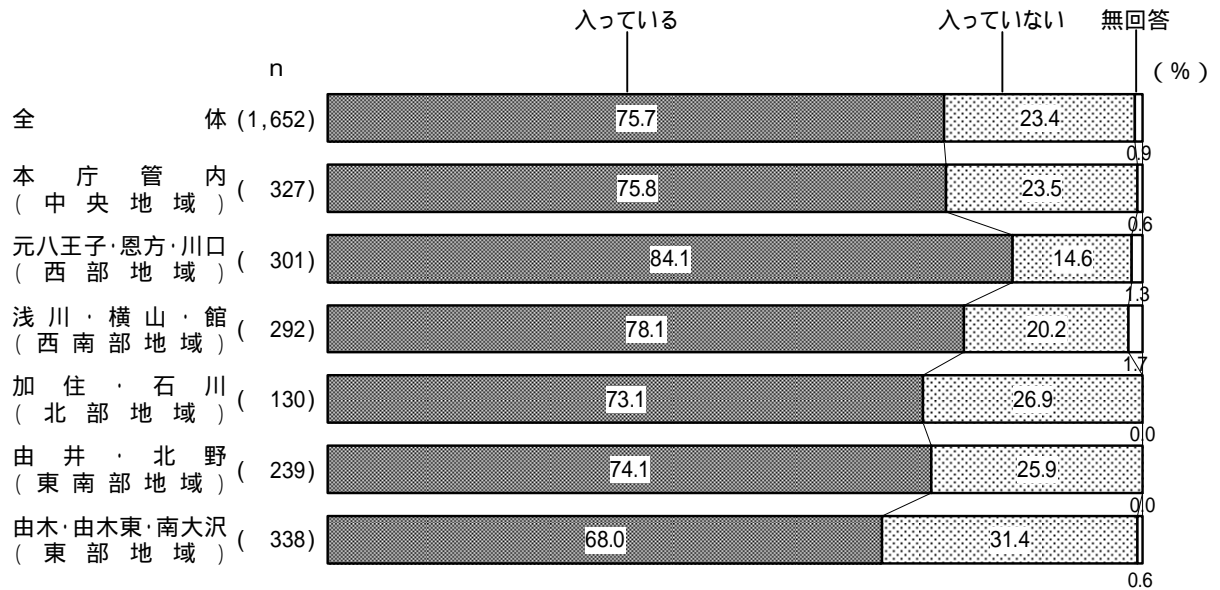
図4 - 10 - 2 町会・自治会の加入状況 - 性別・年齢別



性別にみると、「加入している」は1.9ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「加入している」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上で9割弱（86.5%）と高くなっている。一方、「加入していない」は20歳代でほぼ4割（40.7%）と高くなっている。（図4 - 10 - 2）

図4 - 10 - 3 町会・自治会の加入状況 - 居住地域別



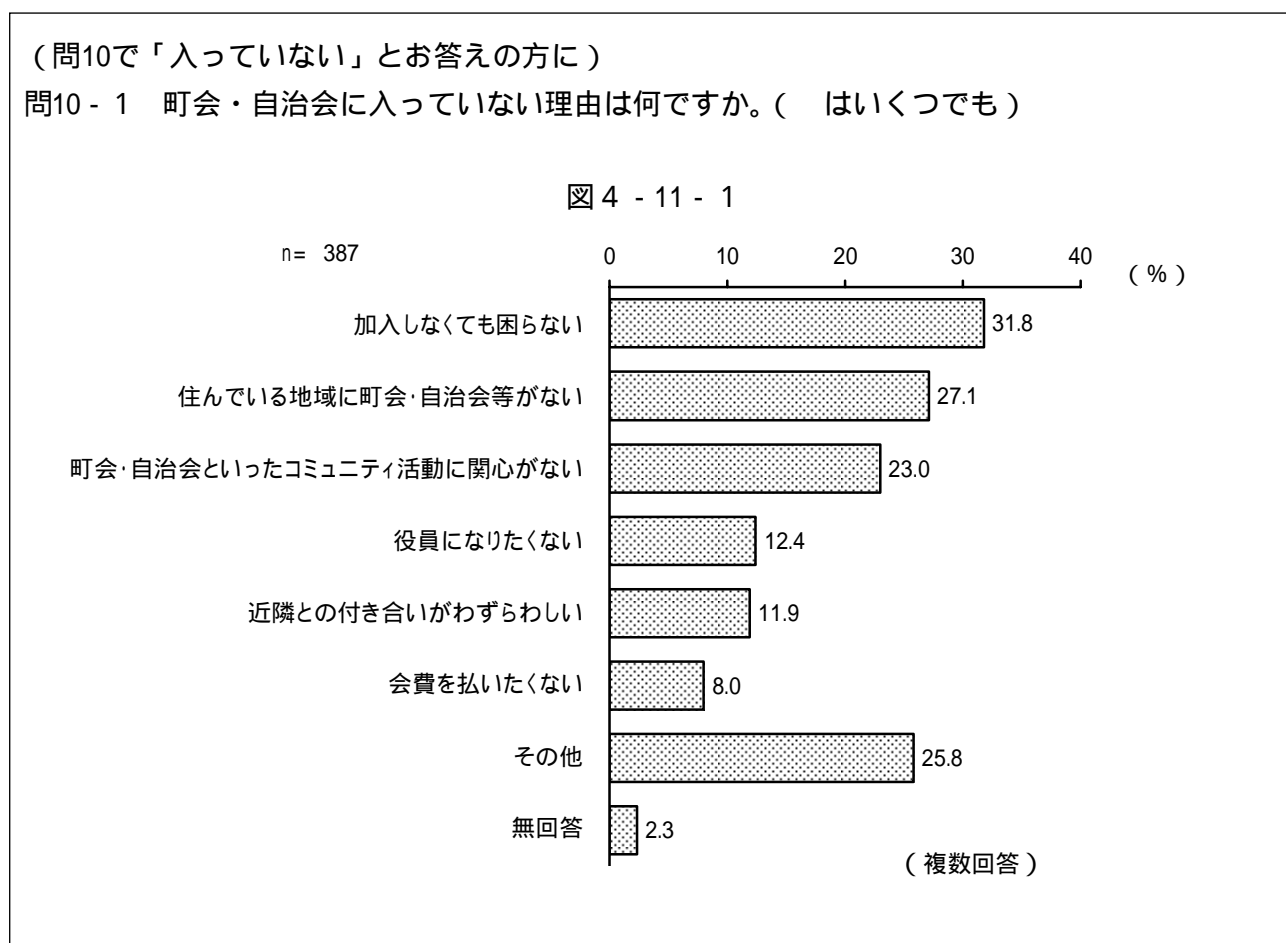
居住地域別にみると、「加入している」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で8割台半ば（84.1%）と高くなっている。一方、「加入していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で3割強（31.4%）と高くなっている。（図4 - 10 - 3）

4 - 11 町会・自治会に加入していない理由

「加入しなくても困らない」が3割強

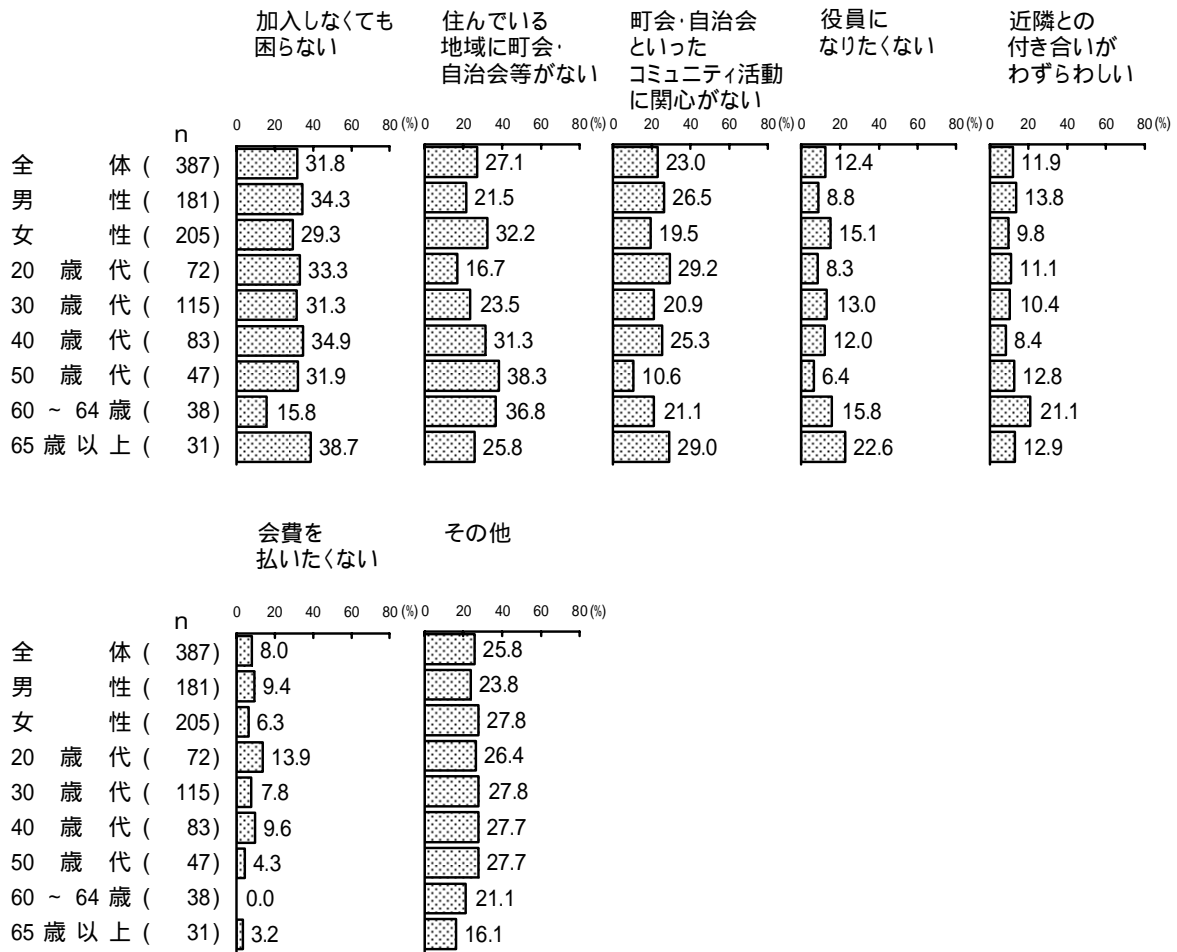
(問10で「入っていない」とお答えの方に)

問10 - 1 町会・自治会に入っていない理由は何ですか。(はいくつでも)



町会・自治会の加入状況で、「入っていない」と答えた人(387人)に、町会・自治会に入っていない理由を聞いたところ、「加入しなくても困らない」が3割強(31.8%)と最も高く、ついで「住んでいる地域に町会・自治会等がない」(27.1%)、「町会・自治会といったコミュニティ活動に関心がない」(23.0%)、「役員になりたくない」(12.4%)と続いている。(図4 - 11 - 1)

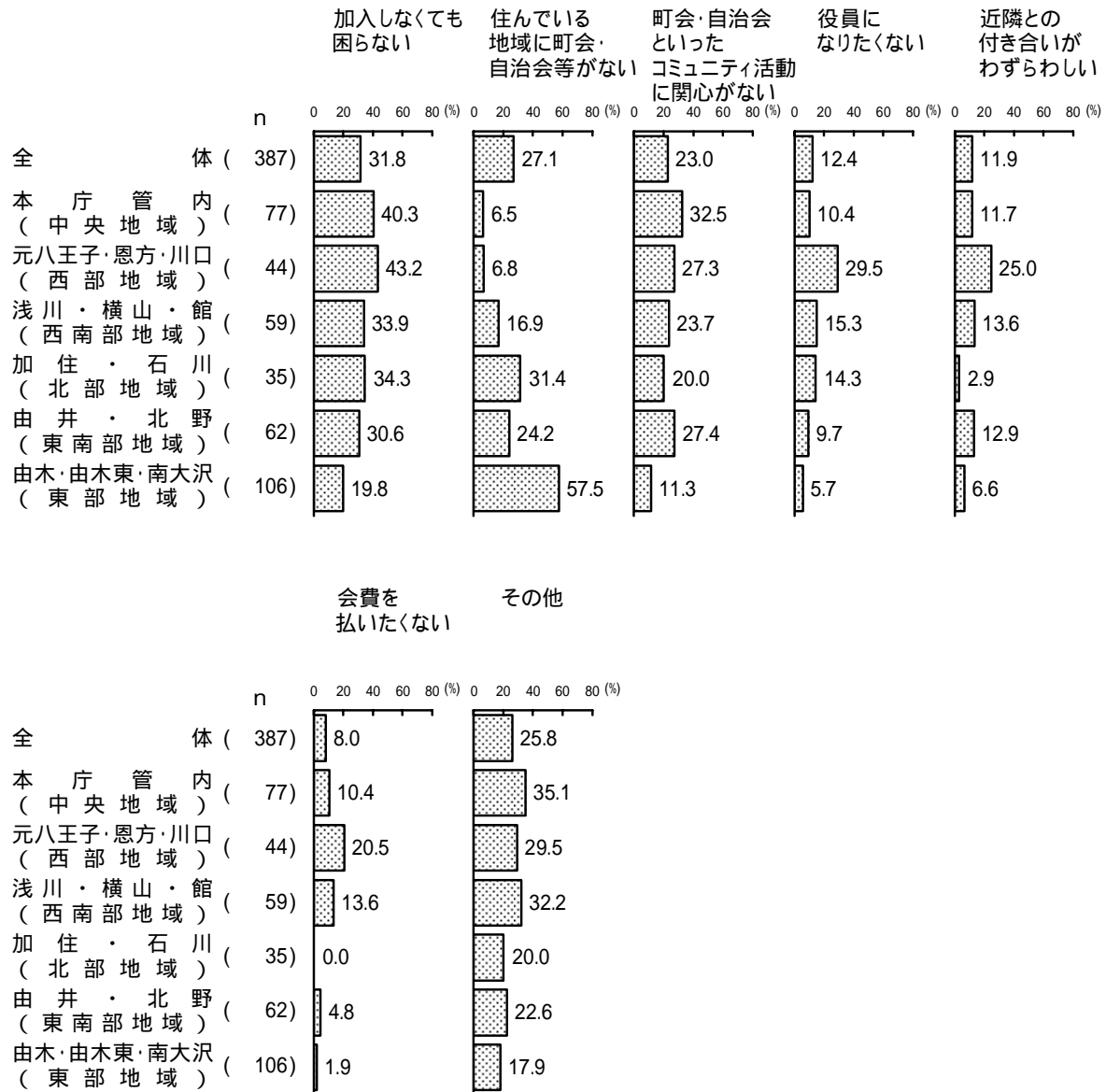
図4 - 11 - 2 町会・自治会に加入していない理由 - 性別・年齢別



性別にみると、「住んでいる地域に町会・自治会等がない」は10.7ポイント、「役員になりたくない」は6.3ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「町会・自治会といったコミュニティ活動に関心がない」は7.0ポイント、「加入しなくても困らない」は5.0ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「加入しなくても困らない」は60～64歳をのぞく全ての年代で3割台となっている。また、「住んでいる地域に町会・自治会等がない」は50歳代（38.3%）、60～64歳（36.8%）でともに4割弱と高くなっている。（図4 - 11 - 2）

図4 - 11 - 3 町会・自治会に加入していない理由 - 居住地域別



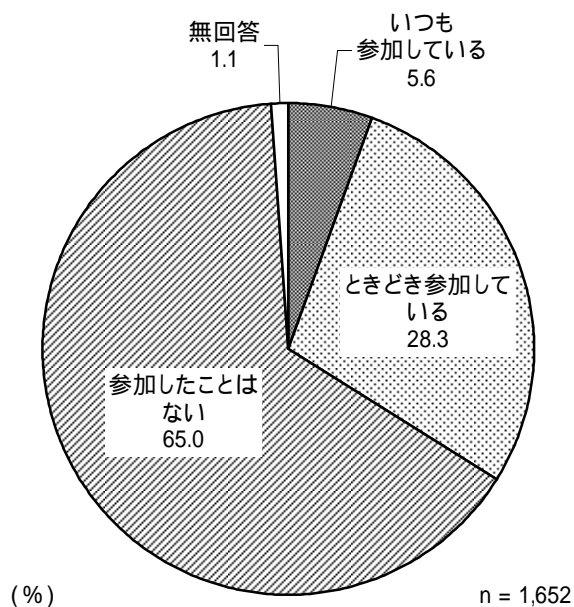
居住地域別にみると、「住んでいる地域に町会・自治会等がない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で6割弱（57.5%）と高くなっている。また、「加入しなくても困らない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で4割強（43.2%）と高くなっている。（図4 - 11 - 3）

4 - 12 防災訓練への参加状況

『参加している』が3割強

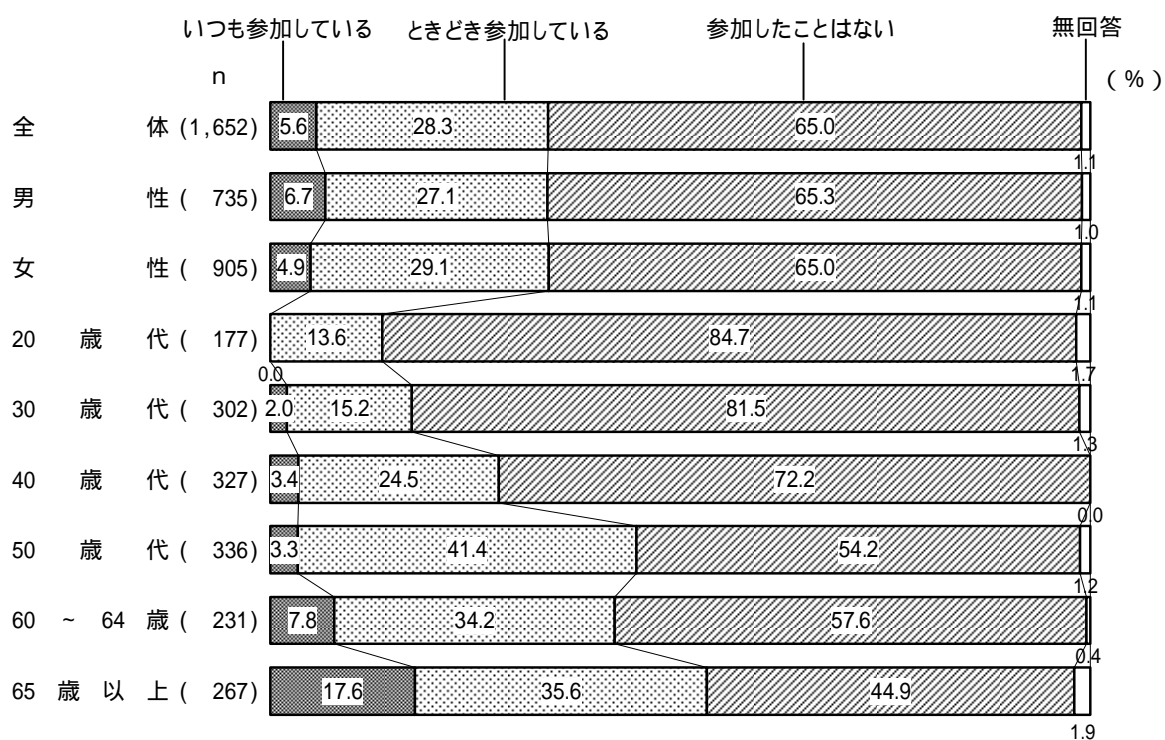
問11 町会・自治会・管理組合や自主防災組織などが地域で行う防災訓練に参加したことがありますか。(は1つだけ)

図 4 - 12 - 1



町会・自治会・管理組合や自主防災組織などが地域で行う防災訓練に参加したことがあるかを聞いたところ、「いつも参加している」(5.6%)と「ときどき参加している」(28.3%)を合わせた『参加している』は3割強(33.9%)となっている。一方、「参加したことはない」は6割台半ば(65.0%)となっている。(図4 - 12 - 1)

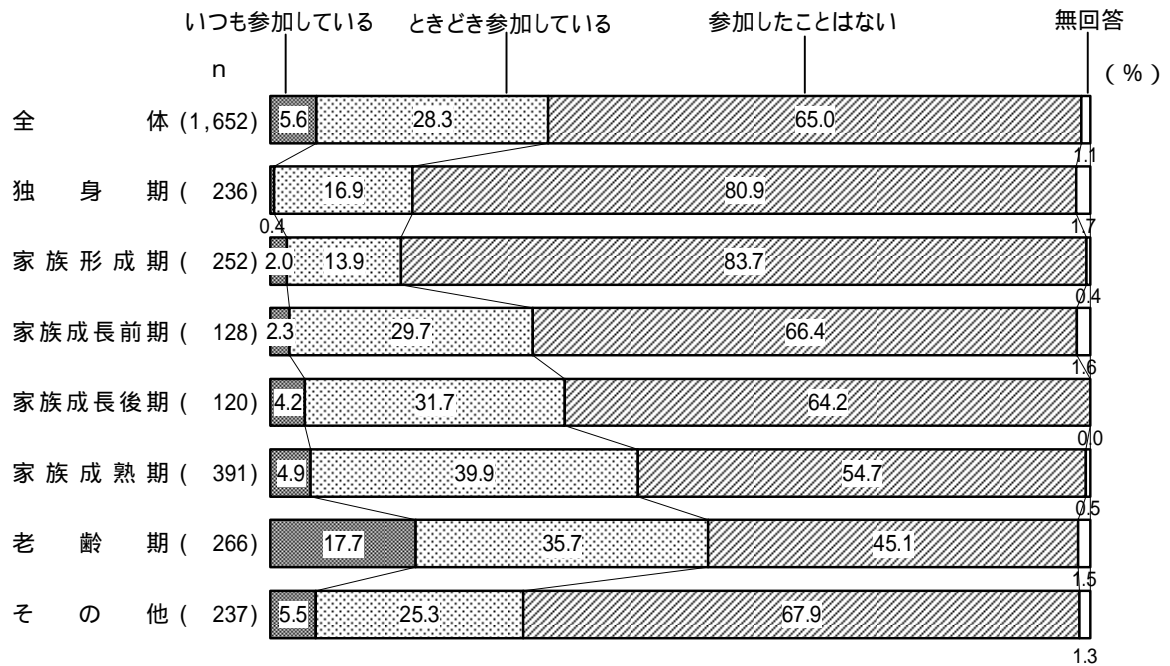
図4 - 12 - 2 防災訓練への参加状況 - 性別・年齢別



性別にみると、「いつも参加している」は1.8ポイント男性のほうが高くなっている。

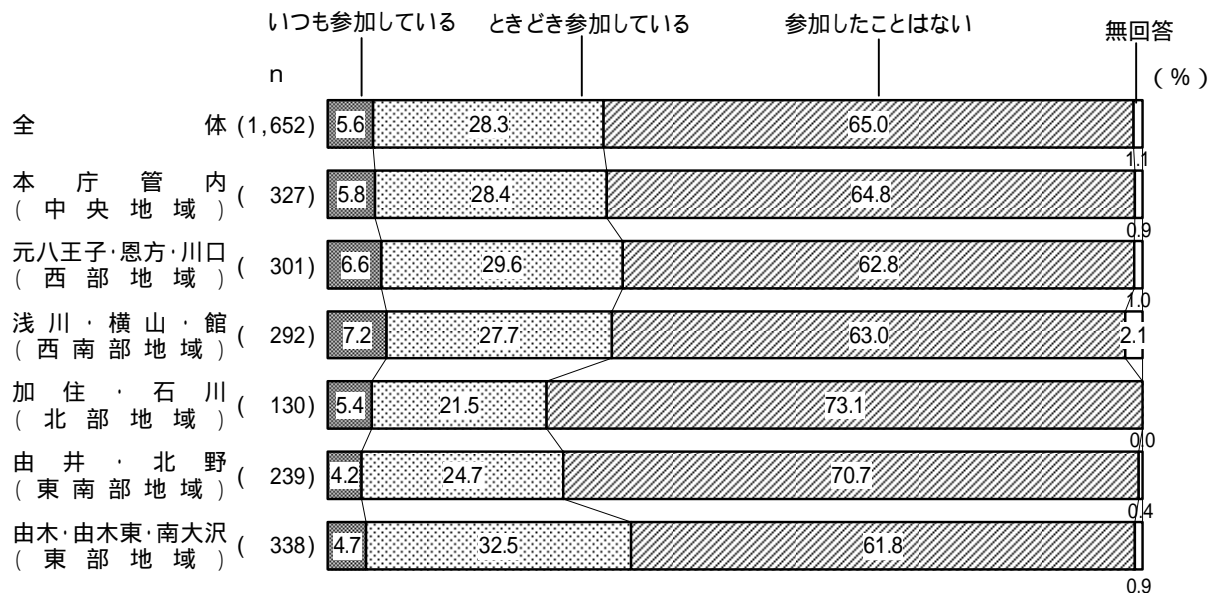
年齢別にみると、『参加している』はおおむね年齢が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で5割強（53.2%）、50歳代で4割台半ば（44.7%）と高くなっている。（図4 - 12 - 2）

図4 - 12 - 3 防災訓練への参加状況 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『参加している』は老齢期で5割強（53.4%）と高くなっている。一方、「参加したことはない」は家族形成期で8割強（83.7%）、独身期でほぼ8割（80.9%）と、それぞれ高くなっている。（図4 - 12 - 3）

図4 - 12 - 4 防災訓練への参加状況 - 居住地域別



居住地域別にみると、『参加している』は由木・由木東・南大沢（東部地域）（37.2%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）が4割弱（36.2%）と高くなっている。一方、「参加したことはない」は加住・石川（北部地域）が7割強（73.1%）と高くなっている。（図4 - 12 - 4）

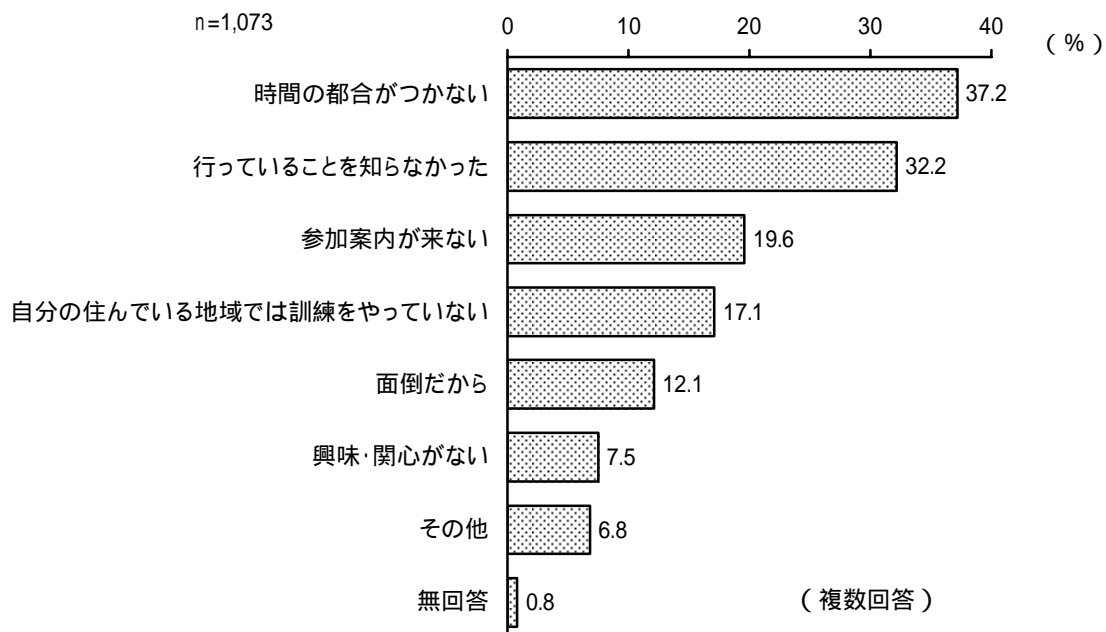
4 - 13 防災訓練に参加したことがない理由

「時間の都合がつかない」が4割弱

(問11で「参加したことはない」とお答えの方に)

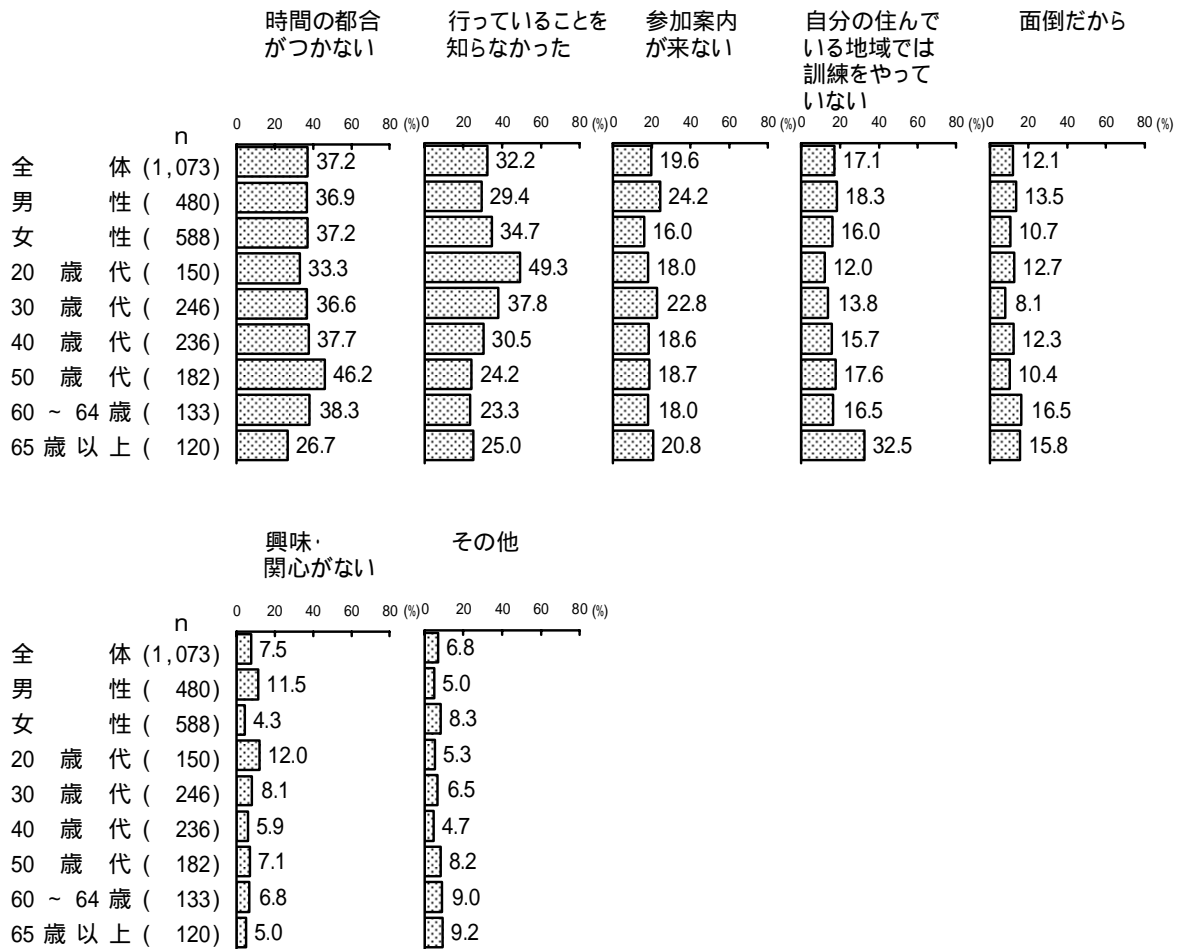
問11 - 1 参加したことがない理由は何ですか。(はいくつでも)

図4 - 13 - 1



防災訓練への参加状況で、「参加したことはない」と答えた人(1,073人)に、参加したことがない理由を聞いたところ、「時間の都合がつかない」が4割弱(37.2%)と最も高く、ついで「行っていることを知らなかった」(32.2%)、「参加案内が来ない」(19.6%)、「自分の住んでいる地域では訓練をやっていない」(17.1%)と続いている。(図4 - 13 - 1)

図4 - 13 - 2 防災訓練に参加したことがない理由 - 性別・年齢別

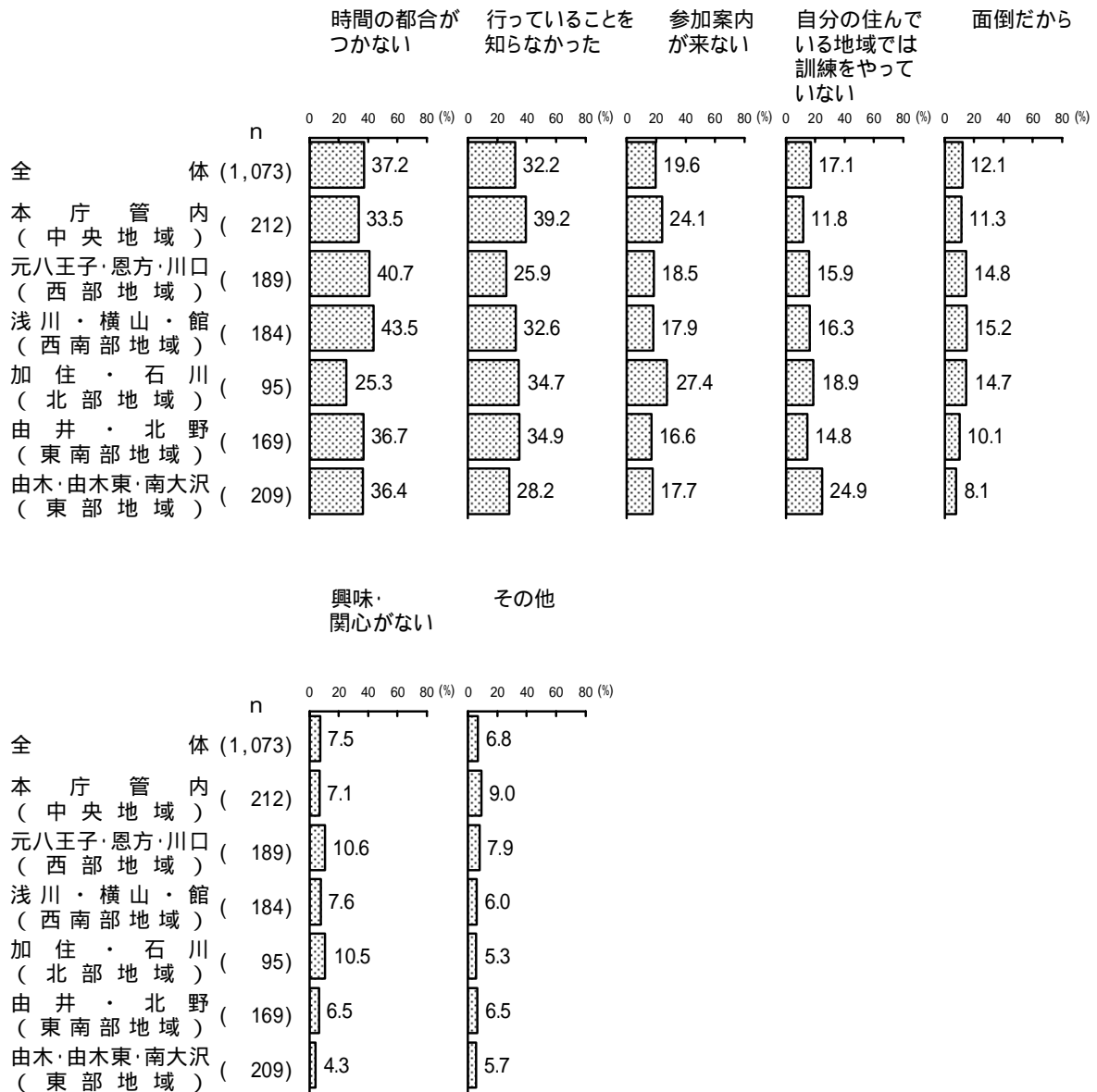


性別にみると、「参加案内が来ない」は8.2ポイント、「興味・関心がない」は7.2ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。逆に「行っていることを知らなかった」は5.3ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「時間の都合がつかない」は50歳代で5割弱（46.2%）と高くなっている。また、「行っていることを知らなかった」は20歳代でほぼ5割（49.3%）と高くなっている。

(図4 - 13 - 2)

図4 - 13 - 3 防災訓練に参加したことがない理由 - 居住地域別



居住地域別にみると、「時間の都合がつかない」は浅川・横山・館（西南部地域）（43.5%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（40.7%）で4割を超え高くなっている。また、「行っていることを知らなかった」は本庁管内（中央地域）でほぼ4割（39.2%）と高くなっている。

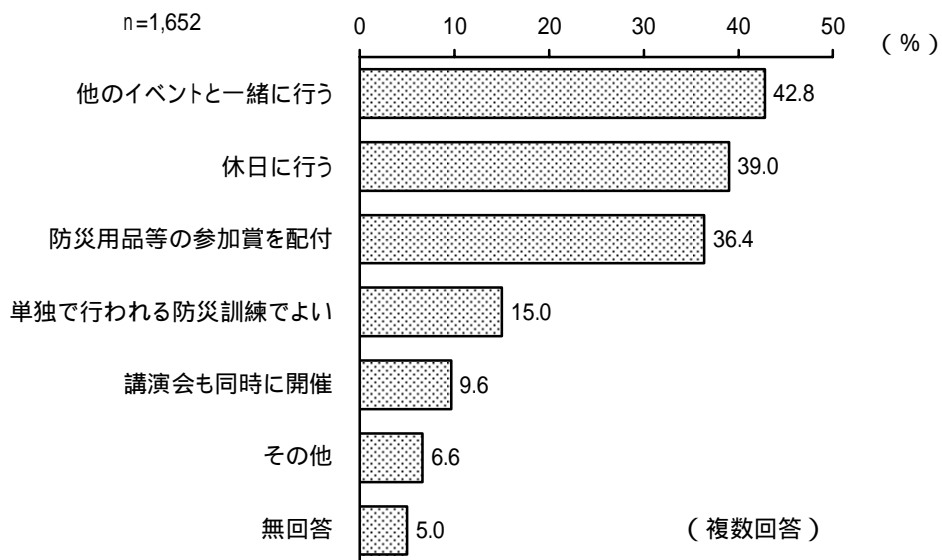
（図4 - 13 - 3）

4 - 14 防災訓練への参加率を上げるための方法

「他のイベントと一緒に進む」が4割強

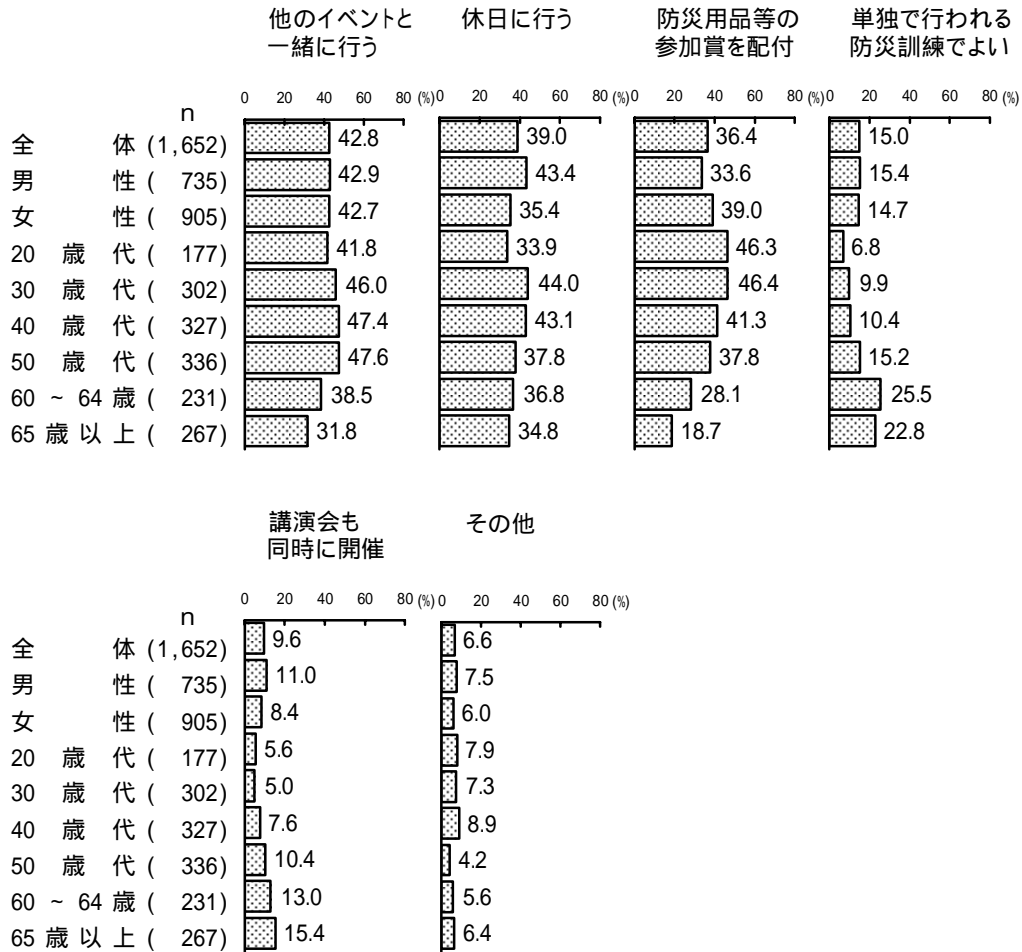
問12 地域で行われる防災訓練がどのような形で行われれば、多くの方が参加できると思いますか。(はいいくつでも)

図4 - 14 - 1



地域で行われる防災訓練がどのような形で行われれば、多くの方が参加できると思うかを聞いたところ、「他のイベントと一緒に進む」が4割強(42.8%)と最も高く、ついで「休日に行く」(39.0%)、「防災用品等の参加賞を配付」(36.4%)と続いている。(図4 - 14 - 1)

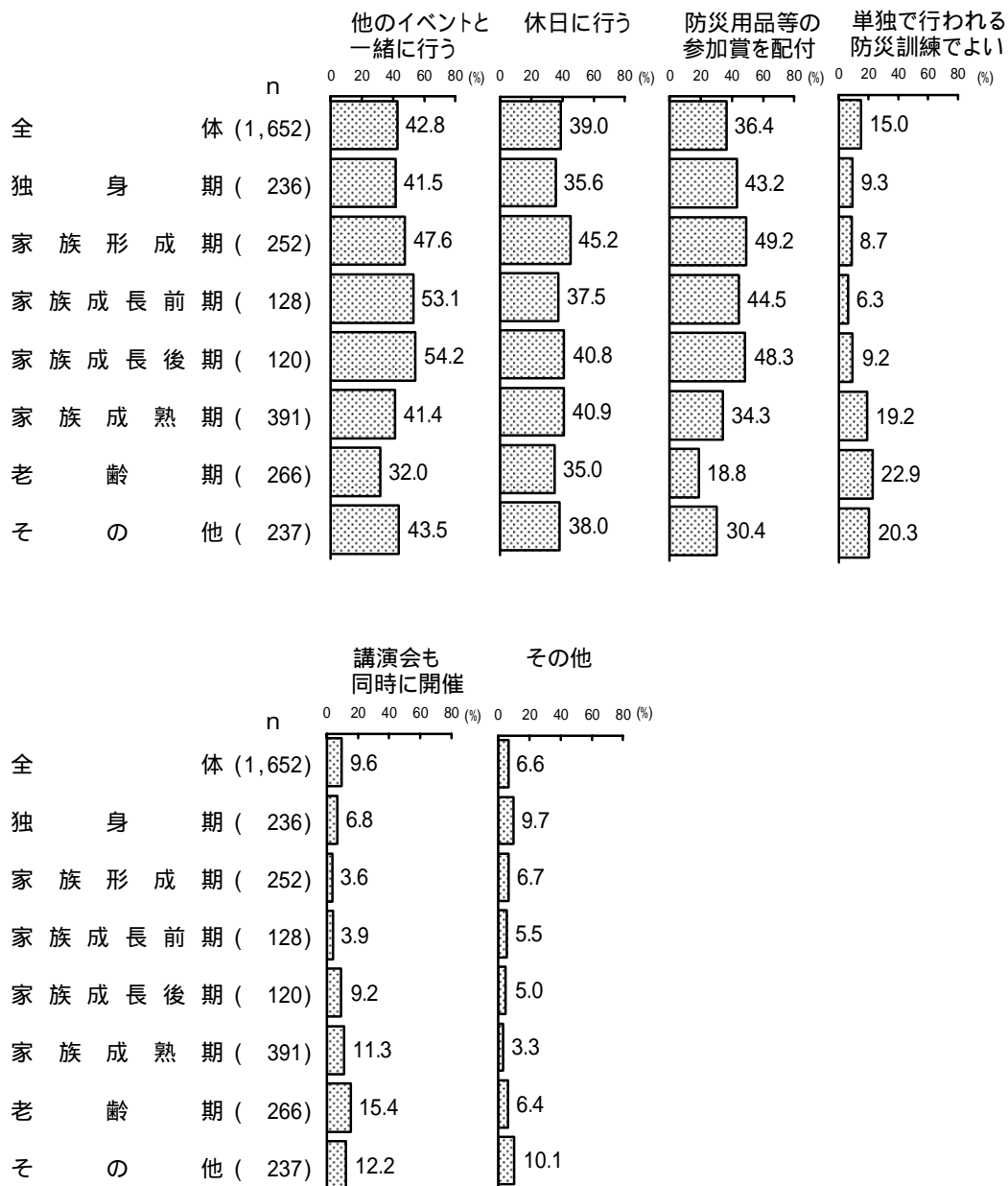
図 4 - 14 - 2 防災訓練への参加率を上げるための方法 - 性別・年齢別



性別にみると、「休日に参加する」は8.0ポイント男性のほうが高くなっている。逆に「防災用品等の参加賞を配付」は5.4ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「他のイベントと一緒に参加する」は20歳代から50歳代で4割を超え高くなっている。また、「防災用品等の参加賞を配付」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、20歳代(46.3%)、30歳代(46.4%)で5割弱と高くなっている。(図4-14-2)

図4 - 14 - 3 防災訓練への参加率を上げるための方法 - ライフステージ別



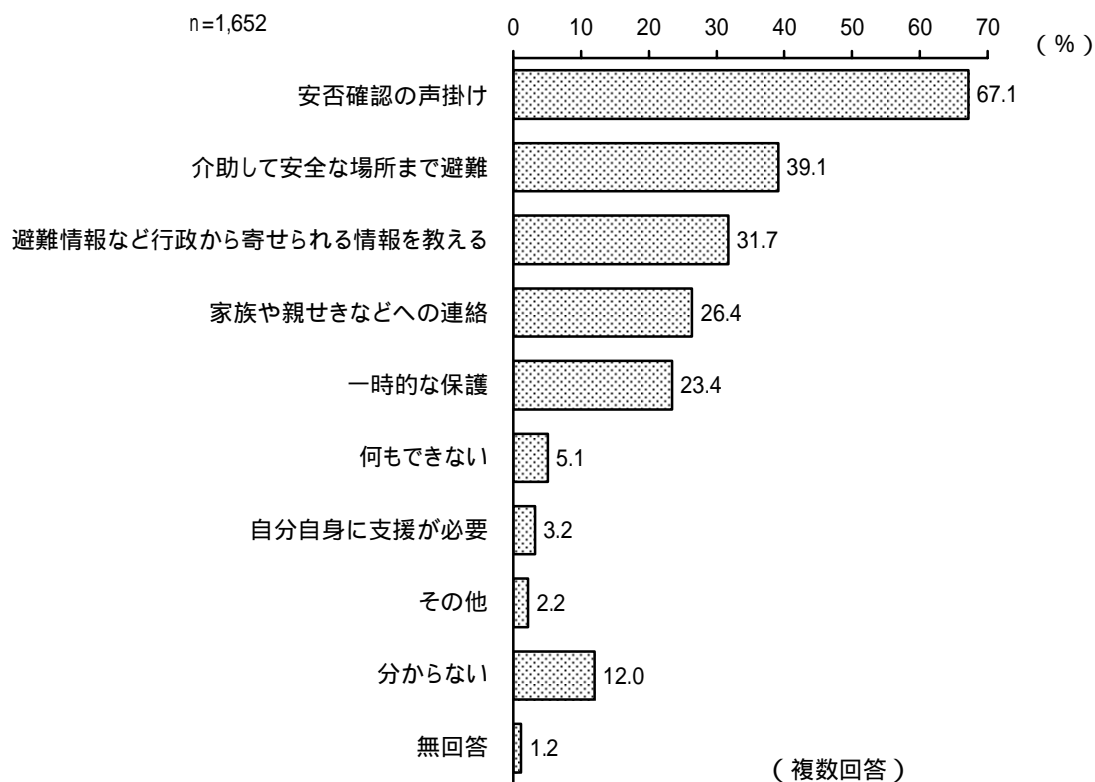
ライフステージ別にみると、「他のイベントと一緒に参加する」は家族成長後期で5割台半ば（54.2%）と高くなっている。また、「休日に参加する」は家族形成期が4割台半ば（45.2%）と高くなっている。（図4 - 14 - 3）

4 - 15 災害時要援護者への手助け

「安否確認の声掛け」が7割弱

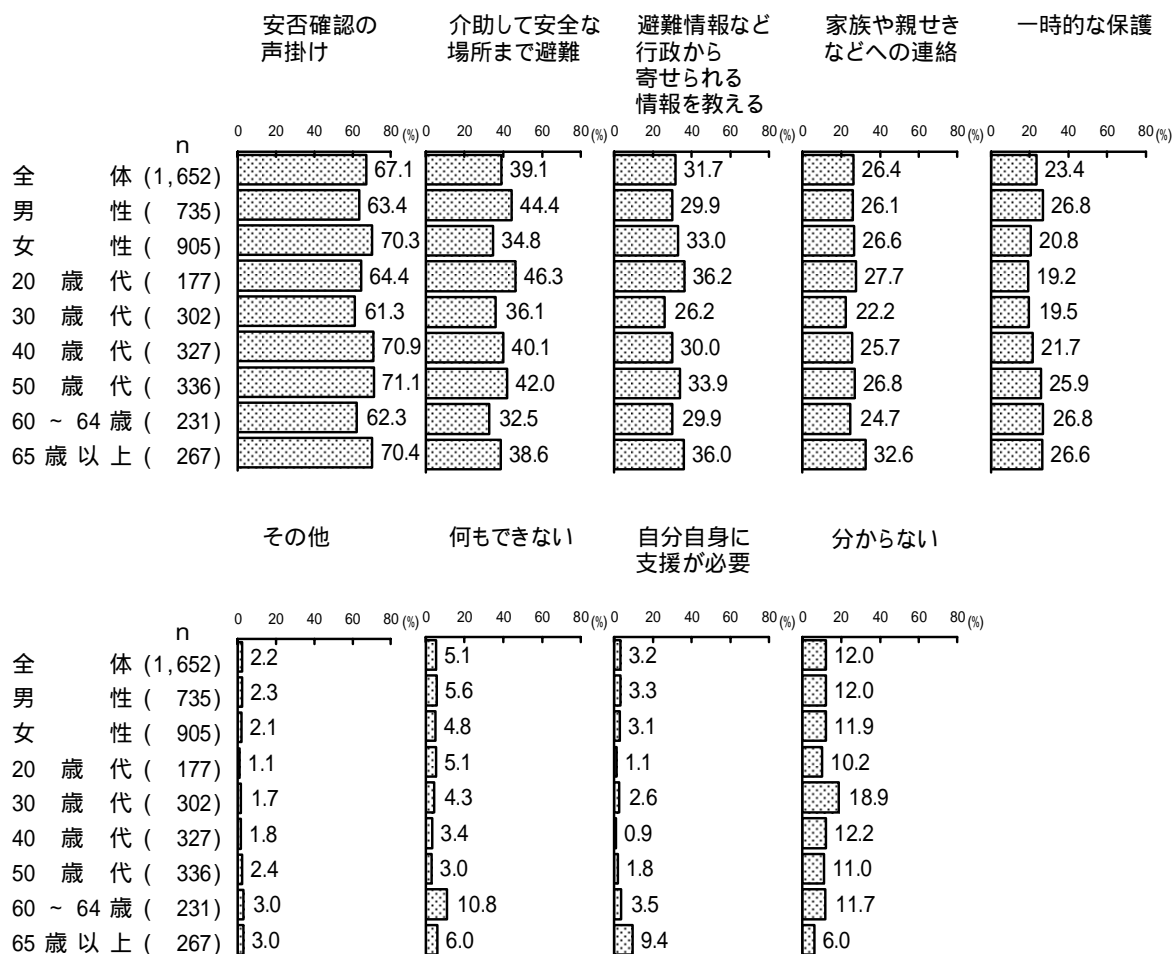
問13 高齢者や体に障害を持っている方など災害時に他の人の支援が必要な方を「災害時要援護者」といいます。災害が発生したとき、あなたは近所にいる災害時要援護者に対してどのような手助けができると思いますか。(はいいくつでも)

図4 - 15 - 1



災害が発生したとき、近所にいる災害時要援護者に対してどのような手助けができると思うかを聞いたところ、「安否確認の声掛け」が7割弱(67.1%)と最も高く、ついで「介助して安全な場所まで避難」(39.1%)、「避難情報など行政から寄せられる情報を教える」(31.7%)、「家族や親せきなどへの連絡」(26.4%)と続いている。(図4 - 15 - 1)

図4 - 15 - 2 災害時要援護者への手助け - 性別・年齢別



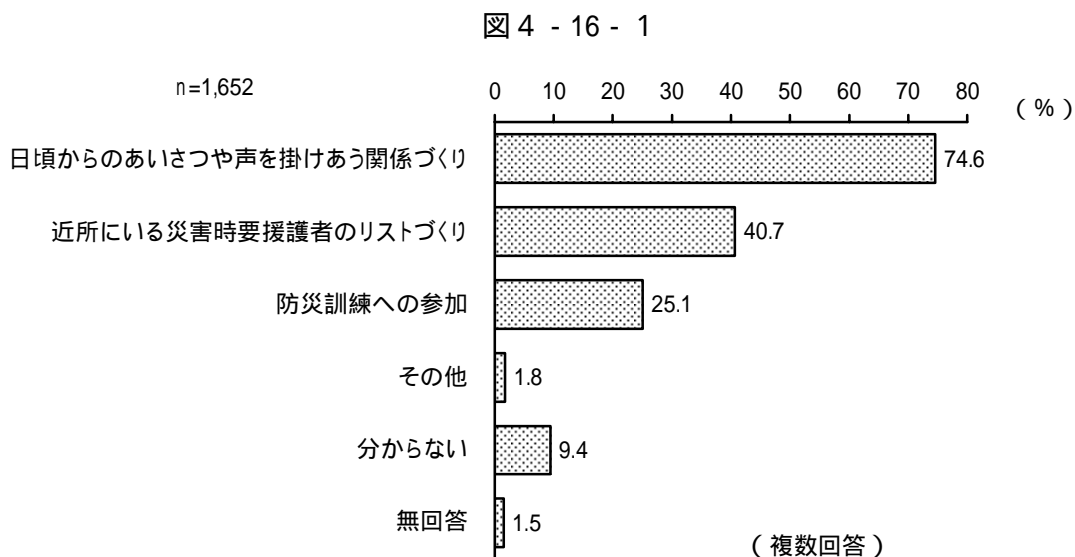
性別にみると、「介助して安全な場所まで避難」は9.6ポイント、「一時的な保護」は6.0ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。逆に「安否確認の声掛け」は6.9ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「安否確認の声掛け」はすべての年代で6割以上と高く、特に50歳代では7割強（71.1%）と高くなっている。また、「介助して安全な場所まで避難」は20歳代で5割弱（46.3%）と高くなっている。（図4 - 15 - 2）

4 - 16 災害時要援護者への支援を行うために必要なこと

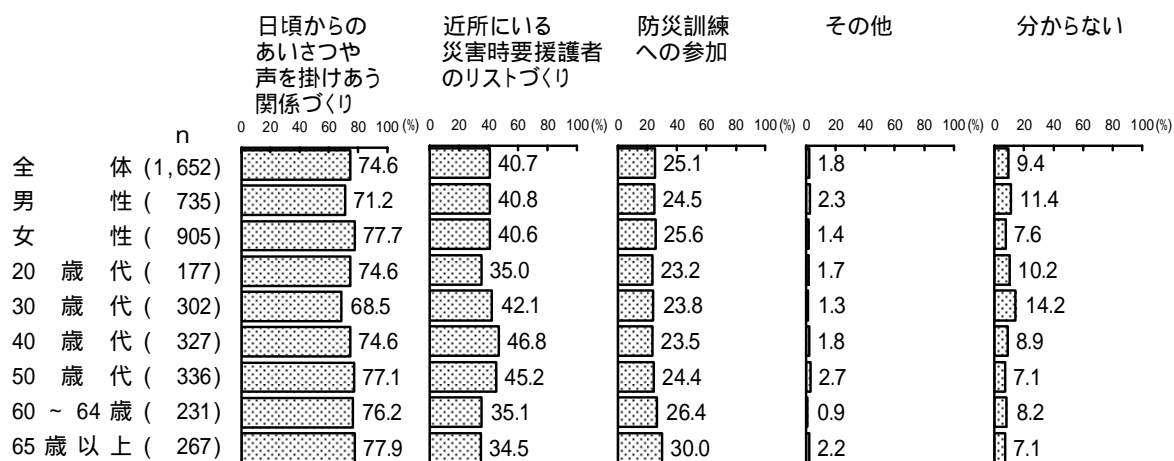
「日頃からのあいさつや声を掛けあう関係づくり」が7割台半ば

問14 災害時要援護者への支援を行うためには、日頃からどのようなことをする必要があるとお考えですか。(はいいくつでも)



災害時要援護者への支援を行うためには、日頃からどのようなことをする必要があるかを聞いたところ、「日頃からのあいさつや声を掛けあう関係づくり」が7割台半ば(74.6%)と最も高く、ついで「近所にいる災害時要援護者のリストづくり」(40.7%)、「防災訓練への参加」(25.1%)と続いている。(図4 - 16 - 1)

図4 - 16 - 2 災害時要援護者への支援を行うために必要なこと - 性別・年齢別



性別にみると、「日頃からのあいさつや声を掛けあう関係づくり」は女性のほうが6.5ポイント高くなっている。

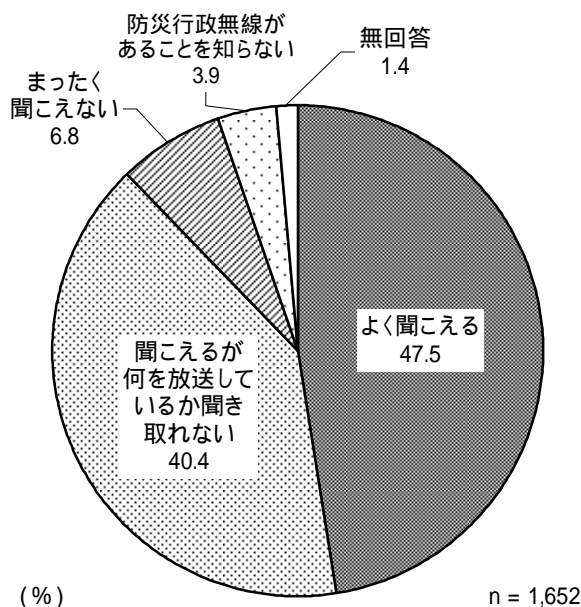
年齢別にみると、「日頃からのあいさつや声を掛けあう関係づくり」はすべての年代で6割以上と高く、50歳代以上の年代で8割弱と高くなっている。また、「近所にいる災害時要援護者のリストづくり」は40歳代で5割弱（46.8%）と高くなっている。（図4 - 16 - 2）

4 - 17 防災行政無線による放送が聞こえているか

「よく聞こえる」が5割弱

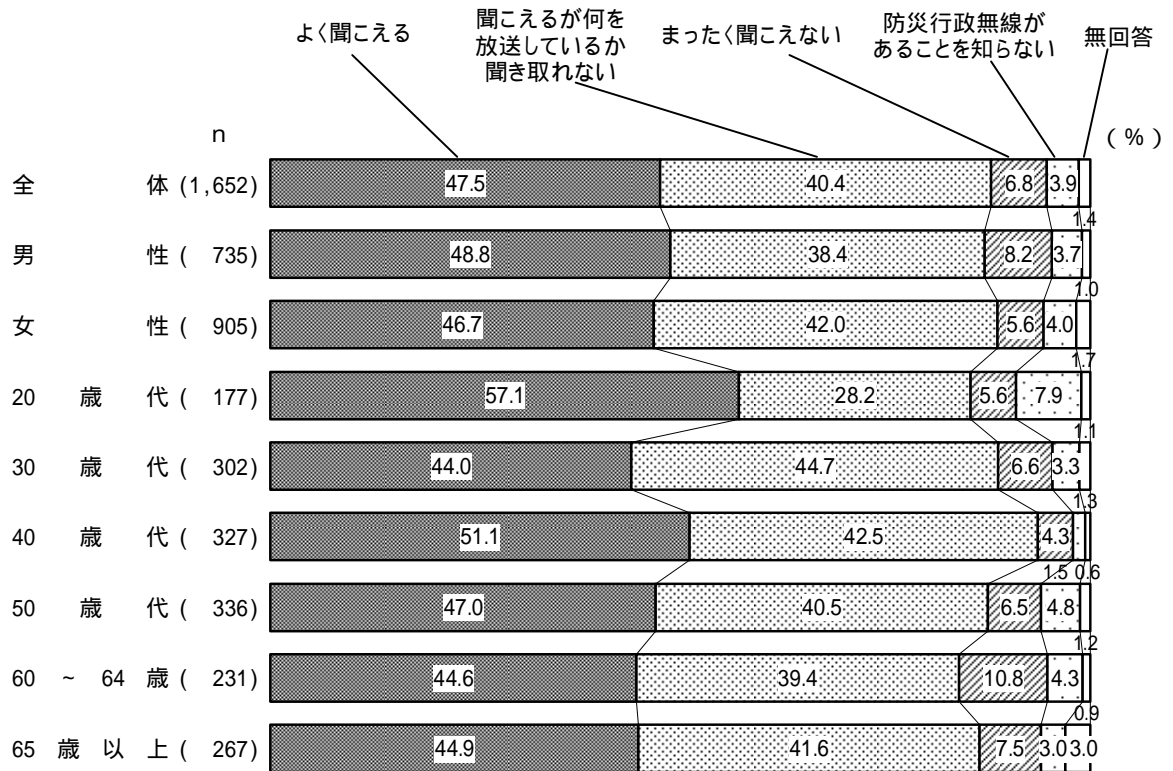
問15 市では、市民の皆様への情報伝達手段の一つとして防災行政無線を使っています。平時には、市内各所に設置した防災行政無線の放送設備（スピーカー）から毎日午後5時1分（11月～2月は午後4時）に「夕焼け小焼け」のチャイムを放送しています。あなたが住んでいる場所では防災行政無線による放送が聞こえていますか。（は1つだけ）

図4 - 17 - 1



住んでいる場所では防災行政無線による放送が聞こえているかを聞いたところ、「よく聞こえる」が5割弱（47.5%）と最も高く、ついで「聞こえるが何を放送しているか聞き取れない」（40.4%）、「まったく聞こえない」（6.8%）、「防災行政無線があることを知らない」（3.9%）となっている。（図4 - 17 - 1）

図4 - 17 - 2 防災行政無線による放送が聞こえているか - 性別・年齢別

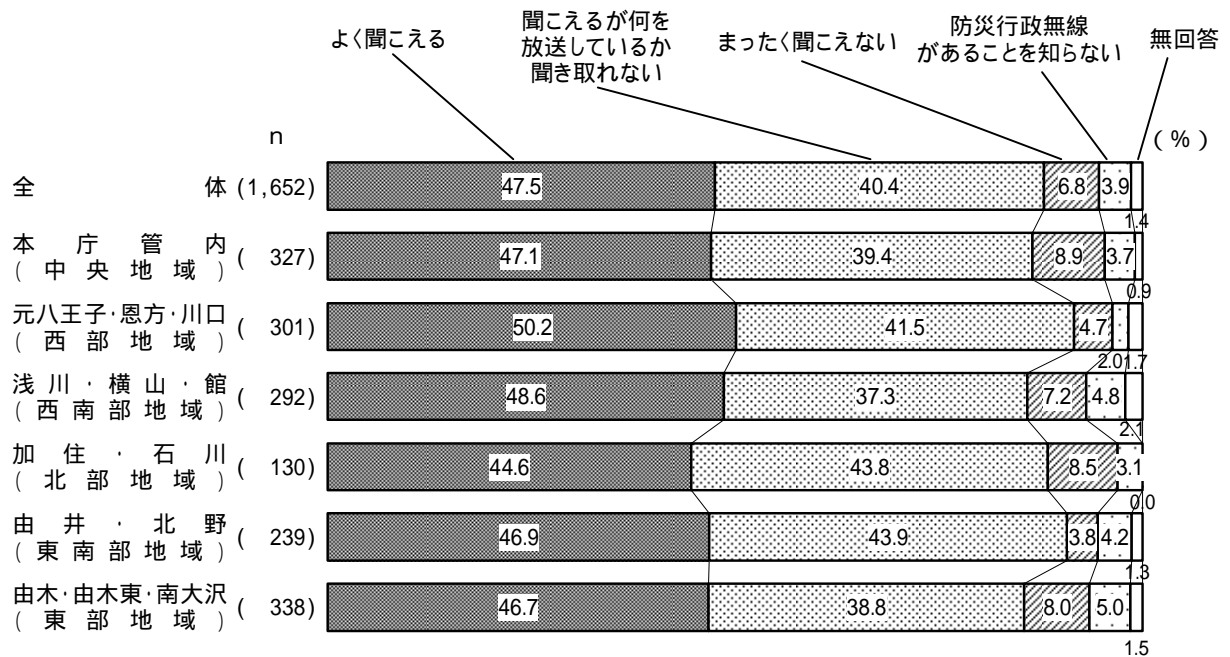


性別にみると、「聞こえるが何を放送しているか聞き取れない」は3.6ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「よく聞こえる」は20歳代で6割弱（57.1%）と高くなっている。また、「防災行政無線があることを知らない」は20歳代で1割弱（7.9%）と高くなっている。

(図4 - 17 - 2)

図4 - 17 - 3 防災行政無線による放送が聞こえているか - 居住地域別



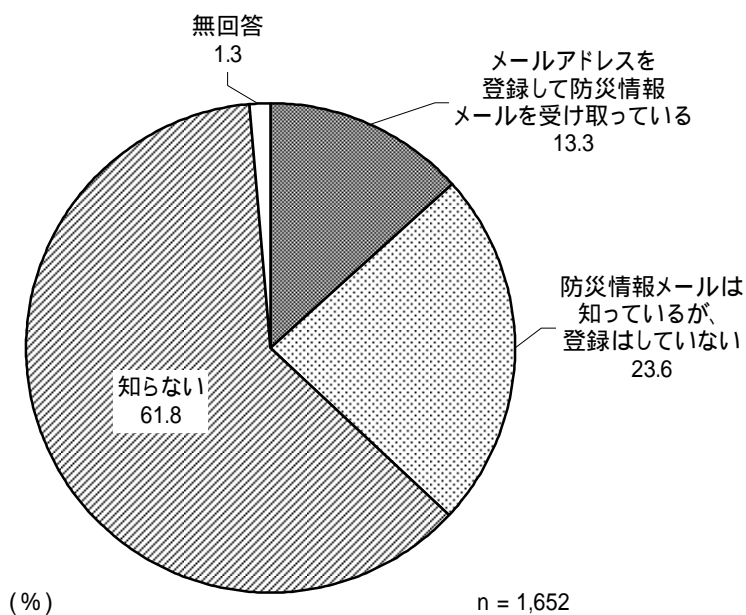
居住地域別にみると、「よく聞こえる」は元八王子・恩方・川口（西部地域）でほぼ5割（50.2%）と高くなっている。(図4 - 17 - 3)

4 - 18 防災情報メールの認知度

「知らない」が6割強

問16 市では、気象に関する情報や防災イベント、災害情報など様々な防災に関する情報を携帯電話やパソコンにお知らせするメール配信サービス（防災情報メール）を行っています。あなたは、防災情報メールをご存じですか。（ は1つだけ）

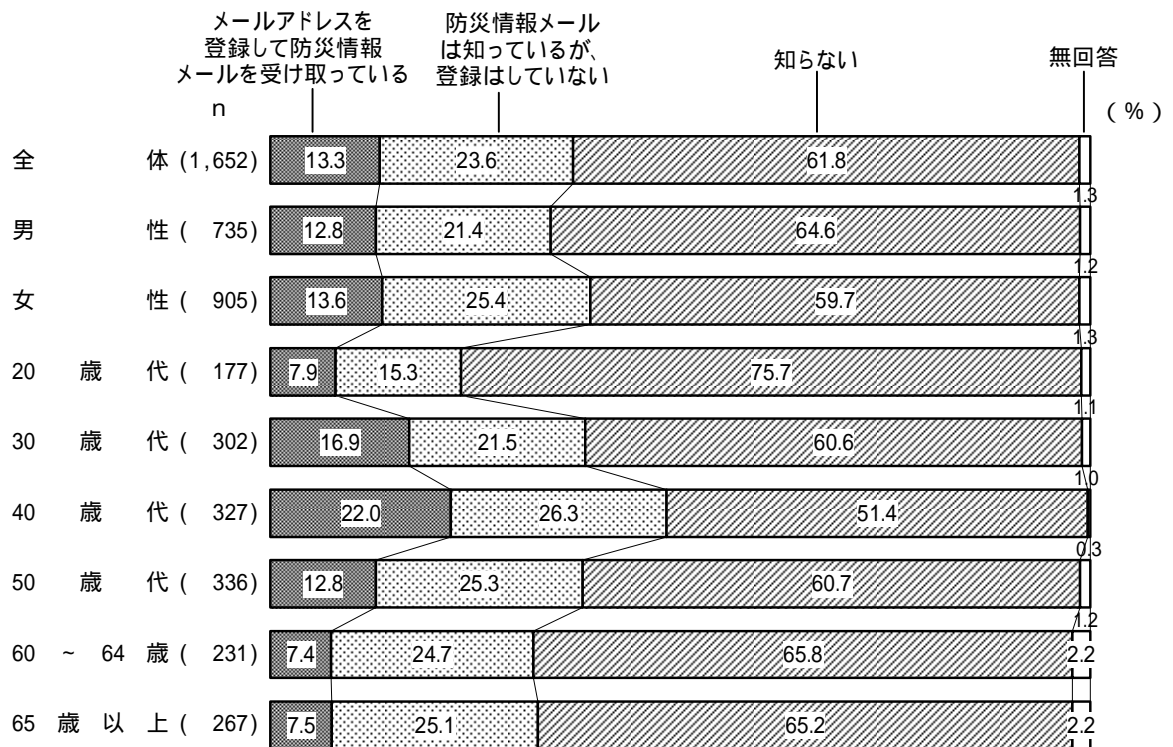
図4 - 18 - 1



防災情報メールを知っているか聞いたところ、「防災情報メールは知っているが、登録はしていない」が2割強（23.6%）、「メールアドレスを登録して防災情報メールを受け取っている」が1割強（13.3%）となっている。一方、「知らない」は6割強（61.8%）と最も高くなっている。

（図4 - 18 - 1）

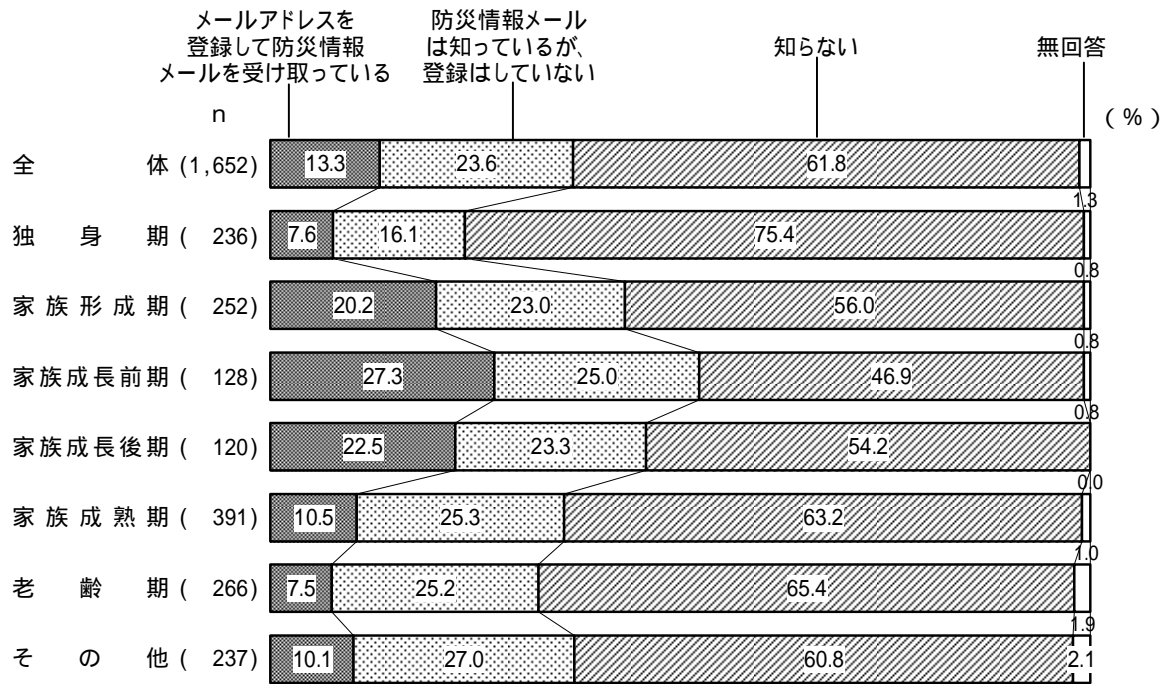
図4 - 18 - 2 防災情報メールの認知度 - 性別・年齢別



性別にみると、「知らない」は男性のほうが4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「メールアドレスを登録して防災情報メールを受け取っている」は40歳代で2割強（22.0%）と高くなっている。一方、「知らない」は20歳代で7割台半ば（75.7%）と高くなっている。（図4 - 18 - 2）

図4 - 18 - 3 防災情報メールの認知度 - ライフステージ別



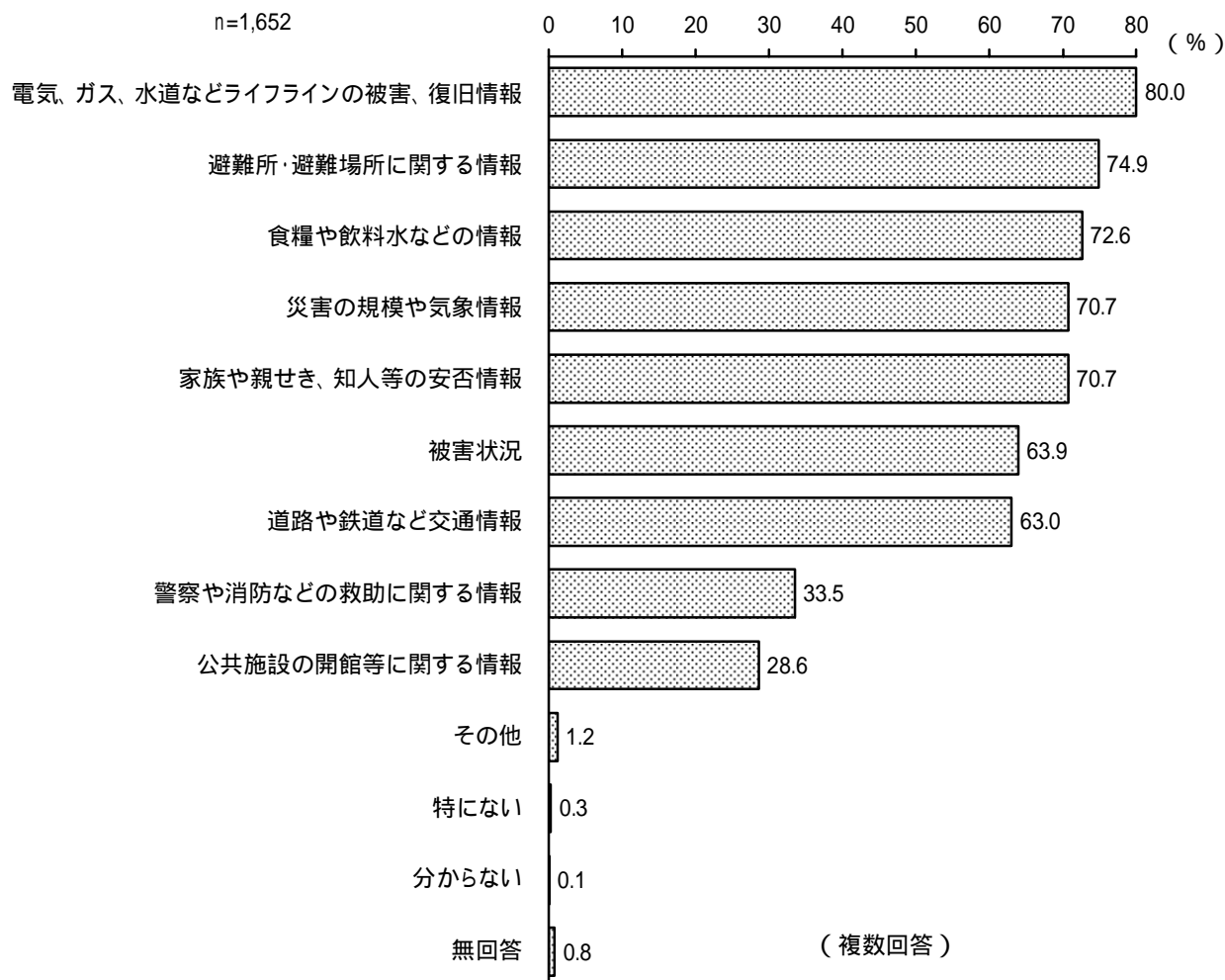
ライフステージ別にみると、「メールアドレスを登録して防災情報メールを受け取っている」は家族成長前期で3割弱（27.3%）と高くなっている。一方、「知らない」は独身期で7割台半ば（75.4%）と高くなっている。（図4 - 18 - 3）

4 - 19 災害時に知りたい情報

「電気、ガス、水道などライフラインの被害、復旧情報」が8割

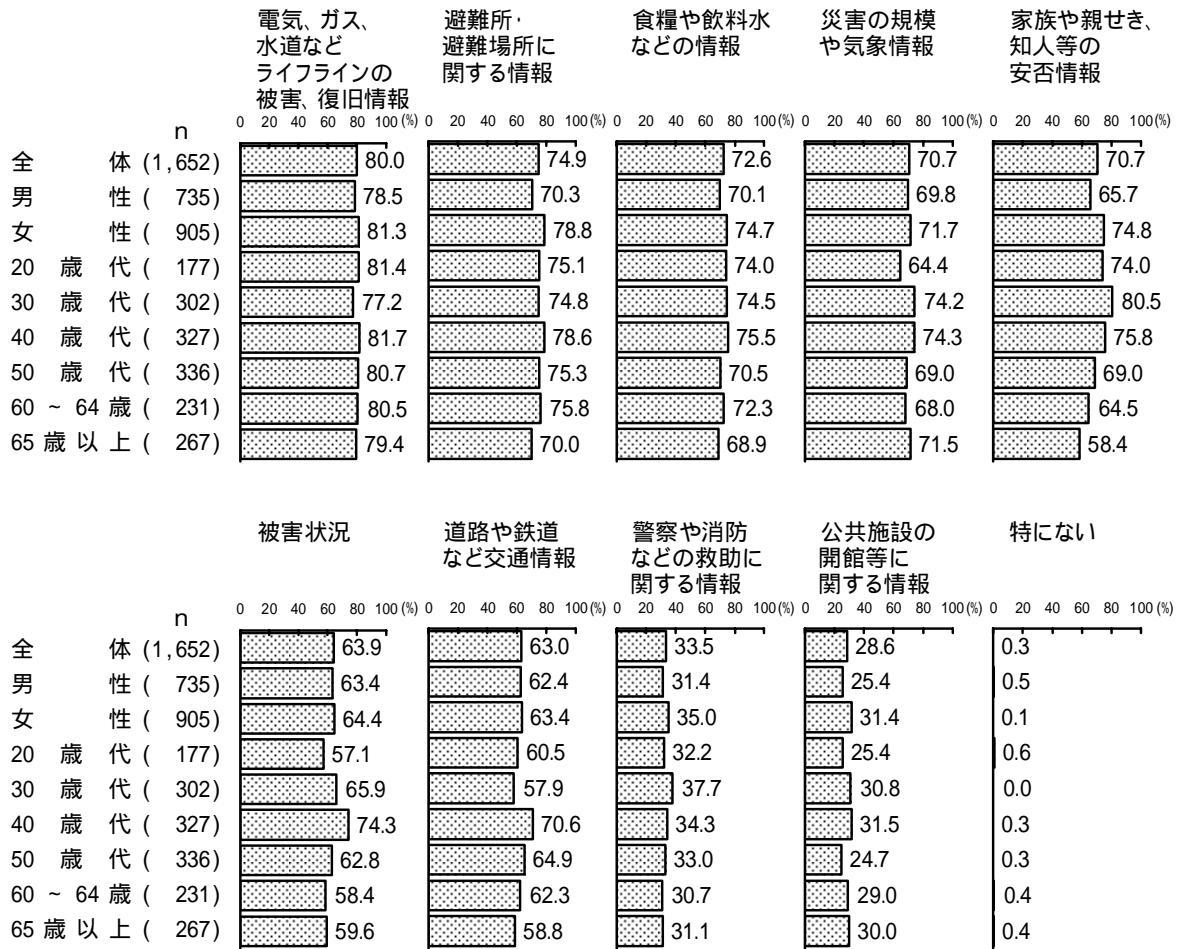
問17 大規模な災害が発生したとき、特に知りたいと思う情報は何か。(○はいくつでも)

図 4 - 19 - 1



大規模な災害が発生したとき、特に知りたいと思う情報は何かを聞いたところ、「電気、ガス、水道などライフラインの被害、復旧情報」が8割(80.0%)と最も高く、ついで「避難所・避難場所に関する情報」(74.9%)、「食糧や飲料水などの情報」(72.6%)、「災害の規模や気象情報」、「家族や親せき、知人等の安否情報」(ともに70.7%)と続いている。(図4-19-1)

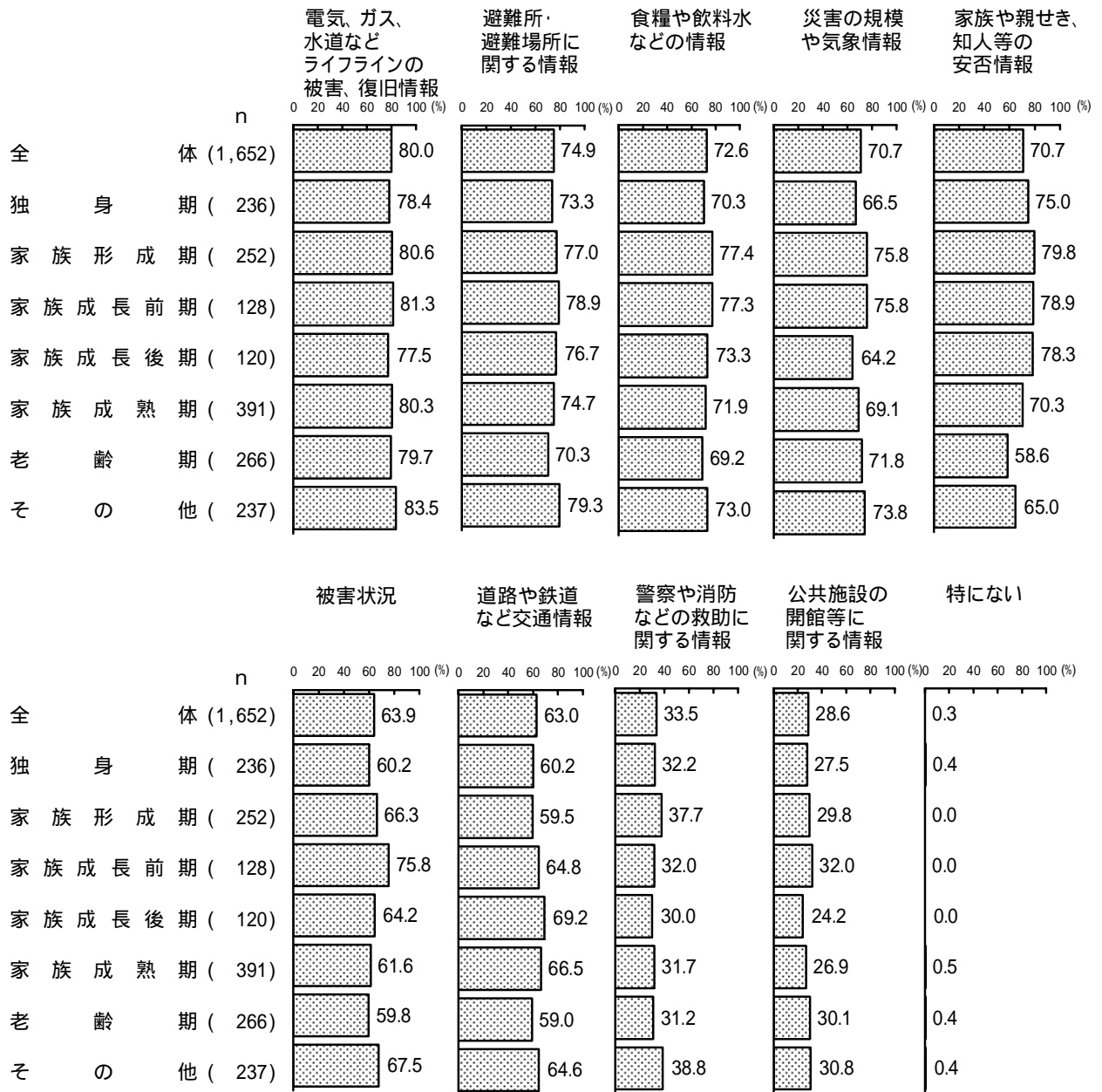
図4 - 19 - 2 災害時に知りたい情報 - 性別・年齢別（10項目）



性別にみると、すべての項目で女性のほうが高く、特に「家族や親せき、知人等の安否情報」は9.1ポイント、「避難所・避難場所に関する情報」は8.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「電気、ガス、水道などライフラインの被害、復旧情報」はすべての年代で8割前後と高く、20歳代（81.4%）、40歳代（81.7%）で8割強と高くなっている。また、「避難所・避難場所に関する情報」はすべての年代で7割台と高く、特に40歳代で8割弱（78.6%）と高くなっている。（図4 - 19 - 2）

図4 - 19 - 3 災害時に知りたい情報 - ライフステージ別 (10項目)



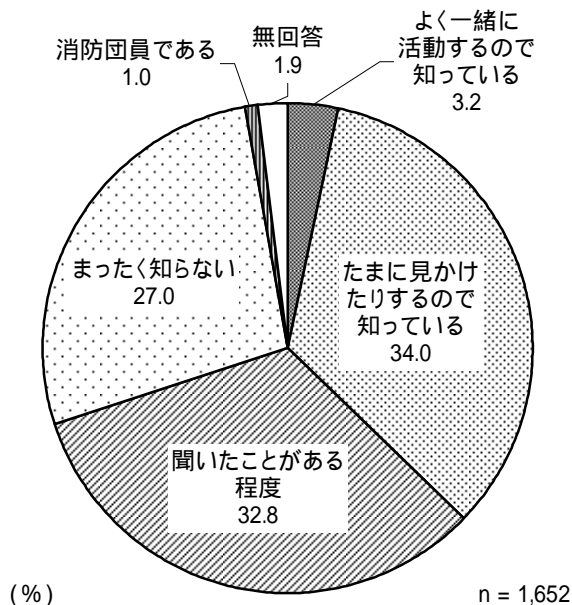
ライフステージ別にみると、「避難所・避難場所に関する情報」は家族形成期（77.0%）、家族成長前期（78.9%）、家族成長後期（76.7%）で8割弱と高くなっている。また、「被害状況」は家族成長前期で7割台半ば（75.8%）と高くなっている。（図4 - 19 - 3）

4 - 20 八王子消防団の認知度

『知っている』が7割

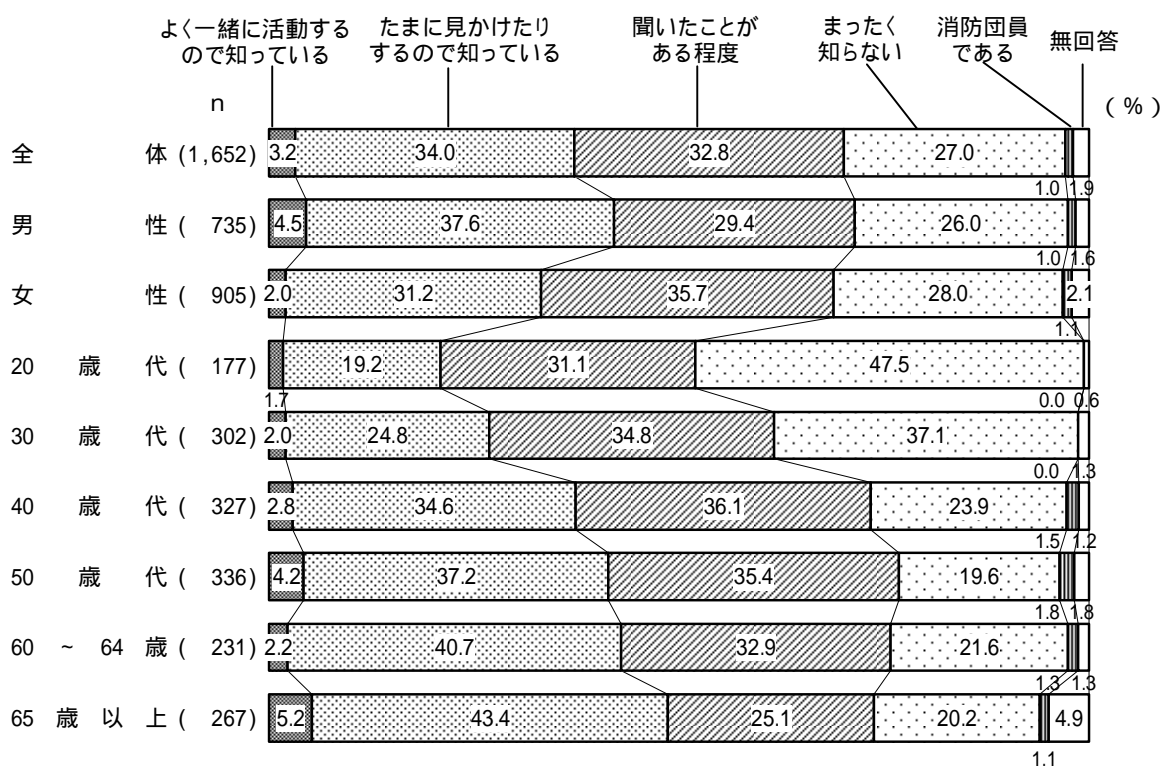
問18 各市町村には、消防署とは別に消防団が組織されています。消防団員は、本業（生業）を持ちながらも、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき消防・防災活動を行っており、本市では約1,500の方が消防署等と連携して地域を守っています。あなたは、八王子市消防団のことをご存じでしたか。（ は1つだけ）

図 4 - 20 - 1



八王子市消防団を知っているか聞いたところ、「たまたに見かけたりするので知っている」が3割台半ば（34.0%）と最も高く、「聞いたことがある程度」（32.8%）と「よく一緒に活動するので知っている」（3.2%）を合わせた『知っている』が7割（70.0%）となっている。一方、「まったく知らない」が3割弱（27.0%）、「消防団員である」（1.0%）となっている。（図4 - 20 - 1）

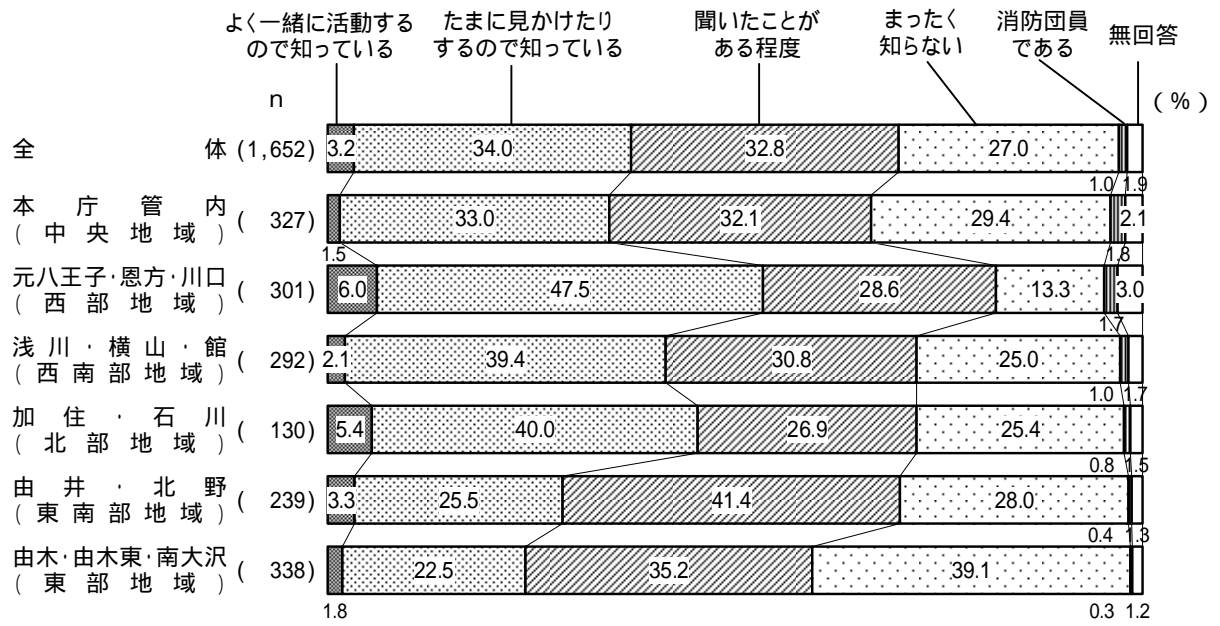
図4 - 20 - 2 八王子消防団の認知度 - 性別・年齢別



性別にみると、「たまに見かけたりするので知っている」は男性のほうが6.4ポイント高くなっている。逆に「聞いたことがある程度」は女性のほうが6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「たまに見かけたりするので知っている」は年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上では4割強（43.4%）と高くなっている。一方、「まったく知らない」は20歳代で5割弱（47.5%）と高くなっている。（図4 - 20 - 2）

図4 - 20 - 3 八王子消防団の認知度 - 居住地域別



居住地域別にみると、「たまに見かけたりするので知っている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割弱（47.5%）と高くなっている。一方、「まったく知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）でほぼ4割（39.1%）と高くなっている。（図4 - 20 - 3）

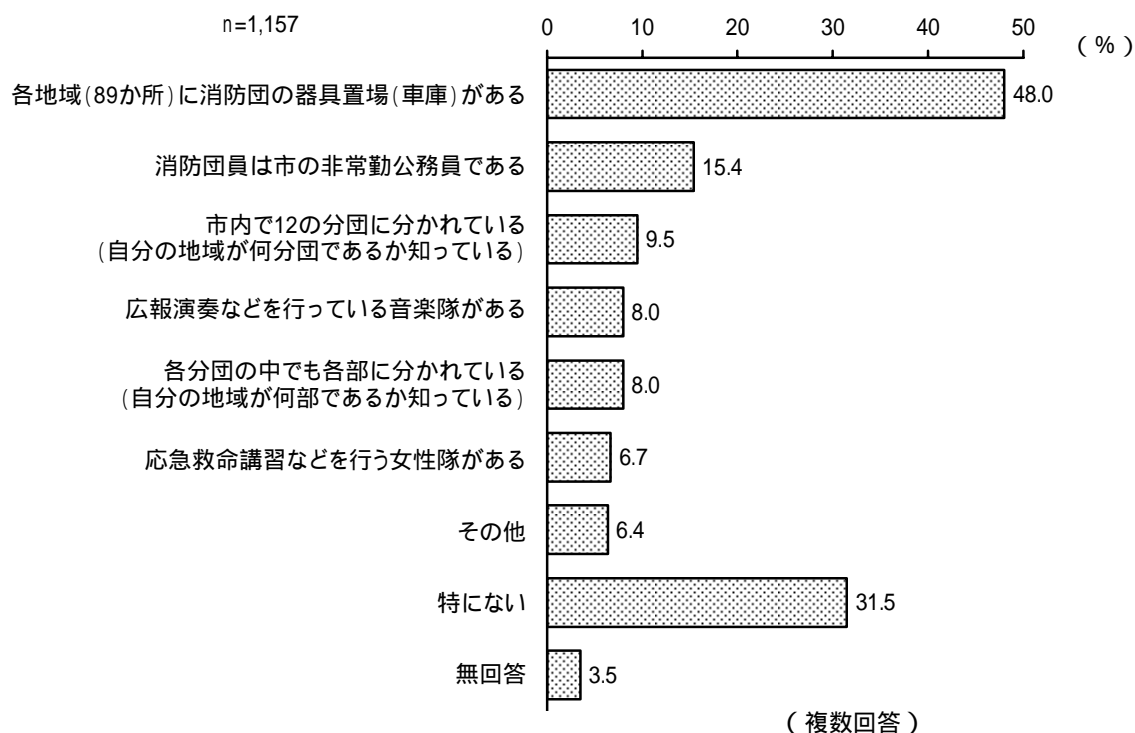
4 - 21 消防団のことや活動で知っていること

【消防団のこと】「各地域(89か所)に消防団の器具置場(車庫)がある」が5割弱

(問18で「よく一緒に活動するので知っている」「たまに見かけたりするので知っている」「聞いたことがある程度」とお答えの方に)

問18 - 1 あなたが消防団のことや活動で知っていること(見かける場面)はどのようなことですか。(はいいくつでも)

図4 - 21 - 1 【消防団のこと】



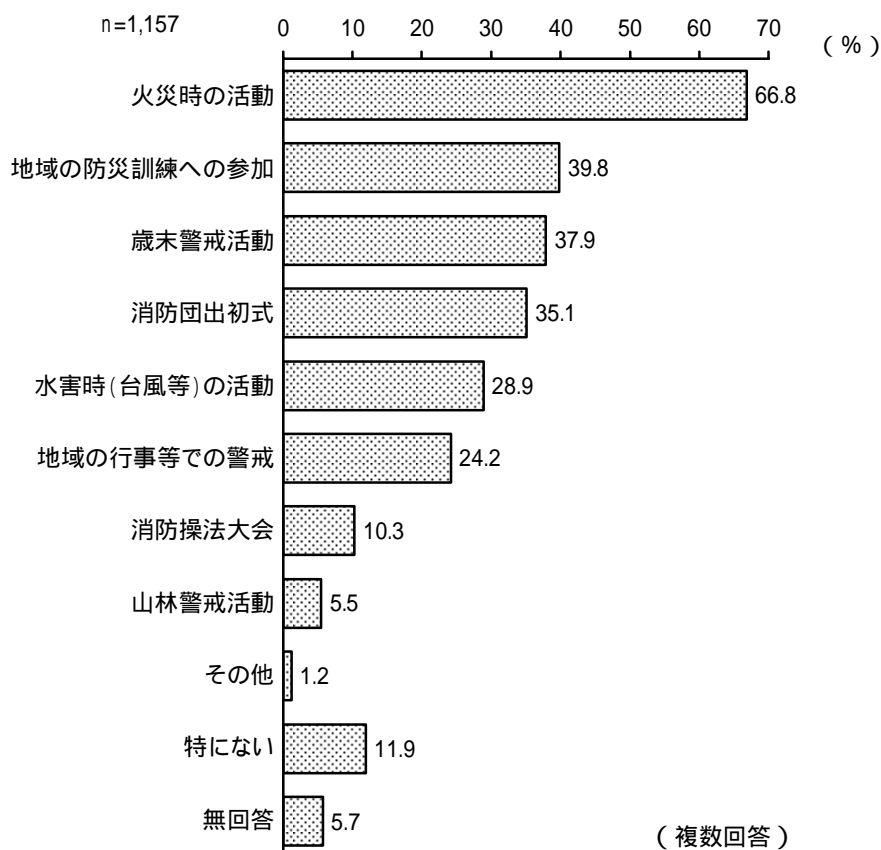
八王子消防団の認知度で、「よく一緒に活動するので知っている」「たまに見かけたりするので知っている」「聞いたことがある程度」と答えた人(1,157人)に、消防団のことで知っていること(見かける場面)を聞いたところ、「各地域(89か所)に消防団の器具置場(車庫)がある」が5割弱(48.0%)と最も高く、ついで「消防団員は市の非常勤公務員である」(15.4%)、「市内で12の分団に分かれている(自分の地域が何分団であるか知っている)」(9.5%)と続いている。一方、「特にない」は3割強(31.5%)となっている。(図4 - 21 - 1)

【消防団の活動】「火災時の活動」が7割弱

(問18で「よく一緒に活動するので知っている」「たまに見かけたりするので知っている」「聞いたことがある程度」とお答えの方に)

問18 - 1 あなたが消防団のことや活動で知っていること(見かける場面)はどのようなことですか。(はいくつでも)

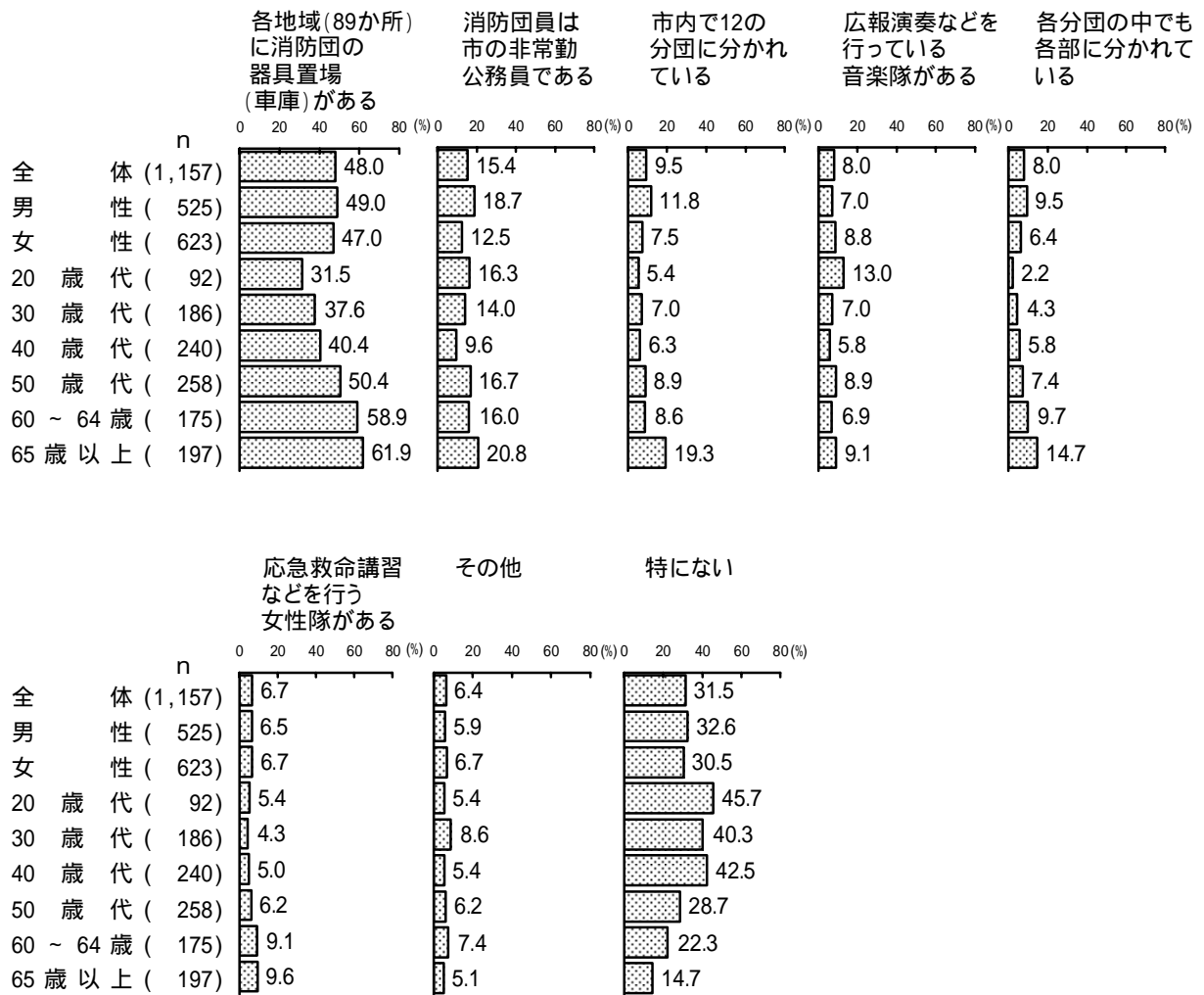
図4 - 21 - 2【消防団の活動】



八王子消防団の認知度で、「よく一緒に活動するので知っている」「たまに見かけたりするので知っている」「聞いたことがある程度」と答えた人(1,157人)に、消防団の活動で知っていること(見かける場面)を聞いたところ、「火災時の活動」が7割弱(66.8%)と最も高く、ついで「地域の防災訓練への参加」(39.8%)、「歳末警戒活動」(37.9%)、「消防団出初式」(35.1%)と続いている。

(図4 - 21 - 2)

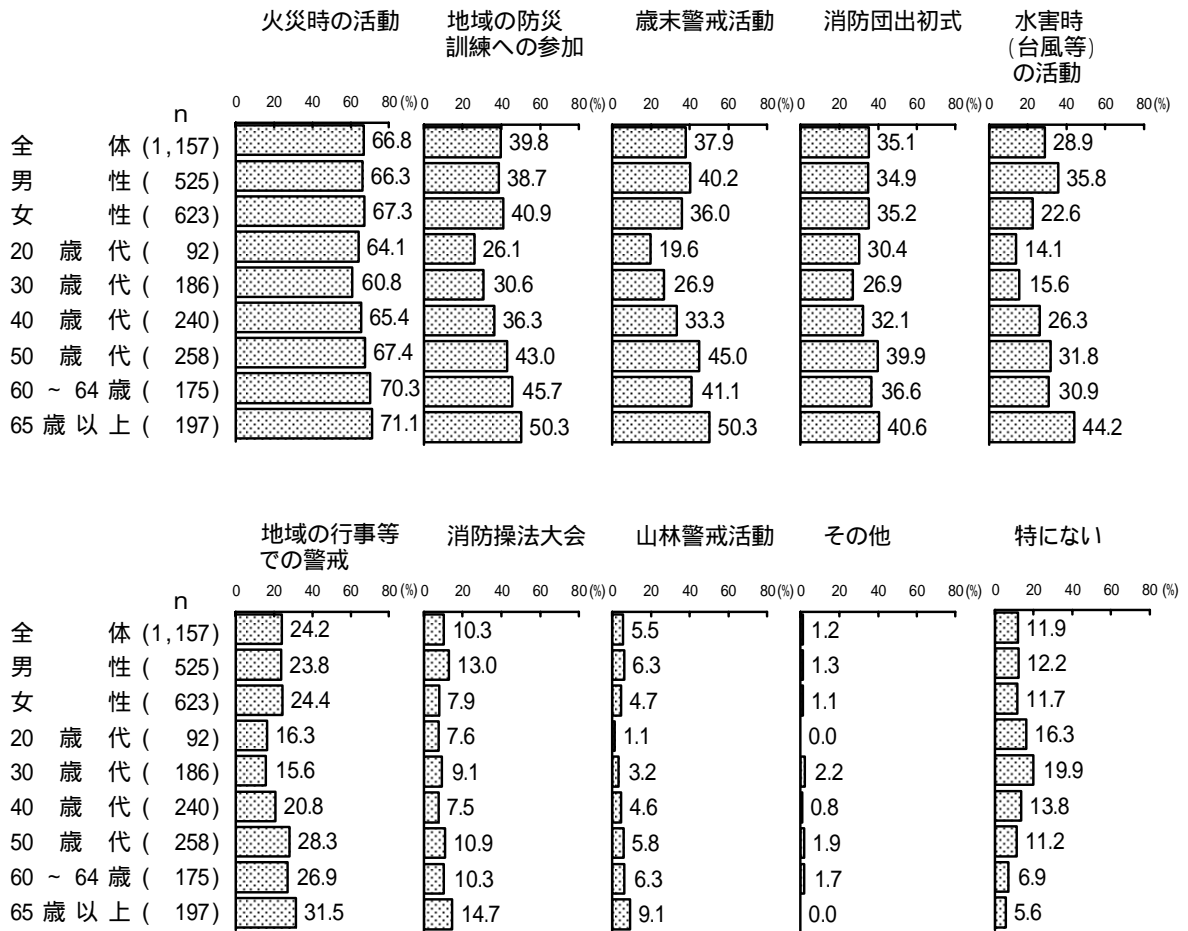
図4 - 21 - 3 消防団のことや活動で知っていること - 性別・年齢別【消防団のこと】



消防団のことを性別で見ると「消防団員は市の非常勤公務員である」は6.2ポイント、「市内で12の分団に分かれている（自分の地域が何分団であるか知っている）」は4.3ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。

消防団のことを年齢別にみると、「各地域（89か所）に消防団の器具置場（車庫）がある」は年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上で6割強（61.9%）と高くなっている。一方、「特にない」は20歳代で4割台半ば（45.7%）と高くなっている。（図4 - 21 - 3）

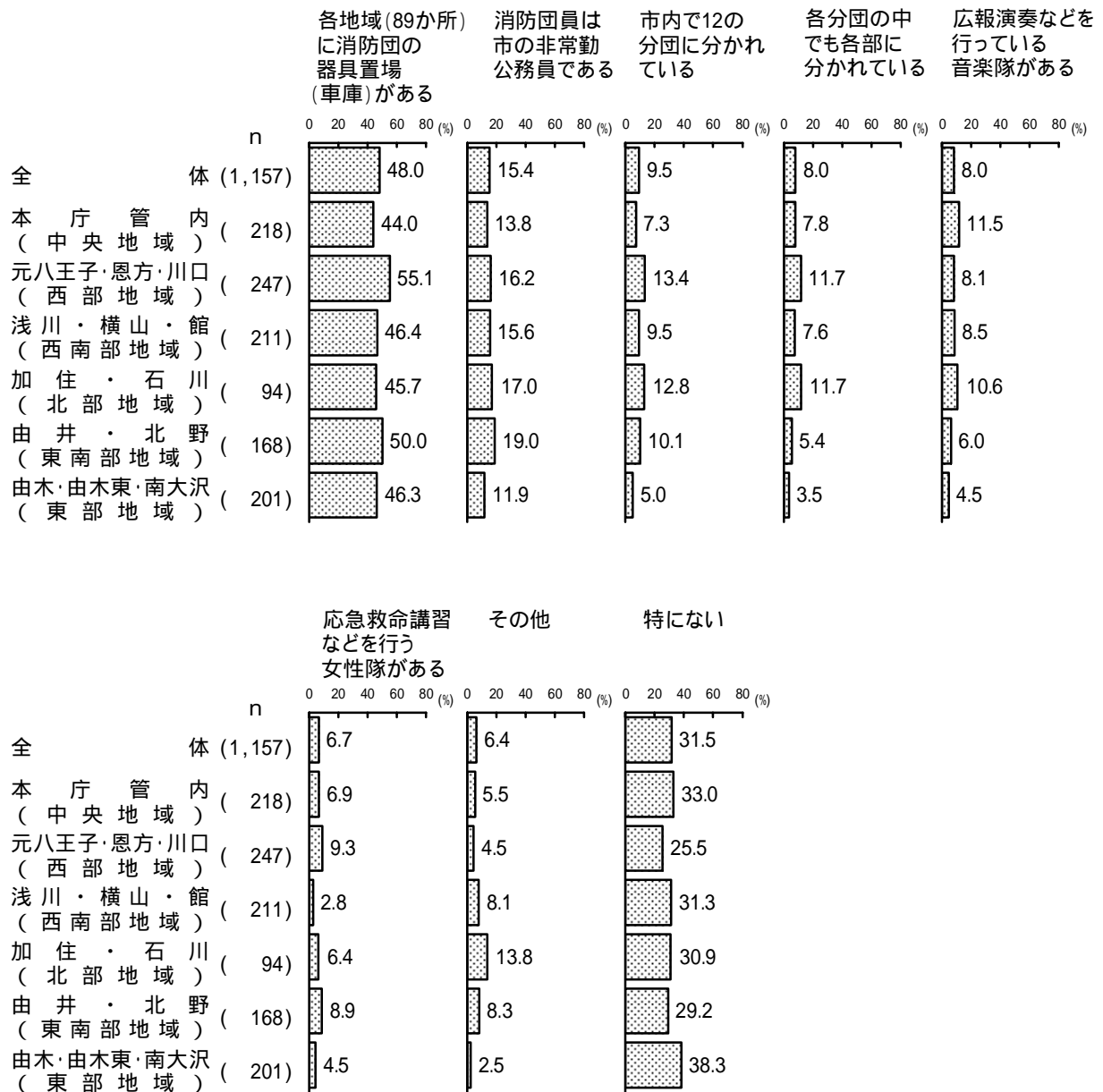
図4 - 21 - 4 消防団のことや活動で知っていること - 性別・年齢別【消防団の活動】



消防団の活動を性別にみると、「水害時(台風等)の活動」は13.2ポイント、「消防操法大会」は5.1ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。

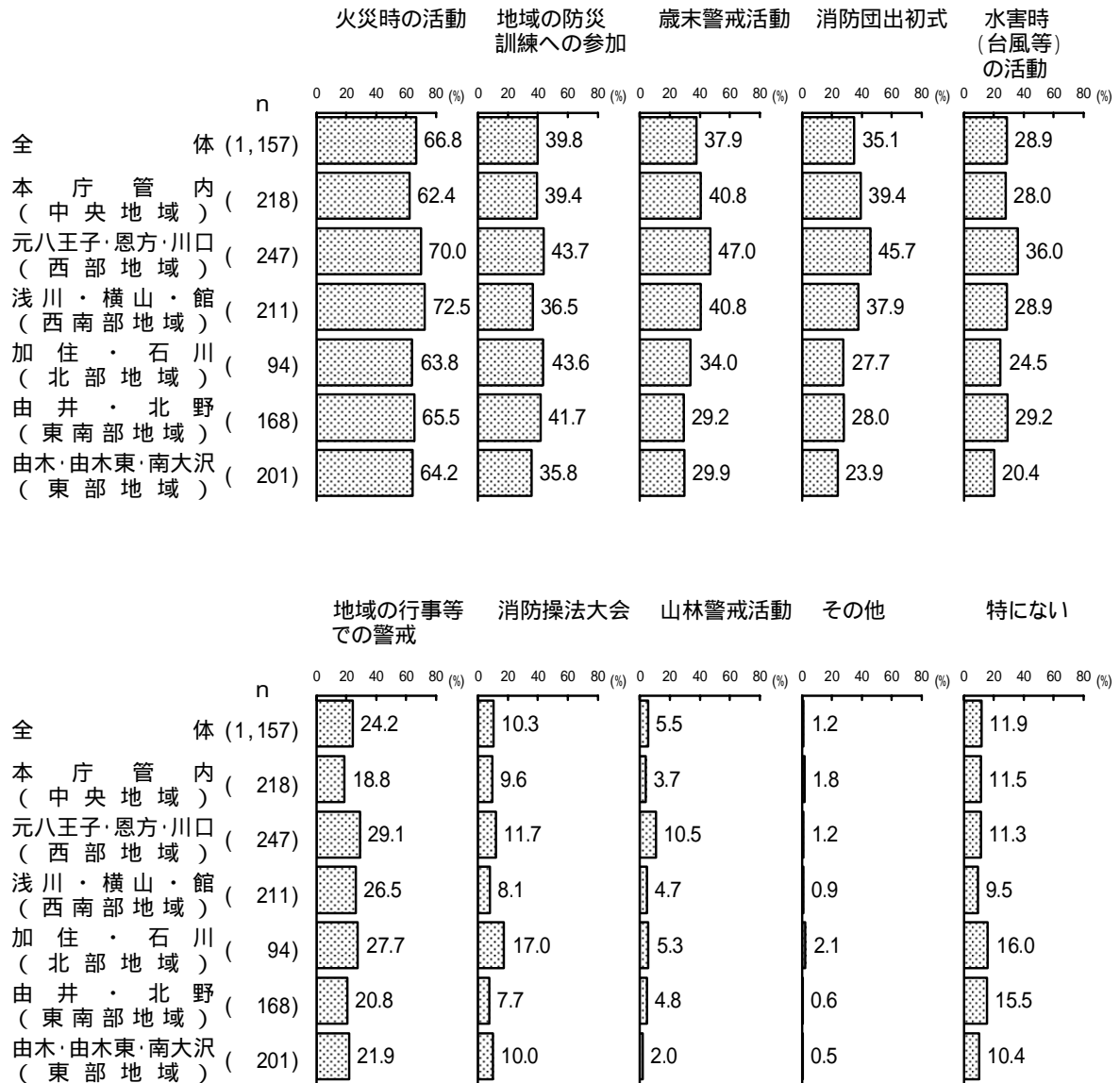
消防団の活動を年齢別にみると、「火災時の活動」は65歳以上が7割強(71.1%)と高くなっている。また、「地域の防災訓練への参加」は年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上ではほぼ5割(50.3%)と高くなっている。(図4 - 21 - 4)

図4 - 21 - 5 消防団のことや活動で知っていること - 居住地域別【消防団のこと】



消防団のことを居住地域別にみると、「各地域（89か所）に消防団の器具置場（車庫）がある」は元八王子・恩方・川口（西部地域）が5割台半ば（55.1%）と高くなっている。（図4 - 21 - 5）

図4 - 21 - 6 消防団のことや活動で知っていること - 居住地域別【消防団の活動】



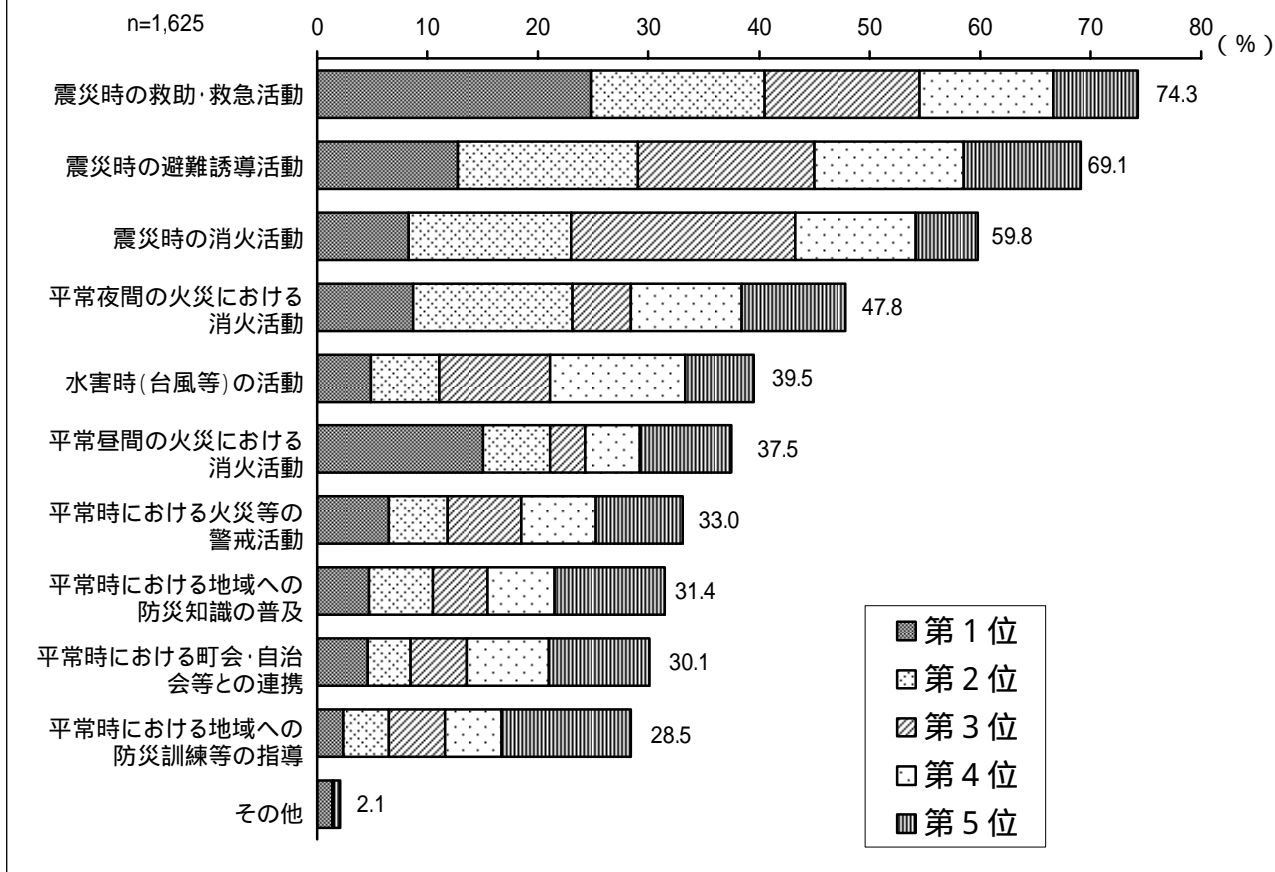
消防団の活動を居住地域別にみると、「火災時の活動」は浅川・横山・館(西南部地域)で7割強(72.5%)、元八王子・恩方・川口(西部地域)で7割(70.0%)と高くなっている。(図4 - 21 - 6)

4 - 22 消防団に望む活動

「震災時の救助・救急活動」が7割台半ば

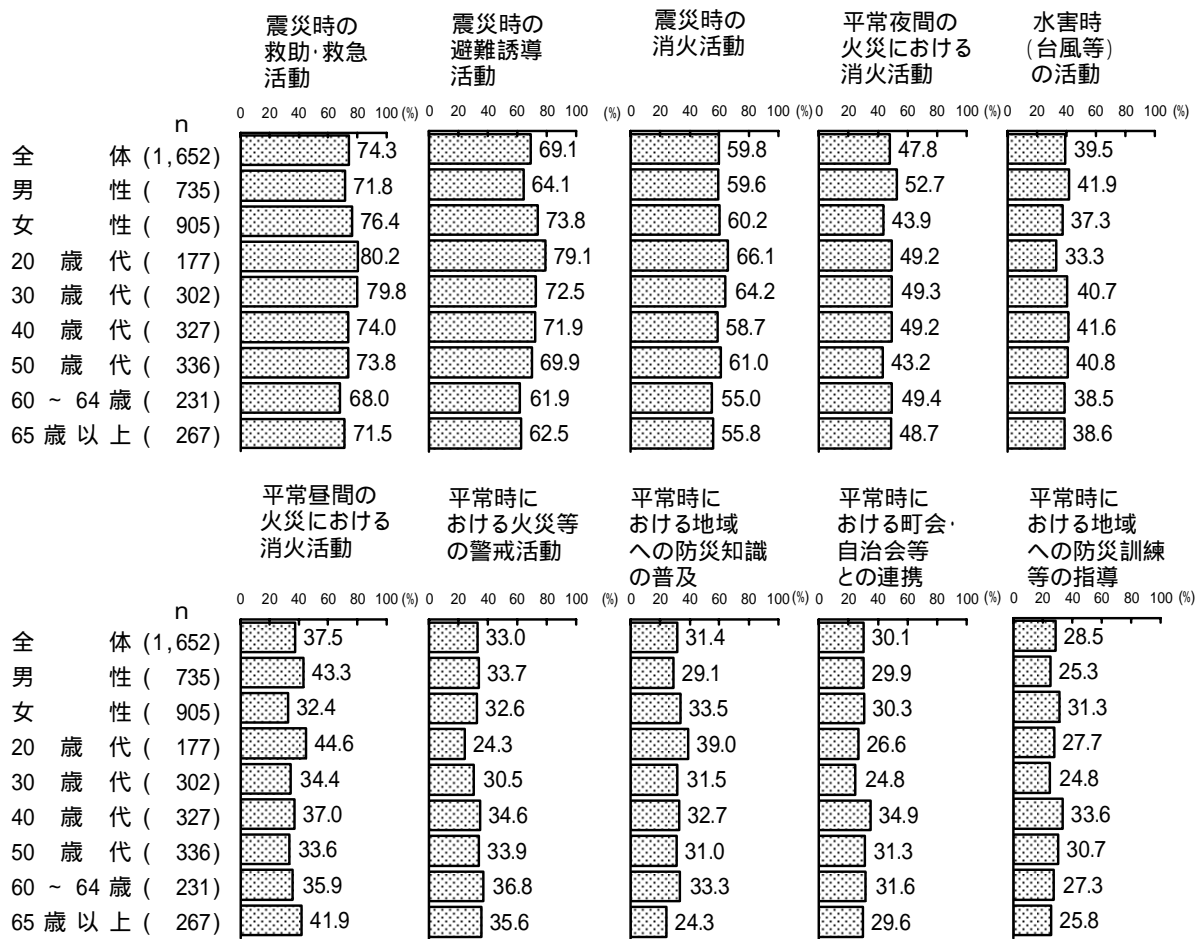
問19 今後、あなたが消防団に望む（力を入れてほしい）活動は何ですか。次の1～11の中で優先してほしいものから順に1位から5位までを選んで番号を記入してください。

図4 - 22 - 1



消防団に望む（力を入れてほしい）活動は何かを聞いたところ、第1位から第5位までの累計では「震災時の救助・救急活動」が7割台半ば（74.3%）と最も高く、ついで「震災時の避難誘導活動」（69.1%）、「震災時の消火活動」（59.8%）、「平常夜間の火災における消火活動」（47.8%）と続いている。（図4 - 22 - 1）

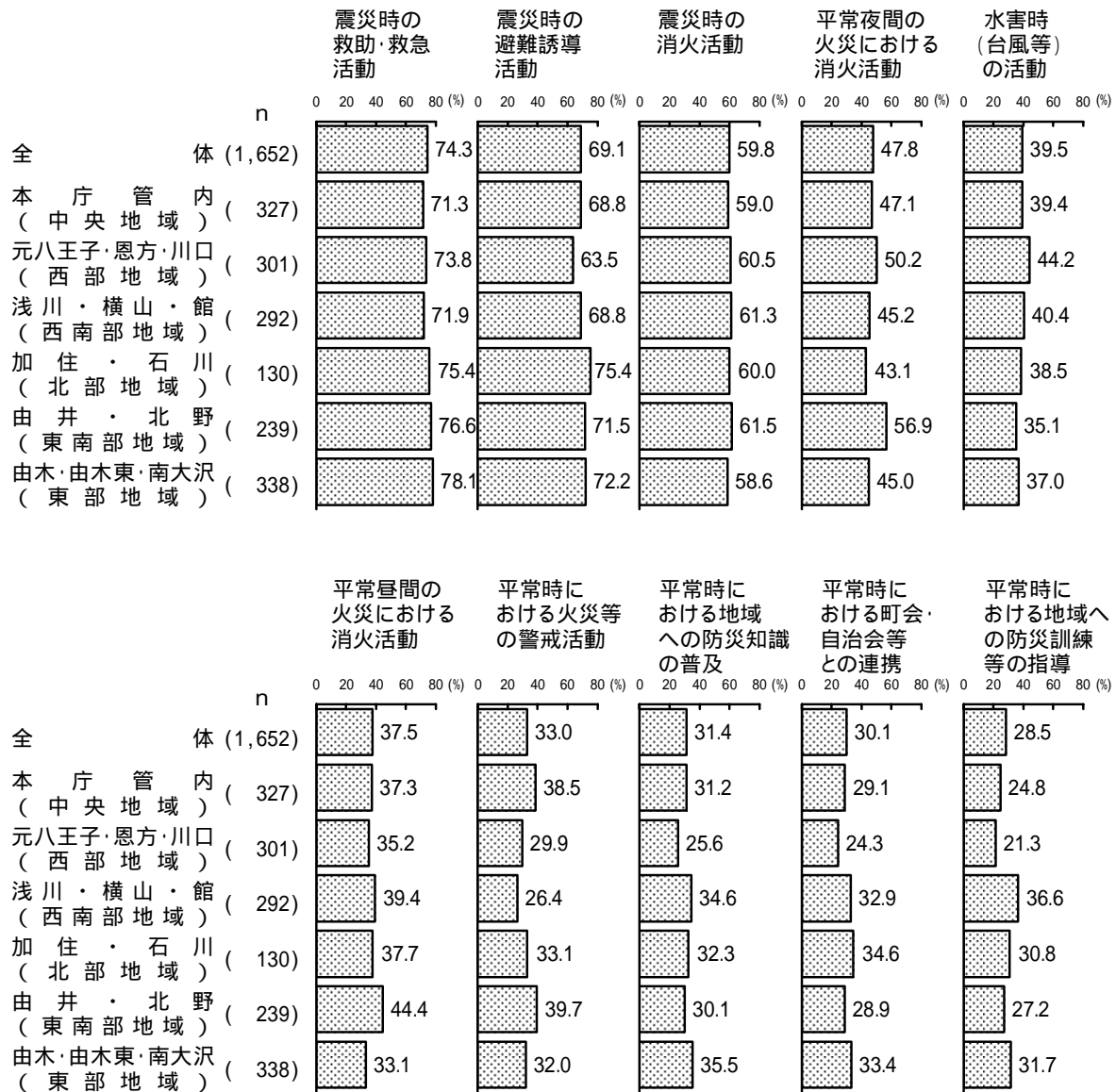
図4 - 22 - 2 消防団に望む活動 - 性別・年齢別



性別にみると、「平常昼間の火災における消火活動」は10.9ポイント、「平常夜間の火災における消火活動」は8.8ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。逆に「震災時の避難誘導活動」は9.7ポイント、「震災時の救助・救急活動」は4.6ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「震災時の救助・救急活動」は20歳代でほぼ8割(80.2%)と高くなっている。また、「震災時の避難誘導活動」は年代が下がるにつれて割合が上がり、特に20歳代ではほぼ8割(79.1%)と高くなっている。(図4 - 22 - 2)

図4 - 22 - 3 消防団に望む活動 - 居住地域別



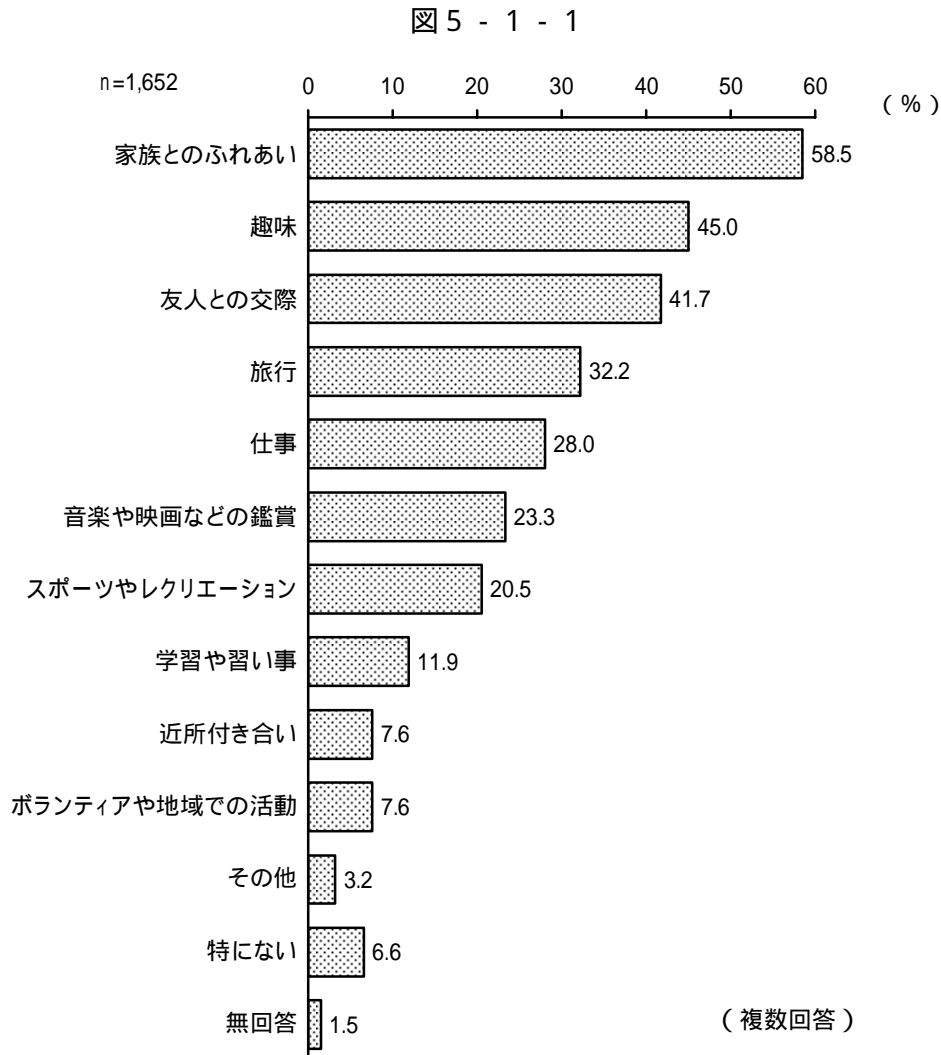
居住地域別にみると、「震災時の避難誘導活動」は加住・石川（北部地域）で7割台半ば（75.4%）と高くなっている。また、「平常夜間の火災における消火活動」は由井・北野（東南部地域）で6割弱（56.9%）と高くなっている。（図4 - 22 - 3）

5. 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度

5 - 1 現在の生きがい

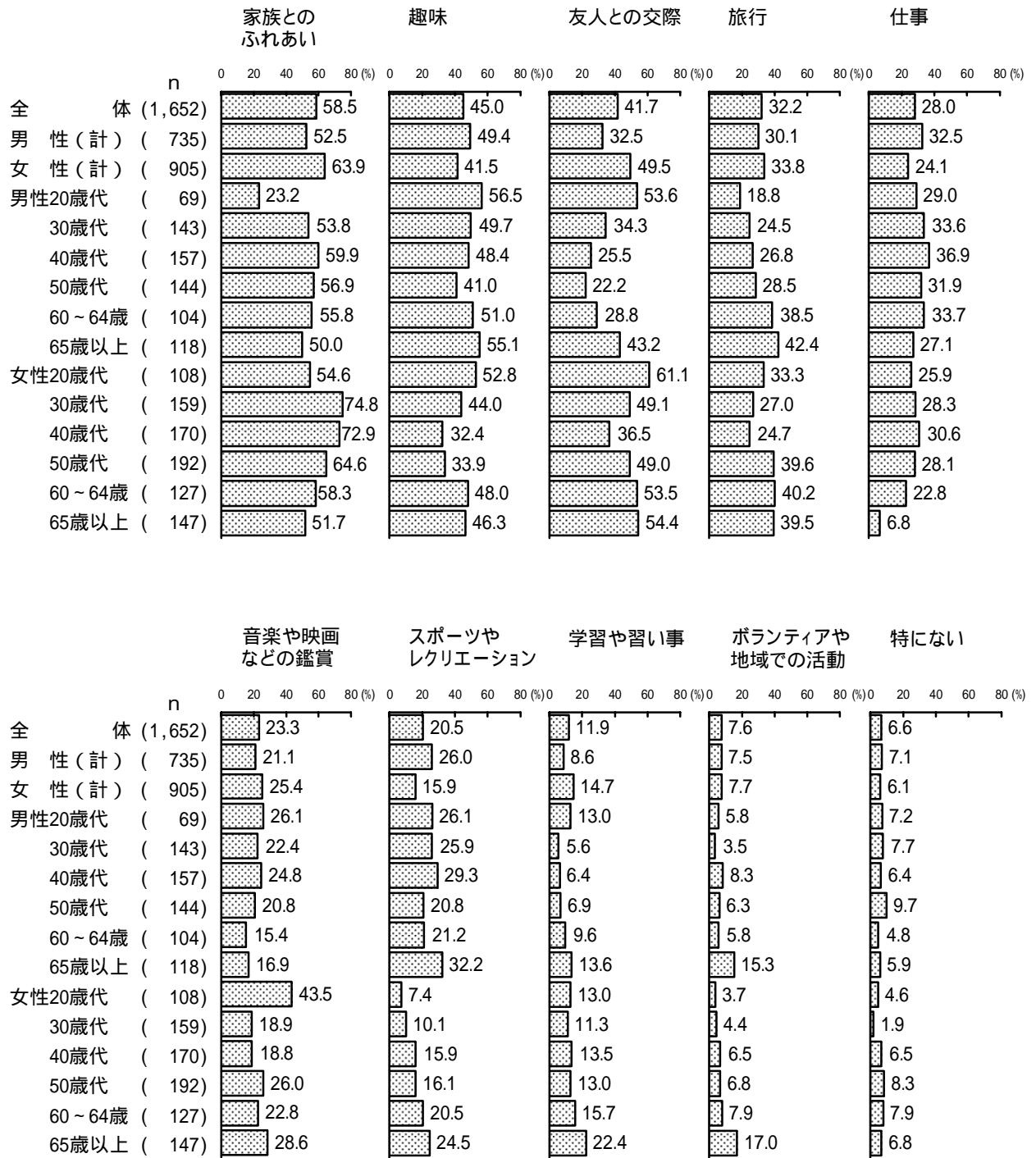
「家族とのふれあい」が6割弱

問20 あなたの現在の生きがいはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



現在の生きがいについて聞いたところ、「家族とのふれあい」が6割弱（58.5%）と最も高く、ついで「趣味」（45.0%）、「友人との交際」（41.7%）、「旅行」（32.2%）、「仕事」（28.0%）の順で続いている。（図 5 - 1 - 1）

図5 - 1 - 2 現在の生きがい - 性・年齢別（上位9項目+「特にない」）



性別にみると、「友人との交際」は17.0ポイント、「家族とのふれあい」は11.4ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「スポーツやレクリエーション」は10.1ポイント、「仕事」は8.4ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。

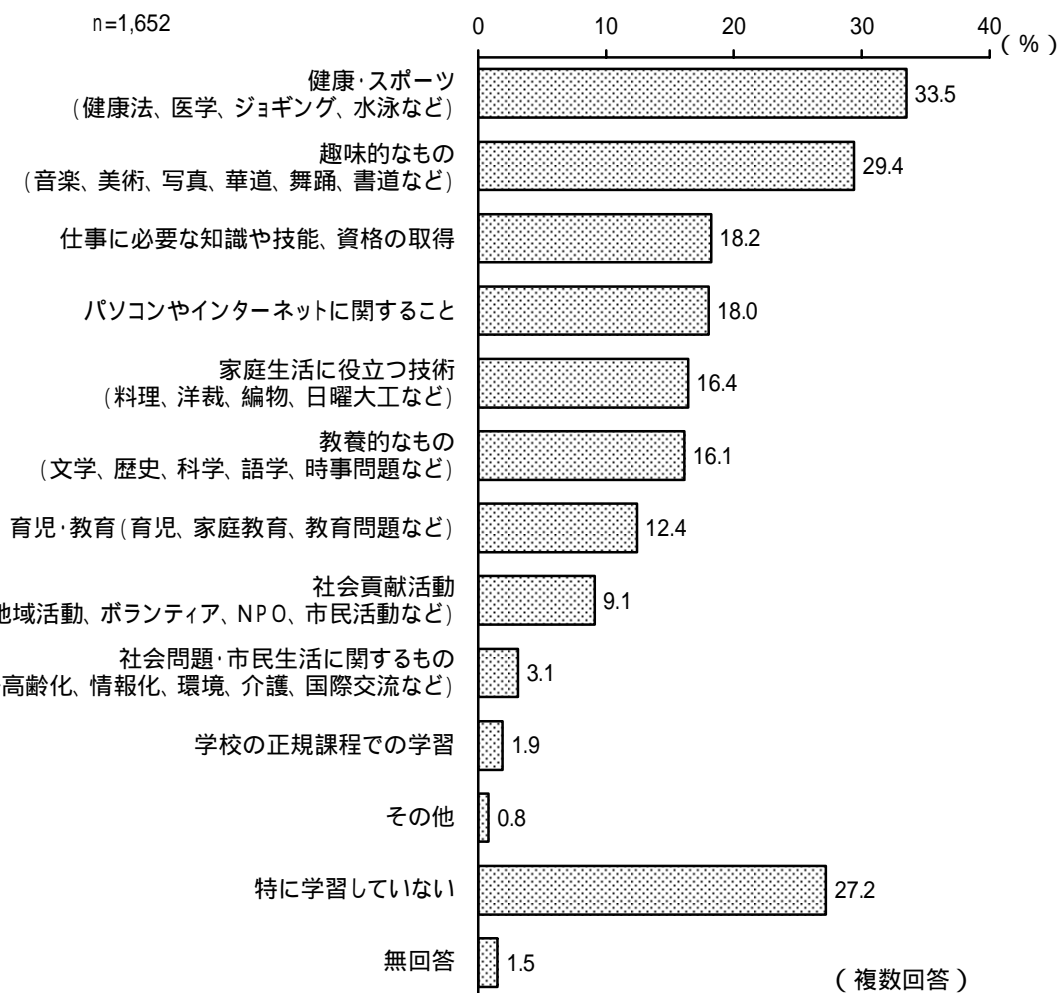
性・年齢別にみると、「家族とのふれあい」は、女性の30歳代で7割台半ば（74.8%）と高く、女性の40歳代でも7割強（72.9%）と高くなっている。「友人との交際」は女性の20歳代で6割強（61.1%）と高く、「趣味」は男性の20歳代と60歳以上、女性の20歳代で5割を超えている。また、「音楽や映画などの鑑賞」は女性の20歳代で4割強（43.5%）と高く、「スポーツやレクリエーション」は男性の65歳以上で3割強（32.2%）と高くなっている。（図5 - 1 - 2）

5 - 2 この1年間に取り組んだ生涯学習活動

「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」が3割強

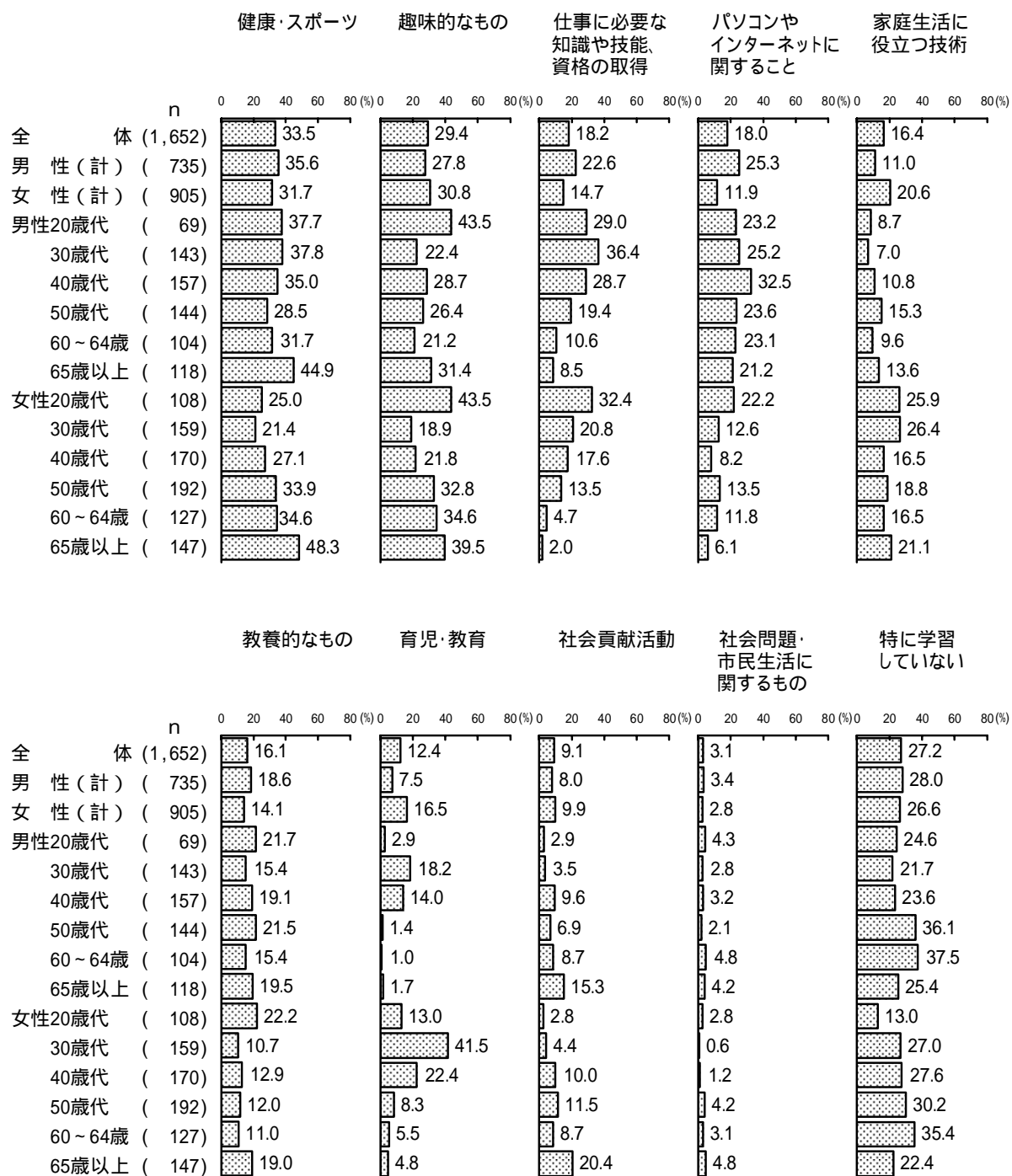
問21 あなたがこの1年間に取り組んだ生涯学習活動はどれですか。（○はいくつでも）

図5 - 2 - 1



この1年間に取り組んだ生涯学習活動について聞いたところ、「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」が3割強（33.5%）と最も高く、ついで「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道など）」（29.4%）、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」（18.2%）、「パソコンやインターネットに関すること」（18.0%）、「家庭生活に役立つ技術（料理、洋裁、編物、日曜大工など）」（16.4%）と続いている。（図5 - 2 - 1）

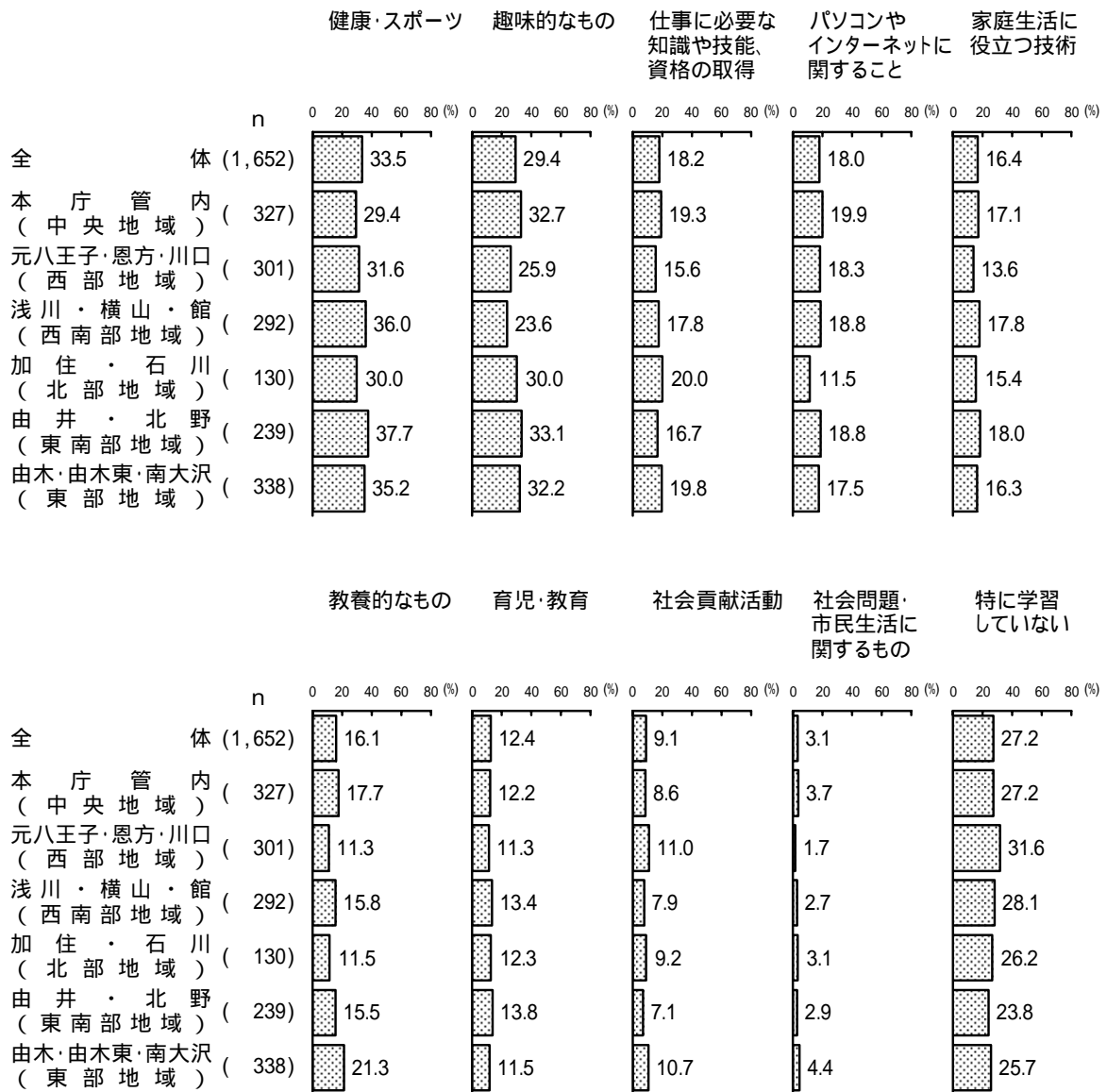
図5 - 2 - 2 この1年間に取り組んだ生涯学習活動 - 性・年齢別(上位9項目+「特に学習していない」)



性別にみると、「パソコンやインターネットに関すること」は13.4ポイント、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は7.9ポイント、それぞれ男性のほうが高く、「家庭生活に役立つ技術」は9.6ポイント、「育児・教育」は9.0ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。

性・年齢別にみると、「健康・スポーツ」は男女ともに65歳以上が4割台と高く、「趣味的なもの」では男女ともに20歳代で4割強(男女ともに43.5%)と高くなっている。「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は男女ともにおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、男性の30歳代で4割弱(36.4%)、女性の20歳代で3割強(32.4%)と高くなっている。また、「育児・教育」は女性の30歳代で4割強(41.5%)と突出して高くなっている。(図5 - 2 - 2)

図5 - 2 - 3 この1年間に取り組んだ生涯学習活動 - 居住地域別
(上位9項目+「特に学習していない」)



居住地域別にみると、「健康・スポーツ」は由井・北野（東南部地域）（37.7%）、浅川・横山・館（西南部地域）（36.0%）がともに4割弱と高くなっている。（図5 - 2 - 3）

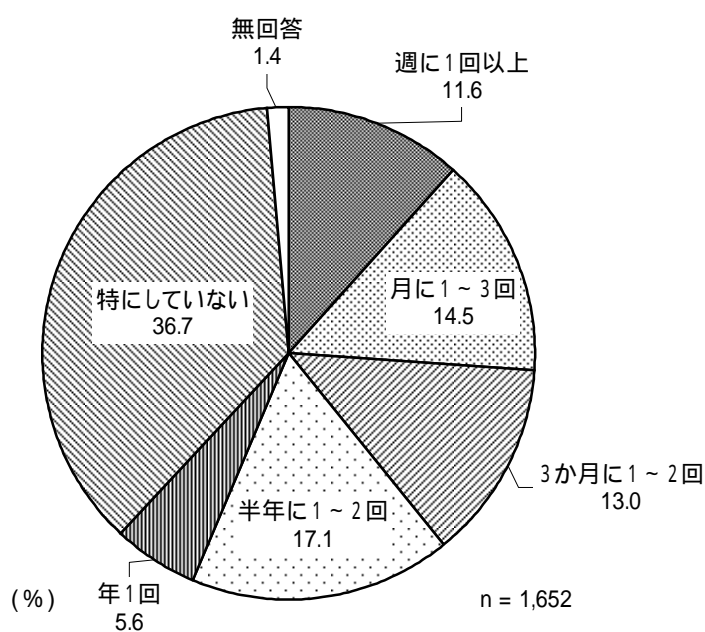
5 - 3 この1年間の芸術・文化活動の頻度

「特にしていない」が4割弱

問22 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で芸術・文化活動に参加しましたか。(鑑(観)賞も含まます)(は1つだけ)

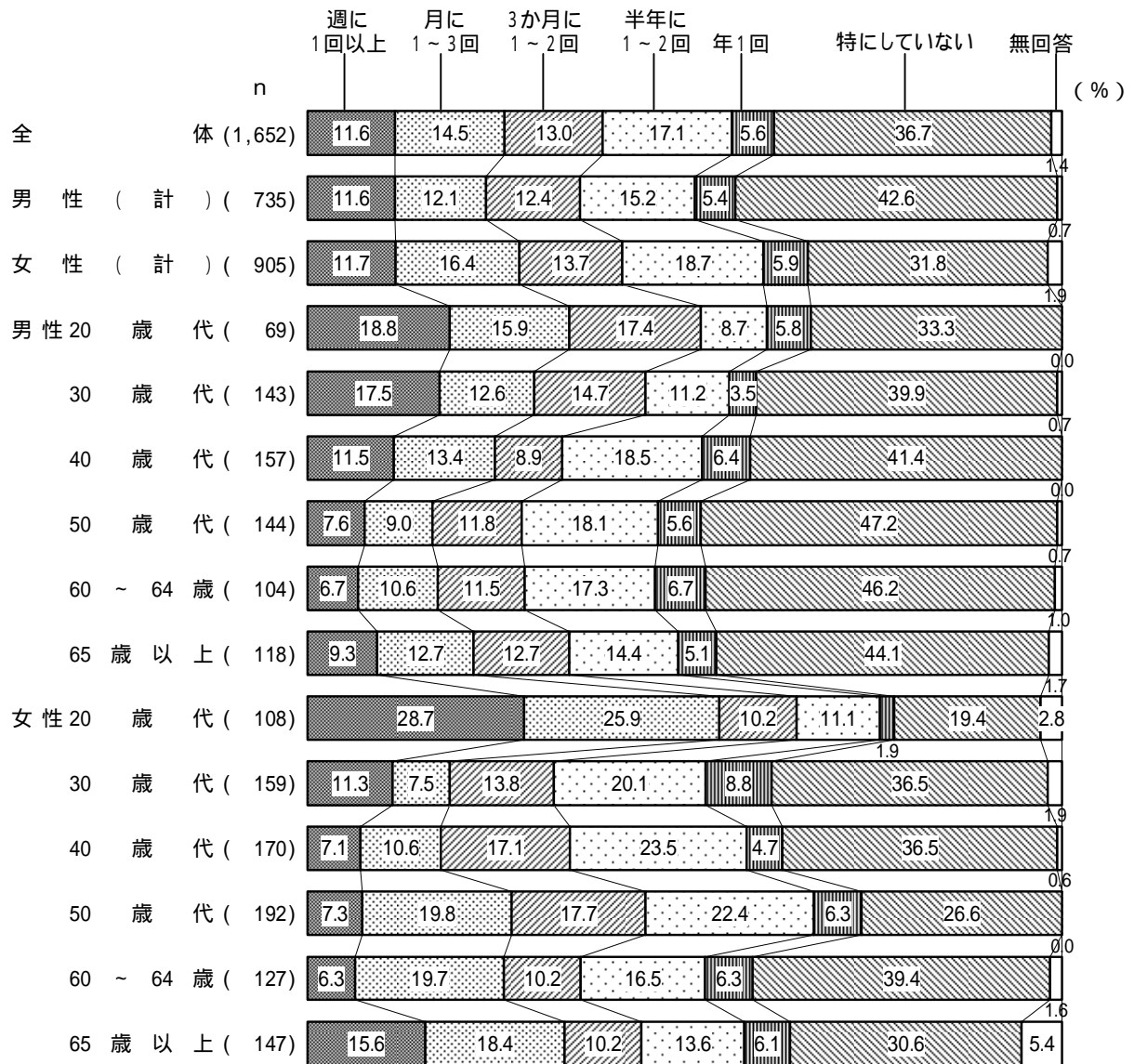
芸術・文化活動の分野は、文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊、映画、メディア芸術(デジタルアート、アニメ・マンガ、ゲームなど)、伝統芸能(山車、歌舞伎、落語など)、茶道、華道、書道、囲碁、将棋、歴史・文化財(寺社・仏閣・史跡なども含む)などです。

図5 - 3 - 1



この1年間の芸術・文化活動の参加頻度について聞いたところ、「週に1回以上」が1割強(11.6%)、「月に1~3回」が1割台半ば(14.5%)、「3か月に1~2回」が1割強(13.0%)、「半年に1~2回」が2割弱(17.1%)となっている。一方、「特にしていない」は4割弱(36.7%)となっている。(図5 - 3 - 1)

図5 - 3 - 2 この1年間の芸術・文化活動の頻度 - 性・年齢別



性別にみると、「月に1~3回」は4.3ポイント、「半年に1~2回」は3.5ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「特にしていない」は男性のほうが10.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「週に1回以上」と「月に1~3回」の合計は男女ともに20歳代(男性34.7%、女性54.6%)が最も高くなっている。一方、「特にしていない」は男性の40歳代以上の年代で4割以上と高くなっている。(図5 - 3 - 2)

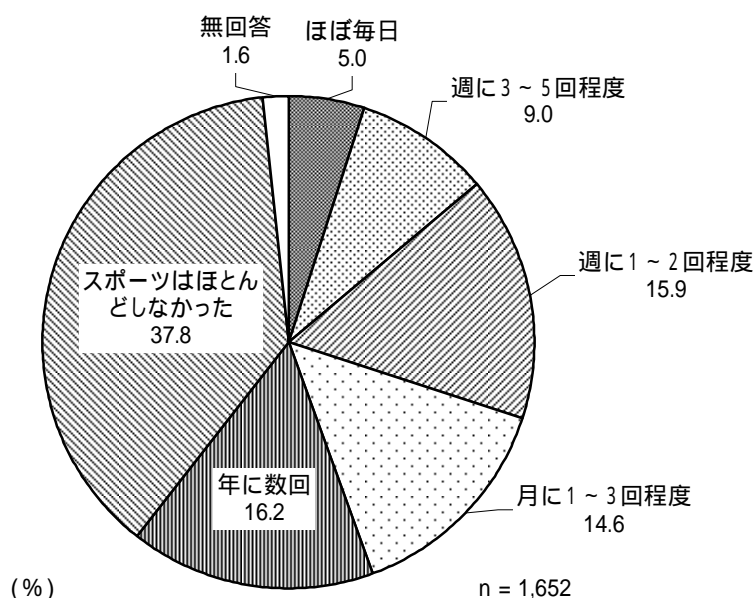
5 - 4 この1年間に行ったスポーツの頻度

『週1回以上』がほぼ3割

問23 あなたがこの1年間にスポーツを行った回数ほどのくらいですか。複数のスポーツを行っている場合は、その合計数をお答えください。(は1つだけ)

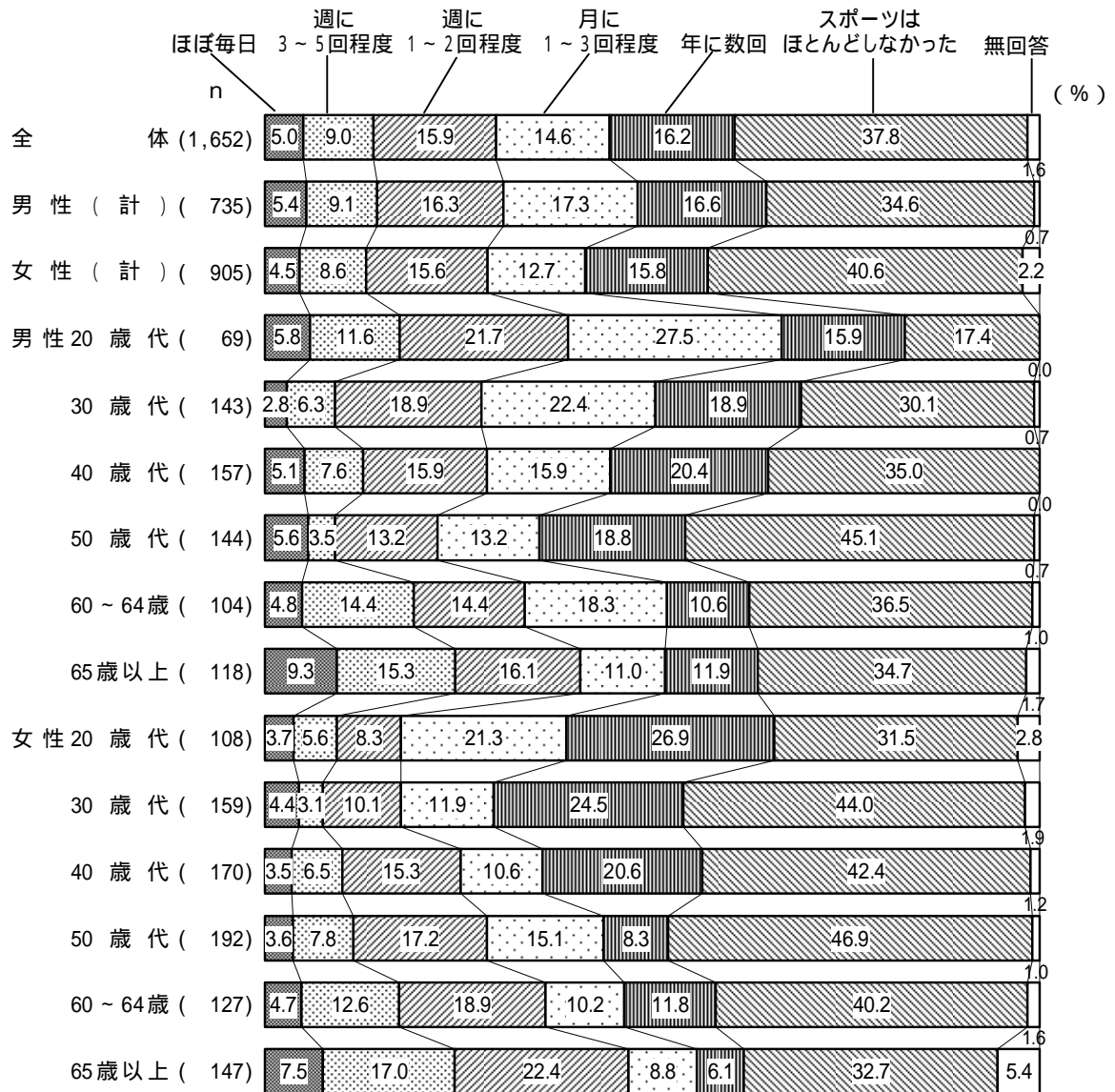
スポーツの種類は、 屋内で行う球技(卓球、バレーボール、バドミントン、バスケットボールなど) 屋内で行う健康体操(エアロビクス、ヨガなどを含む) ダンスなどの屋内レクリエーションスポーツ 体操競技 武道 器具を使ったトレーニング 屋外で行う球技(野球、サッカー、テニス、ゴルフなど) 陸上競技 ジョギング、サイクリング、ウォーキングなど 登山やハイキングなどの野外活動 ゲートボールやグラウンドゴルフなどの屋外レクリエーションスポーツ スキー、スノーボード、スケート サーフィンやダイビングなどのマリンスポーツ エクストリーム・スポーツ(スケートボード、インラインスケート、BMXなど) 水泳など その他のスポーツ などです。

図 5 - 4 - 1



この1年間にスポーツを行った回数を聞いたところ、「ほぼ毎日」(5.0%)、「週に3~5回程度」(9.0%)、「週に1~2回程度」(15.9%)を合わせた『週1回以上』がほぼ3割(29.9%)となっている。「月に1~3回程度」は1割台半ば(14.6%)、「年に数回」は2割弱(16.2%)、「スポーツはほとんどしなかった」は4割弱(37.8%)となっている。(図5-4-1)

図5 - 4 - 2 この1年間に行ったスポーツの頻度 - 性・年齢別

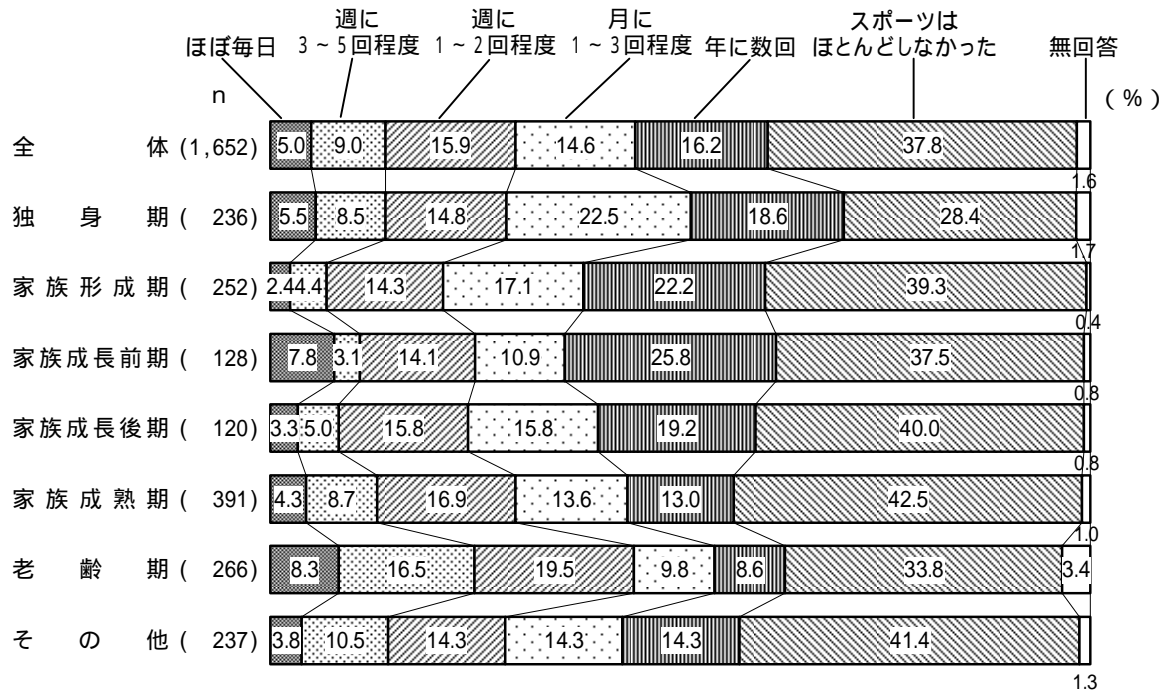


性別にみると、「月に1~3回程度」は男性のほうが4.6ポイント高くなっている。逆に「スポーツはほとんどしなかった」は女性のほうが6.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「週1回以上」は女性の65歳以上で5割弱(46.9%)と高くなっている。また、「スポーツはほとんどしなかった」は女性の50歳代で5割弱(46.9%)と高くなっている。

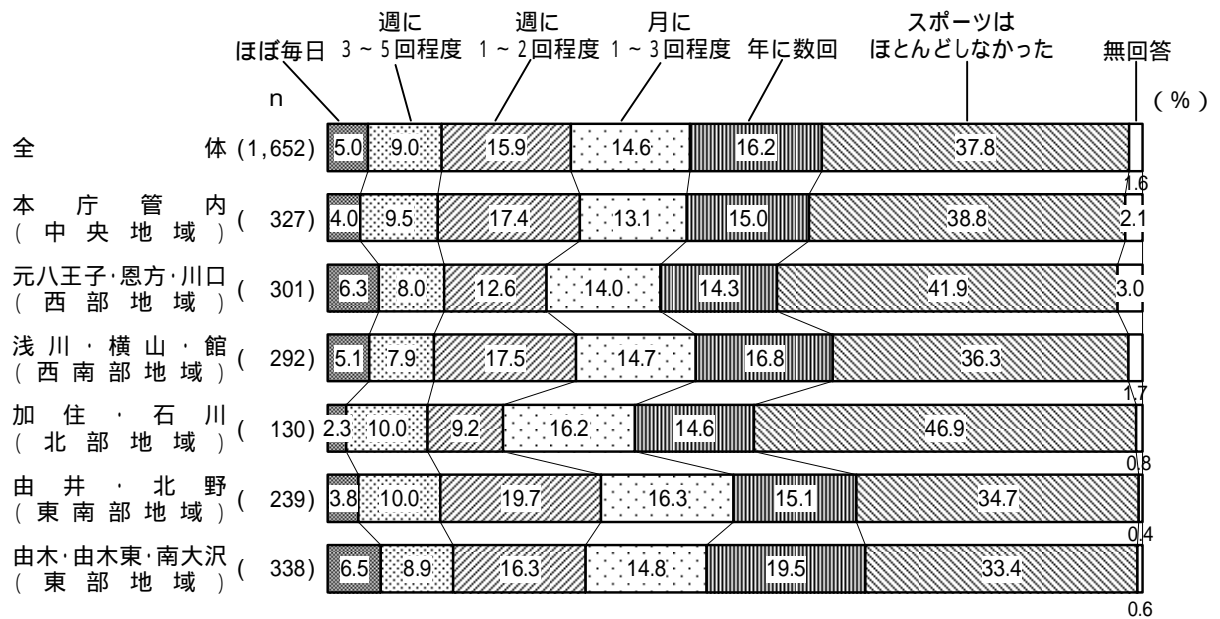
(図5 - 4 - 2)

図5 - 4 - 3 この1年間に行ったスポーツの頻度 - ライフステージ別



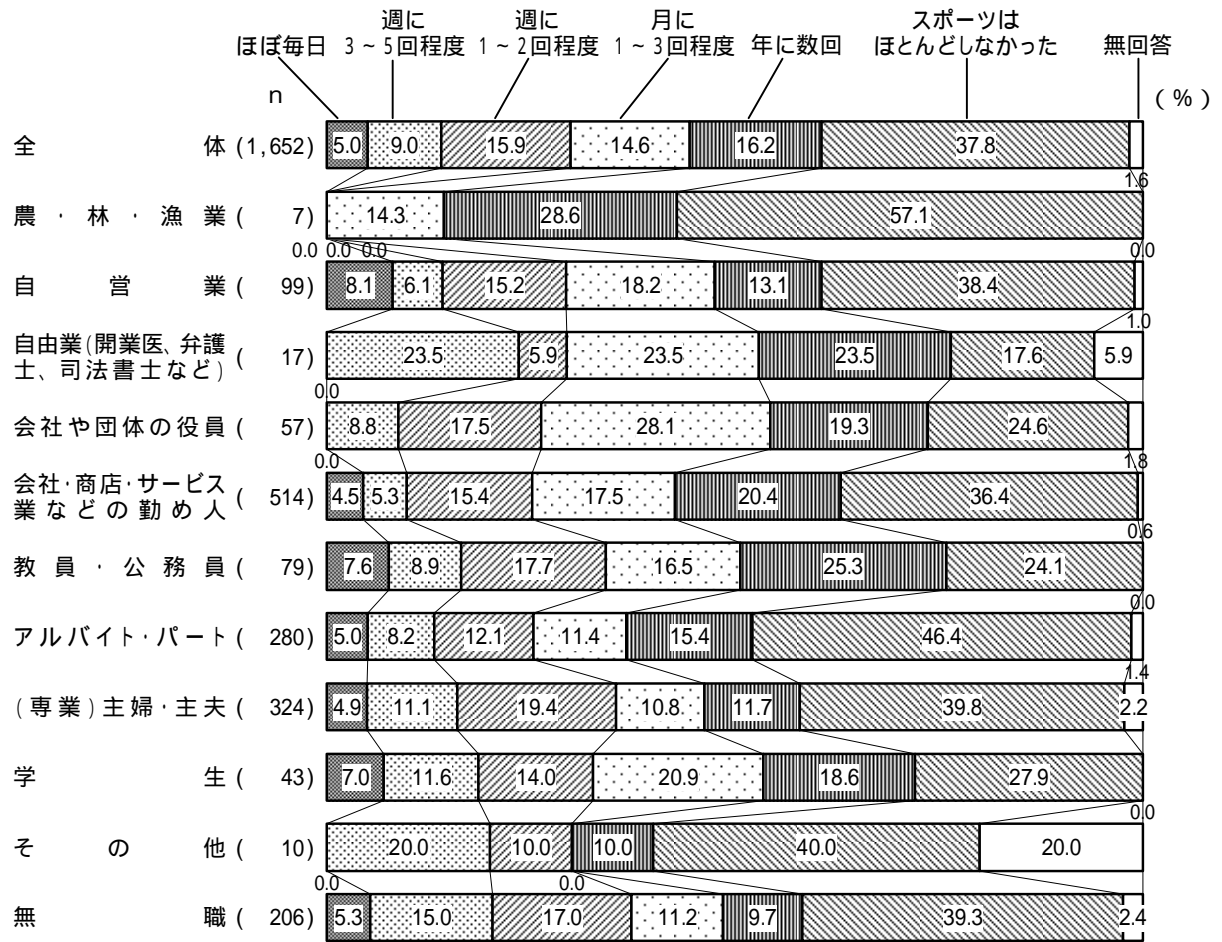
ライフステージ別にみると、『週1回以上』は老齢期が4割台半ば(44.3%)と高くなっている。
(図5 - 4 - 3)

図5 - 4 - 4 この1年間に行ったスポーツの頻度 - 居住地域別



居住地域別にみると、『週1回以上』は由井・北野(東南部地域)で3割強(33.5%)と高くなっている。また、「スポーツはほとんどしなかった」は加住・石川(北部地域)で5割弱(46.9%)と高くなっている。(図5 - 4 - 4)

図5 - 4 - 5 この1年間に行ったスポーツの頻度 - 職業別



職業別にみると、『週1回以上』は無職で4割弱(37.3%)、(専業)主婦・主夫(35.4%)、教員・公務員(34.2%)はともに3割台半ばと高くなっている。(図5 - 4 - 5)

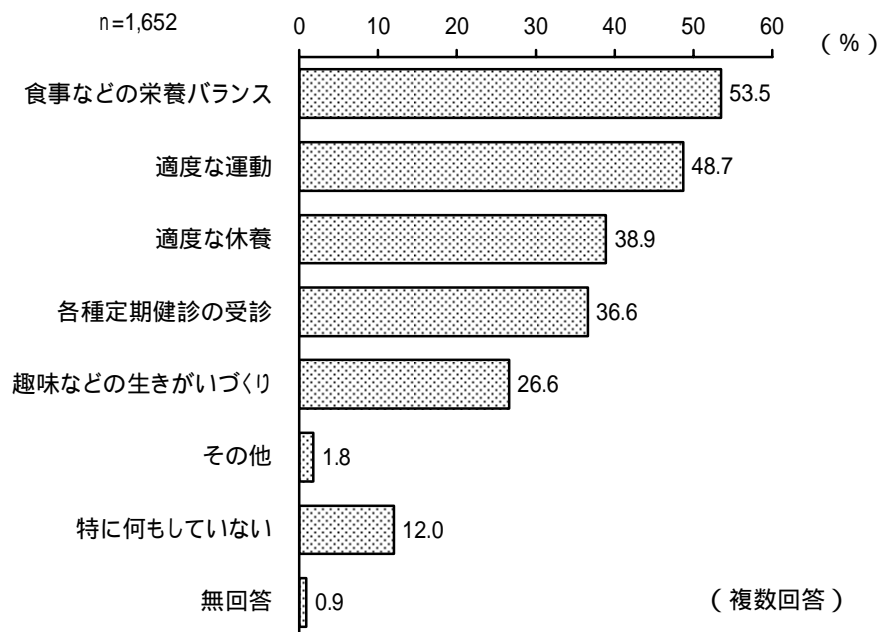
5 - 5 健康のために心がけていること

「食事などの栄養バランス」が5割強

問24 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけて行動していることはどれですか。

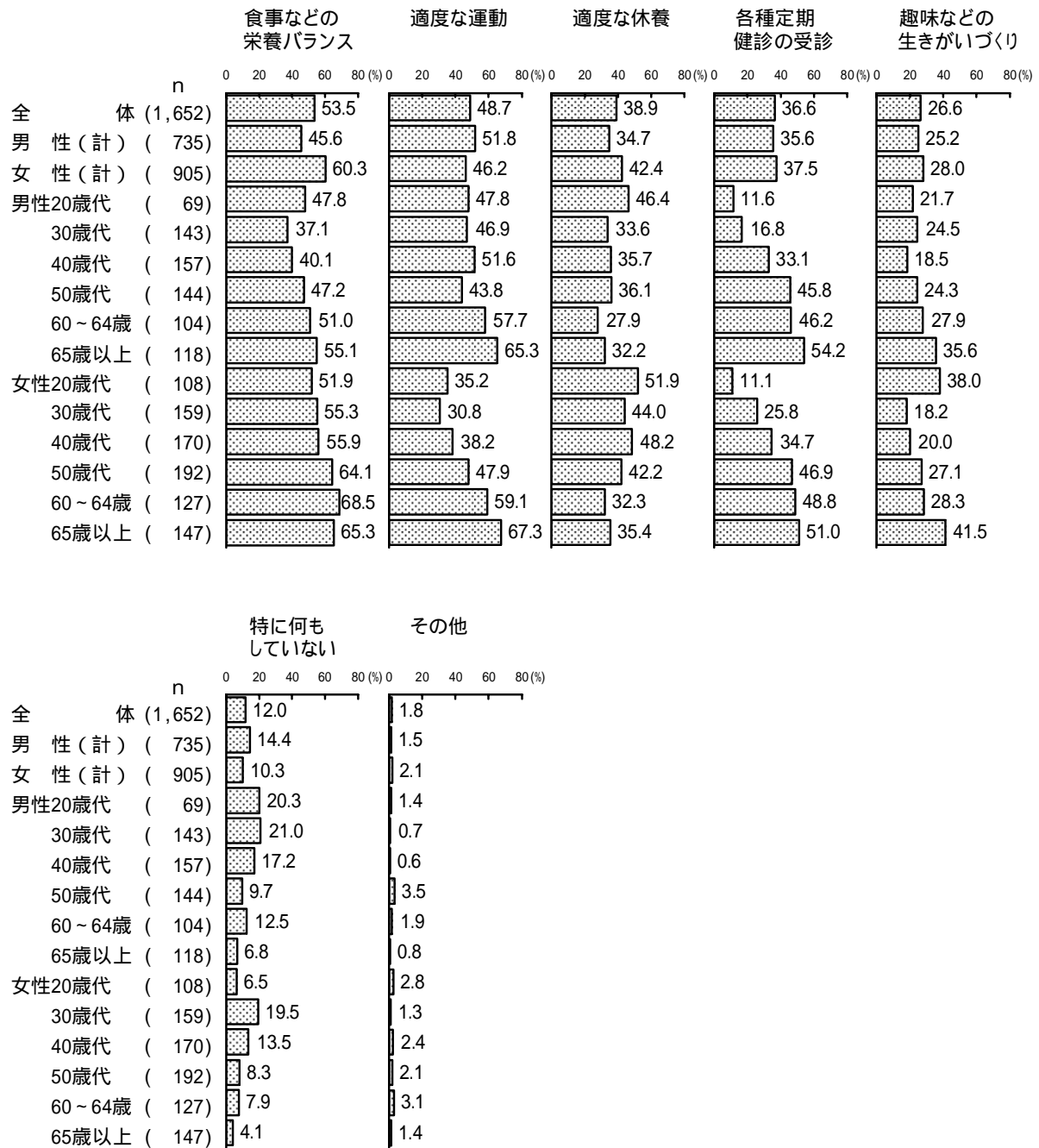
(○はいくつでも)

図5 - 5 - 1



健康の維持・増進のために自ら心がけて行動していることについて聞いたところ、「食事などの栄養バランス」が5割強（53.5%）と最も高く、ついで「適度な運動」（48.7%）、「適度な休養」（38.9%）、「各種定期健診の受診」（36.6%）と続いている。（図5 - 5 - 1）

図5 - 5 - 2 健康のために心がけていること - 性・年齢別



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は14.7ポイント、「適度な休養」は7.7ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「適度な運動」は男性のほうが5.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性の50歳代以上の年代で、6割台と高くなっている。「適度な運動」は男女ともに65歳以上で6割台と高くなっている。また、「各種定期健診の受診」は男女ともに年代が上がるにつれて割合が高く、男性の65歳以上で5割台半ば(54.2%)、女性の65歳以上で5割強(51.0%)と高くなっている。(図5 - 5 - 2)

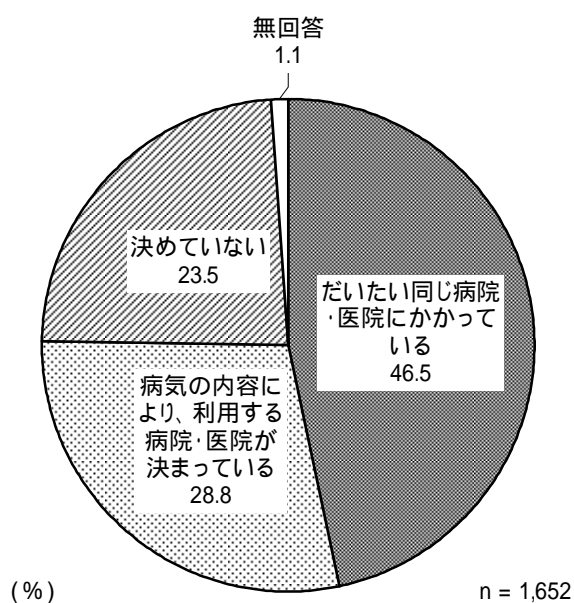
5 - 6 かかりつけの医療機関の有無

『かかりつけの医療機関を決めている』が7割台半ば

問25 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(は1つだけ)

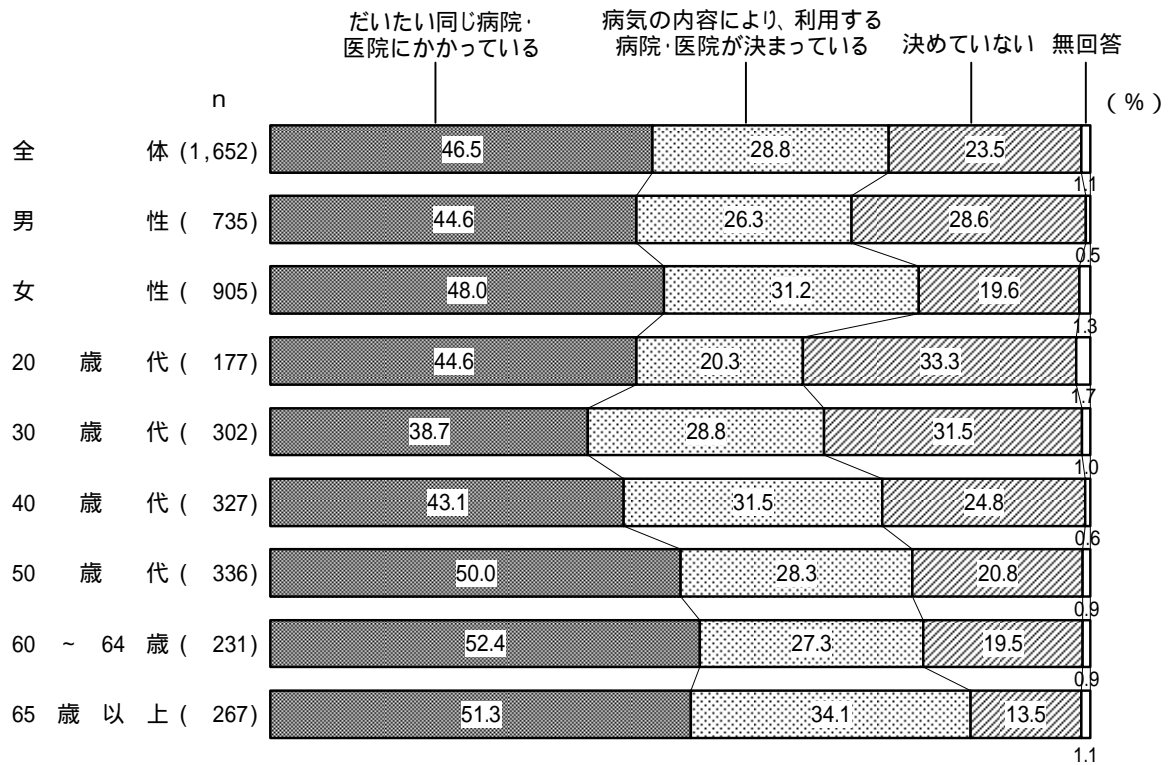
「かかりつけの医療機関」とは、自分の体の状態を把握している身近な医療機関のことで、普段の健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

図5 - 6 - 1



かかりつけの医療機関の有無について聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(46.5%)、「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(28.8%)を合わせた『かかりつけの医療機関を決めている』は7割台半ば(75.3%)となっている。一方、「決めていない」は2割強(23.5%)となっている。(図5 - 6 - 1)

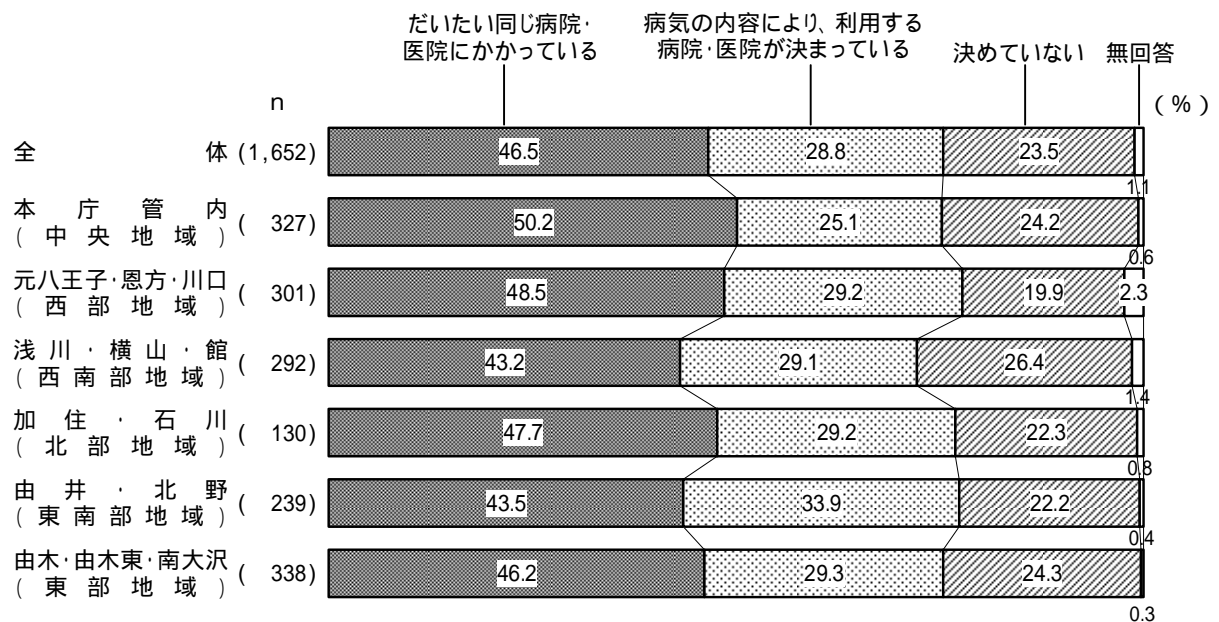
図5 - 6 - 2 かかりつけの医療機関の有無 - 性別・年齢別



性別にみると、『かかりつけの医療機関を決めている』は女性のほうが8.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「決めていない」は年代が下がるにつれて割合が上がり、特に20歳代では3割強（33.3%）と高くなっている。（図5 - 6 - 2）

図5 - 6 - 3 かかりつけの医療機関の有無 - 居住地域別



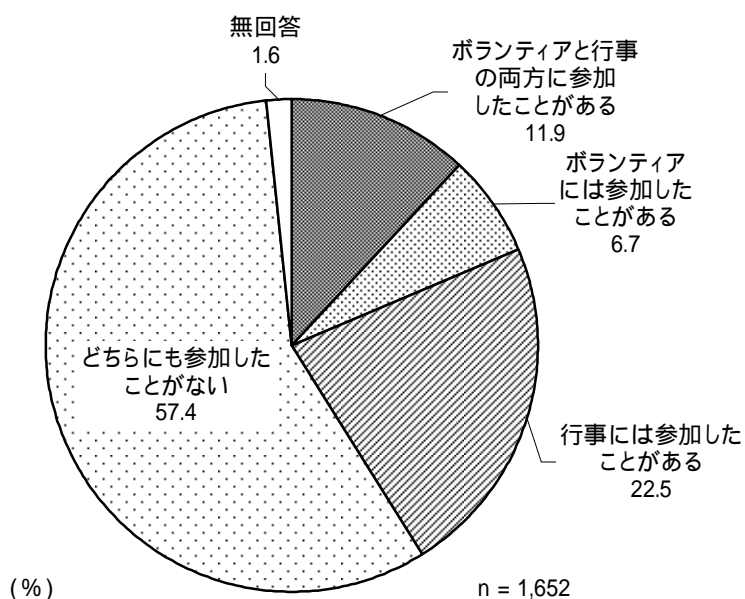
居住地域別にみると、「決めていない」は浅川・横山・館（西南部地域）で3割弱（26.4%）と高くなっている。（図5 - 6 - 3）

5 - 7 この1年間の地域行事への参加

『参加したことがある』が4割強

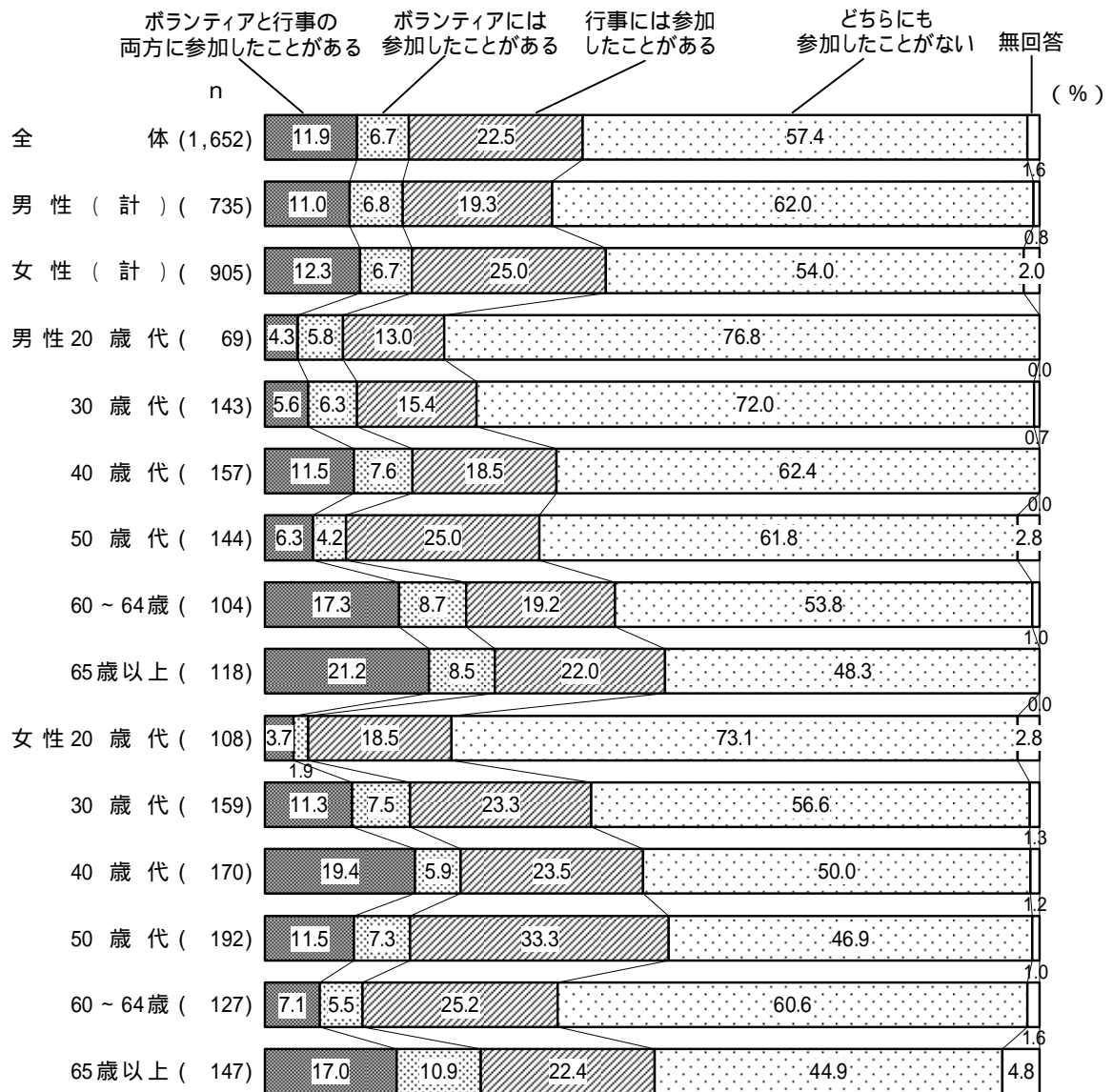
問26 あなたは、この1年間に地域の中でボランティア活動（清掃や防犯・防災活動、学校教育や地域スポーツ活動への支援・協力など）や行事（町内会等の地域のイベント・お祭りなど）に参加したことがありますか。（は1つだけ）

図5 - 7 - 1



この1年間に地域の中でボランティア活動や行事に参加したことがあるかを聞いたところ、「行事には参加したことがある」は2割強（22.5%）、「ボランティアと行事の両方に参加したことがある」（11.9%）、「ボランティアには参加したことがある」（6.7%）を合わせた『参加したことがある』は4割強（41.1%）となっている。一方、「どちらにも参加したことがない」は6割弱（57.4%）となっている。（図5 - 7 - 1）

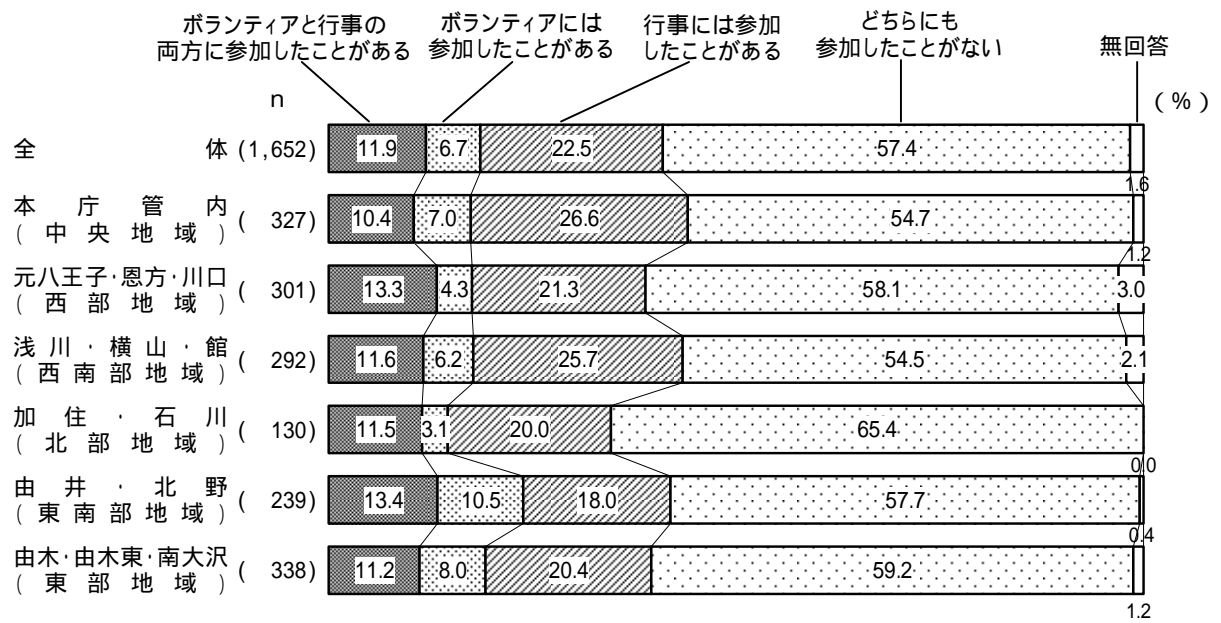
図5 - 7 - 2 この1年間の地域行事への参加 - 性・年齢別



性別にみると、『参加したことがある』は女性のほうが6.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『参加したことがある』は女性の50歳代（52.1%）、男性の65歳以上（51.7%）でともに5割強と高くなっている。（図5 - 7 - 2）

図5 - 7 - 3 この1年間の地域行事への参加 - 居住地域別



居住地域別にみると、『参加したことがある』は本庁管内（中央地域）で4割台半ば（44.0%）、浅川・横山・館（西南部地域）で4割強（43.5%）と高くなっている。（図5 - 7 - 3）

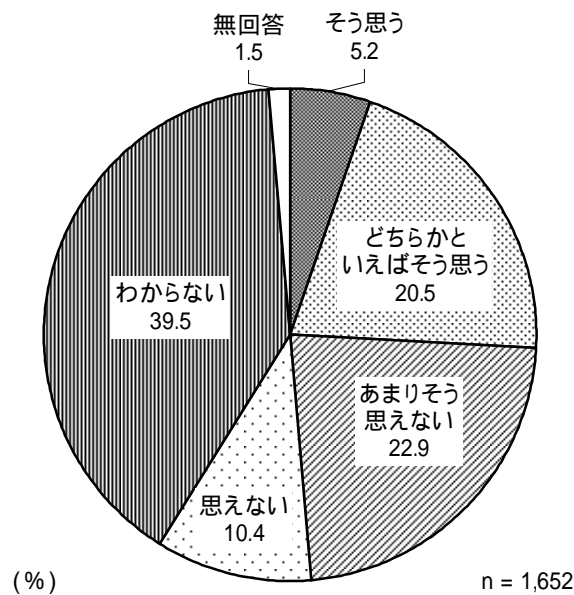
5 - 8 市民協働の推進状況

『そう思う』は2割台半ば

問27 あなたは、市が市民協働のまちづくりを進めていると感じますか。(は1つだけ)

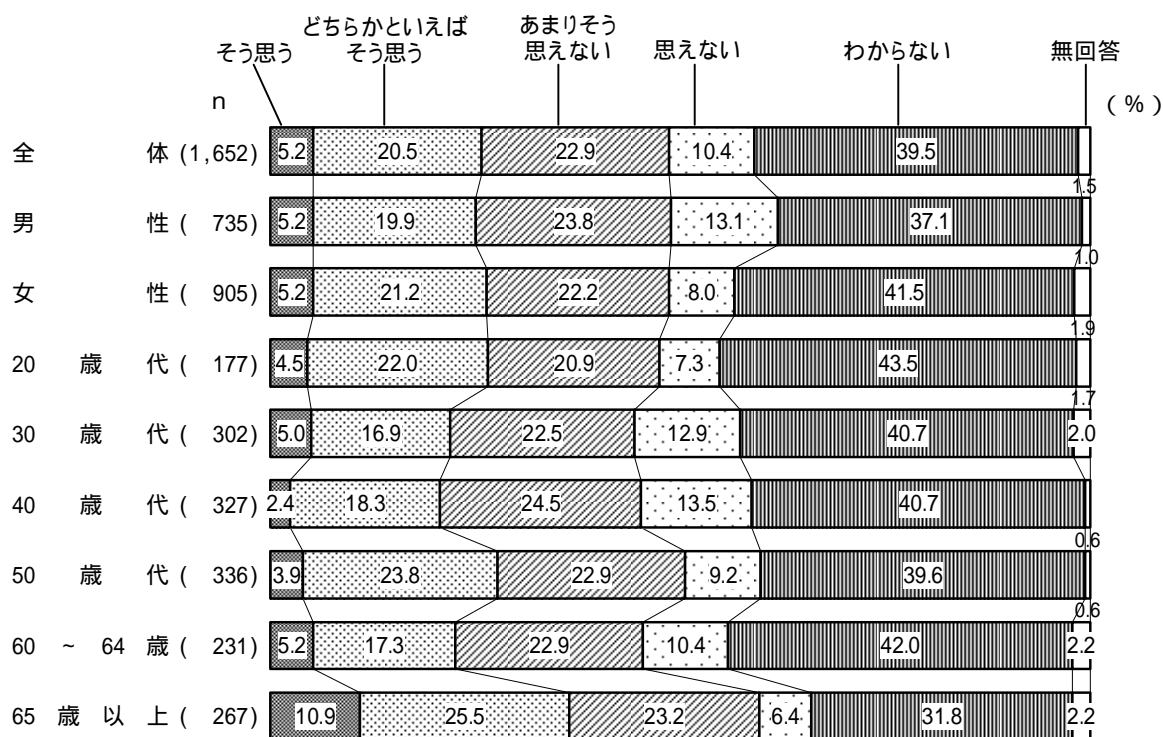
市では、市民参加条例に基づいて、計画・条例等の立案過程でのパブリックコメント(意見公募)の実施、各種審議会の市民委員の公募、アンケート調査の実施など、市政への市民参加機会の充実に努めています。この取り組みを通じて、市民の皆さんと行政が、対等なパートナーとして連携し、課題に取り組むまちを目指しています。

図5 - 8 - 1



市が市民協働のまちづくりを進めていると感じるかどうかを聞いたところ、「そう思う」は5.2%にとどまり、「どちらかといえはそう思う」(20.5%)と合わせた『そう思う』は2割台半ば(25.7%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(22.9%)と「思えない」(10.4%)を合わせた『思えない』は3割強(33.3%)となっている。(図5 - 8 - 1)

図5 - 8 - 2 市民協働の推進状況 - 性別・年齢別

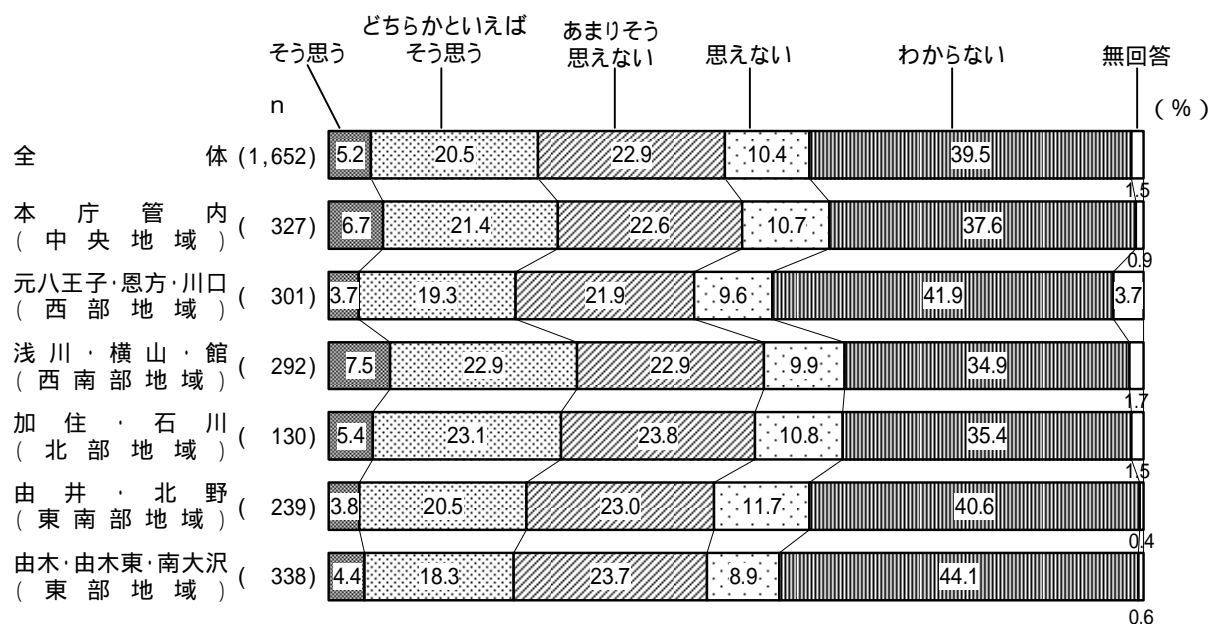


性別にみると、『思えない』は男性のほうが6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』は65歳以上で4割弱（36.4%）と高くなっている。

(図5 - 8 - 2)

図5 - 8 - 3 市民協働の推進状況 - 居住地域別



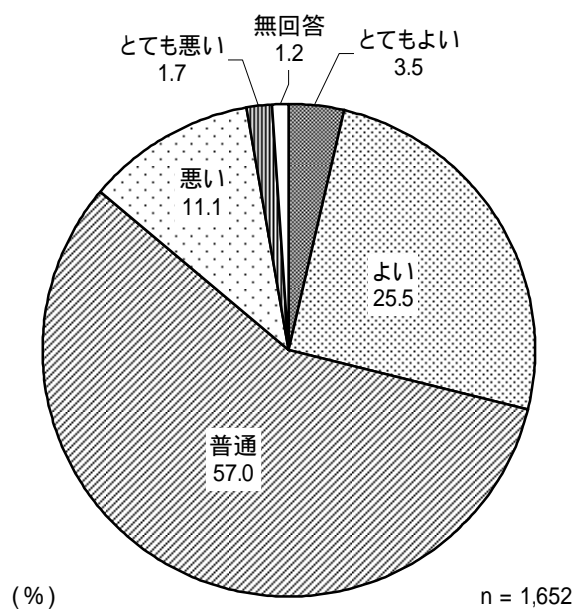
居住地域別にみると、『そう思う』は浅川・横山・館（西南部地域）でほぼ3割（30.4%）と高くなっている。(図5 - 8 - 3)

5 - 9 日常生活環境の治安

『よい』がほぼ3割

問28 あなたは、あなたのお住まいの地域の治安がよいと感じますか。(は1つだけ)

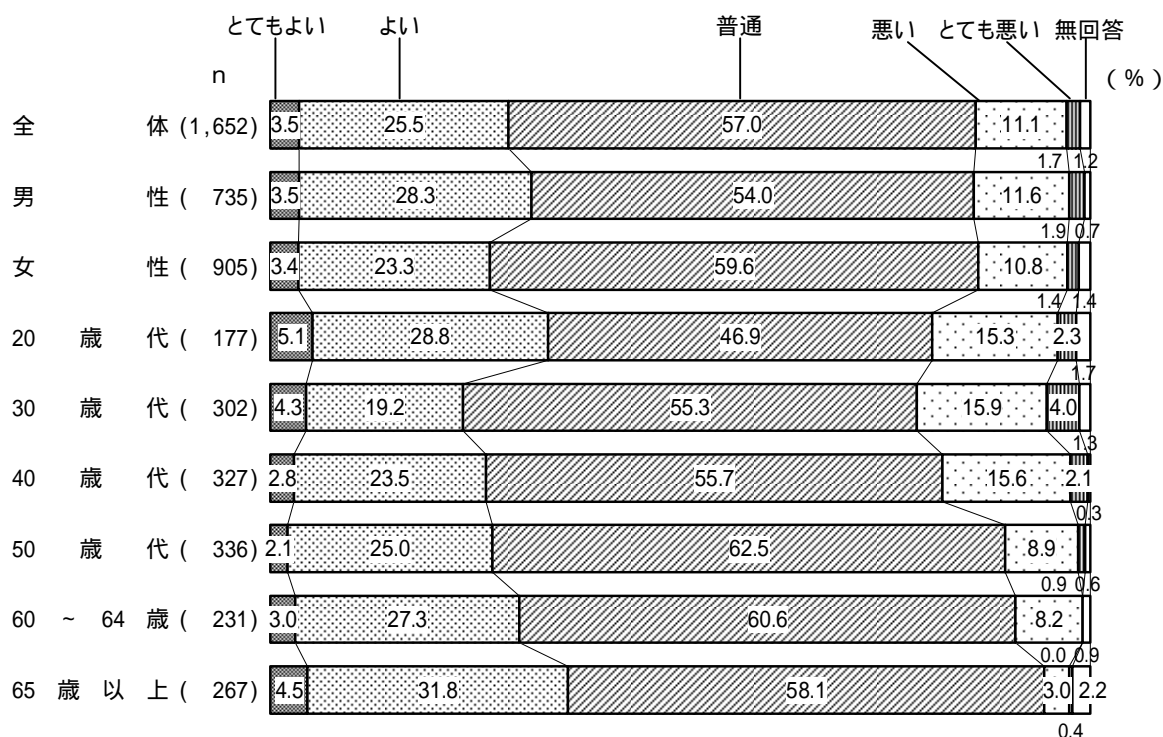
図5 - 9 - 1



地域の治安がよいと感じるかどうかを聞いたところ、「よい」は2割台半ば(25.5%)、これに「とてもよい」(3.5%)を合わせた『よい』はほぼ3割(29.0%)となっている。一方、「悪い」(11.1%)と「とても悪い」(1.7%)を合わせた『悪い』は1割強(12.8%)となっている。

(図5 - 9 - 1)

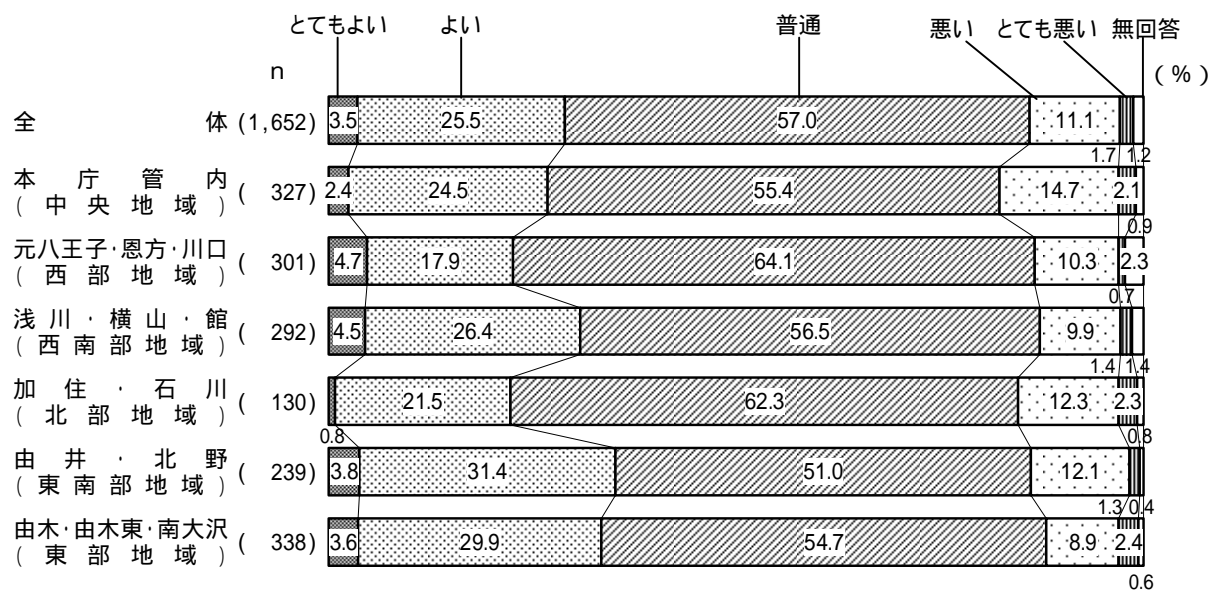
図5 - 9 - 2 日常生活環境の治安 - 性別・年齢別



性別にみると、『よい』は男性のほうが5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『よい』は65歳以上で4割弱（36.3%）と高くなっている。（図5 - 9 - 2）

図5 - 9 - 3 日常生活環境の治安 - 居住地域別



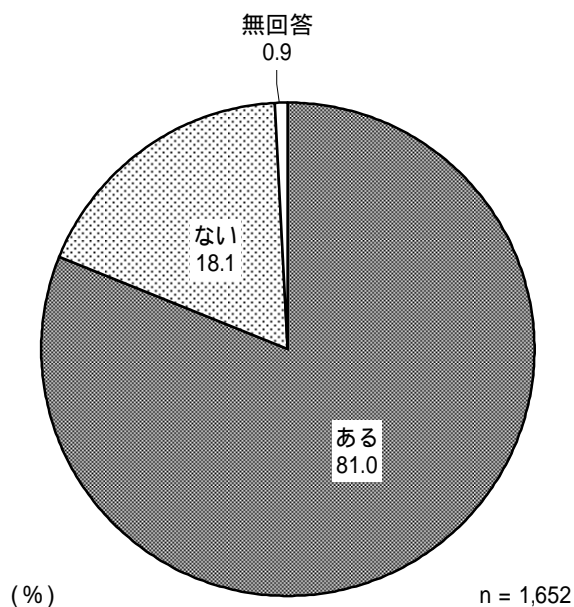
居住地域別にみると、『よい』は由井・北野（東南部地域）で3割台半ば（35.2%）と高くなっている。（図5 - 9 - 3）

5 - 10 市の窓口の利用の有無

利用したことが「ある」人は8割強

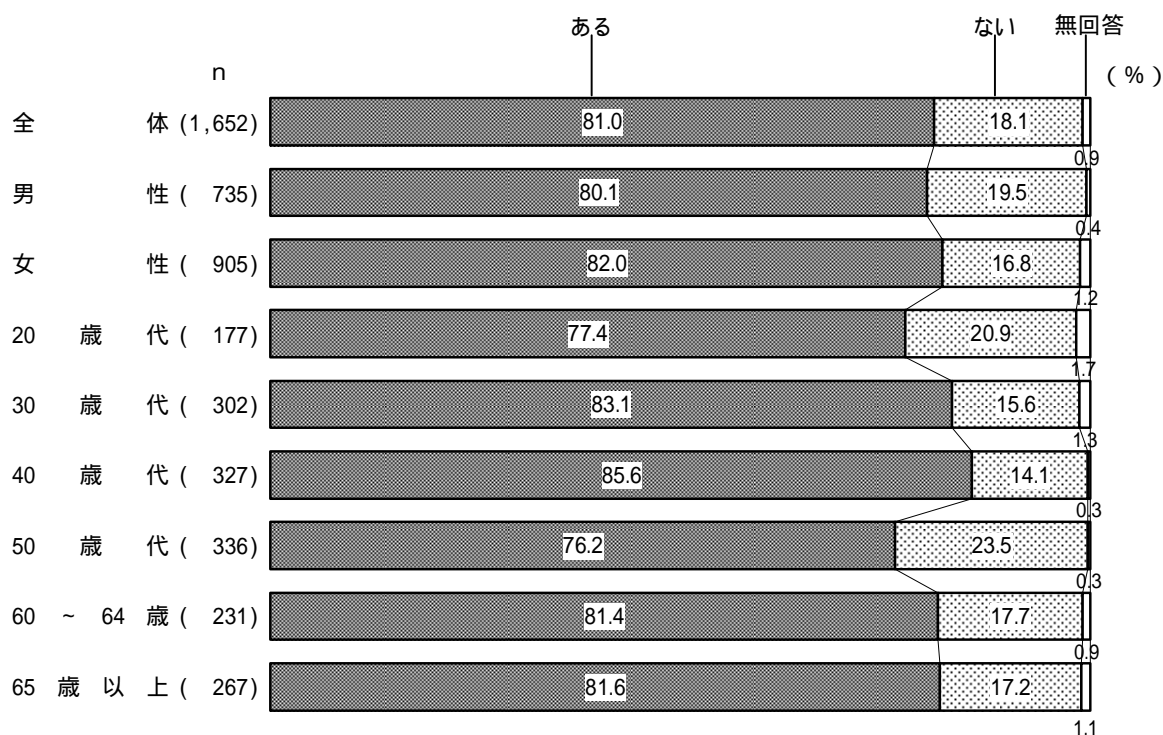
問29 あなたは、この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健所、保健センターなど、市の窓口を利用したことはありますか。(は1つだけ)

図5 - 10 - 1



この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健所、保健センターなど、市の窓口を利用したことがあるかを聞いたところ、「ある」が8割強(81.0%)を占め、「ない」は2割弱(18.1%)となっている。(図5 - 10 - 1)

図5 - 10 - 2 市の窓口の利用の有無 - 性別・年齢別

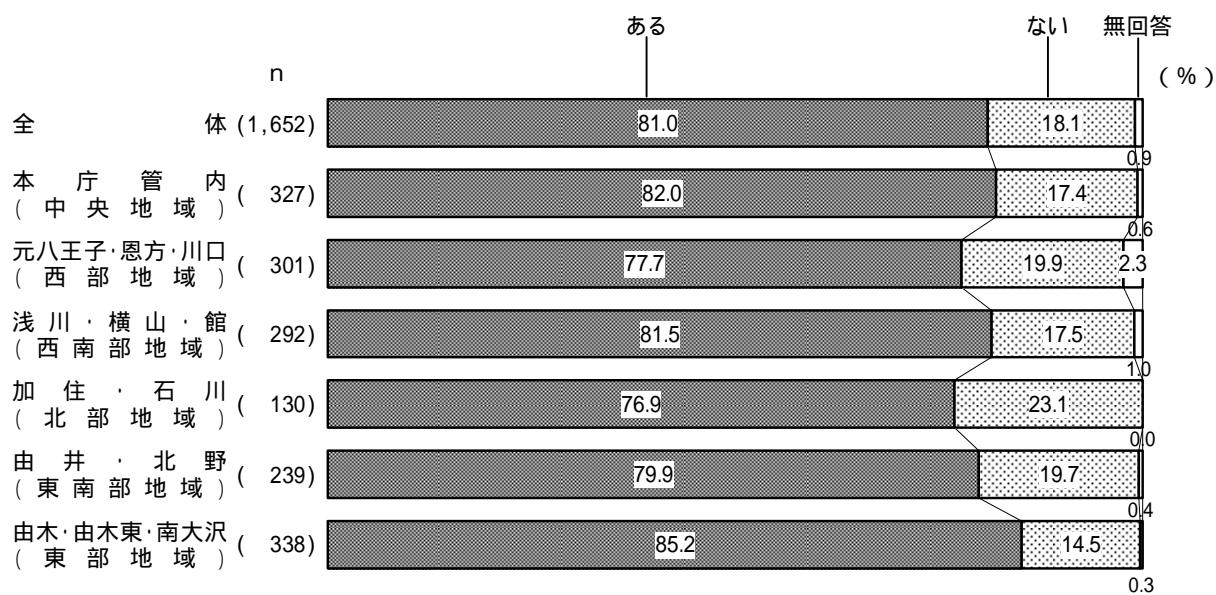


性別にみると、「ない」は2.7ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「ある」は40歳代で8割台半ば（85.6%）と高くなっている。

(図5 - 10 - 2)

図5 - 10 - 3 市の窓口の利用の有無 - 居住地域別



居住地域別にみると、「ある」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で8割台半ば（85.2%）と高くなっている。(図5 - 10 - 3)

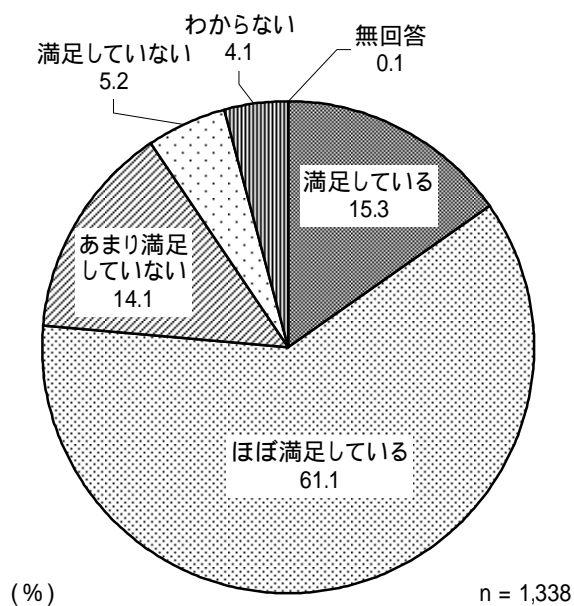
5 - 11 市の窓口サービスの満足度

『満足』が8割弱を占める

(問29で「ある」とお答えの方に)

問29 - 1 あなたは、市の窓口サービス（接客度や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（ は1つだけ）

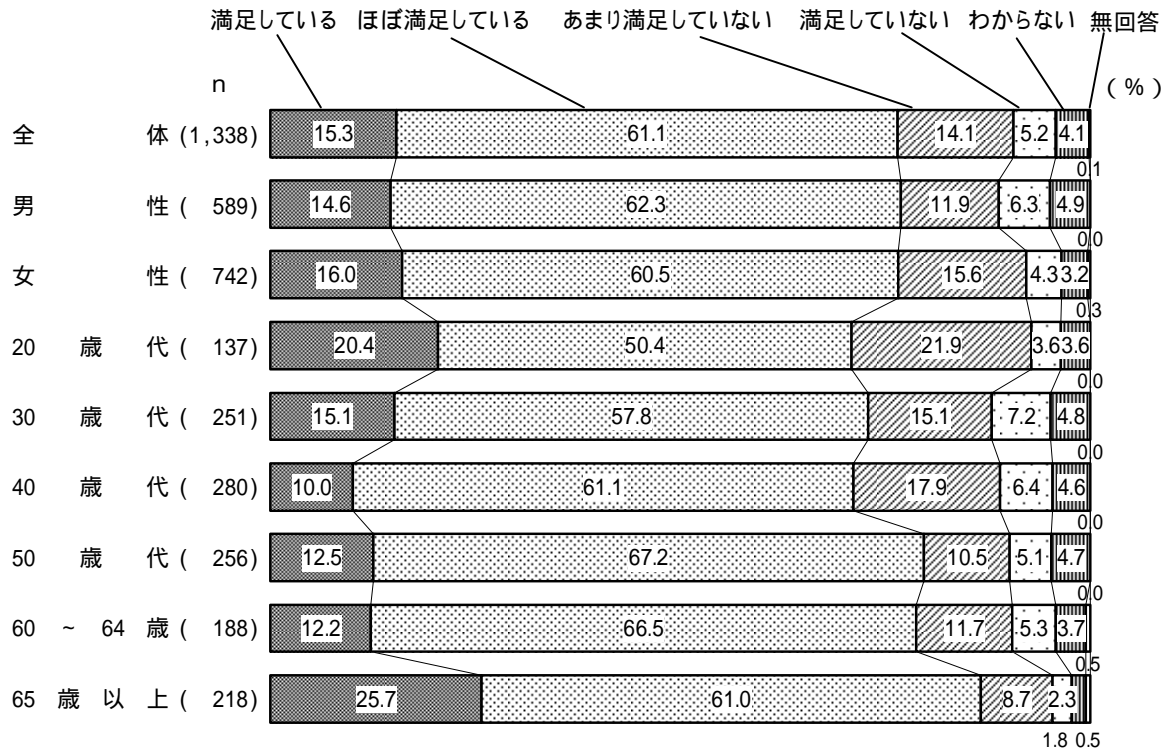
図5 - 11 - 1



この1年間で市の窓口の利用が「ある」と答えた人（1,338人）に、市の窓口サービスの満足度について聞いたところ、「ほぼ満足している」が6割強（61.1%）と最も高く、「満足している」（15.3%）と合わせた『満足』は8割弱（76.4%）となっている。一方、「あまり満足していない」（14.1%）と「満足していない」（5.2%）を合わせた『不満』はほぼ2割（19.3%）となっている。

(図5 - 11 - 1)

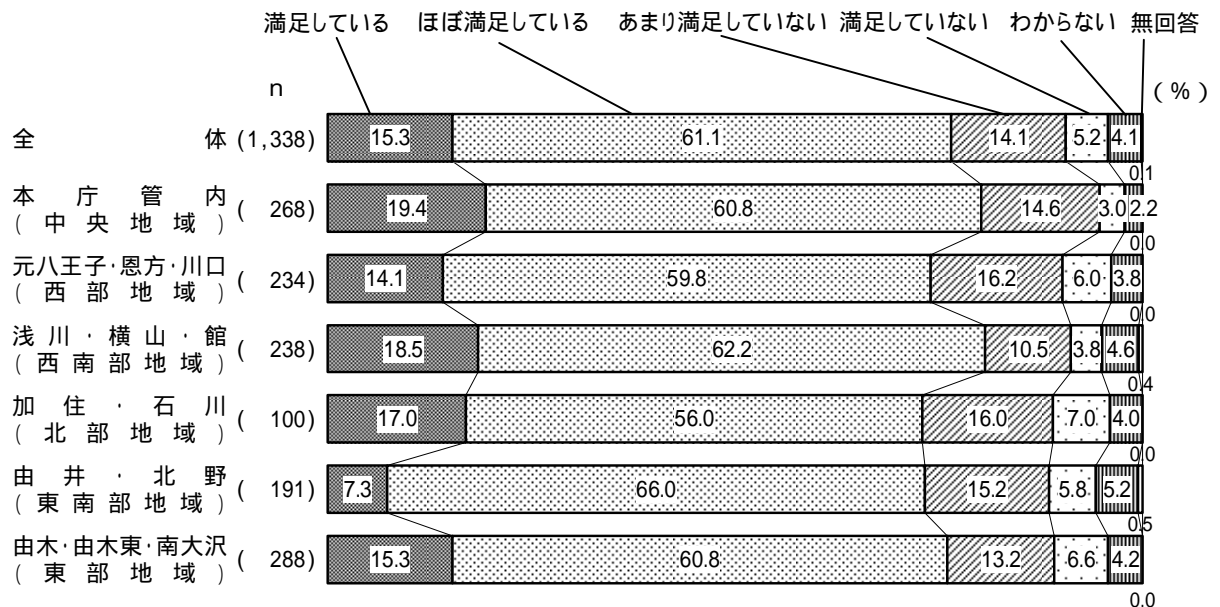
図5 - 11 - 2 市の窓口サービスの満足度 - 性別・年齢別



性別にみると、『不満』は1.7ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『満足』は65歳以上で9割弱（86.7%）と高くなっている。（図5 - 11 - 2）

図5 - 11 - 3 市の窓口サービスの満足度 - 居住地域別



居住地域別にみると、『満足』は浅川・横山・館（西南部地域）（80.7%）、本庁管内（中央地域）（80.2%）でともにほぼ8割と高くなっている。（図5 - 11 - 3）

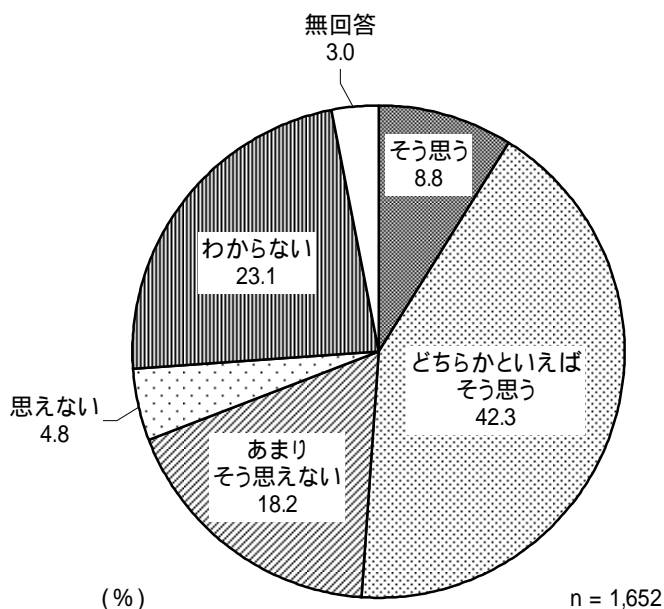
5 - 12 市の相談窓口の充実度

『**そう思う**』が**5割強**

問30 市では、市民生活を支援するため、下記のような様々な暮らしの相談を行っています。
あなたは、市の相談の機会が充実していると思いますか。(は1つだけ)

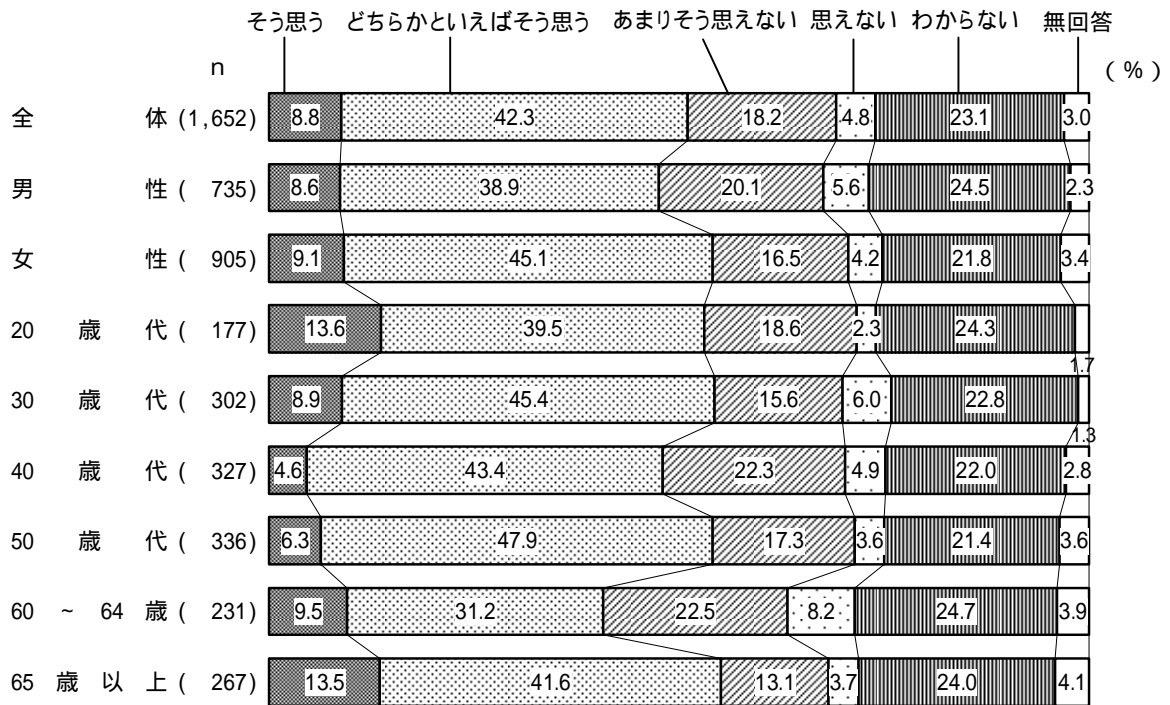
市で行っている相談は、人権、女性福祉、女性のための相談、法律、司法書士法律、不動産、登記、相続・遺言等暮らしの手続、年金・雇用保険・労働条件、交通事故、税金、行政、消費生活、外国人のための生活相談、団塊・シニア世代の地域参加支援、住まいのなんでも相談、建築に関する無料相談、就職などの心の悩み相談、高齢者総合、ひとり親家庭、専門家による子育て相談、子ども家庭総合、総合教育相談室、こども電話相談、あなたの相談室、こころの健康相談、HIVに関する相談、保健福祉・栄養相談、理学療法士による健康相談などです。

図 5 - 12 - 1



市の相談窓口が充実しているかどうかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」(42.3%)と「そう思う」(8.8%)を合わせた『**そう思う**』は**5割強**(51.1%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(18.2%)と「思えない」(4.8%)を合わせた『**思えない**』は**2割強**(23.0%)となっている。(図 5 - 12 - 1)

図5 - 12 - 2 市の相談窓口の充実度 - 性別・年齢別

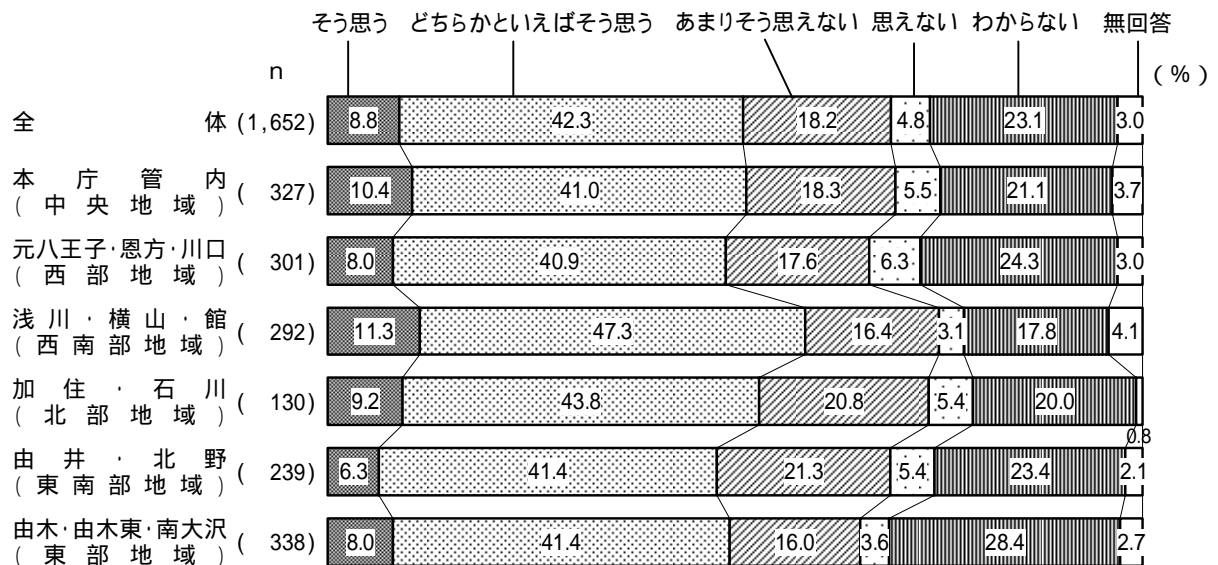


性別にみると、『そう思う』は女性のほうが6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『思えない』は60～64歳でほぼ3割（30.7%）と高くなっている。

(図5 - 12 - 2)

図5 - 12 - 3 市の相談窓口の充実度 - 居住地域別



居住地域別にみると、『そう思う』は浅川・横山・館（西南部地域）で6割弱（58.6%）と高くなっている。(図5 - 12 - 3)

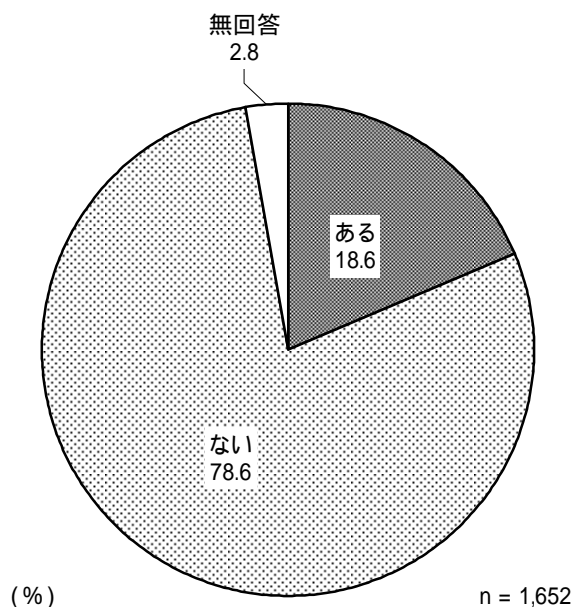
5 - 13 市の相談窓口の利用の有無

利用したことが「ある」人は2割弱

問31 あなたは、下記のような市の相談窓口を利用したことがありますか。(は1つだけ)

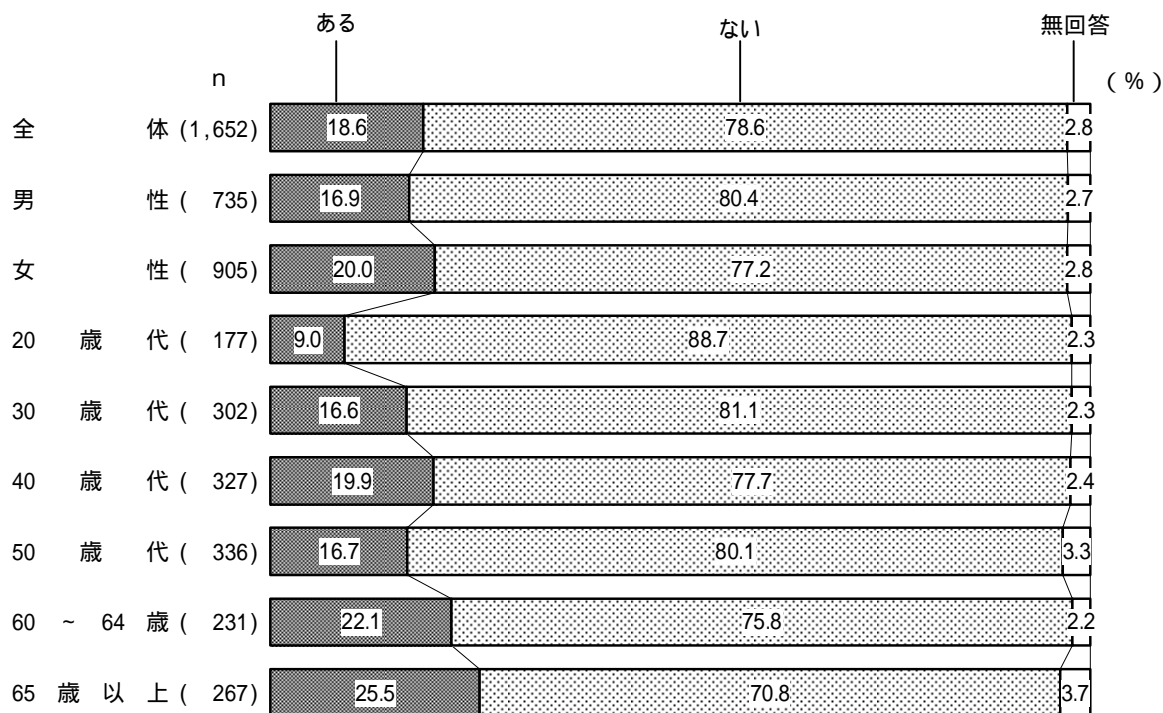
市で行っている相談は、人権、女性福祉、女性のための相談、法律、司法書士法律、不動産、登記、相続・遺言等暮らしの手続、年金・雇用保険・労働条件、交通事故、税金、行政、消費生活、外国人のための生活相談、団塊・シニア世代の地域参加支援、住まいのなんでも相談、建築に関する無料相談、就職などの心の悩み相談、高齢者総合、ひとり親家庭、専門家による子育て相談、子ども家庭総合、総合教育相談室、こども電話相談、あなたの相談室、こころの健康相談、HIVに関する相談、保健福祉・栄養相談、理学療法士による健康相談などです。

図 5 - 13 - 1



市の相談窓口を利用したことがあるかを聞いたところ、「ない」が8割弱(78.6%)を占めている。一方、「ある」は2割弱(18.6%)となっている。(図5 - 13 - 1)

図5 - 13 - 2 市の相談窓口の利用の有無 - 性別・年齢別

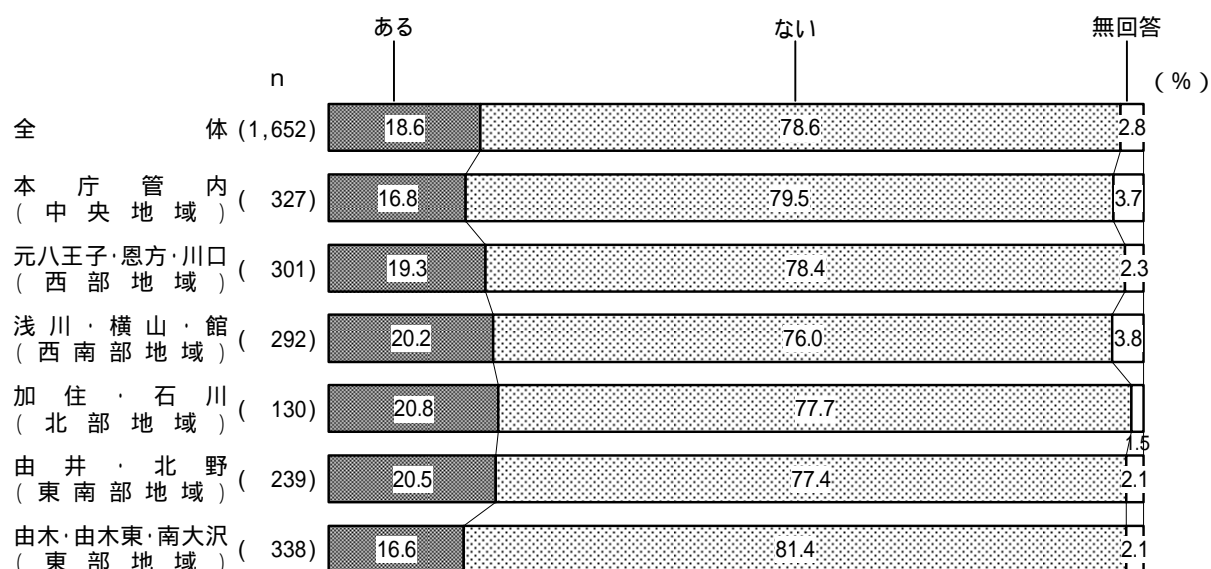


性別にみると、「ある」は女性のほうが3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ある」は65歳以上で2割台半ば（25.5%）と高くなっている。

（図5 - 13 - 2）

図5 - 13 - 3 市の相談窓口の利用の有無 - 居住地域別



居住地域別にみると、「ある」は浅川・横山・館（西南部地域）（20.2%）、加住・石川（北部地域）（20.8%）、由井・北野（東南部地域）（20.5%）でともにほぼ2割と高くなっている。一方、「ない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で8割強（81.4%）となっている。

（図5 - 13 - 3）

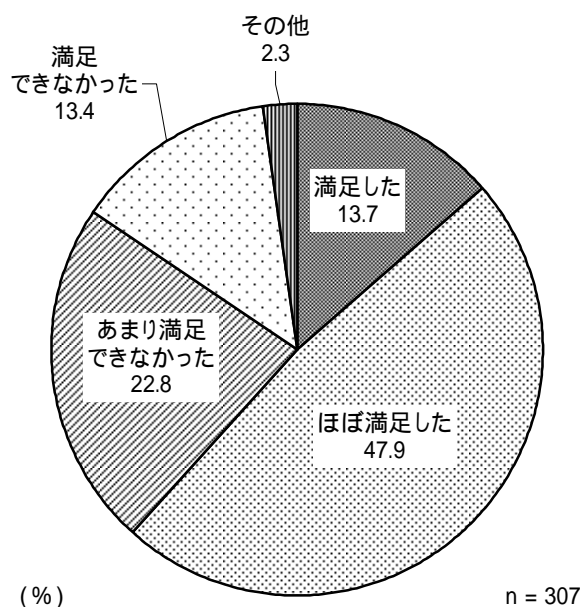
5 - 14 相談窓口の満足度

『満足』が6割強

(問31で「ある」とお答えの方に)

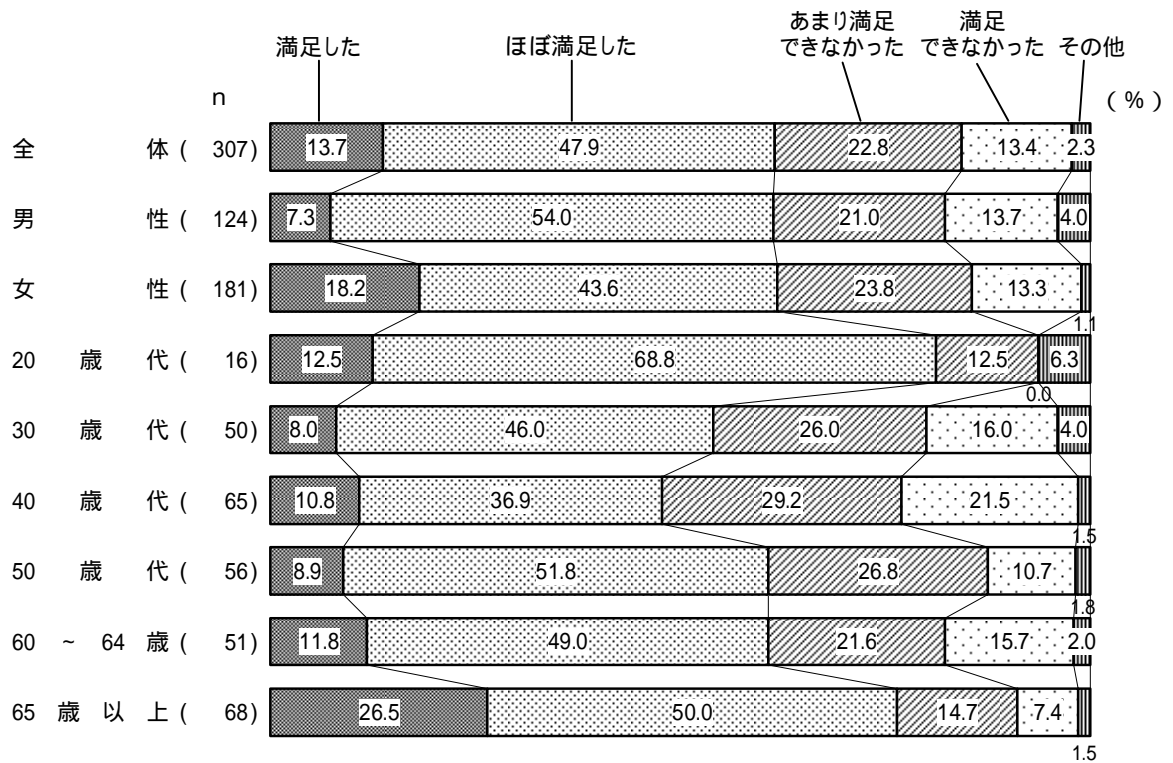
問31 - 1 あなたは、市の窓口サービス（接客度や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（ は1つだけ）

図5 - 14 - 1



市の相談窓口の利用で「ある」と答えた人（307人）に、市の暮らしの相談窓口を利用してどう感じたかを聞いたところ、「ほぼ満足した」が5割弱（47.9%）と最も高く、「満足した」（13.7%）と合わせた『満足』は6割強（61.6%）となっている。一方、「あまり満足できなかった」（22.8%）と「満足できなかった」（13.4%）を合わせた『不満』は4割弱（36.2%）となっている。（図5 - 14 - 1）

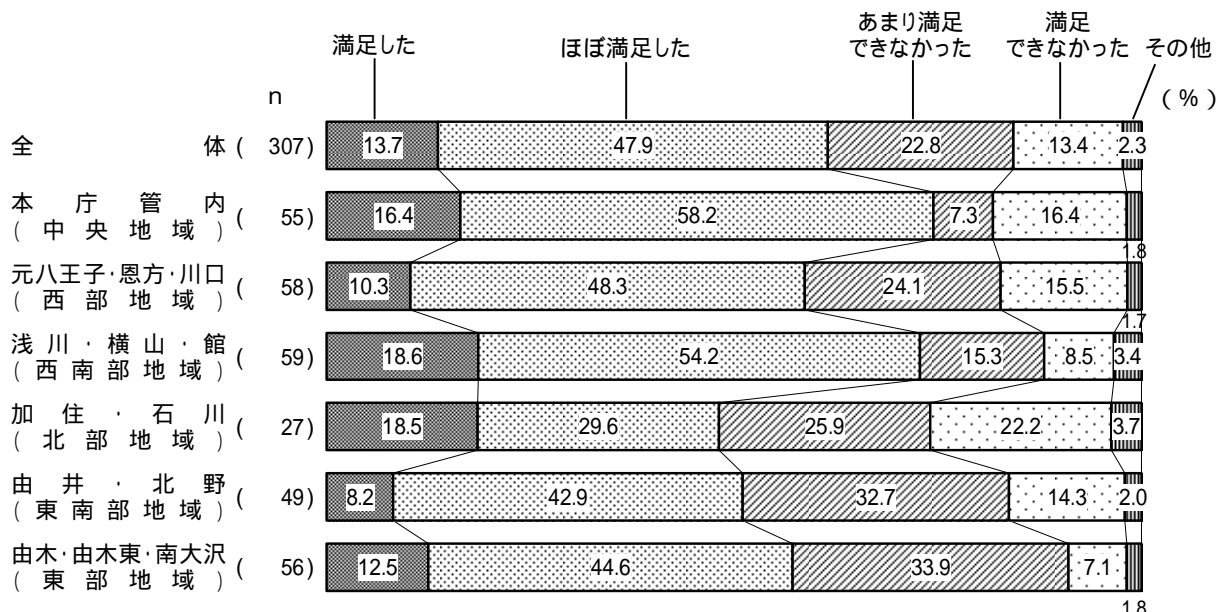
図5 - 14 - 2 相談窓口の満足度 - 性別・年齢別



性別にみると、『満足』は0.5ポイント、『不満』も2.4ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『満足』は20歳代で8割強（81.3%）65歳以上で8割弱（76.5%）と高くなっている。（図5 - 14 - 2）

図5 - 14 - 3 相談窓口の満足度 - 居住地域別



居住地域別にみると、『満足』は本庁管内（中央地域）で7割台半ば（74.6%）と高くなっている。（図5 - 14 - 3）

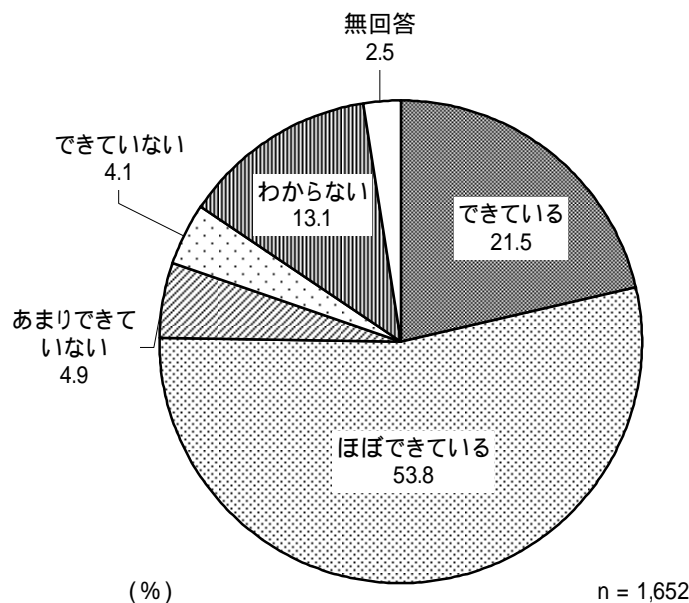
5 - 15 市政情報の入手しやすさ

『できている』が7割台半ば

問32 市は、市政の情報を、下記のような様々な方法で積極的に配信・提供していますが、あなたは、いずれかの方法で必要な市政情報を入手できていますか。(は1つだけ)

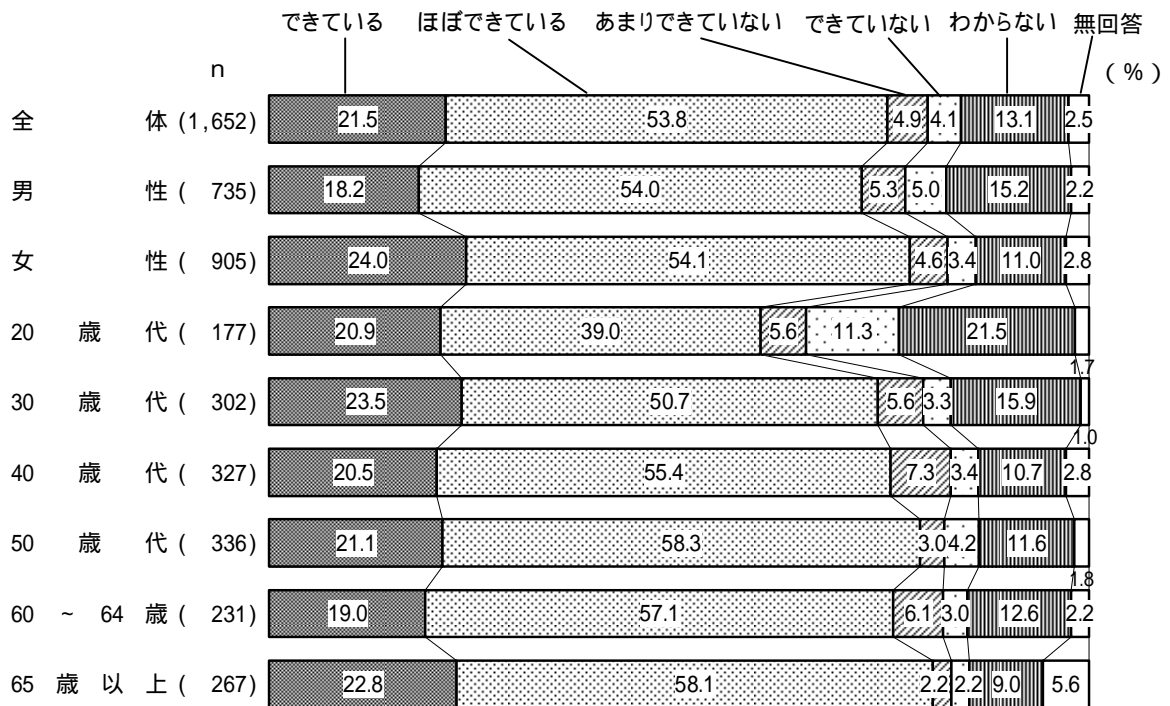
市の情報は、広報はちおうじ、ホームページ、メール(犯罪・不審者情報、防災情報)、市議会だより、町会・自治会の回覧物や掲示物、市で作成したパンフレット・ポスター、新聞・テレビなどのマスメディア、八王子テレメディア、などで配信・提供しています。

図5 - 15 - 1



市政情報の入手しやすさについて聞いたところ、「ほぼできている」は5割強(53.8%)と最も高く、「できている」(21.5%)と合わせた『できている』は7割台半ば(75.3%)となっている。一方、「あまりできていない」(4.9%)と「できていない」(4.1%)を合わせた『できていない』は、ほぼ1割(9.0%)となっている。(図5 - 15 - 1)

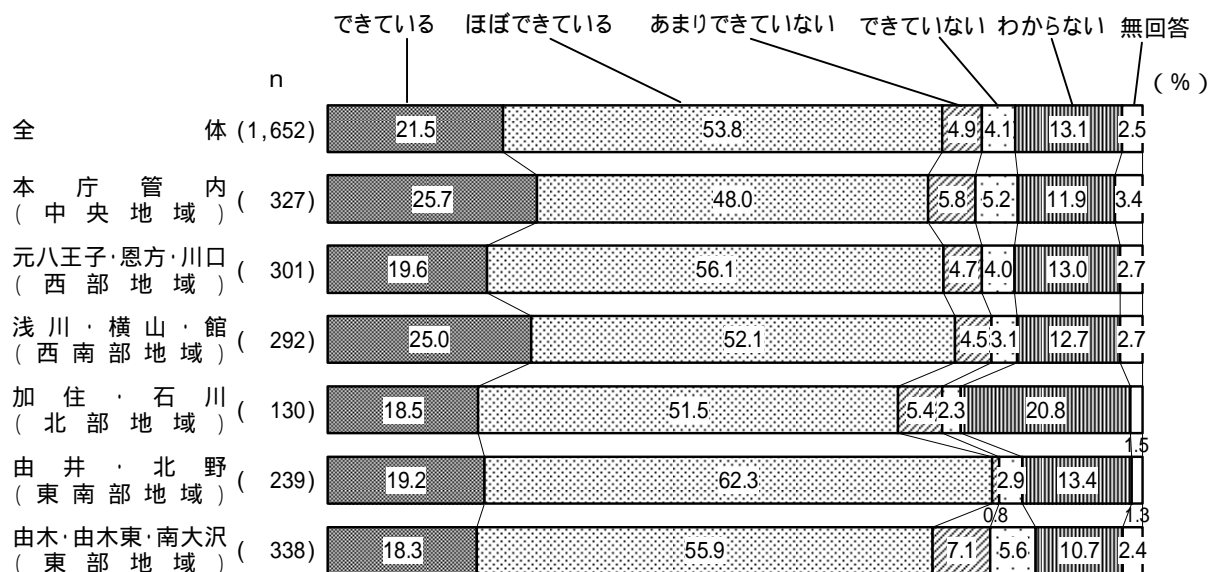
図5 - 15 - 2 市政情報の入手しやすさ - 性別・年齢別



性別にみると、『できている』は女性のほうが5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『できている』は65歳以上（80.9%）50歳代（79.4%）でともにほぼ8割と高くなっている。（図5 - 15 - 2）

図5 - 15 - 3 市政情報の入手しやすさ - 居住地域別



居住地域別にみると、由井・北野（東南部地域）で『できている』が8割強（81.5%）と高くなっている。（図5 - 15 - 3）

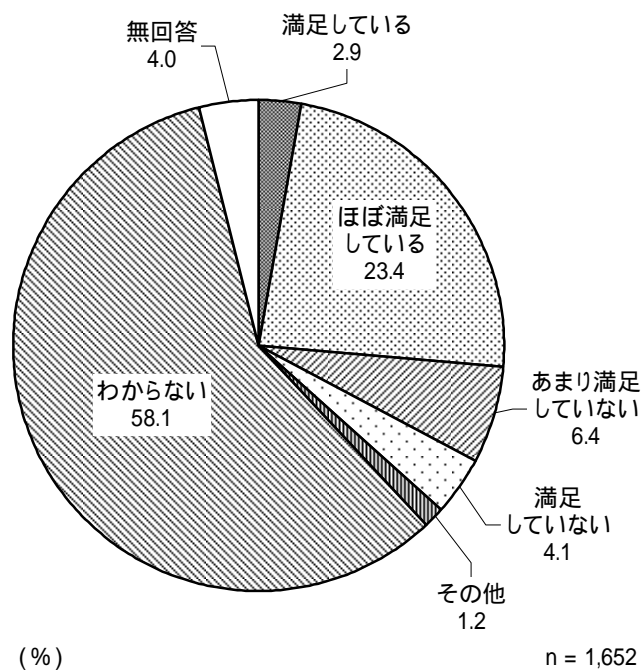
5 - 16 市の子育て支援施策の満足度

『満足』が3割弱

問33 あなたは、市が行っている様々な子育て支援策について、日頃どのように感じていますか。(は1つだけ)

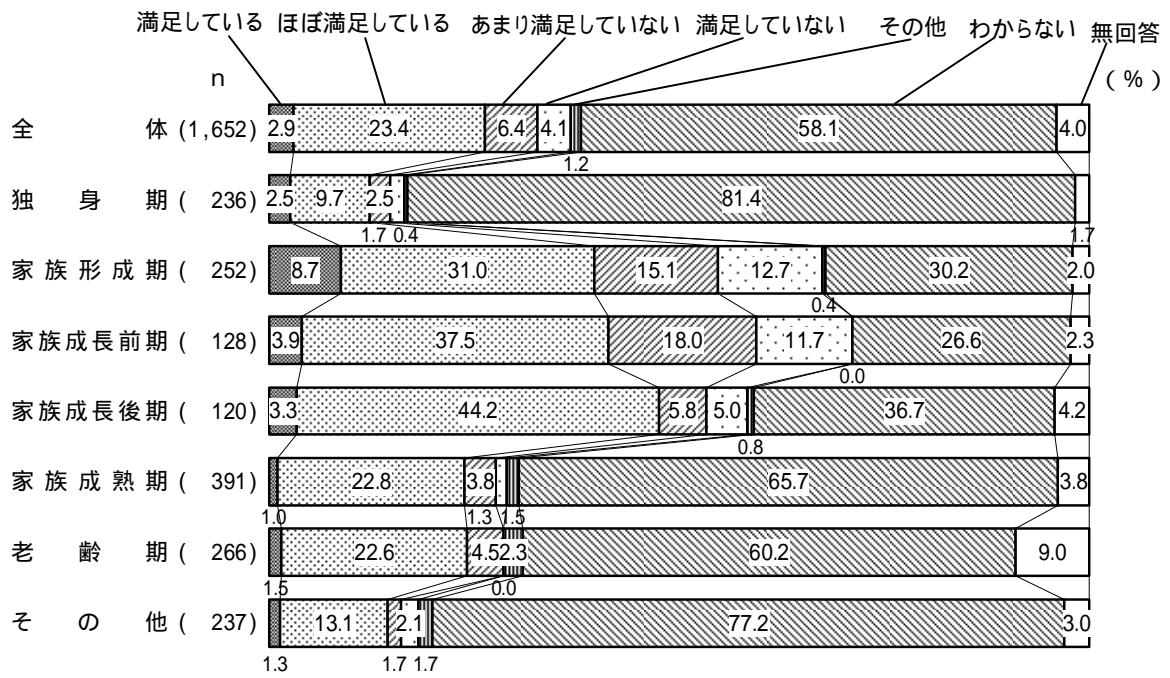
市が行っている主な子育て支援策としては、待機児童解消に向けた保育園の定員増、一時保育の拡充、親子つどいの広場の開設、市立学童保育所の整備、放課後子ども教室の開催、乳幼児医療費助成や義務教育就学児医療費助成による医療費負担の軽減等の経済的支援を行っています。また、児童館では中高生の居場所づくりに取り組んだり、子ども家庭支援センターでは地域の子育て支援の拠点として児童虐待防止ネットワークなど様々な取組を行っています。

図5 - 16 - 1



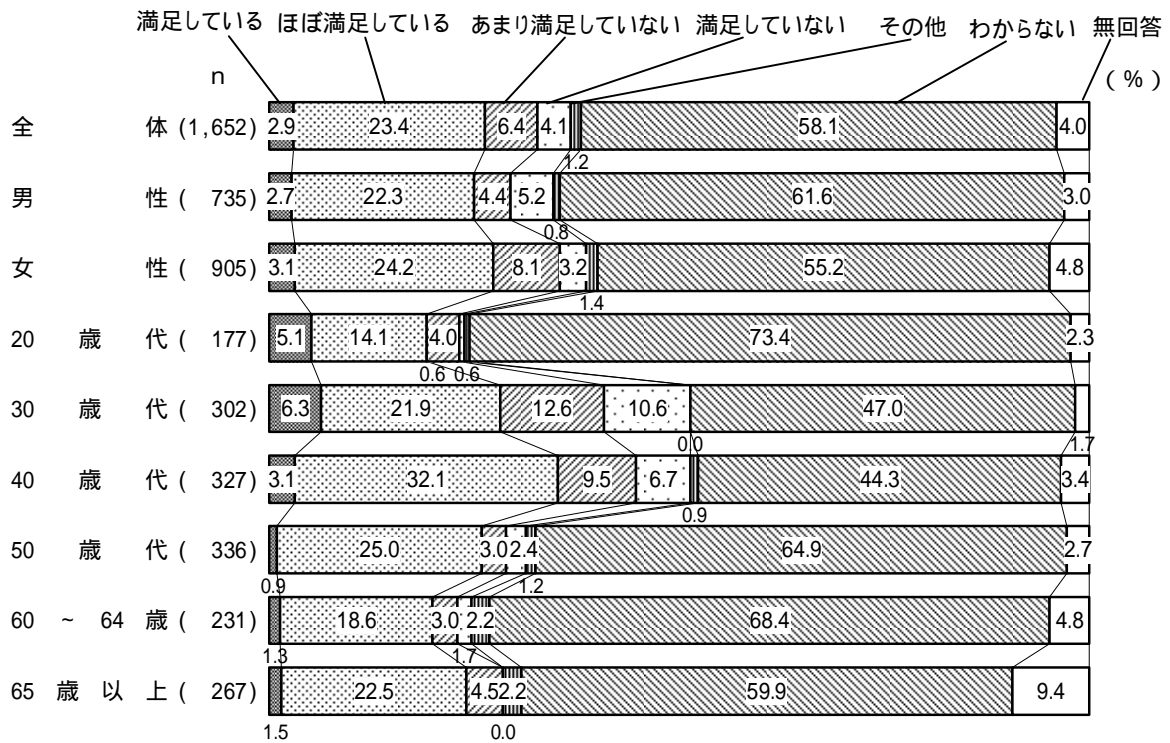
市の子育て支援施策についてどのように感じているかについて聞いたところ、「満足している」(2.9%)と「ほぼ満足している」(23.4%)を合わせた『満足』は3割弱(26.3%)となっている。一方、「あまり満足していない」(6.4%)と「満足していない」(4.1%)を合わせた『不満』はほぼ1割(10.5%)となっている。(図5 - 16 - 1)

図5 - 16 - 2 市の子育て支援施策の満足度 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『満足』は家族成長後期で5割弱（47.5%）と高くなっている。一方、『不満』は家族成長前期でほぼ3割（29.7%）と高くなっている。（図5 - 16 - 2）

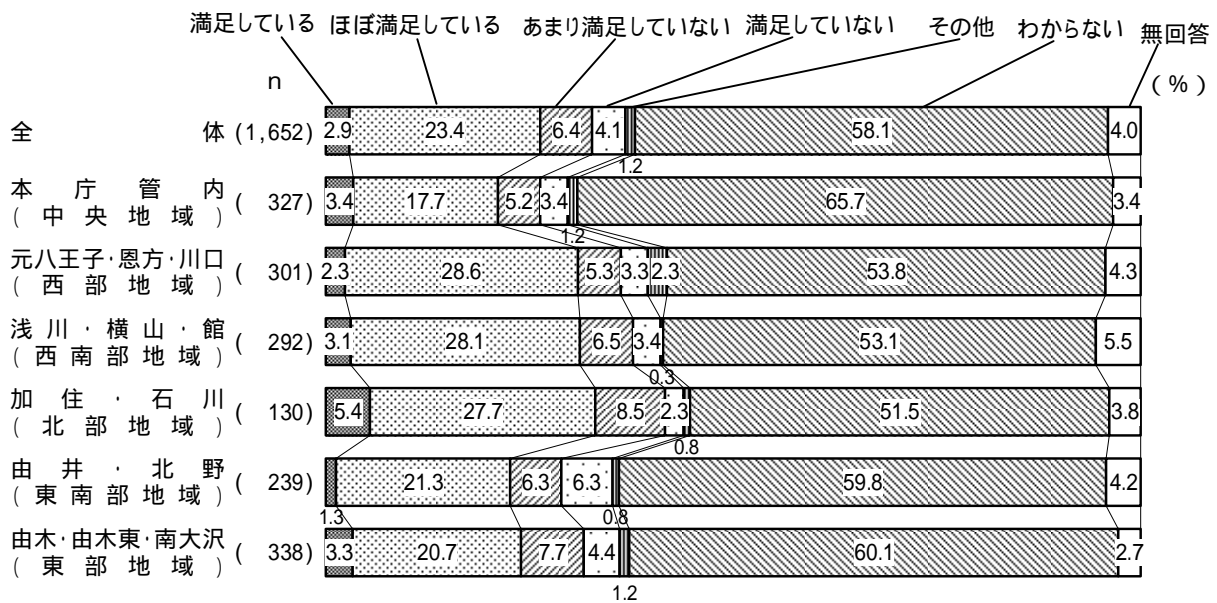
図5 - 16 - 3 市の子育て支援施策の満足度 - 性別・年齢別



性別にみると、『満足』は2.3ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『満足』は40歳代で3割台半ば（35.2%）と高くなっている。一方、『不満』は30歳代で2割強（23.2%）と高くなっている。（図5 - 16 - 3）

図5 - 16 - 4 市の子育て支援施策の満足度 - 居住地域別

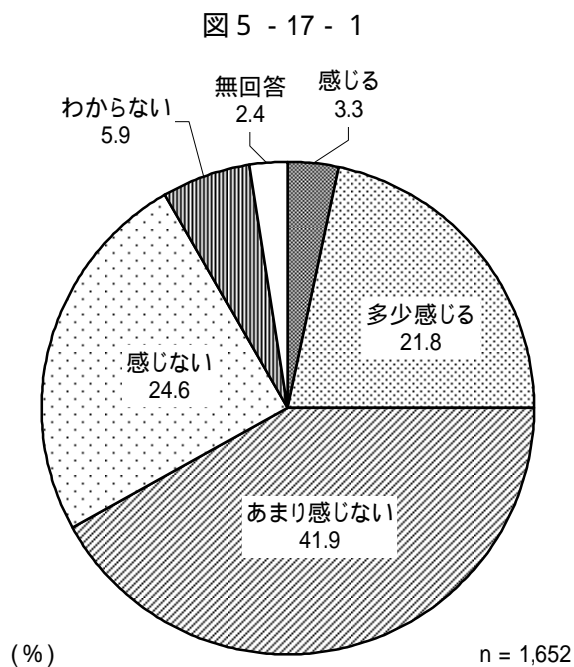


居住地域別にみると、『満足』は元八王子・恩方・川口（西部地域）（30.9%）、浅川・横山・館（西南部地域）（31.2%）、加住・石川（北部地域）（33.1%）で3割台と高くなっている。（図5 - 16 - 4）

5 - 17 市のにぎわいと活力の有無

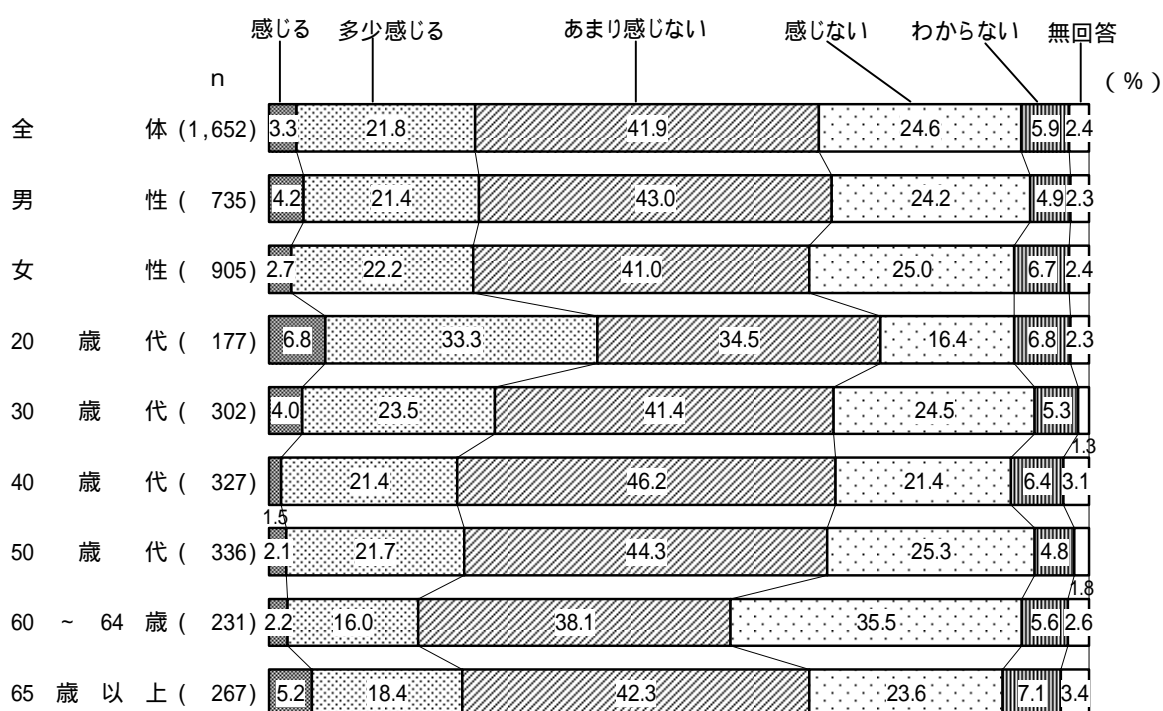
『感じない』が7割弱

問34 あなたは、市がにぎわいと活力があるまちであると感じますか。(は1つだけ)



八王子市がにぎわいと活力があるまちであると感じるかを聞いたところ、「あまり感じない」が4割強(41.9%)と最も高く、「感じない」(24.6%)を合わせた『感じない』は7割弱(66.5%)となっている。一方、「感じる」(3.3%)と「多少感じる」(21.8%)を合わせた『感じる』は2割台半ば(25.1%)となっている。(図5 - 17 - 1)

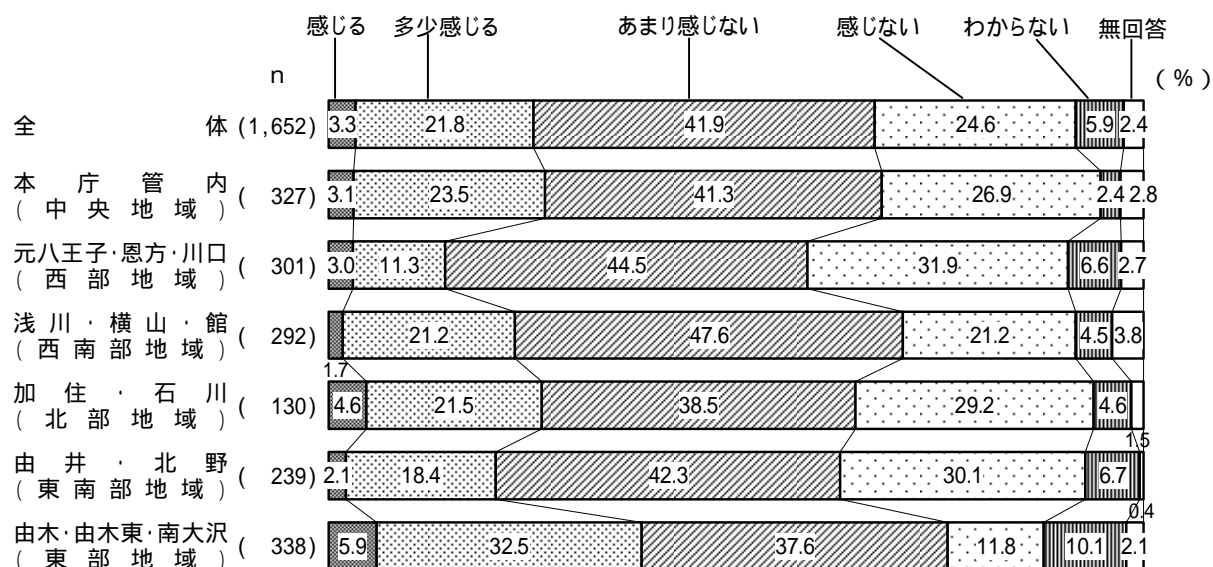
図5 - 17 - 2 市のにぎわいと活力の有無 - 性別・年齢別



性別にみると、『感じる』は1.2ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『感じる』は20歳代でほぼ4割（40.1%）と高くなっている。一方、『感じる』は60～64歳で7割強（73.6%）と高くなっている。（図5 - 17 - 2）

図5 - 17 - 3 市のにぎわいと活力の有無 - 居住地域別



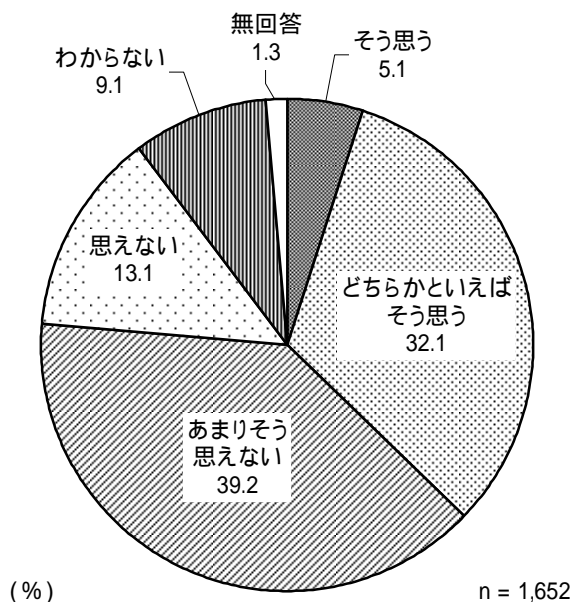
居住地域別にみると、『感じる』は由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割弱（38.4%）と高くなっている。（図5 - 17 - 3）

5 - 18 市は景観に配慮されたまちであるか

『思えない』が5割強

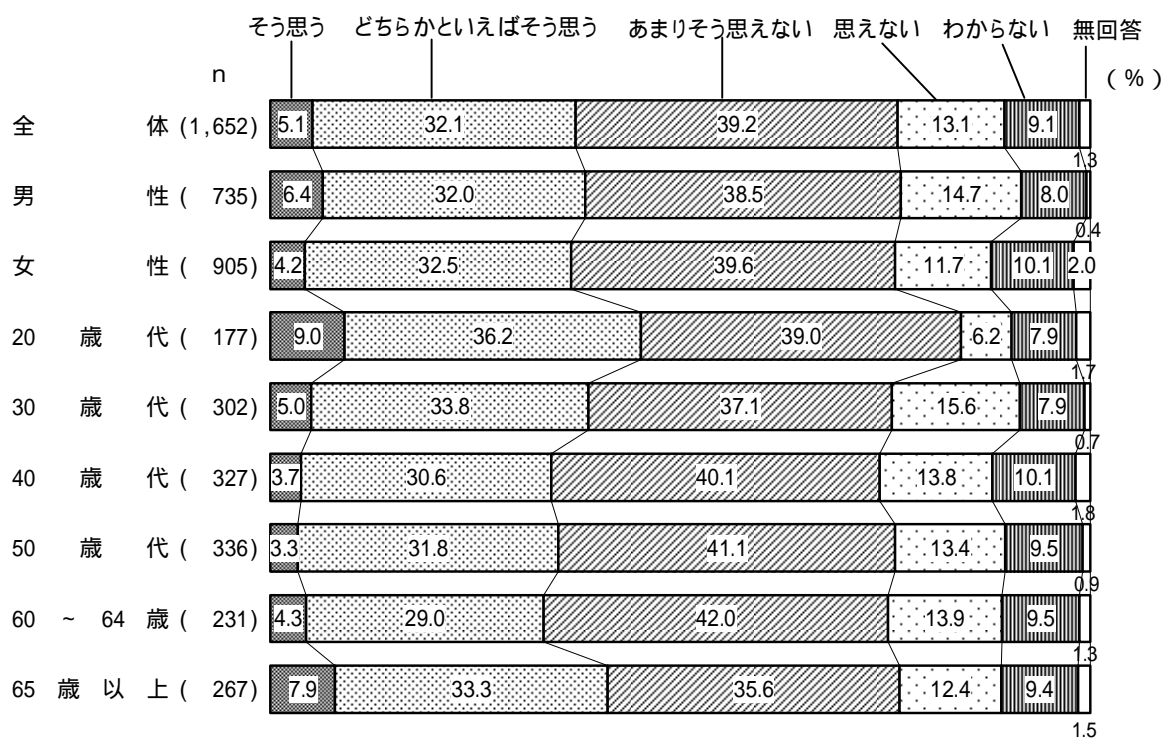
問35 あなたは、本市が景観に配慮されたまちであると思いますか。(は1つだけ)

図5 - 18 - 1



市が景観に配慮されたまちであるかについて聞いたところ、「あまりそう思えない」がほぼ4割(39.2%)と最も高く、「思えない」(13.1%)と合わせた『思えない』は5割強(52.3%)となっている。一方、「そう思う」(5.1%)と「どちらかといえばそう思う」(32.1%)を合わせた『そう思う』は4割弱(37.2%)となっている。(図5 - 18 - 1)

図5 - 18 - 2 市は景観に配慮されたまちであるか - 性別・年齢別

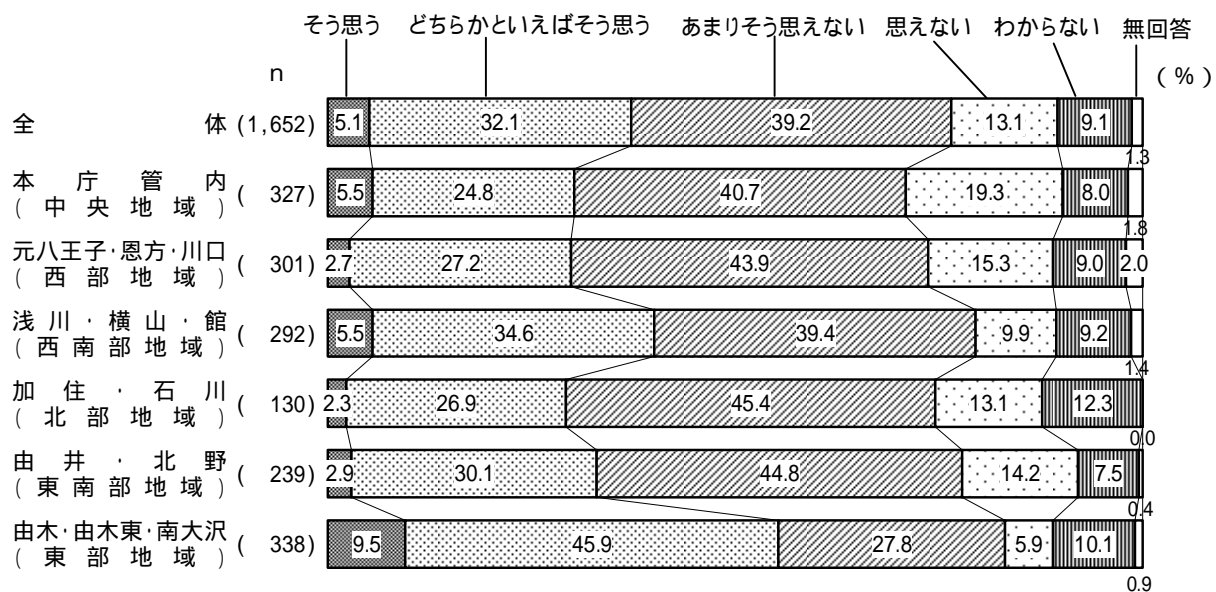


性別にみると、『思えない』は1.9ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』は20歳代で4割台半ば（45.2%）と高くなっている。

(図5 - 18 - 2)

図5 - 18 - 3 市は景観に配慮されたまちであるか - 居住地域別



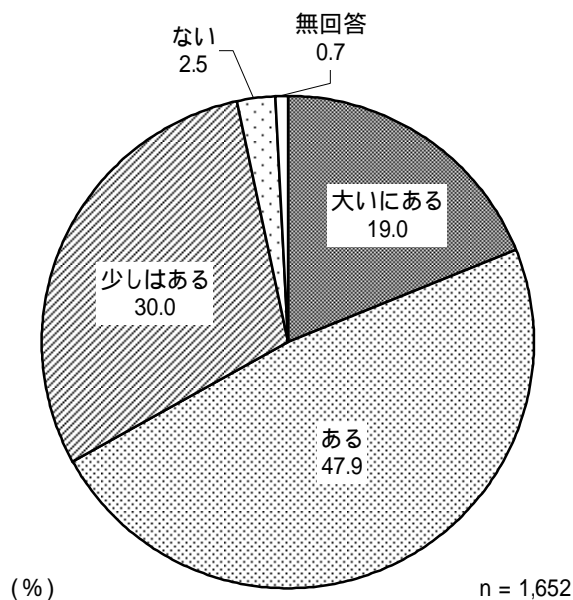
居住地域別にみると、『そう思う』は由木・由木東・南大沢（東部地域）で5割台半ば（55.4%）と高くなっている。(図5 - 18 - 3)

5 - 19 環境問題への関心度

環境問題に関心が『ある』人は10割弱

問36 あなたは、環境問題に関心はありますか。(は1つだけ)

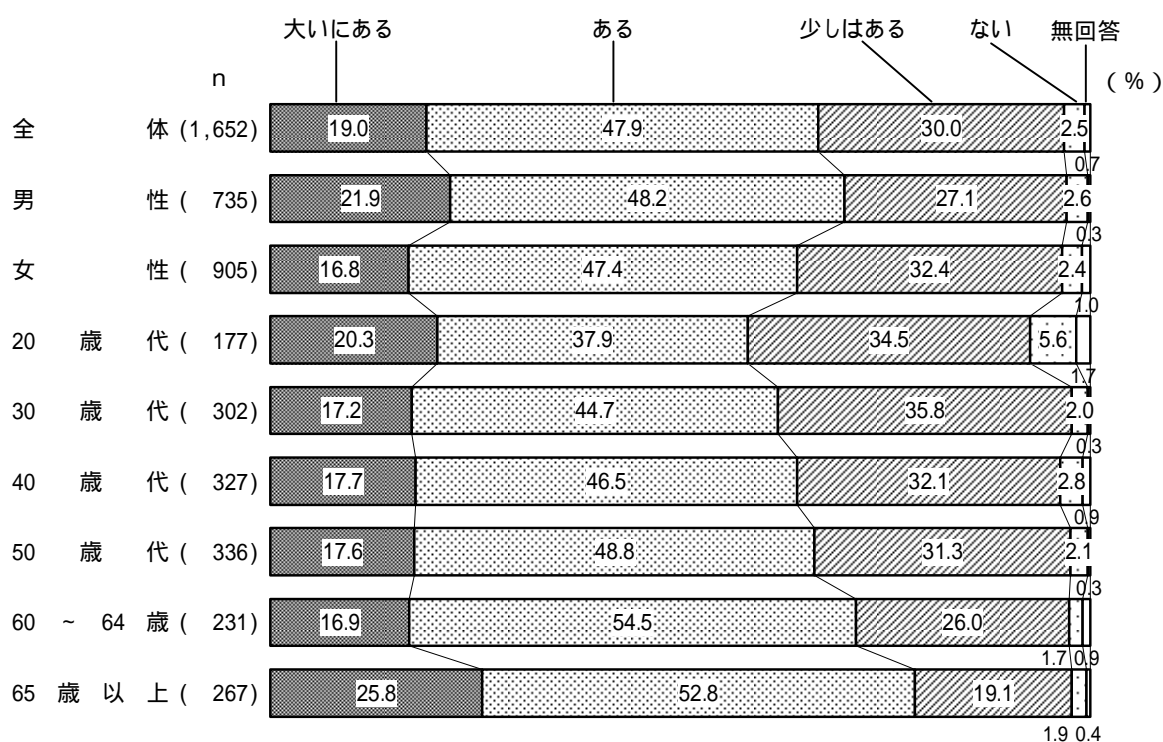
図5 - 19 - 1



環境問題に関心があるかどうかについて聞いたところ、「ある」が5割弱(47.9%)、「少しはある」が3割(30.0%)、「大いにある」がほぼ2割(19.0%)となっていて、3項目を合わせた『ある』は10割弱(96.9%)と非常に高くなっている。一方で「ない」は2.5%となっている。

(図5 - 19 - 1)

図5 - 19 - 2 環境問題への関心度 - 性別・年齢別

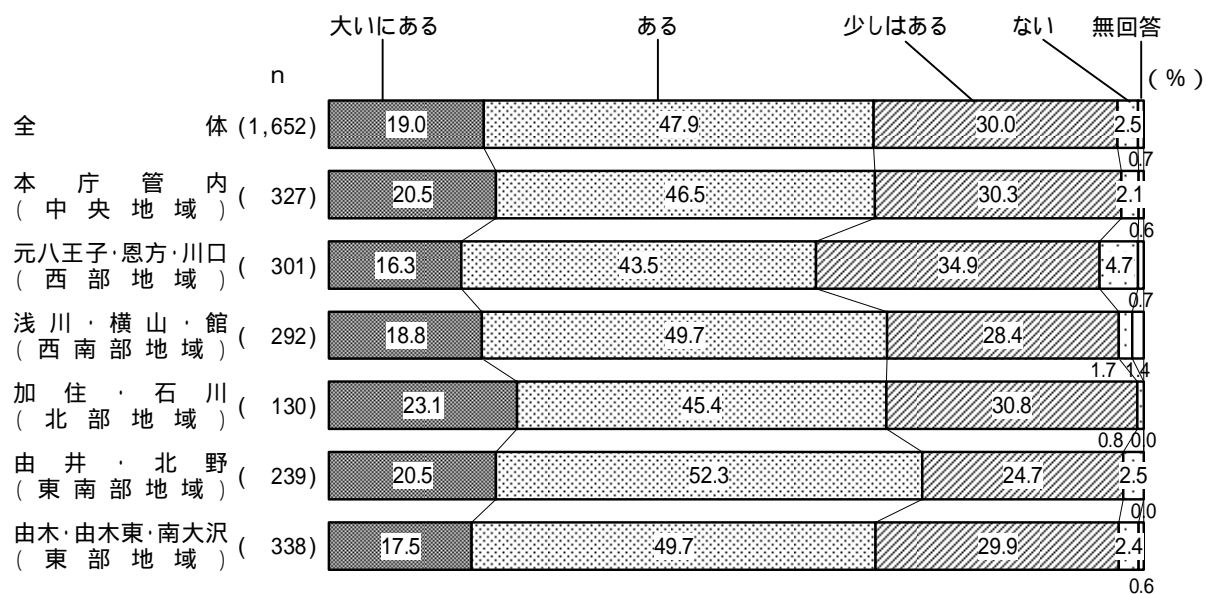


性別にみると、「大いにある」は男性のほうが5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「大いにある」は65歳以上で2割台半ば（25.8%）と高くなっている。

（図5 - 19 - 2）

図5 - 19 - 3 環境問題への関心度 - 居住地域別



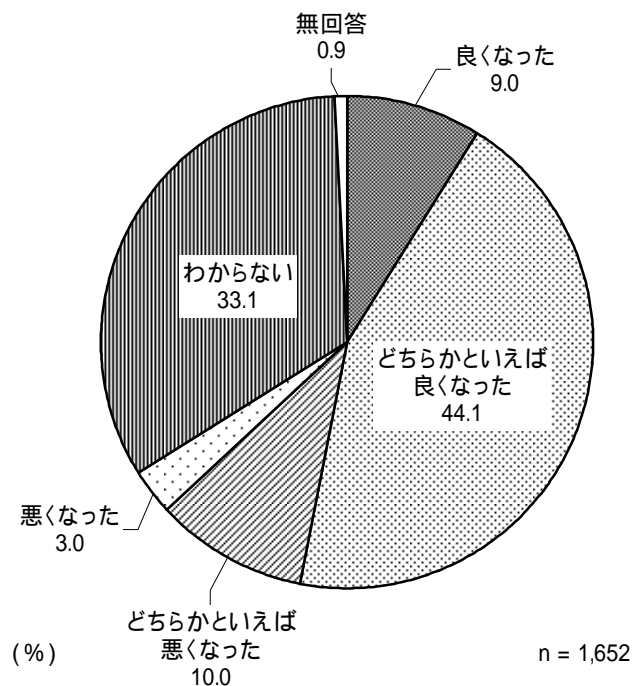
居住地域別にみると、「大いにある」、「ある」、「少しはある」の計は、加住・石川（北部地域）でほぼ10割（99.3%）と高くなっている。（図5 - 19 - 3）

5 - 20 市の現在の環境

『良くなった』が5割強

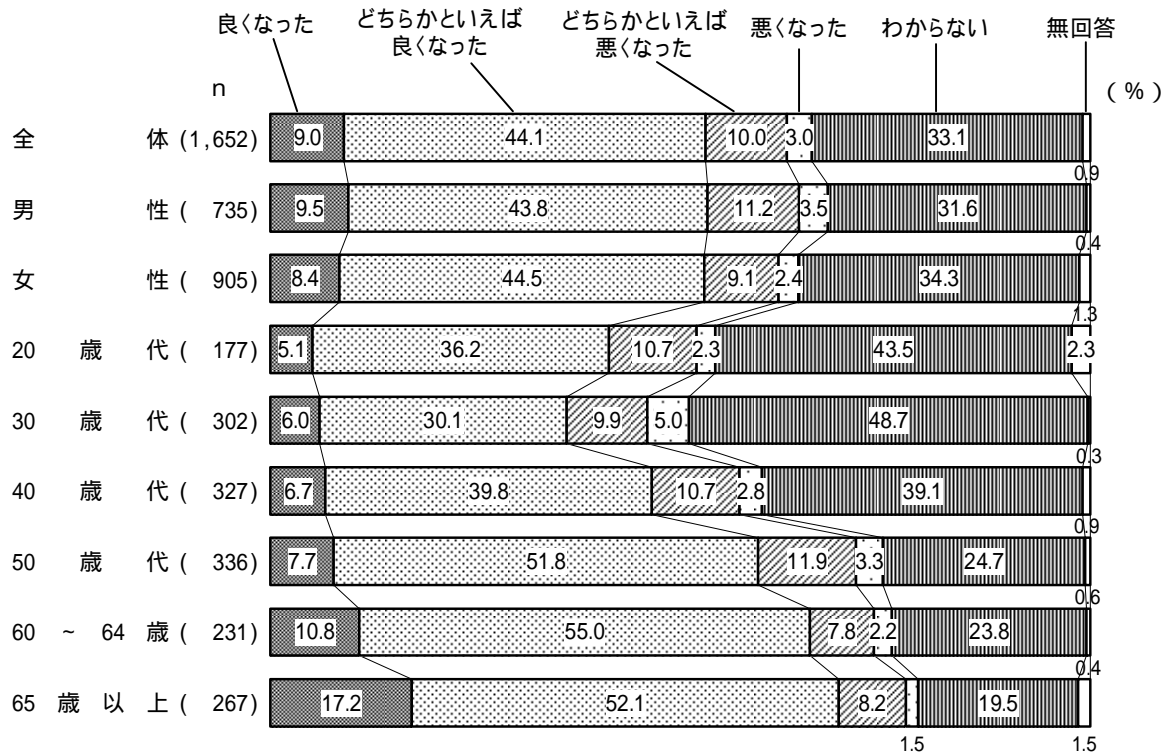
問37 あなたは、本市の環境（水、緑、ごみ、大気など）が以前と比べどうなったと感じていますか。（ は1つだけ）

図5 - 20 - 1



市の環境が以前と比べてどうなったと感じるかを聞いたところ、「良くなった」(9.0%)と「どちらかといえば良くなった」(44.1%)を合わせた『良くなった』は5割強(53.1%)となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」(10.0%)と「悪くなった」(3.0%)を合わせた『悪くなった』は1割強(13.0%)となっている。(図5 - 20 - 1)

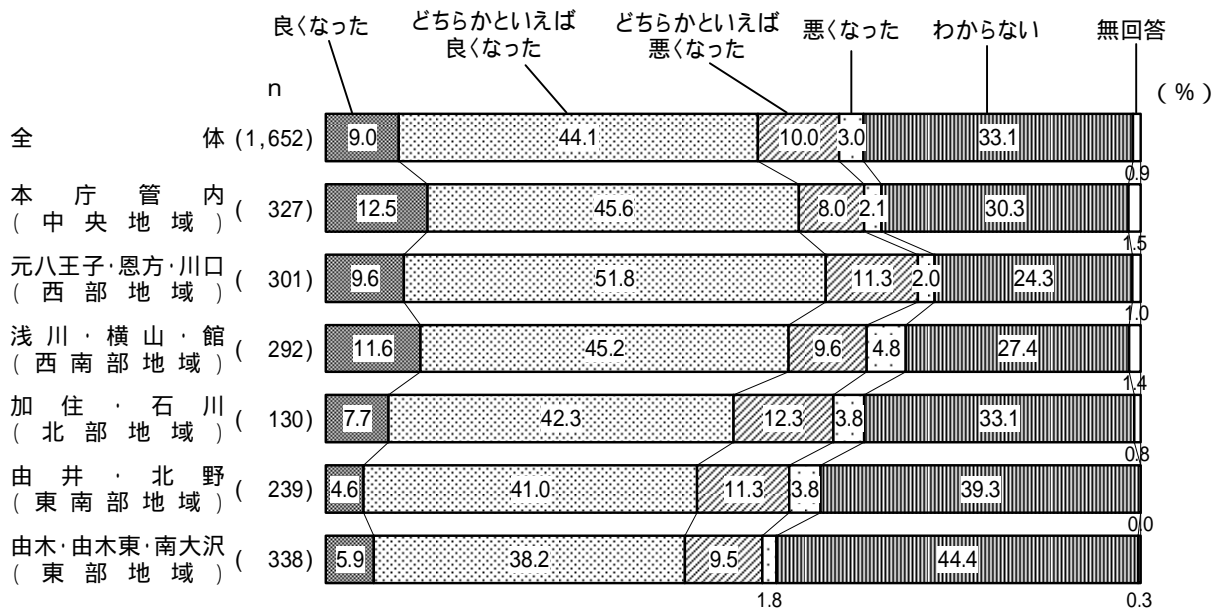
図5 - 20 - 2 市の現在の環境 - 性別・年齢別



性別にみると、『悪くなった』は3.2ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『良くなった』はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上ではほぼ7割（69.3%）と高くなっている。（図5 - 20 - 2）

図5 - 20 - 3 市の現在の環境 - 居住地域別

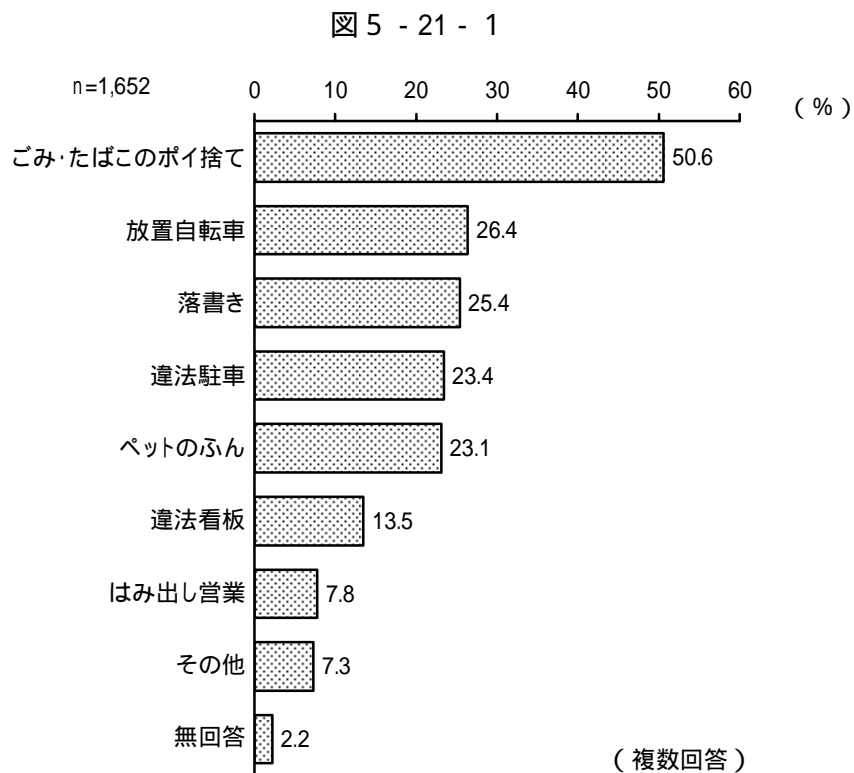


居住地域別にみると、『良くなった』は元八王子・恩方・川口（西部地域）で6割強（61.4%）と高くなっている。（図5 - 20 - 3）

5 - 21 都市の美観が損なわれる原因

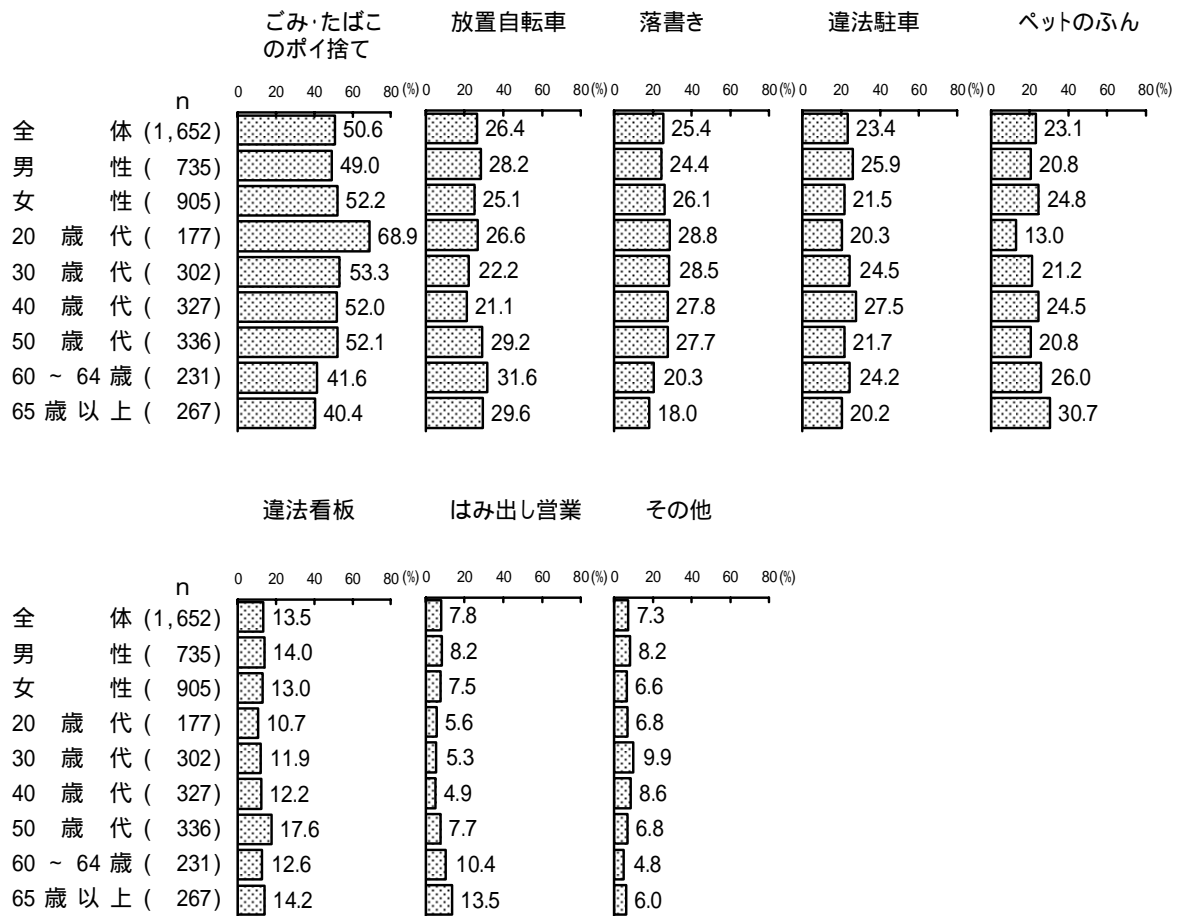
「ごみ・たばこのポイ捨て」がほぼ5割で突出

問38 都市の美観が損なわれる主な原因は、次のどれだと思いますか。(○は2つまで)



都市の美観が損なわれる主な原因について聞いたところ、「ごみ・たばこのポイ捨て」がほぼ5割(50.6%)と最も高く、ついで「放置自転車」(26.4%)、「落書き」(25.4%)、「違法駐車」(23.4%)、「ペットのふん」(23.1%)と続いている。(図5 - 21 - 1)

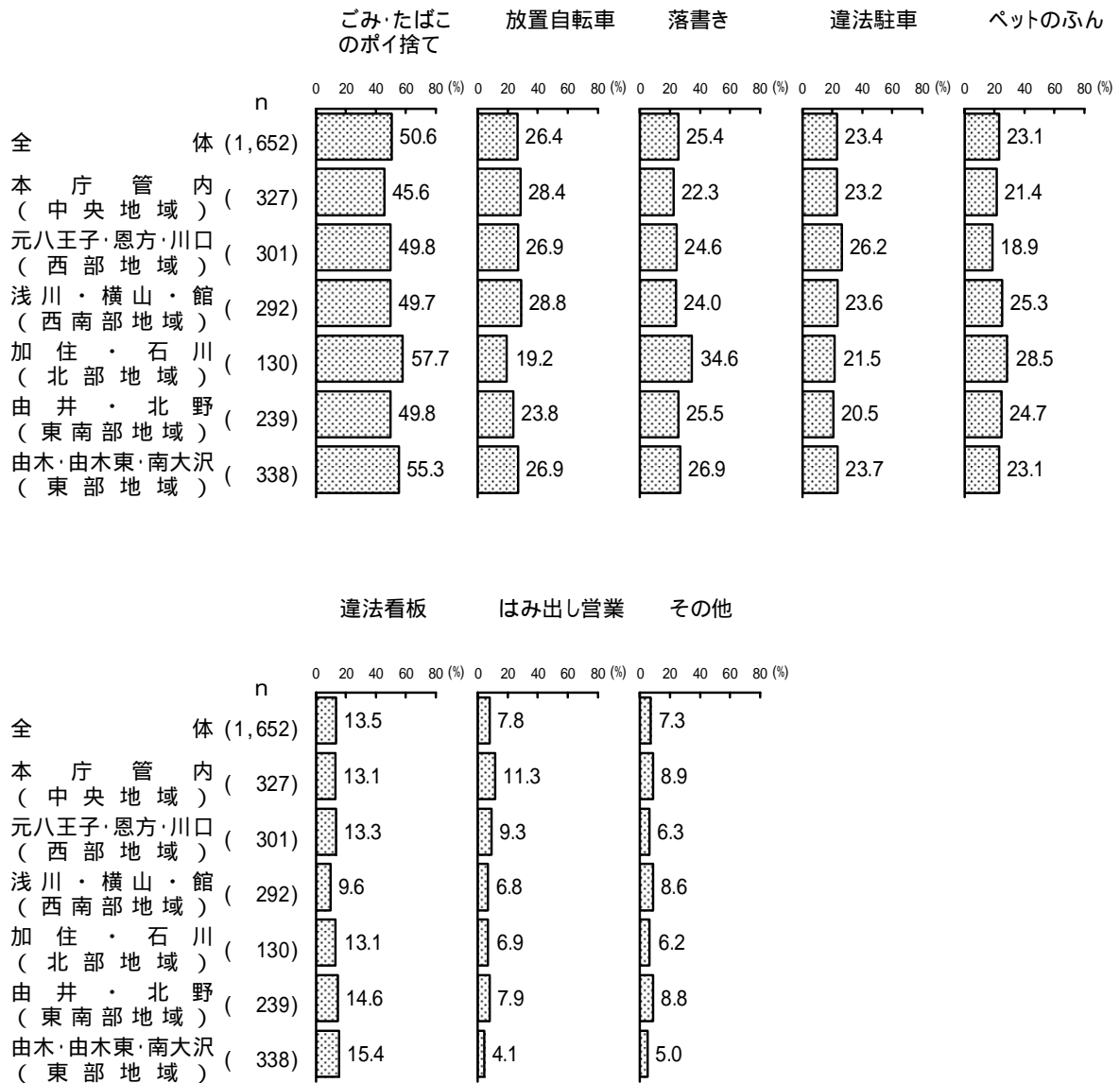
図5 - 21 - 2 都市の美観が損なわれる原因 - 性別・年齢別



性別にみると、「違法駐車」は4.4ポイント、「放置自転車」は3.1ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。また、「ペットのふん」は4.0ポイント、「ごみ・たばこのポイ捨て」は3.2ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、特に20歳代では7割弱（68.9%）と高くなっている。また、「ペットのふん」は65歳以上でほぼ3割（30.7%）と高くなっている。（図5 - 21 - 2）

図5 - 21 - 3 都市の美観が損なわれる原因 - 居住地域別



居住地域別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」は加住・石川（北部地域）で6割弱（57.7%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（55.3%）で5割台半ばと高くなっている。また、「落書き」は加住・石川（北部地域）で3割台半ば（34.6%）と高くなっている。

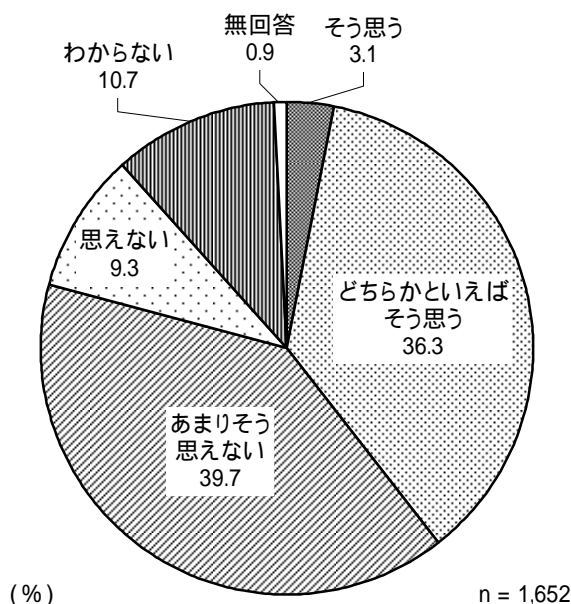
(図5 - 21 - 3)

5 - 22 市は美観が保持されたまちだと思うか

『そう思う』がほぼ4割

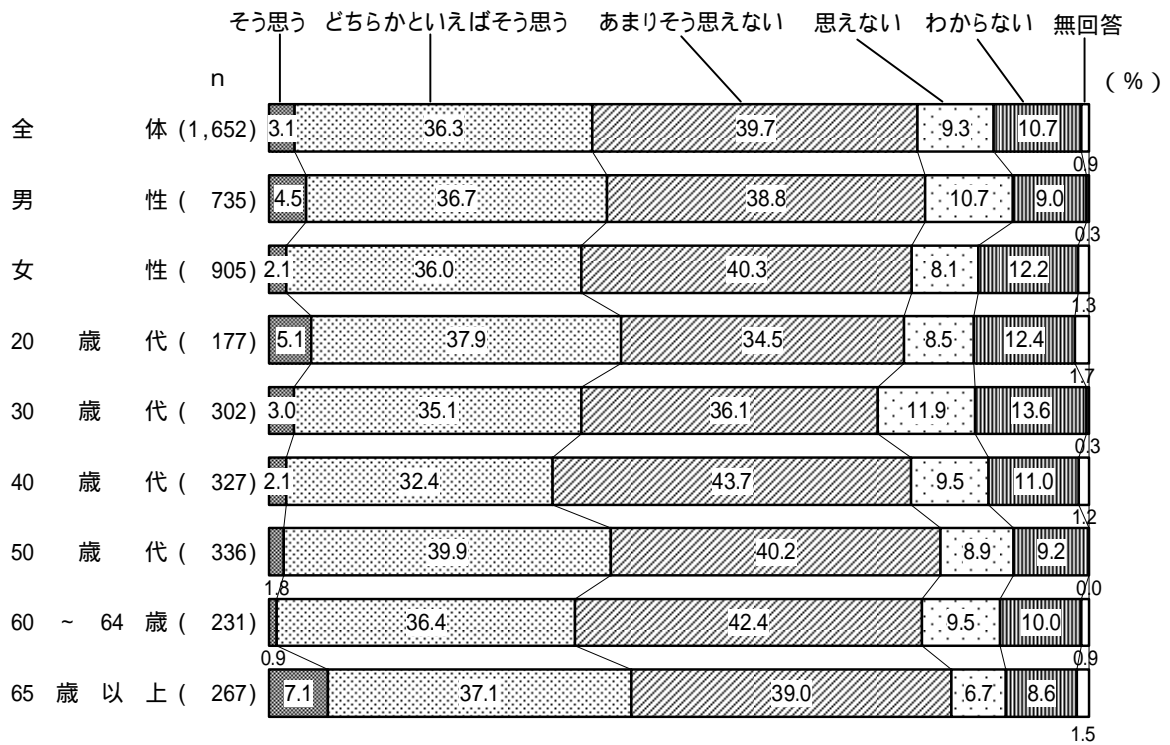
問39 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。(は1つだけ)

図5 - 22 - 1



八王子市は美観が保持されたまちだと思うかどうかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が4割弱(36.3%)で、「そう思う」(3.1%)と合わせた『そう思う』はほぼ4割(39.4%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(39.7%)と「思えない」(9.3%)を合わせた『思えない』はほぼ5割(49.0%)となっている。(図5 - 22 - 1)

図5 - 22 - 2 市は美観が保持されたまちだと思うか - 性別・年齢別

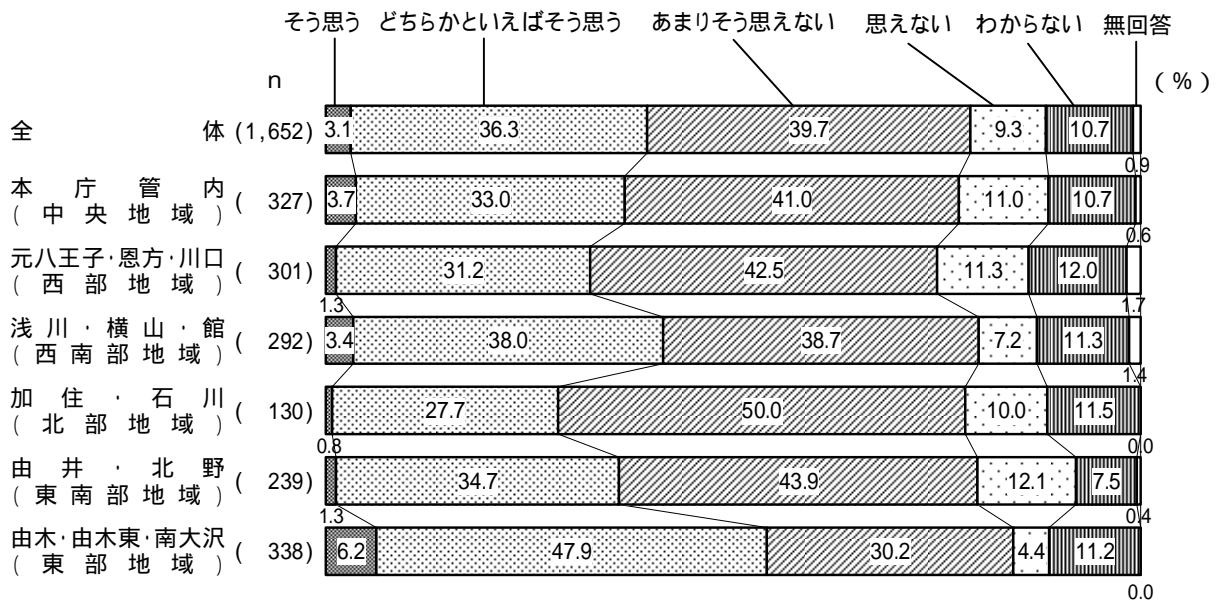


性別にみると、『そう思う』は男性のほうが3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』は65歳以上で4割台半ば（44.2%）と高くなっている。

(図5 - 22 - 2)

図5 - 22 - 3 市は美観が保持されたまちだと思うか - 居住地域別



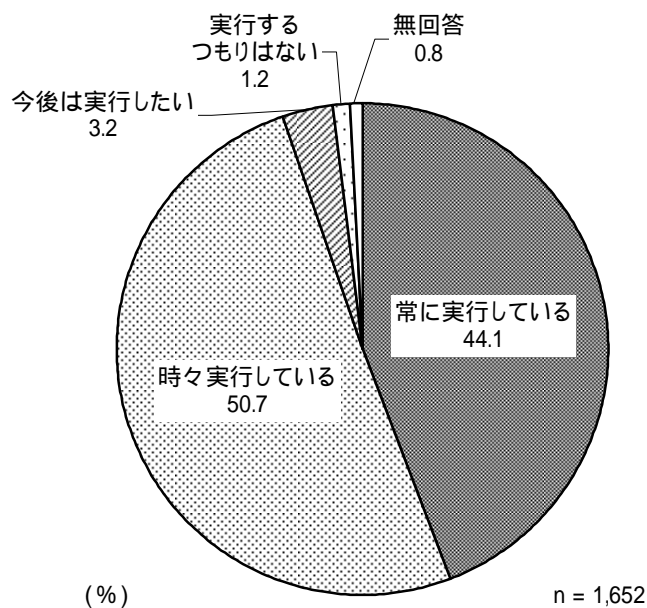
居住地域別にみると、『そう思う』は由木・由木東・南大沢（東部地域）で5割台半ば（54.1%）と高くなっている。一方、『そう思わない』は加住・石川（北部地域）で6割（60.0%）と高くなっている。(図5 - 22 - 3)

5 - 23 省エネ・省資源を実行しているか

『実行している』が9割台半ば

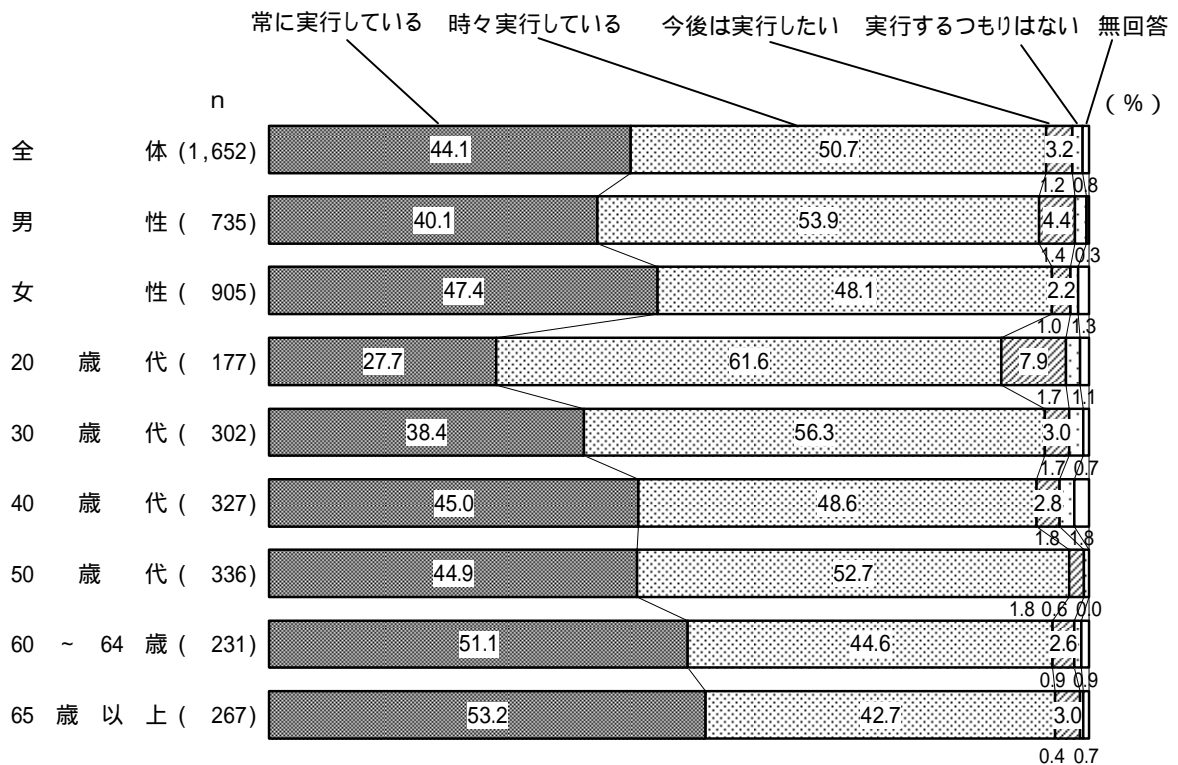
問40 省エネ・省資源のためには、冷暖房を控える、電気をこまめに消す、冷蔵庫の開閉に気を遣う、ごみ減量のためのリサイクルを心がける、マイカーの使用を控える、省エネ製品を利用する、買物用のバッグを持参して買い物に行くなどがありますが、あなたは、省エネ・省資源を意識して実行していますか。(は1つだけ)

図 5 - 23 - 1



省エネ・省資源の実行について聞いたところ、「時々実行している」がほぼ5割(50.7%)、「常に実行している」が4割台半ば(44.1%)で、両者を合わせた『実行している』は9割台半ば(94.8%)と高くなっている。(図5 - 23 - 1)

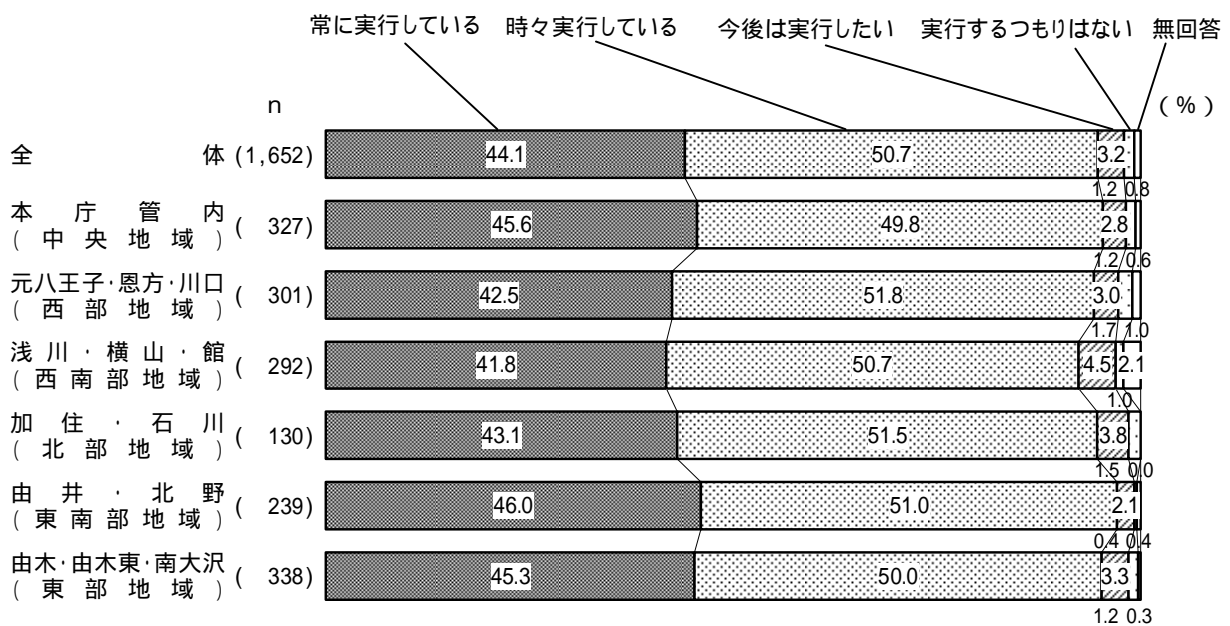
図5 - 23 - 2 省エネ・省資源を実行しているか - 性別・年齢別



性別にみると、「常に実行している」は女性のほうが7.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「常に実行している」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上（53.2%）、60～64歳（51.1%）でともに5割強と高くなっている。（図5 - 23 - 2）

図5 - 23 - 3 省エネ・省資源を実行しているか - 居住地域別



居住地域別にみると、『実行している』は由井・北野（東南部地域）で10割弱（97.0%）と高くなっている。（図5 - 22 - 3）

調查票

平成 24 年（第 44 回）八王子市市政世論調査

市政世論調査へのご協力をお願い

市では、市民の皆さんの生活環境への意識、市の施策等に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、まちづくりに有効に活用していくために、毎年市政世論調査を実施しています。また、この調査を通じて市民の皆さんの市政への参加を図り、市民の皆さんと市との協働によるまちづくりを推進していきます。

この調査の対象者は、市内にお住まいの 20 歳以上の方々から無作為に 3,000 名を選ばせていただきました。また、調査は無記名で、調査結果につきましては統計的な処理をいたしますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成 24 年 5 月

八王子市長 石森 孝志

【ご記入にあたってのお願い】

1. ご回答は、必ずあて名のご本人がご記入ください。
(無記名ですので、氏名・住所の記入の必要はありません。)
2. ご回答は、次の要領で行ってください。
あらかじめ設けてある選択肢の中から選んで番号に 印をつけてください。
回答の の数は、(は 1 つだけ)(は 3 つまで)(はいくつでも) などのように指定していますので、それに合わせてください。
ご自分の答えが選択肢の中にない場合などは、「その他」を選び、「(具体的に)」内にその内容を具体的に記入してください。
質問は、2 ページから順に最後までお答えください。なお、問 - 1 のように、一部の方だけにお答えいただく質問もありますが、その場合は矢印や説明文に従ってお答えください。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
平成 24 年 5 月 30 日(水)までにご投函ください。切手を貼る必要はありません。
ご協力いただいた方には、後日、調査結果報告書(概要版)をお送りします。

お問い合わせ先 八王子市総合政策部政策審議室 広聴担当まで
電話：042-620-7411(直通)
Fax：042-620-7322
(月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時00分)

<あなたご自身について> ~基本項目(フェイス・シート)~

最初にあなたご自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別は、次のどちらにあたりますか。(は1つだけ) n=1,652

1	男性	44.5	2	女性	54.8	(無回答)	0.7
---	----	------	---	----	------	-------	-----

F 2 あなたの年齢は、次のどれにあたりますか。(は1つだけ) n=1,652

1	20歳代	10.7	2	30歳代	18.3	3	40歳代	19.8	
4	50歳代	20.3	5	60~64歳	14.0	6	65歳以上	16.2	
								(無回答)	0.7

F 3 あなたご自身は、次のどれにあたりますか。同居・別居を問わず、現在の状況をお答えください。(は1つだけ) n=1,652

1	20~39歳で単身者	14.3	
2	20~39歳で配偶者がいて子どもがいない	3.8	
3	20~64歳で一番下の子どもが小学校入学前	11.4	
4	20~64歳で一番下の子どもが小学生	7.7	
5	20~64歳で一番下の子どもが中学・高校生	7.3	
6	20~64歳で一番下の子どもが高校を卒業している	23.7	
7	40~64歳で単身者	7.3	
8	40~64歳で配偶者がいて子どもがいない	7.0	
9	65歳以上	16.1	
		(無回答)	1.3

F 4 あなたの世帯は、次のように分類した場合、どれにあたりますか。ご自分の立場(自分が親、自分が子ども)にかかわらず、世帯構成をお答えください。(は1つだけ) n=1,652

1	ひとり暮らし(単身世帯)	9.0	2	夫婦のみ(一世代世帯)	21.9	
3	親と未婚の子ども(二世帯世帯)	53.2	4	親と子ども夫婦(二世帯世帯)	5.4	
5	親と子どもと孫(三世帯世帯)	7.8	6	その他(具体的に)	1.5	
					(無回答)	1.2

F 5 現在、一緒に暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。(は1つだけ) n=1,652

1	1人	9.1	2	2人	26.9	3	3人	27.7	4	4人	22.7
5	5人	7.3	6	6人	2.8	7	7人以上	1.7	(無回答)		1.8

F 6 あなたは、八王子市に住んで何年になりますか。(は1つだけ) n=1,652

1	1年未満	2.1	2	1~3年未満	4.7	3	3~5年未満	4.8	
4	5~10年未満	10.0	5	10~15年未満	11.6	6	15~20年未満	8.8	
7	20~30年未満	16.4	8	30年以上	24.8	9	生まれてからずっと	16.2	
								(無回答)	0.6

F 7 あなたのご職業は、次のどれにあたりますか。(は1つだけ) n=1,652

1	農・林・漁業	0.4	2	自営業	6.0
3	自由業(開業医、弁護士、司法書士など)	1.0	4	会社や団体の役員	3.5
5	会社・商店・サービス業などの勤め人	31.1	6	教員・公務員	4.8
7	アルバイト・パート	16.9	8	(専業)主婦・主夫	19.6
9	学生	2.6	10	その他(具体的に)	0.6
11	無職	12.5		(無回答)	1.0

(F7で、「1」から「7」とお答えの方に)

▶ F 7 - 1 あなたの職場は、次のどれにあたりますか。(は1つだけ) n=1,053

1	八王子市内	46.2	2	八王子市外	49.1	(無回答)	4.7
---	-------	------	---	-------	------	-------	-----

F 8 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(は1つだけ) n=1,652

1	一戸建て(持ち家)	57.3	2	分譲マンション	18.5
3	一戸建て(借家)	2.5	4	民間の賃貸アパート・マンション	11.2
5	都市再生機構(旧公団)・公社の賃貸住宅	3.7	6	都営・市営住宅	4.1
7	社宅・官舎・寮	1.4	8	その他(具体的に)	0.3
				(無回答)	0.9

F 9 あなたのお住まいは、次のように各事務所の区域に分類した場合、どの地区にあたりますか。
(は1つだけ)

該当する地区が不明な場合は、()内にお住まいの町名をご記入ください。 n=1,652

1	本庁管内(中央地域)	19.8	2	元八王子地区	9.3
3	恩方地区	3.6	4	川口地区	5.3
5	浅川地区	4.8	6	横山地区	8.1
7	館地区	4.8	8	加住地区	1.8
9	石川地区	6.1	10	由井地区	7.3
11	北野地区	7.2	12	由木地区	5.1
13	由木東地区	3.2	14	南大沢地区	12.2
15	不明(お住まいの町名)	-		(無回答)	1.5

< 定住意向 >

問1 あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。(は1つだけ) n=1,652

1	ずっと住み続けたい	40.9	2	当分は住み続けたい	48.0
3	市外へ移りたい	10.2		(無回答)	0.8

(問1で「1 ずっと住み続けたい」または「2 当分は住み続けたい」とお答えの方に)

問1-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(は3つまで) n=1,469

1	緑が多く自然に恵まれている	59.5	2	交通の便が良い	31.7
3	買い物に便利	26.6	4	地域住民の連帯感が強い	6.3
5	教育環境が良い	4.0	6	古き良きものが多い	4.3
7	街並み・景観が美しい	10.8	8	公園などがよく整備されている	9.8
9	その他(具体的に)	16.7	10	特に理由はない	12.9
				(無回答)	3.1

(問1で「3 市外へ移りたい」とお答えの方に)

問1-2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(は3つまで) n=169

1	自然環境が悪い	3.6	2	交通の便が悪い	43.2
3	買い物に不便	37.9	4	隣近所となじめない	7.7
5	この街に愛着がない	20.7	6	住宅事情が悪い	5.3
7	公害が多い	2.4	8	街の雰囲気嫌い	23.1
9	その他(具体的に)	43.8	10	特に理由はない	3.6
				(無回答)	0.6

問2 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1)~(16)の各項目それぞれについてお答えください。(はそれぞれ1つ) n=1,652

項目	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	無回答
(1) 日当たりや風通し	52.2	19.1	20.3	6.8	1.2	0.4
(2) 大気汚染	23.2	19.1	45.4	8.2	2.8	1.3
(3) 騒音・振動	23.0	18.2	32.7	17.2	7.8	1.1
(4) 災害時の安全性	14.1	20.5	50.5	11.1	2.4	1.3
(5) 下水・排水	29.2	16.8	46.4	5.1	1.6	0.9
(6) し尿処理	34.3	14.5	46.8	1.6	0.7	2.1
(7) ごみ処理	32.7	17.7	42.3	4.7	1.6	0.9
(8) 防犯や風紀	14.6	20.0	45.2	15.7	3.3	1.1
(9) 病院などの医療施設	12.3	19.8	43.5	19.1	4.7	0.7
(10) 集会施設	10.8	13.2	62.1	9.3	3.3	1.3
(11) 公園・遊び場	15.3	21.7	40.9	14.2	6.7	1.2
(12) 道路の整備状況	15.9	20.0	40.7	15.7	6.4	1.4
(13) 緑の豊かさ	42.7	30.7	22.2	3.1	0.8	0.5
(14) 交通の便	19.9	23.4	29.4	18.8	8.1	0.4
(15) 交通の安全性	13.1	14.9	47.5	17.4	5.8	1.3
(16) 全体としての「住みやすさ」	17.6	33.5	41.8	5.8	1.0	0.4

< 市政への要望 >

問3 市政全般において、あなたが特に力を入れてほしいと思う施策は何ですか。次の1～35の中から3つ選び、下の回答欄内に番号をご記入ください。

1	2	3

n=1,652

1 財政の健全化	26.4	2 行財政改革	10.0
3 学校教育	13.9	4 青少年の健全育成	5.9
5 生涯学習	3.3	6 文化施設・文化事業	5.7
7 国際化の推進	1.1	8 コミュニティづくり	3.3
9 学園都市づくり	1.0	10 男女共同参画社会づくり	0.4
11 保健医療	25.5	12 介護保険	9.9
13 社会福祉（ひとり親、低所得者）	13.0	14 高齢者福祉	24.3
15 障害者福祉	4.8	16 少子化対策・子育て支援	20.2
17 消費者保護	3.3	18 住宅対策	3.8
19 交通安全対策	7.1	20 防犯対策	14.4
21 防災対策	16.8	22 高度情報化社会への対応	2.5
23 商・工業などの地域経済対策	13.4	24 道路整備	9.6
25 交通機関・駐車場の整備	7.7	26 緑の保全や公園の整備	12.9
27 下水道処理	0.6	28 都市整備事業（再開発、区画整理等）	7.0
29 清掃事業（ごみ、し尿処理、リサイクル）	3.0	30 公害防止対策	2.3
31 都市景観	3.8	32 観光・レクリエーション	4.0
33 不法投棄・放置対策 （自動車、自転車、バイク、ごみ等）	6.5	34 その他（具体的に） （無回答）	3.4 0.8
35 特にない	1.0		

< 災害対策について >

市では、昨年3月に起きた東日本大震災や今年4月に発表された「首都直下地震等による東京の被害想定」などを受けて、市域の防災に関する業務や対策などを定めた総合的かつ基本的な計画である「地域防災計画」の修正に取り組んでいます。

そこで、防災に関して自助・共助・公助それぞれの面から市民の皆さんの意識や実態、市に対する意見等をお聞きし、地域防災計画の修正や今後の防災施策の基礎資料とさせていただくものです。

自助に関して

問4 あなたのご家庭やご近所では、どのような災害の危険性があると感じていますか。

(はいくつでも)

n=1,652

1 地震	71.9	2 台風や集中豪雨	38.5	3 河川の氾濫	15.3	
4 土砂崩れ、がけ崩れ	16.6	5 火災	40.8	6 落雷	26.9	
7 浸水	8.0	8 その他(具体的に)	1.8	9 危険性を感じたことはない	8.4	
					(無回答)	1.2

問5 あなたのご家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食糧、飲料水を備蓄していますか。

【食糧】

(は1つだけ)

n=1,652

1 備蓄している	60.5	2 備蓄していない	38.7	(無回答)	0.7
----------	------	-----------	------	-------	-----

(食糧を「1 備蓄している」とお答えの方に)

問5 - 1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(は1つだけ) n=1,000

1 1日	12.7	2 2日	33.5		
3 3日	38.3	4 4日以上	15.0	(無回答)	0.5

(食糧を「2 備蓄していない」とお答えの方に)

問5 - 2 備蓄していない理由は何ですか。(はいくつでも)

n=640

1 置く場所がないから	26.6	2 毎日必要なものしか買わないから	39.2
3 何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから	41.1	4 災害時には市から支給されるから	4.5
5 すぐに大地震は起きないと思うから	7.5	6 その他(具体的に)	11.1
7 特に理由はない	16.7	(無回答)	0.5

【飲料水】

(は1つだけ)

n=1,652

1 備蓄している	64.6	2 備蓄していない	31.3	(無回答)	4.1
----------	------	-----------	------	-------	-----

(飲料水を「1 備蓄している」とお答えの方に)

問5 - 3 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(は1つだけ) n=1,068

1 1日	14.1	2 2日	31.0		
3 3日	35.3	4 4日以上	19.3	(無回答)	0.3

飲料水は大人1人1日3リットルで計算

(飲料水を「2 備蓄していない」とお答えの方に)

問5 - 4 備蓄していない理由は何ですか。(はいくつでも)

n=517

1 置く場所がないから	28.2	2 毎日必要なものしか買わないから	36.4
3 何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから	28.6	4 災害時には市から支給されるから	4.4
5 すぐに大地震は起きないと思うから	8.9	6 その他(具体的に)	10.3
7 特に理由はない	18.4	(無回答)	0.6

問6 あなたのご家庭では、食糧・飲料水以外に何か備蓄しているものはありますか。

(はいくつでも) n=1,652

1 給水用品(ポリタンク、バケツなど)	29.4	2 卓上コンロ、カセットボンベ	49.2
3 簡易トイレ	13.4	4 医薬品	29.5
5 携帯電話・ラジオ・テレビなど情報を得るもの	66.4	6 懐中電灯・電池	81.2
7 消火器	24.5	8 貴重品類等非常持出品	14.8
9 衣類・毛布・タオル	31.4	10 防災頭巾、ヘルメットなど身を守るもの	14.0
11 その他(具体的に)	2.5	12 備蓄していない	9.5
		(無回答)	1.0

問7 あなたのご自宅では地震に備えて、家具類や冷蔵庫などの転倒防止策を行っていますか。

(は1つだけ) n=1,652

1 全ての家具等に行っている	5.1	2 一部の家具等に行っている	57.8
3 全く行っていない	36.1	(無回答)	0.9

(問7で「3 全く行っていない」とお答えの方に)

▶ 問7-1 転倒防止策を行っていない理由を選んでください。(はいくつでも) n=597

1 転倒する可能性がある家具等がないから	18.9
2 転倒防止器具等の取り付け方がわからないから、自分ではできないから	15.9
3 費用がかかるから	27.3
4 手間がかかるから、面倒だから	33.0
5 壁や家具等を傷つけてしまうから	17.6
6 その他(具体的に)	11.7
7 必要性を感じないから	11.1
(無回答)	1.2

問8 あなたは、災害に備えて家族や親せき、知人とどんな話し合いをしていますか(したことがありますか)。(はいくつでも) n=1,652

1 避難場所・避難所の確認	41.9	2 危険箇所の確認	5.0	3 集合場所の確認	28.0
4 連絡方法の確認	26.7	5 役割分担の確認	1.5	6 その他	0.4
7 特に話し合いはしていない	38.3	(無回答)	1.2	(具体的に)	

問9 災害が発生し電話がつながりにくくなったとき、家族や親せき、知人との連絡をどのようにとりますか。(はいくつでも) n=1,652

1 NTTの災害用伝言ダイヤル171	26.7	2 携帯電話会社の災害用伝言板	30.0
3 携帯メール	49.9	4 その他(具体的に)	4.5
5 決めていない	28.4	(無回答)	1.1

共助に関して

問10 あなたのご家庭は、町会や自治会に入っていますか。(は1つだけ) n=1,652

1 入っている	75.7	2 入っていない	23.4	(無回答)	0.9
---------	------	----------	------	-------	-----

(問10で「2 入っていない」とお答えの方に)

▶ 問10 - 1 町会・自治会に入っていない理由は何ですか。(はいくつでも) n=387

1 近隣との付き合いがわずらわしい	11.9	2 会費を払いたくない	8.0
3 役員になりたくない	12.4	4 町会・自治会といったコミュニティ活動に	
5 加入しなくても困らない	31.8	関心がない	23.0
6 住んでいる地域に町会・自治会等がない	27.1	7 その他(具体的に)	25.8
		(無回答)	2.3

問11 町会・自治会・管理組合や自主防災組織などが地域で行う防災訓練に参加したことがありますか。(は1つだけ) n=1,652

1 いつも参加している	5.6	2 ときどき参加している	28.3
3 参加したことはない	65.0	(無回答)	1.1

(問11で「3 参加したことはない」とお答えの方に)

▶ 問11 - 1 参加したことがない理由は何ですか。(はいくつでも) n=1,073

1 興味・関心がない	7.5	2 時間の都合がつかない	37.2
3 面倒だから	12.1	4 参加案内が来ない	19.6
5 自分の住んでいる地域では訓練をやっていない	17.1	6 行っていることを知らなかった	32.2
7 その他(具体的に)	6.8	(無回答)	0.8

問12 地域で行われる防災訓練がどのような形で行われれば、多くの方が参加できると思いますか。(はいくつでも) n=1,652

1 他のイベントと一緒にを行う	42.8	2 休日に行う	39.0
3 講演会も同時に開催	9.6	4 防災用品等の参加賞を配付	36.4
5 単独で行われる防災訓練でよい	15.0	6 その他(具体的に)	6.6
		(無回答)	5.0

問13 高齢者や体に障害を持っている方など災害時に他の人の支援が必要な方を「災害時要援護者」といいます。災害が発生したとき、あなたは近所にいる災害時要援護者に対してどのような手助けができると思いますか。(はいくつでも) n=1,652

1 安否確認の声掛け	67.1	2 介助して安全な場所まで避難	39.1
3 一時的な保護	23.4	4 避難情報など行政から寄せられる情報を教える	31.7
5 家族や親せきなどへの連絡	26.4	6 その他(具体的に)	2.2
7 何もできない	5.1	8 自分自身に支援が必要	3.2
9 分からない	12.0	(無回答)	1.2

問14 災害時要援護者への支援を行うためには、日頃からどのようなことをする必要あるとお考えですか。(はいいくつでも) n=1,652

1	日頃からのあいさつや声を掛けあう関係づくり	74.6	2	防災訓練への参加	25.1
3	近所にいる災害時要援護者のリストづくり	40.7	4	その他(具体的に)	1.8
5	分からない	9.4		(無回答)	1.5

公助に関して

問15 市では、市民の皆様への情報伝達手段の一つとして防災行政無線を使っています。平時には、市内各所に設置した防災行政無線の放送設備(スピーカー)から毎日午後5時1分(11月~2月は午後4時)に「夕焼け小焼け」のチャイムを放送しています。

あなたが住んでいる場所では防災行政無線による放送が聞こえていますか。(はい1つだけ)

n=1,652

1	よく聞こえる	47.5	2	聞こえるが何を放送しているか聞き取れない	40.4
3	まったく聞こえない	6.8	4	防災行政無線があることを知らない	3.9
				(無回答)	1.4

問16 市では、気象に関する情報や防災イベント、災害情報など様々な防災に関する情報を携帯電話やパソコンにお知らせするメール配信サービス(防災情報メール)を行っています。

あなたは、防災情報メールをご存じですか。(はい1つだけ)

n=1,652

1	メールアドレスを登録して防災情報メールを受け取っている	13.3
2	防災情報メールは知っているが、登録はしていない	23.6
3	知らない	61.8
	(無回答)	1.3

問17 大規模な災害が発生したとき、特に知りたいと思う情報は何か。(はいいくつでも) n=1,652

1	災害の規模や気象情報	70.7	2	被害状況	63.9
3	避難所・避難場所に関する情報	74.9	4	家族や親せき、知人等の安否情報	70.7
5	警察や消防などの救助に関する情報	33.5	6	食糧や飲料水などの情報	72.6
7	道路や鉄道など交通情報	63.0	8	電気、ガス、水道などライフラインの被害、	
9	公共施設の閉館等に関する情報	28.6		復旧情報	80.0
10	その他(具体的に)	1.2	11	特にない	0.3
12	分からない	0.1		(無回答)	0.8

消防団に関して

問18 各市町村には、消防署とは別に消防団が組織されています。消防団員は、本業（生業）を持ちながらも、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき消防・防災活動を行っており、本市では約1,500の方が消防署等と連携して地域を守っています。あなたは、八王子市消防団のことをご存じでしたか。（ は1つだけ） n=1,652

1	よく一緒に活動するので知っている	3.2	2	たまに見かけたりするので知っている	34.0
3	聞いたことがある程度	32.8	4	まったく知らない	27.0
5	消防団員である	1.0		(無回答)	1.9

(問18で「1」から「3」とお答えの方に)

▶問18 - 1 あなたが消防団のことや活動で知っていること（見かける場面）はどのようなことですか。（はいくつでも）

【消防団のこと】

n=1,157

1	市内で12の分団に分かれている（自分の地域が何分団であるか知っている）	9.5
2	各分団の中でも各部に分かれている（自分の地域が何部であるか知っている）	8.0
3	各地域（89か所）に消防団の器具置場（車庫）がある	48.0
4	応急救命講習などを行う女性隊がある	6.7
5	広報演奏などを行っている音楽隊がある	8.0
6	消防団員は市の非常勤公務員である	15.4
7	その他（具体的に)	6.4
8	特にない	31.5
	(無回答)	3.5

【消防団の活動】

n=1,157

1	火災時の活動	66.8	2	水害時（台風等）の活動	28.9
3	地域の防災訓練への参加	39.8	4	地域の行事等での警戒	24.2
5	歳末警戒活動	37.9	6	山林警戒活動	5.5
7	消防団出初式	35.1	8	消防操法大会	10.3
9	その他（具体的に)	1.2	10	特にない	11.9
				(無回答)	5.7

問19 今後、あなたが消防団に望む（力を入れてほしい）活動は何ですか。次の1～11の中で優先してほしいものから順に1位から5位までを選んで番号を記入してください。 n=1,652

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位

数値は第1位～第5位の合計

1	平常昼間の火災における消火活動	37.5	2	平常夜間の火災における消火活動	47.8
3	水害時（台風等）の活動	39.5	4	震災時の消火活動	59.8
5	震災時の救助・救急活動	74.3	6	震災時の避難誘導活動	69.1
7	平常時における火災等の警戒活動	33.0	8	平常時における町会・自治会等との連携	30.1
9	平常時における地域への防災知識の普及	31.4	10	平常時における地域への防災訓練等の指導	28.5
11	その他（具体的に）	2.1		（無回答）	6.0

< 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度 >

この章は、八王子市の基本構想・基本計画（「八王子ゆめおりプラン」）に掲げる施策が目的どおり成果を挙げているか、その達成度を計るため、調査させていただくものです。

問20 あなたの現在の生きがいはどのようなことですか。（はいくつでも） n=1,652

1	仕事	28.0	2	ボランティアや地域での活動	7.6
3	スポーツやレクリエーション	20.5	4	学習や習い事	11.9
5	音楽や映画などの鑑賞	23.3	6	旅行	32.2
7	趣味	45.0	8	家族とのふれあい	58.5
9	近所付き合い	7.6	10	友人との交際	41.7
11	その他（具体的に）	3.2	12	特にない	6.6
				（無回答）	1.5

問21 あなたがこの1年間に取り組んだ生涯学習活動はどれですか。（はいくつでも） n=1,652

1	趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道など）	29.4
2	教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）	16.1
3	健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）	33.5
4	家庭生活に役立つ技術（料理、洋裁、編物、日曜大工など）	16.4
5	育児・教育（育児、家庭教育、教育問題など）	12.4
6	仕事に必要な知識や技能、資格の取得	18.2
7	パソコンやインターネットに関すること	18.0
8	社会問題・市民生活に関するもの（少子高齢化、情報化、環境、介護、国際交流など）	3.1
9	社会貢献活動（町内会などの地域活動、ボランティア、NPO、市民活動など）	9.1
10	学校の正規課程での学習	1.9
11	その他（具体的に）	0.8
12	特に学習していない	27.2
	（無回答）	1.5

問22 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で芸術・文化活動に参加しましたか。

(鑑(観)賞も含まます)(は1つだけ)

n=1,652

芸術・文化活動の分野は、文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊、映画、メディア芸術(デジタルアート、アニメ・マンガ、ゲームなど)、伝統芸能(山車、歌舞伎、落語など)、茶道、華道、書道、囲碁、将棋、歴史・文化財(寺社・仏閣・史跡なども含む)などです。

1	週に1回以上	11.6	2	月に1~3回	14.5		
3	3か月に1~2回	13.0	4	半年に1~2回	17.1		
5	年1回	5.6	6	特にしていない	36.7	(無回答)	1.4

問23 あなたがこの1年間にスポーツを行った回数ほどのくらいですか。複数のスポーツを行っている場合は、その合計数をお答えください。(は1つだけ)

n=1,652

スポーツの種類は、屋内で行う球技(卓球、バレーボール、バドミントン、バスケットボールなど) 屋内で行う健康体操(エアロビクス、ヨガなどを含む) ダンスなどの屋内レクリエーションスポーツ 体操競技 武道 器具を使ったトレーニング 屋外で行う球技(野球、サッカー、テニス、ゴルフなど) 陸上競技 ジョギング、サイクリング、ウォーキングなど 登山やハイキングなどの野外活動 ゲートボールやグラウンドゴルフなどの屋外レクリエーションスポーツ スキー、スノーボード、スケート サーフィンやダイビングなどのマリンスポーツ エクストリーム・スポーツ(スケートボード、インラインスケート、BMXなど) 水泳など その他のスポーツ などです。

1	ほぼ毎日	5.0	2	週に3~5回程度	9.0		
3	週に1~2回程度	15.9	4	月に1~3回程度	14.6		
5	年に数回	16.2	6	スポーツはほとんどしなかった	37.8	(無回答)	1.6

問24 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけて行動していることはどれですか。

(はいくつでも)n=1,652

1	適度な運動	48.7	2	適度な休養	38.9
3	食事などの栄養バランス	53.5	4	各種定期健診(検診)の受診	36.6
5	趣味などの生きがいづくり	26.6	6	その他(具体的に)	1.8
7	特に何もしていない	12.0		(無回答)	0.9

問25 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(は1つだけ)

n=1,652

「かかりつけの医療機関」とは、自分の体の状態を把握している身近な医療機関のことで、普段の健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

1	だいたい同じ病院・医院にかかっている	46.5
2	病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている	28.8
3	決めていない	23.5
	(無回答)	1.1

問26 あなたは、この1年間に地域の中でボランティア活動（清掃や防犯・防災活動、学校教育や地域スポーツ活動への支援・協力など）や行事（町内会等の地域のイベント・お祭りなど）に参加したことがありますか。（ は1つだけ） n=1,652

1	ボランティアと行事の両方に参加したことがある	11.9
2	ボランティアには参加したことがある	6.7
3	行事には参加したことがある	22.5
4	どちらにも参加したことがない	57.4
	（無回答）	1.6

問27 あなたは、市が市民協働のまちづくりを進めていると感じますか。（ は1つだけ） n=1,652

市では、市民参加条例に基づいて、計画・条例等の立案過程でのパブリックコメント(意見公募)の実施、各種審議会の市民委員の公募、アンケート調査の実施など、市政への市民参加機会の充実に努めています。この取り組みを通じて、市民の皆さんと行政が、対等なパートナーとして連携し、課題に取り組みまちを目指しています。

1	そう思う	5.2	2	どちらかといえばそう思う	20.5	3	あまりそう思えない	22.9
4	思えない	10.4	5	わからない	39.5		（無回答）	1.5

問28 あなたは、あなたのお住まいの地域の治安がよいと感じますか。（ は1つだけ） n=1,652

1	とてもよい	3.5	2	よい	25.5	3	普通	57.0
4	悪い	11.1	5	とても悪い	1.7		（無回答）	1.2

問29 あなたは、この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健所、保健センターなど、市の窓口を利用したことはありますか。（ は1つだけ） n=1,652

1	ある	81.0	2	ない	18.1	（無回答）	0.9
---	----	------	---	----	------	-------	-----

（問29で「1 ある」とお答えの方に）

▶問29 - 1 あなたは、市の窓口サービス(接客度や提供内容、処理時間など)に満足していますか。（ は1つだけ） n=1,338

1	満足している	15.3	2	ほぼ満足している	61.1	3	あまり満足していない	14.1
4	満足していない	5.2	5	わからない	4.1		（無回答）	0.1

問30 市では、市民生活を支援するため、下記のような様々な相談を行っています。あなたは、市の相談の機会が充実していると思いますか。(は1つだけ) n=1,652

市で行っている相談は、人権、女性福祉、女性のための相談、法律、司法書士法律、不動産、登記、相続・遺言等暮らしの手続、年金・雇用保険・労働条件、交通事故、税金、行政、消費生活、外国人のための生活相談、団塊・シニア世代の地域参加支援、住まいのなんでも相談、建築に関する無料相談、就職などの心の悩み相談、高齢者総合、ひとり親家庭、専門家による子育て相談、子ども家庭総合、総合教育相談室、こども電話相談、あなたの相談室、こころの健康相談、HIV に関する相談、保健福祉・栄養相談、理学療法士による健康相談などです。

1	そう思う	8.8	2	どちらかといえばそう思う	42.3	3	あまりそう思えない	18.2
4	思えない	4.8	5	わからない	23.1		(無回答)	3.0

(問30で「5 わからない」とお答えの方に)

▶問30 - 1 わからないことはどのような点ですか。以下の欄にご自由にお書きください。

問31 あなたは、上記のような市の相談窓口を利用したことがありますか。(は1つだけ) n=1,652

1	ある	18.6	2	ない	78.6	(無回答)	2.8
---	----	------	---	----	------	-------	-----

(問31で「1 ある」とお答えの方に)

▶問31 - 1 あなたは、市の窓口サービス(接客度や提供内容、処理時間など)に満足していますか。(は1つだけ) n=307

1	満足した	13.7	2	ほぼ満足した	47.9	3	あまり満足できなかった	22.8
4	満足できなかった	13.4	5	その他(具体的に)	2.3		(無回答)	-

問32 市は、市政の情報を、下記のような様々な方法で積極的に配信・提供していますが、あなたは、いずれかの方法で必要な市政情報を入手できていますか。(は1つだけ) n=1,652

市の情報は、広報はちおうじ、ホームページ、メール(犯罪・不審者情報、防災情報)、市議会だより、町会・自治会の回覧物や掲示物、市で作成したパンフレット・ポスター、新聞・テレビなどのマスメディア、八王子テレメディア、などで配信・提供しています。

1	できている	21.5	2	ほぼできている	53.8
3	あまりできていない	4.9	4	できていない	4.1
5	わからない	13.1		(無回答)	2.5

(問32で「3 あまりできていない」または「4 できていない」とお答えの方に)

問32 - 1 どのような方法で市政情報を入手したいですか。以下の欄にご自由にお書きください。

問33 あなたは、市が行っている様々な子育て支援策について、日頃どのように感じていますか。

(は1つだけ) n=1,652

市が行っている主な子育て支援策としては、待機児童解消に向けた保育園の定員増、一時保育の拡充、親子つどいの広場の開設、市立学童保育所の整備、放課後子ども教室の開催、乳幼児医療費助成や義務教育就学児医療費助成による医療費負担の軽減等の経済的支援を行っています。また、児童館では中高生の居場所づくりに取り組んだり、子ども家庭支援センターでは地域の子育て支援の拠点として児童虐待防止ネットワークなど様々な取組を行っています。

1	満足している	2.9	2	ほぼ満足している	23.4
3	あまり満足していない	6.4	4	満足していない	4.1
5	その他(具体的に)	1.2	6	わからない	58.1
				(無回答)	4.0

(問33で「3 あまり満足していない」または「4 満足していない」とお答えの方に)

問33 - 1 そのように感じる理由があれば、以下の欄にご自由にお書きください。

問34 あなたは、市がにぎわいと活力があるまちであると感じますか。(は1つだけ) n=1,652

1	感じる	3.3	2	多少感じる	21.8	3	あまり感じない	41.9
4	感じない	24.6	5	わからない	5.9		(無回答)	2.4

問35 あなたは、本市が景観に配慮されたまちであると思いますか。(は1つだけ) n=1,652

1	そう思う	5.1	2	どちらかといえばそう思う	32.1	3	あまりそう思えない	39.2
4	思えない	13.1	5	わからない	9.1		(無回答)	1.3

問36 あなたは、環境問題に関心はありますか。(は1つだけ) n=1,652

1	大いにある	19.0	2	ある	47.9			
3	少しはある	30.0	4	ない	2.5		(無回答)	0.7

問37 あなたは、本市の環境(水、緑、ごみ、大気など)が以前と比べどうなったと感じていますか。

(は1つだけ) n=1,652

1	良くなった	9.0	2	どちらかといえば良くなった	44.1
3	どちらかといえば悪くなった	10.0	4	悪くなった	3.0
5	わからない	33.1		(無回答)	0.9

問38 都市の美観が損なわれる主な原因は、次のどれだと思いますか。(は2つまで) n=1,652

1	違法駐車	23.4	2	放置自転車	26.4	3	ペットのふん	23.1
4	ごみ・たばこのポイ捨て	50.6	5	落書き	25.4	6	違法看板	13.5
7	はみ出し営業	7.8	8	その他(具体的に)	7.3		(無回答)	2.2

問39 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。(は1つだけ) n=1,652

1	そう思う	3.1	2	どちらかといえばそう思う	36.3	3	あまりそう思えない	39.7
4	思えない	9.3	5	わからない	10.7		(無回答)	0.9

問40 省エネ・省資源のためには、冷暖房を控える、電気をこまめに消す、冷蔵庫の開閉に気を遣う、ごみ減量のためのリサイクルを心がける、マイカーの使用を控える、省エネ製品を利用する、買物用のバッグを持参して買い物に行くなどがありますが、あなたは、省エネ・省資源を意識して実行していますか。(は1つだけ) n=1,652

1	常に実行している	44.1	2	時々実行している	50.7			
3	今後は実行したい	3.2	4	実行するつもりはない	1.2		(無回答)	0.8

ご回答、大変ありがとうございました。

ご多忙の中、誠に恐縮ですが、調査票を同封の返信用封筒に入れ、5月30日(水)までにお近くの郵便ポストにご投函ください。(切手を貼る必要はありません。)

市政世論調査報告書（第44回）

平成 24 年 10 月

発行 八王子市 総合政策部 政策審議室（広聴担当）

東京都八王子市元本郷町三丁目24番1号

電 話 042（620）7411（直通）

F A X 042（620）7322

調査担当 株式会社 エスピー研

電話 03（3239）0071